

女性医師の勤務環境の 現況に関する調査報告書

令和7年12月

日本医師会男女共同参画委員会
日本医師会ドクターサポートセンター
(旧：日本医師会女性医師支援センター)

ごあいさつ

日本医師会女性医師支援センター事業は、平成 18 年(2006 年)より国からの委託事業として当会が行ってきました。女性医師バンク、再就業支援、調査研究等の各事業を展開し、実績を積んでまいりました。令和 7 年(2025 年)に、医師の偏在対策としての全国医師マッチング事業を併せて国から受託したことにより、組織を再編成し、その名称も『日本医師会ドクターサポートセンター』、『日本医師会ドクターバンク』と変更しています。

事業内容に関しては、それぞれを今後も継続・発展してまいります。8 年毎に行われる女性医師に関するこの調査報告事業も大変重要なものと考えております。

歯止めのかからない少子高齢化の状況のもと、女性医師の比率は上昇しており、医学部入学の段階で女性比率が約七割のところも見られます。またこの間に、医師の働き方改革や専門医制度の実施等大きな環境変化をもたらす、いくつかの社会状況や制度の変更等がありました。ライフイベントの影響を受けやすい女性医師を取り巻く現況を明らかにし、前回から 8 年が経過した状況の変化も明確になりました。確実に課題を抽出し、種々の分野・施設レベルにおいて検討できる有益な資料になったかと思っています。今後の対応や施策等に、これらが確実に活かせるようそれぞれの現場でご議論いただき、ご対処いただければと存じます。

結びになりますが、本調査にご協力いただいた全国の女性医師の先生方に心より御礼申し上げますとともに、より一層のご活躍を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

日本医師会ドクターサポートセンター
センター長 角田 徹

はじめに

男女共同参画が叫ばれ、1999 年に法律が制定され、25 年あまりが経ちました。今は人口減少時代に入り、少子高齢化が進んでいます。働く人も変化し、高齢者や女性、外国人が労働力として支えていると言われています。日本医師会は法制定後、国の委託事業として、2006 年に女性医師支援センターを設置し、働く女性医師の支援を続けてきました。センターでは再就業講習会事業、女性医師バンクなどの他、継続的に調査事業を行っています。調査事業では、女性医師の勤務環境に着目し、「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」をアンケート形式で経年的に行っており、2008 年から始まり、2016 年、2024 年、今回で 3 回目の調査となります。

前回の調査後、女性医師を取り巻く環境や医療制度も大きく変化しました。医学部の女性合格率は上昇し、2025 年度の医学科合格率において女性が占める割合は 39.9%（2018 年度 34%）と、医師における女性医師の比率は年々上がっています。

また、2018 年には「新専門医制度」が開始されました。女性医師のワークライフバランスに新専門医制度は、どのような影響を与えているのか、すでに開始より 6 年が経過し、評価が待たれる所です。一方、2024 年 4 月より医師の働き方改革が始まり、上限規制に伴う時間管理にとどまらず、医師の健康確保を目的としたさまざまな規定と枠組みがスタートしています。それらが、女性医師の働き方にどのような影響を与えているのか、慎重に見極める必要があると認識しております。

こういった時代背景のもと、女性医師の働き方がどのように変化していったのか、子育て・介護との両立や医療現場の意識改革は進んだのか、今の悩みは何なのか、本調査を通して、この 16 年の経過と今の課題、そして今後について、何らかの示唆につなげられれば幸いです。

最後に、ご多忙のなか、本調査の実施にあたりご協力いただいた関係者の皆様方、そしてご回答くださった女性医師の皆様方に心より御礼申し上げます。

日本医師会

常任理事 松岡 かおり

日本医師会男女共同参画委員会

委員長	小 泉 ひろみ
副委員長	今 野 信太郎
委員	市 川 菊 乃
〃	大 坪 由里子
〃	笠 原 幹 司
〃	近 藤 由 香
〃	瀬 戸 牧 子
〃	滝 田 純 子
〃	玉 城 研太郎
〃	寺 本 瑞 絵
〃	富 山 月 子
〃	野 神 麗 子
〃	檜 山 桂 子

(委員：五十音順)

日本医師会ドクターサポートセンター

(旧：日本医師会女性医師支援センター)

センター長 角 田 徹

常任理事 松 岡 かおり

常任理事 藤 原 慶 正

目 次

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の対象.....	1
3. 調査の方法.....	1
4. 調査の内容.....	1
5. 調査の時期.....	1
6. 調査の実施体制.....	1
7. 報告書のとりまとめ.....	1
II. 結 果.....	2
(1) 各項目集計結果.....	2
(2) 今回の調査への回答者の属性.....	2
2-1. 調査の対象と規模.....	2
2-2. 年齢階級、診療科、勤務先機関規模、勤務地の所在地の構成.....	3
2-3. 家族構成.....	7
2-3-1. 回答者の婚姻の状況.....	7
2-3-2. 回答者の子育ての状況.....	7
(3) 働き方に関する分析.....	8
3-1. 年齢階級別にみた働き方.....	8
3-1-1. 勤務形態.....	8
3-1-2. 1 週間の実勤務時間.....	9
3-1-3. 宿日直、オンコールの状況.....	10
3-1-4. 年間有給休暇取得状況.....	11
3-1-5. 時短、非常勤の理由.....	12
3-2. 診療科別にみた働き方.....	13
3-2-1. 勤務形態.....	13
3-2-2. 1 週間の実勤務時間.....	14
3-2-3. 宿日直、オンコールの状況.....	15
3-2-4. 年間有給休暇取得状況.....	18
3-3. 勤務先機関規模別にみた働き方.....	19
3-3-1. 勤務形態.....	19
3-3-2. 1 週間の実勤務時間.....	20
3-3-3. 宿日直、オンコールの状況.....	21
3-3-4. 年間有給休暇取得状況.....	22
(4) 子育てとの両立に関する分析.....	23
4-1. 回答者の子育ての状況.....	23
4-2. 子育ての状況別にみた働き方.....	24

4-2-1. 子育ての状況別にみた勤務形態.....	24
4-2-2. 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた 1 週間の実勤務時間.....	26
4-2-3. 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた宿日直、オンコールの状況.....	27
4-3. 両立の支援.....	30
4-3-1. 育児休業の取得.....	30
4-3-2. 普段子どもの面倒をみている人.....	32
4-3-3. 休職・離職の状況.....	33
4-3-4. 利用している保育施設の状況.....	34
4-3-5. 子どもの緊急時の対応.....	36
4-3-6. 緊急呼び出し時、学会等への出張時の対応.....	37
4-3-7. 仕事を続ける上で必要と思う支援.....	39
(5) 介護との両立に関する分析.....	40
5-1. 介護の状況.....	40
5-1-1. 介護経験の有無.....	40
5-1-2. 介護のための休暇の取得状況.....	41
(6) 女性医師の悩み.....	42
6-1. 女性医師の悩み.....	42
6-1-1. 年齢階級別にみた女性医師の悩み.....	42
6-1-1-1. 年齢階級別にみた家庭・育児に関する悩み.....	43
6-1-1-2. 年齢階級別にみた医師としての悩み.....	43
6-1-1-3. 年齢階級別にみた職場における女性医師としての悩み.....	44
6-1-2. 子育て状況別にみた女性医師の悩み.....	45
6-1-3. 診療科別にみた女性医師の悩み.....	45
(7) 医療現場の男女共同参画に関する分析.....	46
7-1. 医療現場の男女共同参画の状況.....	46
7-1-1. 年齢階級別にみた医療現場の男女共同参画の状況.....	46
7-1-2. 勤務先機関規模別にみた医療現場の男女共同参画の状況.....	47
(8) まとめ.....	48
Ⅲ. 資料編.....	51
i. 調査依頼.....	51
1. 圧着葉書.....	51
2. 調査内容.....	53
ii. 各項目集計結果および過去調査との比較.....	77
1. 各項目集計結果.....	77
2. 過去調査との比較.....	107
iii 関連資料.....	141

I. 調査の概要

1. 調査の目的

病院に勤務している女性医師の働き方、子育て・介護との両立、女性医師としての悩み、医療現場の男女共同参画に関する現状を把握する。

2. 調査の対象

病院に勤務する女性医師。

3. 調査の方法

全病院（8,055 施設）に対して、病院に勤務する女性医師にオンライン回答用のログイン ID とパスワードを記載した圧着葉書の配布を依頼。病院からは、関係医療機関（診療所）に勤務する女性医師へも一部配布。医師に無記名で回答してもらい回収した。

- 病院から医師への圧着葉書配布数：27,666
- 回収数（率）： 8,998（32.5%）
- 有効回答数（率）： 8,928（32.3%）

4. 調査の内容

調査内容は資料編 i に掲載した。

5. 調査の時期

令和 6（2024）年 11 月 18 日～令和 7（2025）年 1 月 24 日

6. 調査の実施体制

調査の実施と集計の業務は、日本医師会ドクターサポートセンター（旧：日本医師会女性医師支援センター）が一般社団法人中央調査社に委託し、調査の設計と分析は、日本医師会総合政策研究機構が行った。

7. 報告書のとりまとめ

報告書のとりまとめは、日本医師会男女共同参画委員会と日本医師会ドクターサポートセンター（旧：日本医師会女性医師支援センター）が共同で行なった。

Ⅱ. 結 果

本報告においては、まず、単純集計を行った後、回答者の『属性』について分析、次いで、『働き方』と『子育てとの両立』の観点からそれぞれ分析した。あわせて、『介護との両立』、『女性医師の悩み』、『医療現場の男女共同参画』についても分析した。

(1) 各項目集計結果

各設問への回答の集計結果は資料編 ii に掲載した。なお、平成 20（2008）年度と平成 28（2016）年度に実施した過去調査の結果もあわせて掲載した。前回調査と比べ、対象の属性等には大きな変化はなかった。

(2) 今回の調査への回答者の属性

2-1. 調査の対象と規模

厚生労働省が 2 年毎に実施している医師・歯科医師・薬剤師統計※（以下、「三師統計」という。）によると、直近で公表されている令和 4（2022）年（2022 年 12 月 31 日現在）の統計では、女性医師数は 81,139 人、このうち、病院勤務者は 53,896 人であり、女性医師全体の 66%を対象としたこととなる。そして、今回の有効回答者数は 8,928 人で、これは病院勤務女性医師の 17%にあたる。

前回平成 28（2016）年度の調査の有効回答者数は 10,373 人で、平成 28（2016）年度の三師調査における病院勤務女性医師 44,917 人の 23%をカバーしていた。

前々回平成 20（2008）年度の調査の有効回答者数は 7,467 人で、平成 20（2008）年度の三師調査における病院勤務女性医師 33,369 人の 22%をカバーしていた。

なお、前回の調査時（8 年前）からの我が国の女性医師数（病院勤務とそれ以外の女性医師数）の推移を三師統計でみると、全国の女性医師数は、13,646 人増加（うち、病院勤務の女性医師数は、8,979 人増加／病院勤務でない女性医師数は、4,667 人増加）している。

※平成 28（2016）年度以前は、「医師・歯科医師・薬剤師調査」だった。

2-2. 年齢階級、診療科、勤務先機関規模、勤務地の所在地の構成

図 2-2-1 は、年齢階級別構成割合（今回調査、過去調査、各調査年に近い三師統計の比較）を示したものである。

回答者の年齢階級は、30 歳代が 34%、次いで、40 歳代が 28%であった。直近公表の令和 4（2022）年度三師統計の年齢構成と比較すると 29 歳以下の割合が小さいが、各年齢階級の状況は把握できるとみることができる。

図 2-2-1 年齢階級別構成割合（今回調査、過去調査、各調査年に近い三師統計の比較）

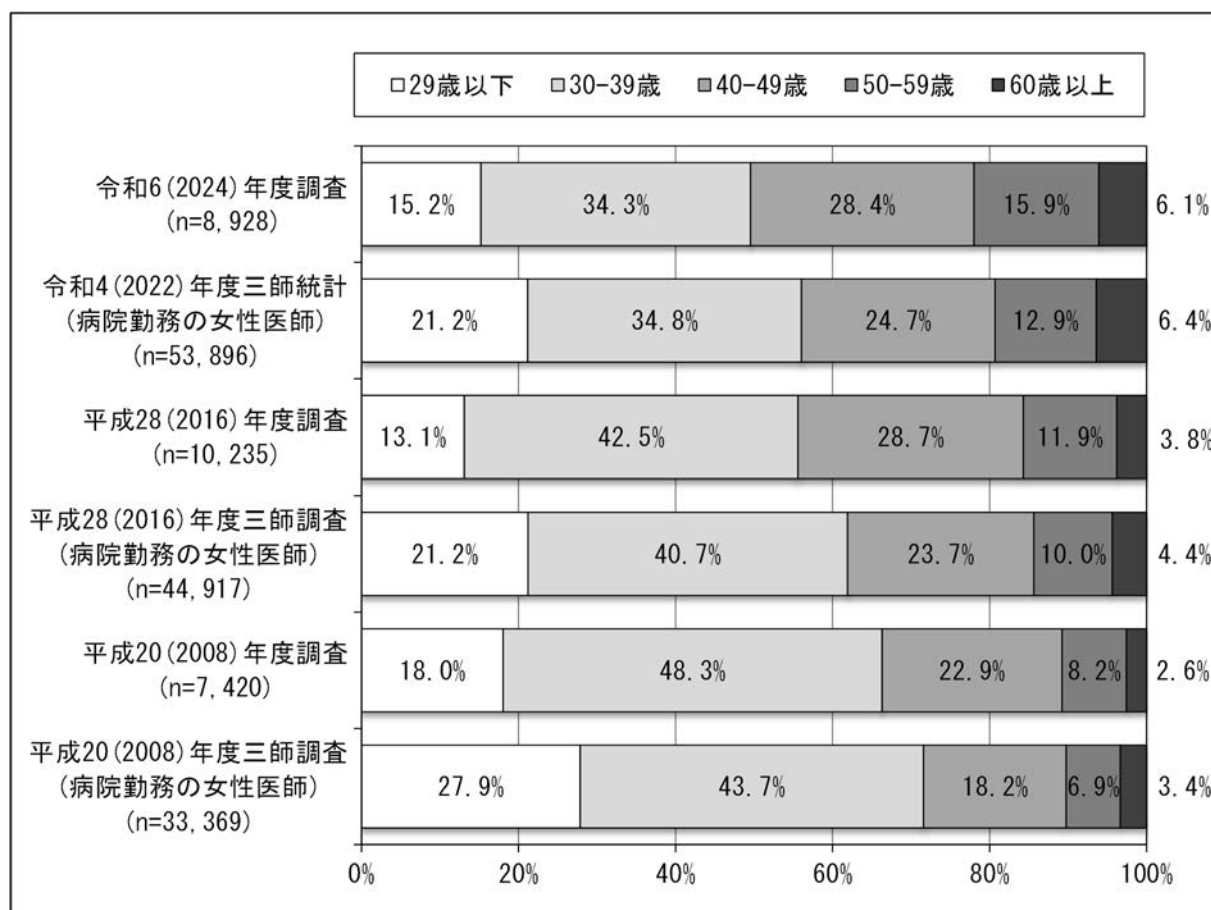


表 2-2-1 は、診療科（令和 4（2022）年度三師統計女性医師・医師総数と比較）を示したものである。

回答者の診療科の構成割合は「内科」が最も多く、約 3 割となっている。次いで、「小児科」、「麻酔科」、「産科婦人科」がそれぞれ 1 割近くとなっている。三師統計の女性医師分と大きな差異はみられない。なお、研修医は調査時の在籍科に拠らず「研修医」として集計した。最も少数であった脳神経外科でも 116 人から回答を得ており、各診療科別の状況も把握できるとみることができる。

表 2-2-1 診療科（令和 4（2022）年度三師統計女性医師・医師総数と比較）

	調査回答者		三師統計女性医師		三師統計医師総数		各診療科におけるカバー率※
総数	8,928	100.0%	53,896	100.0%	220,096	100.0%	16.6%
内科	2,589	29.0%	15,698	29.1%	71,725	32.6%	16.5%
精神科	413	4.6%	2,968	5.5%	12,345	5.6%	13.9%
小児科	858	9.6%	4,209	7.8%	11,030	5.0%	20.4%
放射線科	300	3.4%	1,668	3.1%	6,736	3.1%	18.0%
病理・検査科	217	2.4%	844	1.6%	2,829	1.3%	25.7%
リハビリ科	144	1.6%	724	1.3%	2,926	1.3%	19.9%
外科	506	5.7%	2,913	5.4%	24,115	11.0%	17.4%
整形・形成外科	393	4.4%	1,959	3.6%	17,072	7.8%	20.1%
麻酔科	766	8.6%	4,203	7.8%	9,809	4.5%	18.2%
産科婦人科	693	7.8%	3,998	7.4%	8,484	3.9%	17.3%
脳神経外科	116	1.3%	474	0.9%	6,348	2.9%	24.5%
泌尿器科	140	1.6%	580	1.1%	5,836	2.7%	24.1%
眼科	296	3.3%	2,147	4.0%	5,083	2.3%	13.8%
耳鼻咽喉科	263	2.9%	1,140	2.1%	4,157	1.9%	23.1%
皮膚科	303	3.4%	2,195	4.1%	3,907	1.8%	13.8%
救急科	131	1.5%	843	1.6%	4,784	2.2%	15.5%
その他	55	0.6%	1,298	2.4%	4,991	2.3%	4.2%
研修医	745	8.3%	6,035	11.2%	17,919	8.1%	12.3%

※調査回答者数÷令和 4（2022）年度三師統計における各診療科の病院勤務の女性医師数

診療科は下記に分類した。

本調査における 診療科分類	三師統計における診療科分類および本調査での回答内容
内科	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科（胃腸内科）、腎臓内科、脳神経内科、糖尿病内科（代謝内科）、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、感染症内科、心療内科、透析科、膠原病科、緩和ケア、総合診療科、家庭医療、腫瘍内科、脳卒中、在宅医療、漢方、和漢診療科、老年科
精神科	精神科
小児科	小児科、新生児科
放射線科	放射線科
病理・検査科	病理診断科、臨床検査科、健診科、人間ドック、遺伝子、超音波診断
リハビリ科	リハビリテーション科
外科	外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科（胃腸外科）、肛門外科、美容外科、小児外科
整形・形成外科	整形外科、形成外科
麻酔科	麻酔科、ペインクリニック
産科婦人科	産婦人科、産科、婦人科
脳神経外科	脳神経外科
泌尿器科	泌尿器科
眼科	眼科
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科、口腔外科
皮膚科	皮膚科
救急科	救急科、集中治療科、ICU
その他	上記または研修医以外の分野
研修医	臨床研修医 本調査では、質問項目の問 1-2 において「研修医」と回答した人は、診療科の回答内容にかかわらず、すべて「研修医」に分類した。

図 2-2-2 は、勤務病院の病床規模構成を年齢階級別に示したものである。

所属している医療機関の規模をみると、20 歳代と 30 歳代で半数以上、40 歳代で 44%が 500 床以上の大規模機関に勤務しており、年齢階級が上がるにつれて小規模機関に分散している。規模別で最も少なかった 100 床未満でも総数では 360 人から回答を得ており、各規模別の状況も把握できるとみることができる。

図 2-2-2 年齢階級別勤務先機関規模別構成

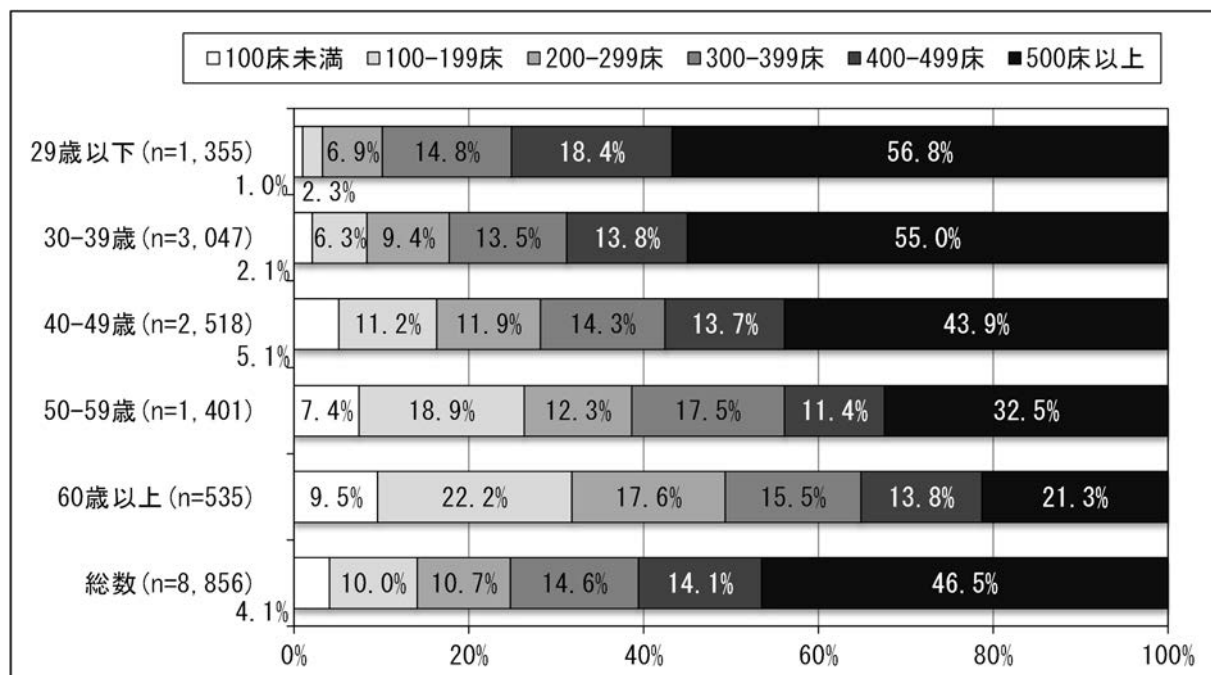


表 2-2-2 は、勤務地の所在地を地域別に示したものである。

回答者の勤務地の構成割合は近畿が最も多く 18%となっている。次いで、関東（東京以外）が 17%、東京、九州、東海がそれぞれ約 1 割となっている。

表 2-2-2 勤務地の所在地

総数	8,928	100.0%
北海道	329	3.7%
東北	534	6.0%
関東（東京以外）	1,542	17.3%
甲信越	357	4.0%
東京	1,118	12.5%
北陸	327	3.7%
東海	999	11.2%
近畿	1,599	17.9%
中国	636	7.1%
四国	382	4.3%
九州	1,105	12.4%

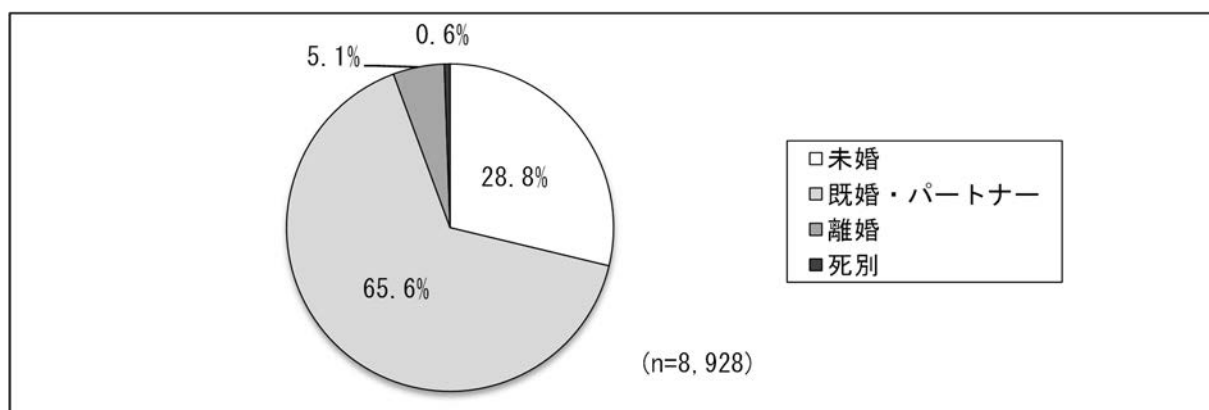
2-3. 家族構成

2-3-1. 回答者の婚姻の状況

図 2-3-1 は、回答者の婚姻の状況を示したものである。

今回の回答者では離婚や死別を除く既婚が 66%であった。婚姻の状況別に分析することは十分可能である。

図 2-3-1 回答者の婚姻の状況



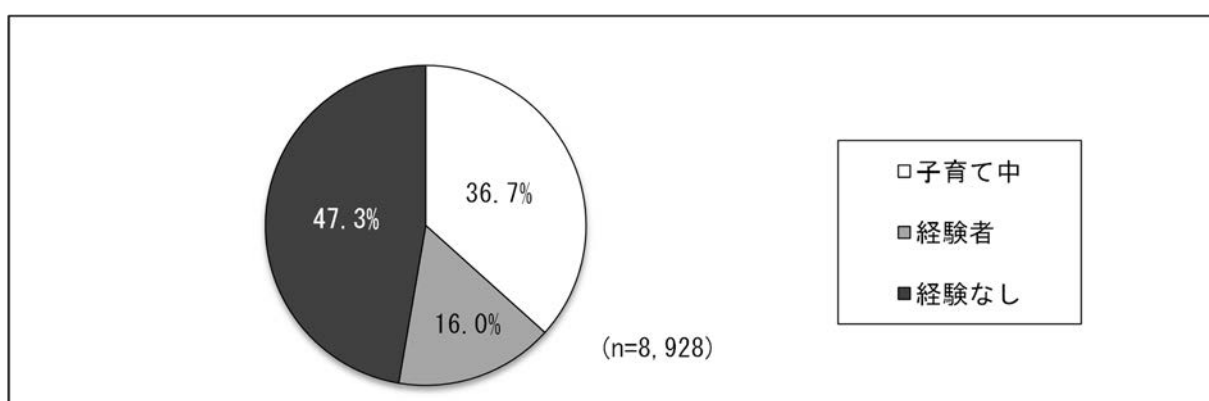
2-3-2. 回答者の子育ての状況

図 2-3-2 は、回答者の子育ての状況を示したものである。

本調査では同居している子どもの年齢区分※¹ について、小学生までの子どもがいる人を「子育て中」として分析することとした。また、多子の場合も現在の子育て環境として、末子の年齢区分によって分析することとした。小学生までの子どもと同居している子育て中の人は 37%を占め、すでに末子が中学生以上となっている子育て経験者は、16%であった。

※¹ 「乳児（0 歳児）」「未就学児」「小学生」「中学生以上」「高校生以上」の 5 区分。

図 2-3-2 回答者の子育ての状況※²



※² 同居している子どもの年齢区分が小学生までと回答した人を「子育て中」、同居している子どもの年齢区分が中学生以上、または、現在子どもと同居していないが出産経験があると回答した人を「経験者」、その他の人を「経験なし」とした。

(3) 働き方に関する分析

ここでは、働き方について、年齢階級別、診療科別、勤務先機関規模別に分析した。なお、子育てとの関連については「(4) 子育てとの両立に関する分析」で分析した。

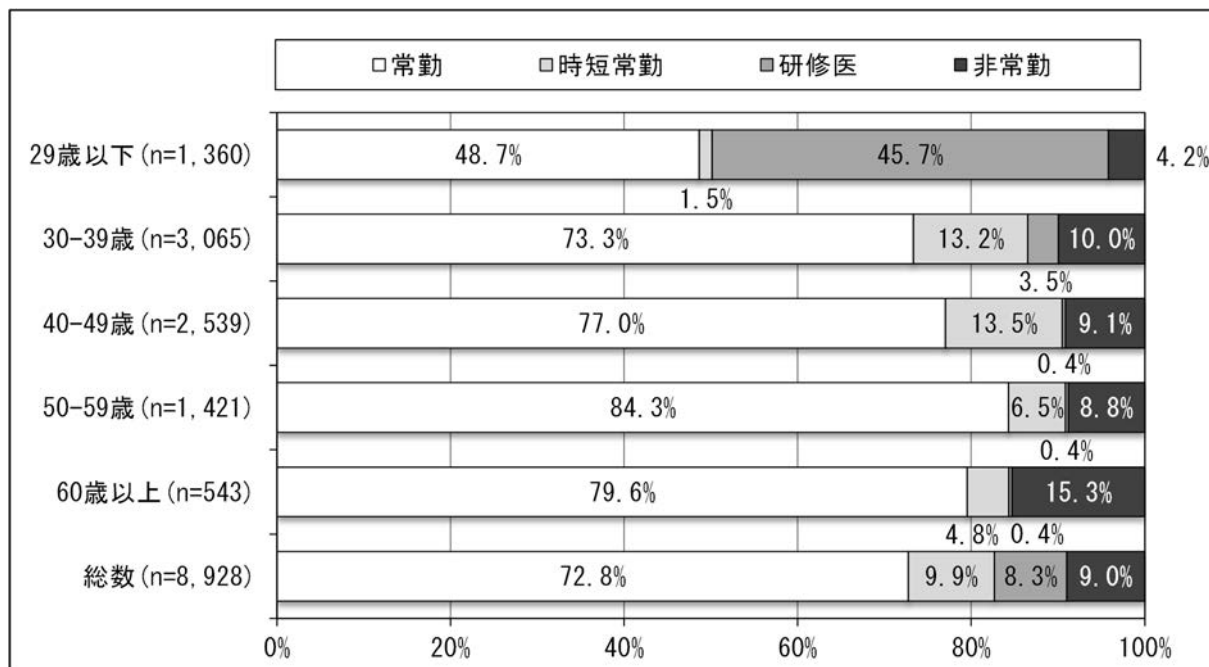
3-1. 年齢階級別にみた働き方

3-1-1. 勤務形態

図 3-1-1 は、年齢階級別にみた勤務形態を示したものである。

勤務形態は、総数では常勤が 73%、時短常勤が 10%、研修医が 8%、非常勤（嘱託・パート・その他）が 9%であった。年齢階級別にみると、当然のことながら、20 歳代では研修医が 46% を占めていたが、その後、常勤の割合は 50 歳代まで年齢が上がるにつれて大きくなっている。時短常勤の割合は 30 歳代で 13%、40 歳代 14%と高かった。

図 3-1-1 年齢階級別にみた勤務形態



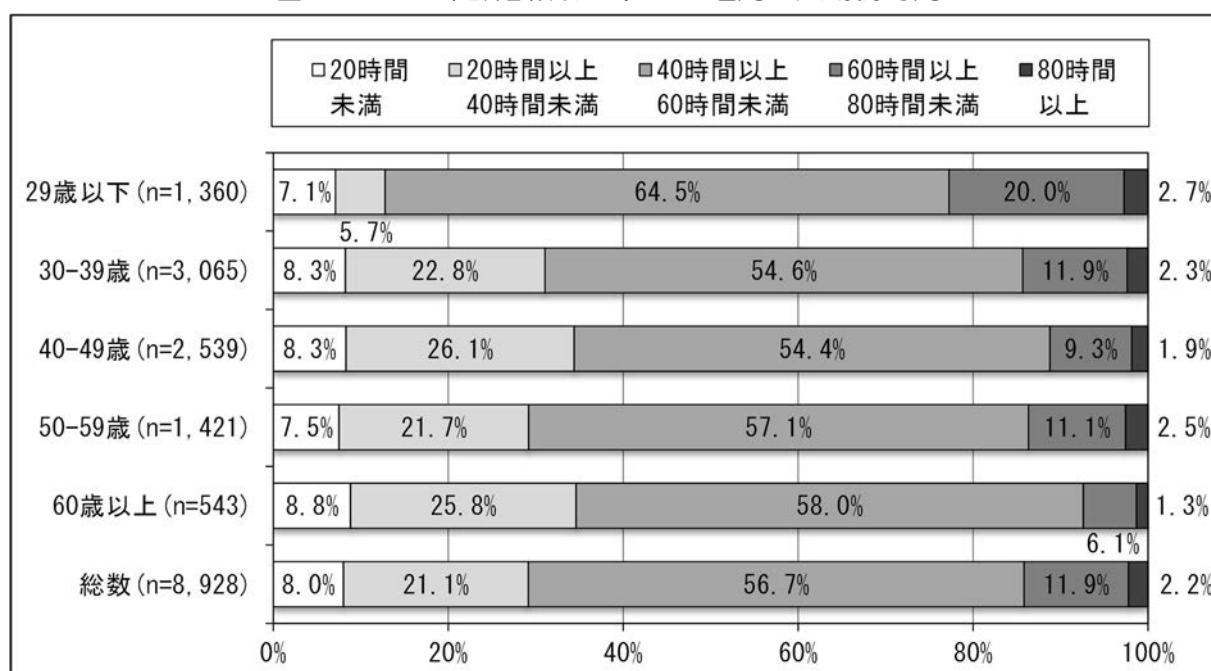
3-1-2. 1 週間の実勤務時間

図 3-1-2 は、年齢階級別にみた 1 週間の実勤務時間を示したものである。

総数では、1 週間の実勤務時間 40 時間未満が 29%、40 時間以上 60 時間未満が 57%、60 時間以上が 14%であった。

年齢階級別にみると、29 歳以下では 40 時間以上 60 時間未満が 65%、60 時間以上が 23%と他の年代より多かった。

図 3-1-2 年齢階級別にみた 1 週間の実勤務時間※



※回答者には複数箇所勤務している人も含まれるが、実勤務時間の数え方は特に定義せず、回答者に委ねた。また、オンコールなどを勤務時間に数えるかなども回答者に委ねた。

3-1-3. 宿日直、オンコールの状況

図 3-1-3-1 は、年齢階級別にみた宿日直、オンコールの状況を示したものである。

総数では、宿日直またはオンコール有は 63%であった。年齢階級別にみると、29 歳以下は研修医の場合が多いことから 9 割が宿日直またはオンコール有りで、30 歳代以降は年齢階級があがるほど、割合は下がっている。

図 3-1-3-1 年齢階級別にみた宿日直、オンコールの状況

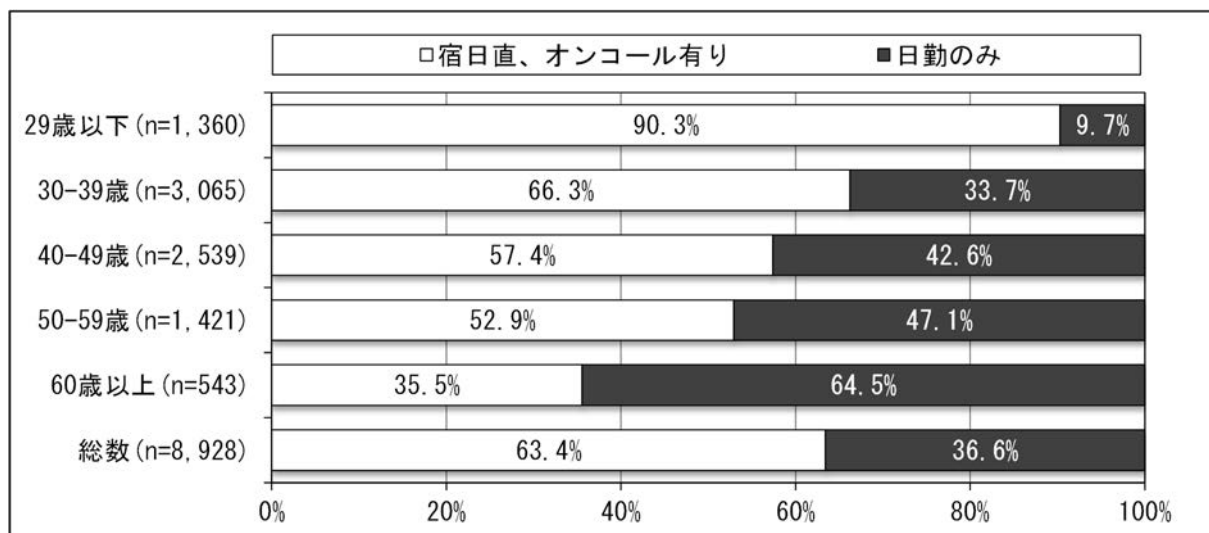


図 3-1-3-2 は、年齢階級別にみた 1 か月の宿直回数を示したものである。

1 か月の宿直回数は、総数ではなしが半数以上、月 1-2 回が 2 割程度であった。29 歳以下では月 3-4 回が 44%を占め、月 1-2 回が 25%、月 5 回以上が 16%であった。30 歳代では 47%が宿直なしで、年代が上がるにつれて割合が多くなっている。

図 3-1-3-2 年齢階級別にみた 1 か月の宿直回数

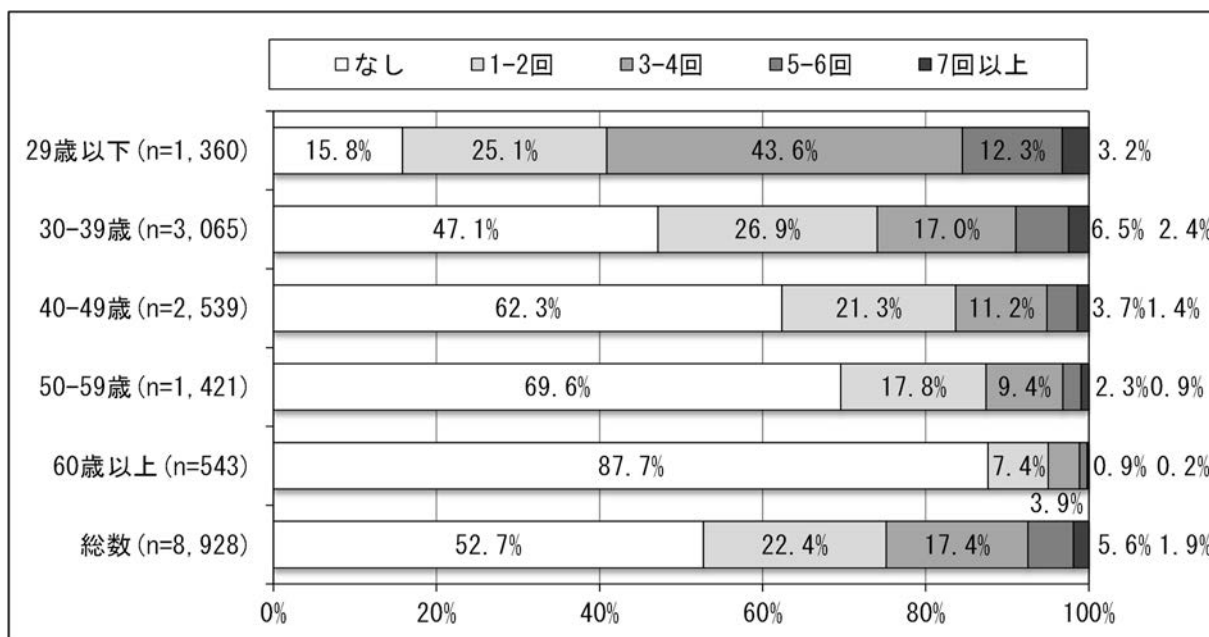
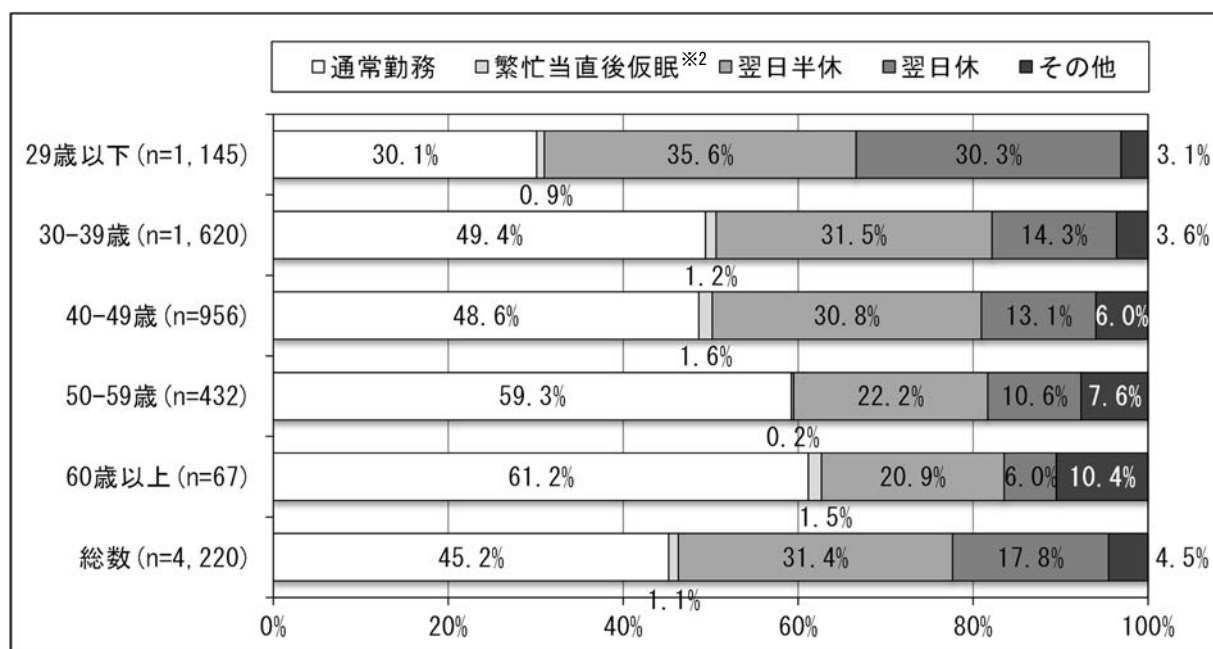


図 3-1-3-3 は、年齢階級別にみた宿直翌日の勤務を示したものである。

宿直翌日については、通常勤務が 30 歳代・40 歳代で約半数、50 歳代・60 歳以上で約 6 割を占めた。29 歳以下では翌日半休が 36%と通常勤務 30%より多かった。

図 3-1-3-3 年齢階級別にみた宿直翌日の勤務※¹



※¹ 1 か月の宿直回数が 1 回以上の人にたずねた。

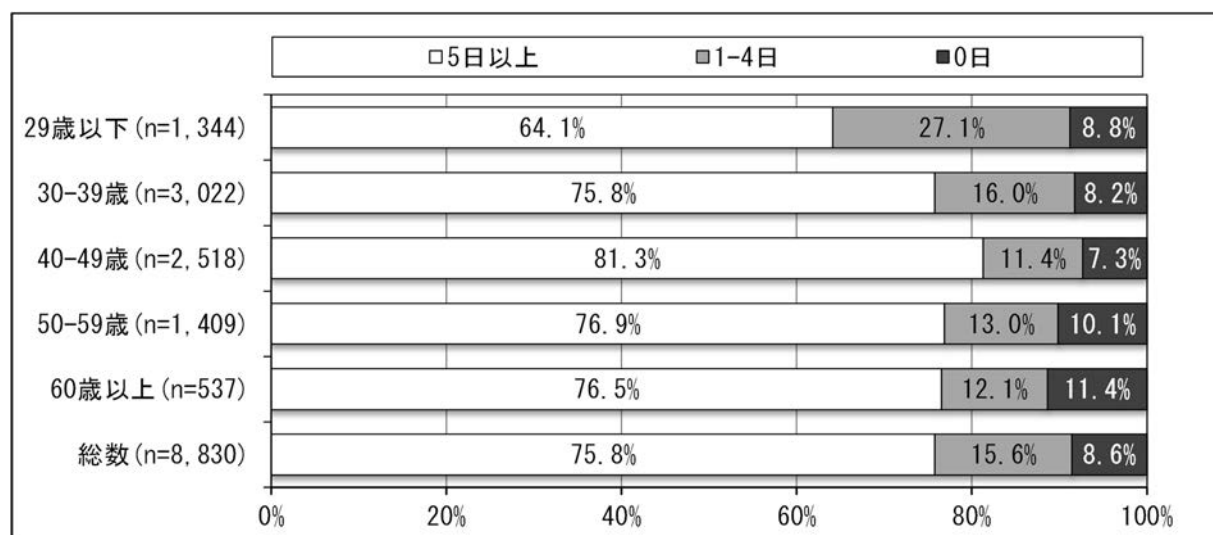
※² 特に忙しかった当直のみ仮眠できる

3-1-4. 年間有給休暇取得状況

図 3-1-4 は、年齢階級別にみた年間有給休暇取得状況を示したものである。

年間の有給休暇の取得状況をみると、5 日以上取得している人は全体で 76%を占めた。29 歳以下では 64%にとどまるが、他の年代では 75%以上であった。全く年休を取っていない人はいずれの年齢階級でも 1 割前後にとどまった。

図 3-1-4 年齢階級別にみた年間有給休暇取得状況

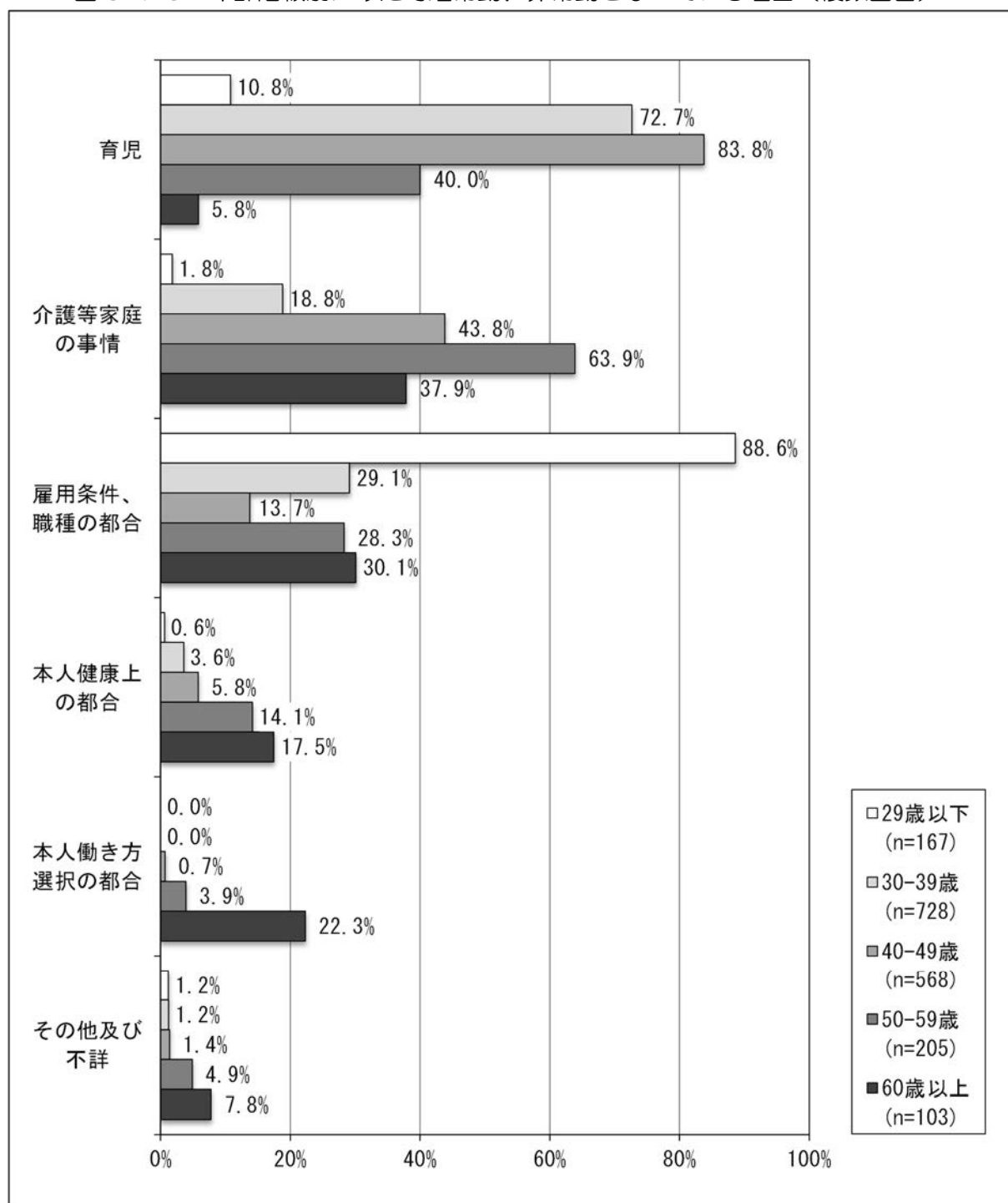


3-1-5. 時短、非常勤の理由

図 3-1-5 は、年齢階級別にみた時短常勤、非常勤となっている理由を示したものである。

時短、非常勤勤務者が時短、非常勤勤務を選択した理由は、複数回答で、20 歳代では雇用条件・職種の都合すなわち研修医であることを 89%の人が挙げたが、30 歳代では育児が 73%、さらに 40 歳代では育児が 84%、次いで介護等家庭の事情が 44%を占め、50 歳代では介護・家庭の事情が 64%に上った。一方、60 歳以上では退職し始める世代であることを反映して本人の働き方選択が 22%になっている。

図 3-1-5 年齢階級別にみた時短常勤、非常勤となっている理由（複数回答）※



※勤務形態が時短常勤または非常勤の人にたずねた。

選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。

「他院でも勤務しているため」と回答した人は集計から除いた。

3-2. 診療科別にみた働き方

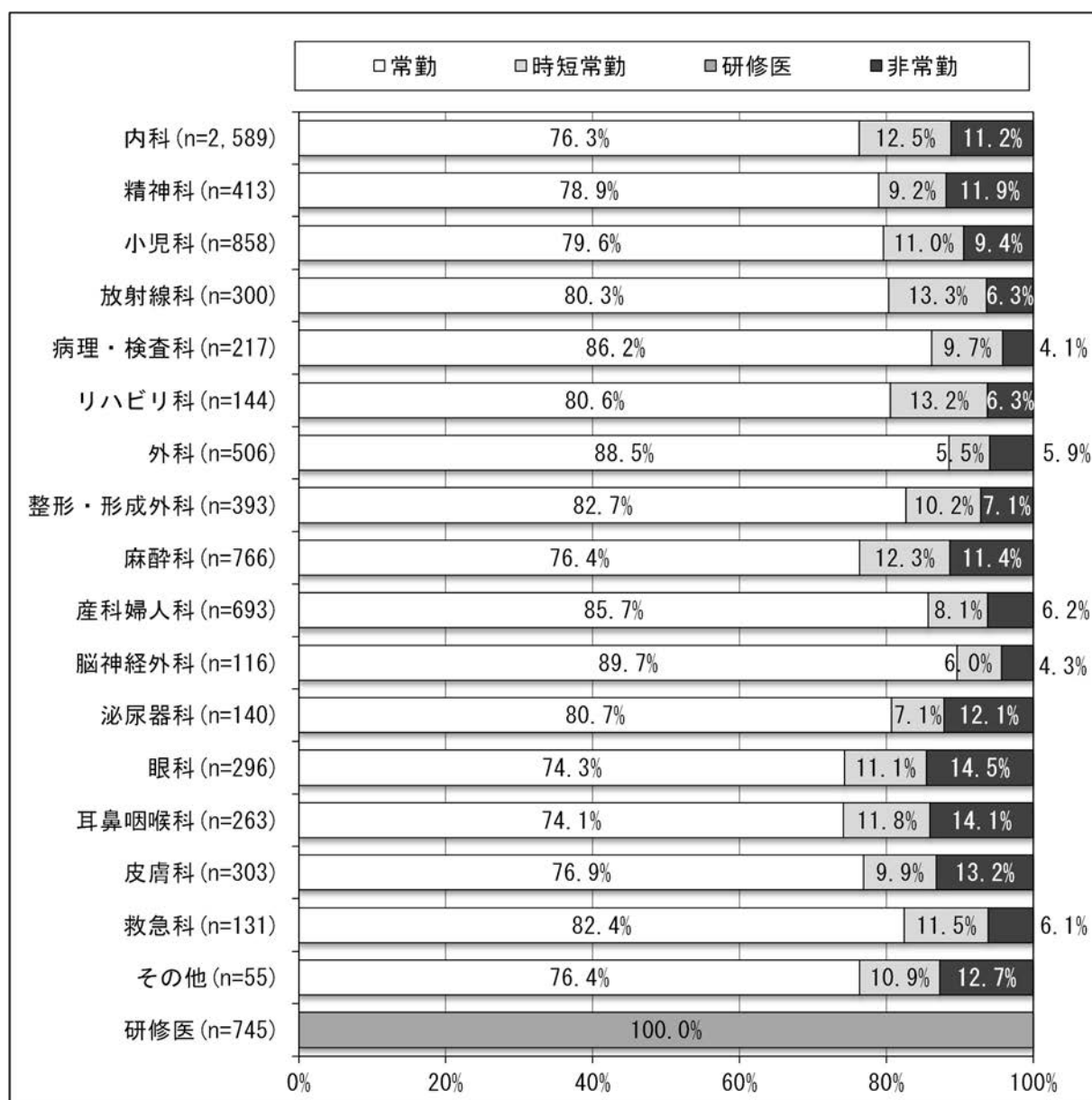
属性の項で前述したとおり、回答者の診療科の構成割合は「内科」が最も多く、次いで、「小児科」、「麻酔科」、「産科婦人科」がそれぞれ約 1 割であったが、診療科は全域にわたっている。

3-2-1. 勤務形態

図 3-2-1 は、診療科別にみた勤務形態を示したものである。

診療科別に勤務形態をみると、診療科によって、非常勤の割合には差異がみられる。病理・検査科、外科、産科婦人科、脳神経外科では常勤の割合が 85%を超えていた一方、内科、精神科、小児科、麻酔科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科では 80%未満であった。

図 3-2-1 診療科別にみた勤務形態



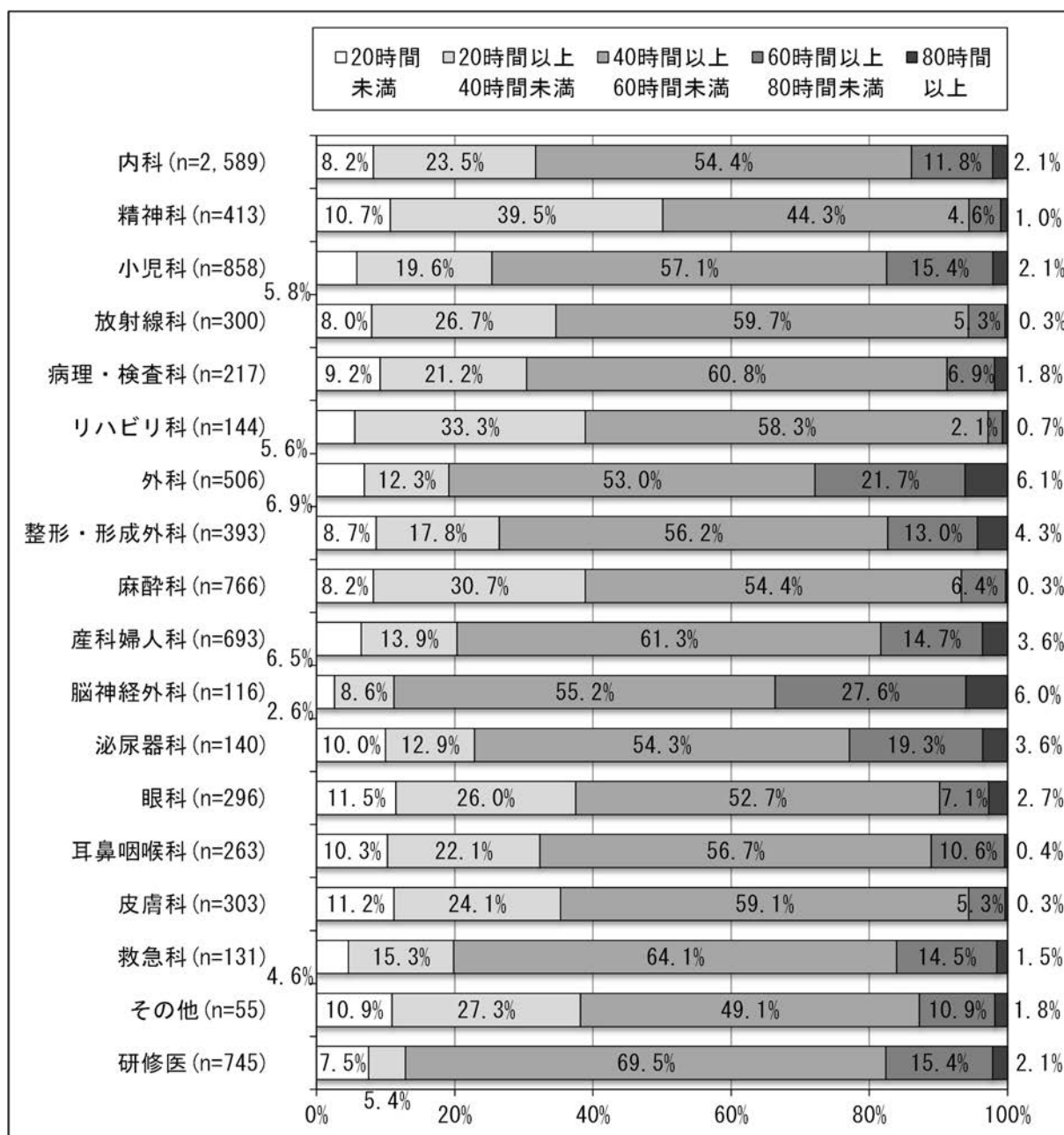
3-2-2. 1 週間の実勤務時間

図 3-2-2 は、診療科別にみた 1 週間の実勤務時間を示したものである。

診療科別に 1 週間の実勤務時間をみると、診療科によって、差異がみられる。

いずれの診療科も週 40 時間以上 60 時間未満が最も多い。週 60 時間以上の割合が多いのは、脳神経外科 34%、外科 28%、泌尿器科 23%であった。

図 3-2-2 診療科別にみた 1 週間の実勤務時間



3-2-3. 宿日直、オンコールの状況

図 3-2-3-1 は、診療科別にみた宿日直、オンコールの状況を示したものである。

宿日直、オンコールの状況も、当然のことながら、研修医では 90%が宿日直、オンコール有りであったが、産科婦人科、外科、小児科、救急科、泌尿器科、脳神経外科では 70%を超えていた。一方、病理・検査科では 13%、リハビリ科 31%、放射線科 34%、眼科 40%、皮膚科 54%、精神科 55%、内科 57%など診療科によって大きな差異があった。

図 3-2-3-1 診療科別にみた宿日直、オンコールの状況

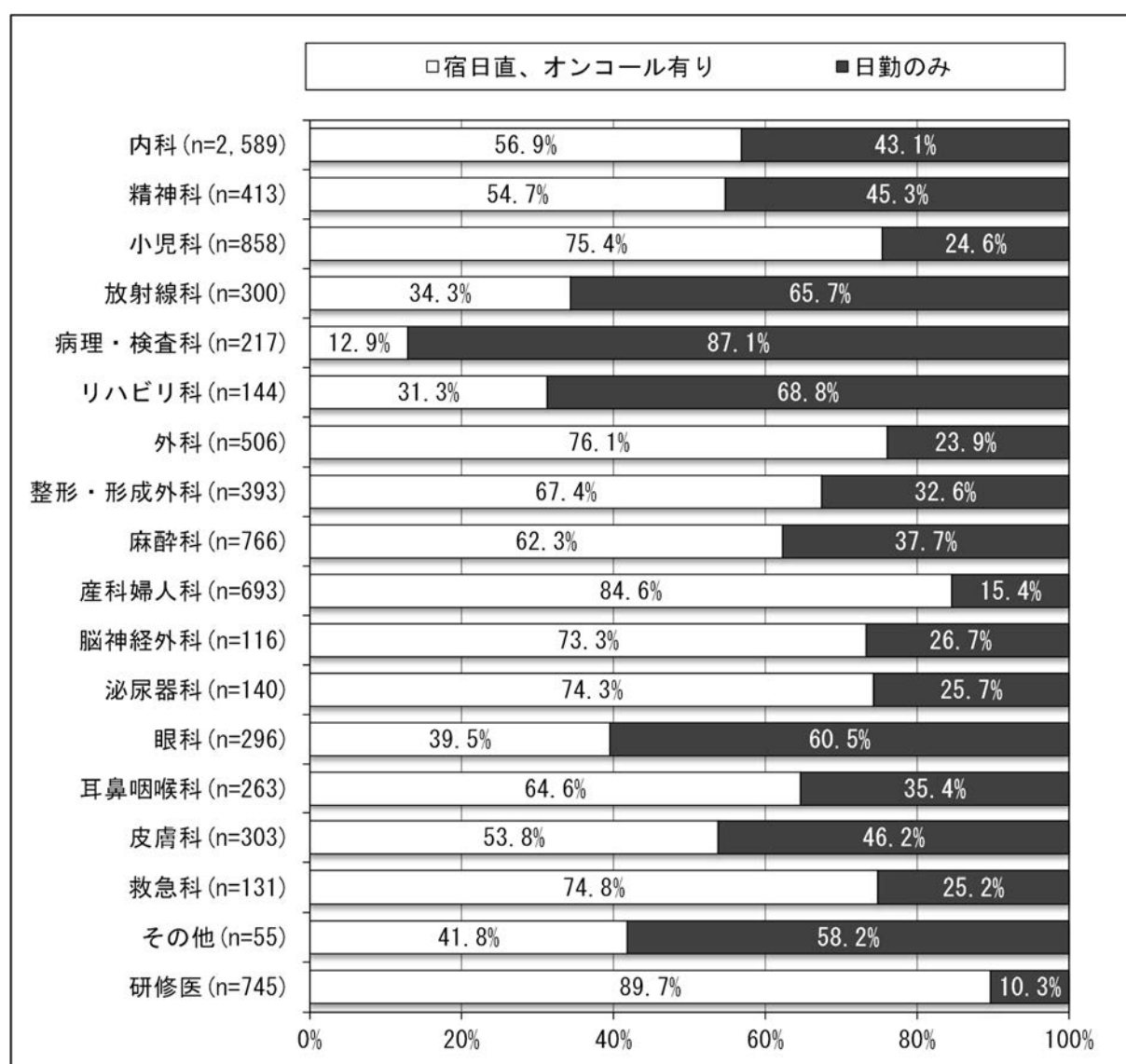


図 3-2-3-2 は、診療科別にみた 1 か月の宿直回数を示したものである。

1 か月の宿直回数は、救急科では月 7 回以上が 11%にのぼり、月 5-6 回とあわせると 28%となっていたほか、産科婦人科では月 7 回以上が 7%で、月 5-6 回とあわせると 22%になっていた。このほか、月 5 回以上が 10%を超えていたのは、研修医、小児科、脳神経外科であった。一方で、宿直のない割合が 60%以上を占めていたのは、病理・検査科、放射線科、眼科、リハビリ科、皮膚科、麻酔科等であった。

図 3-2-3-2 診療科別にみた 1 か月の宿直回数

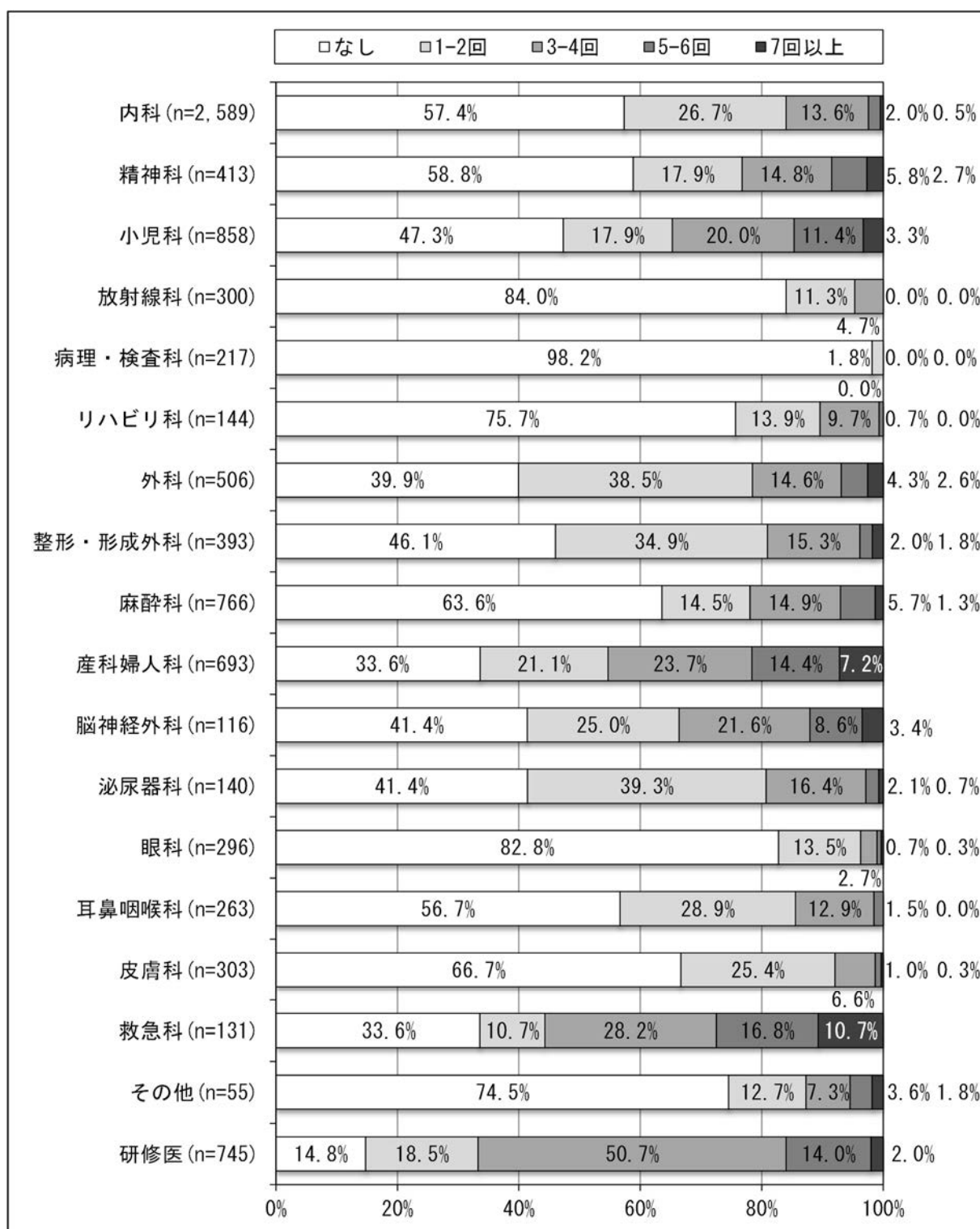
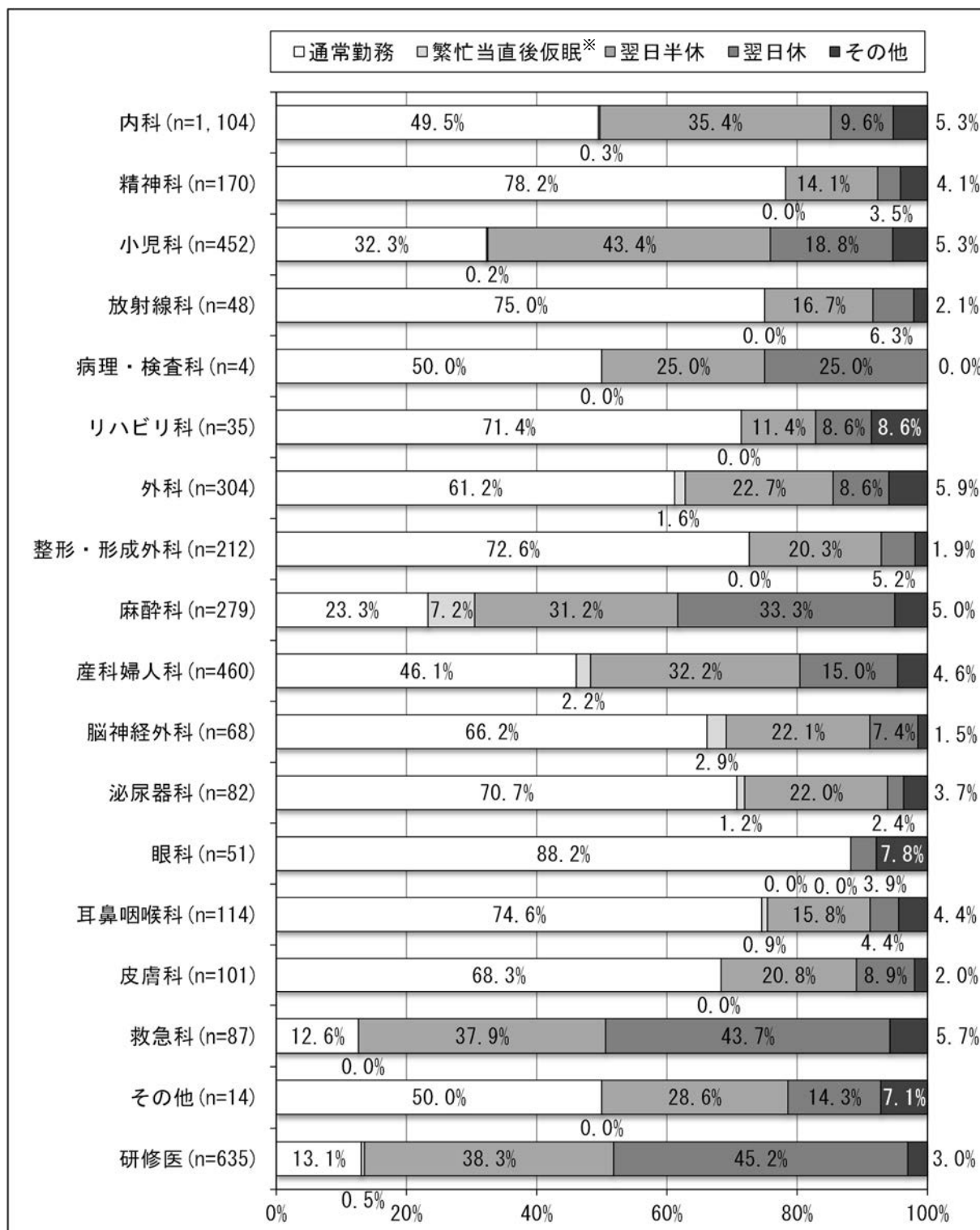


図 3-2-3-3 は、診療科別にみた宿直翌日の勤務を示したものである。

宿直翌日については、救急科、研修医、麻酔科、小児科では翌日半休等の対応がある程度あるが、他の多くの診療科では対応が少なかった。

図 3-2-3-3 診療科別にみた宿直翌日の勤務



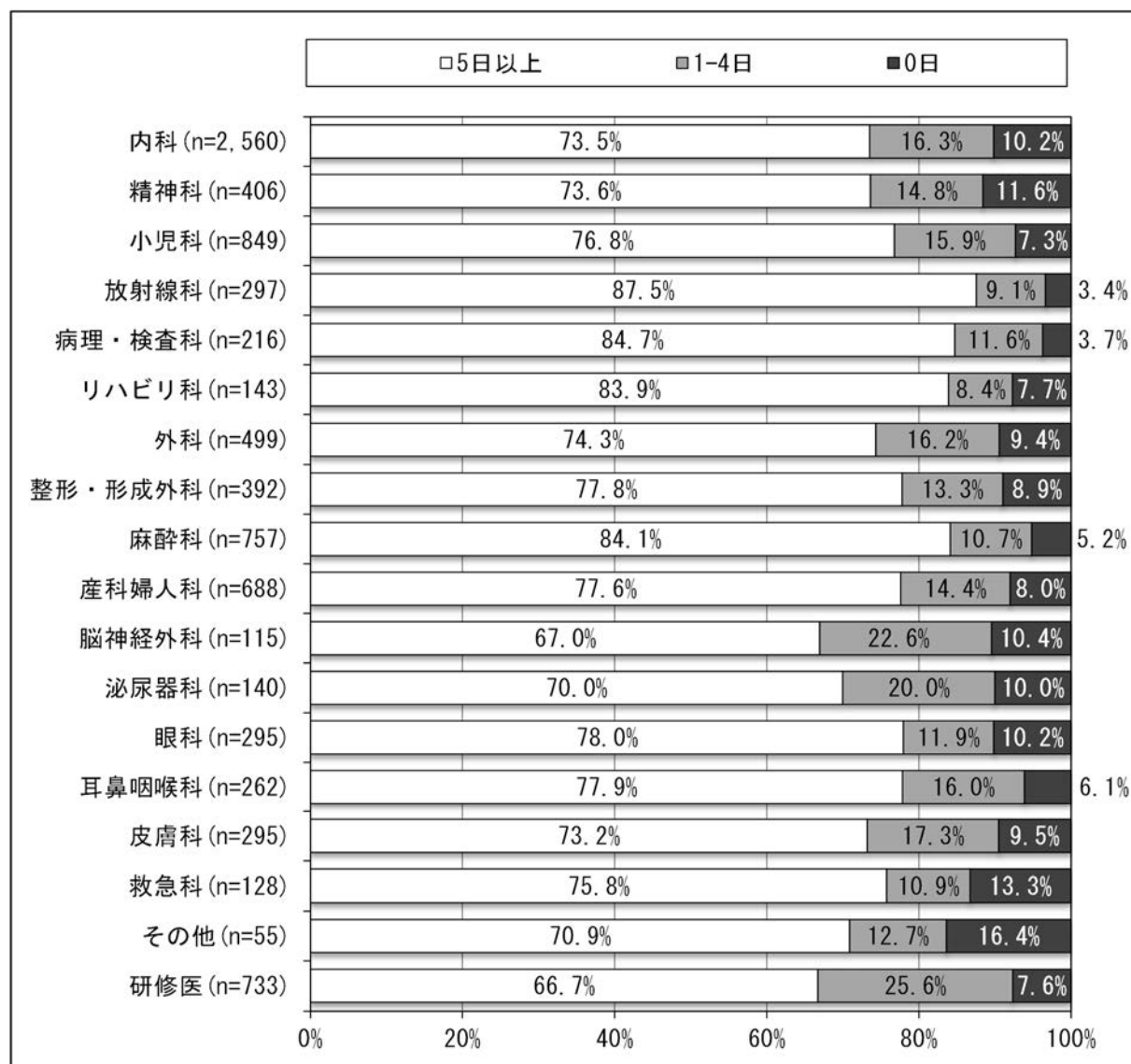
※特に忙しかった当直のみ仮眠できる

3-2-4. 年間有給休暇取得状況

図 3-2-4 は、診療科別にみた年間有給休暇取得状況を示したものである。

年間有給休暇の取得状況も診療科によって差異があり、放射線科、病理・検査科、麻酔科、リハビリ科では年間5日以上取得できていた割合が80%を超えたが、脳神経外科と研修医では67%にとどまった。

図 3-2-4 診療科別にみた年間有給休暇取得状況



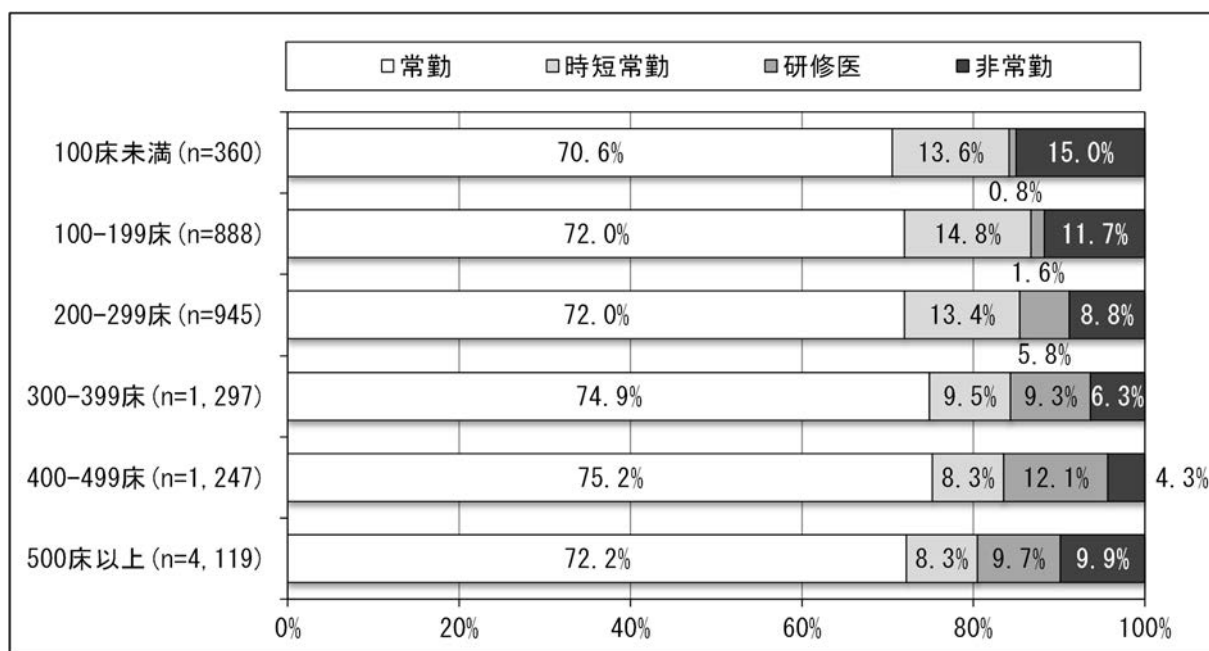
3-3. 勤務先機関規模別にみた働き方

3-3-1. 勤務形態

図 3-3-1 は、勤務先機関規模別にみた勤務形態を示したものである。

勤務先機関規模別に勤務形態をみると、常勤の割合は 300-399 床と 400-499 床で比較的高かった。時短常勤の割合は 299 床までの規模で比較的高かった。非常勤の割合は、400-499 床で 4%と低く病床が少ないほど高くなっていた。研修医の割合は 300 床以上の規模で 1 割前後であった。

図 3-3-1 勤務先機関規模別にみた勤務形態

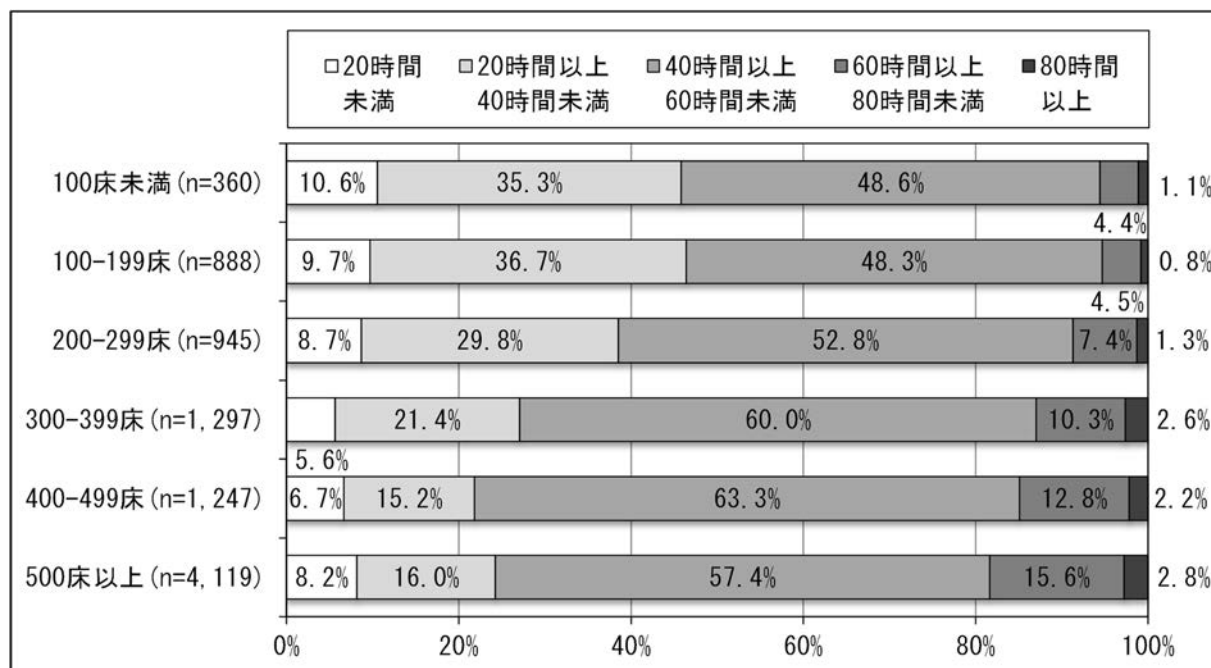


3-3-2. 1 週間の実勤務時間

図 3-3-2 は、勤務先機関規模別にみた 1 週間の実勤務時間を示したものである。

勤務先機関規模別に 1 週間の実勤務時間をみると、週 40 時間未満に収まっている割合は規模が大きくなるほど低くなる傾向がみられた。一方、週 60 時間以上勤務している割合は 200 床以上から増え始め、規模が大きくなるほど高くなった。

図 3-3-2 勤務先機関規模別にみた 1 週間の実勤務時間



3-3-3. 宿日直、オンコールの状況

図 3-3-3-1 は、勤務先機関規模別にみた宿日直、オンコールの状況を示したものである。
規模が大きくなるほど「宿日直、オンコール有り」の割合が高くなり、100 床未満では 46% であるが、400-499 床で 72%に達した。500 床以上では 67%であった。

図 3-3-3-1 勤務先機関規模別にみた宿日直、オンコールの状況

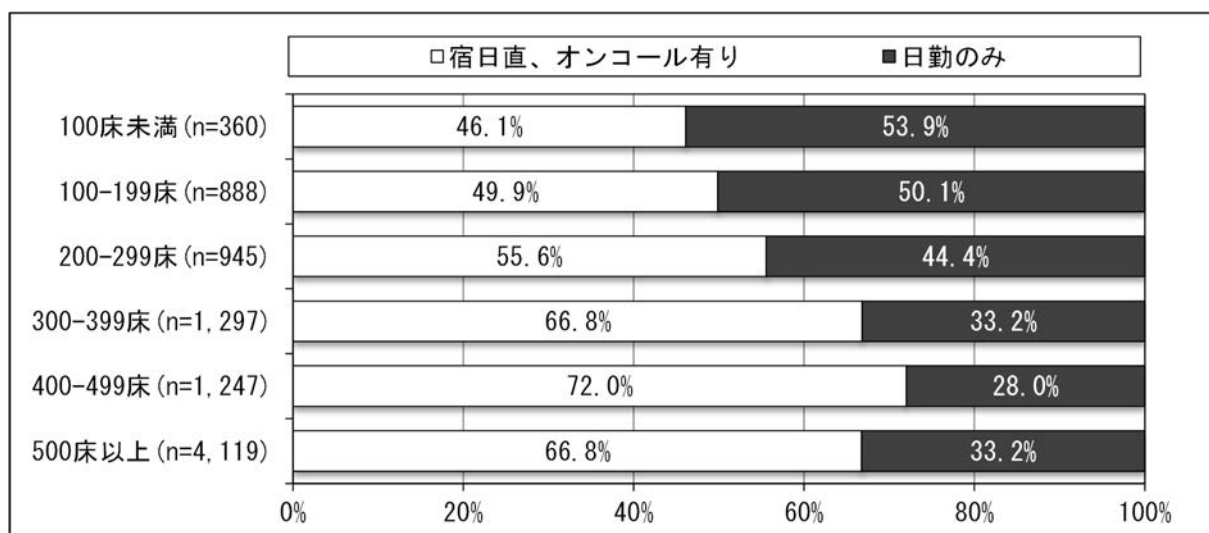


図 3-3-3-2 は、勤務先機関規模別にみた 1 か月の宿直回数を示したものである。
100 床未満では宿直を受けている人の割合は低いものの、宿直を受けている人の宿直回数が多い傾向がみられた。

図 3-3-3-2 勤務先機関規模別にみた 1 か月の宿直回数

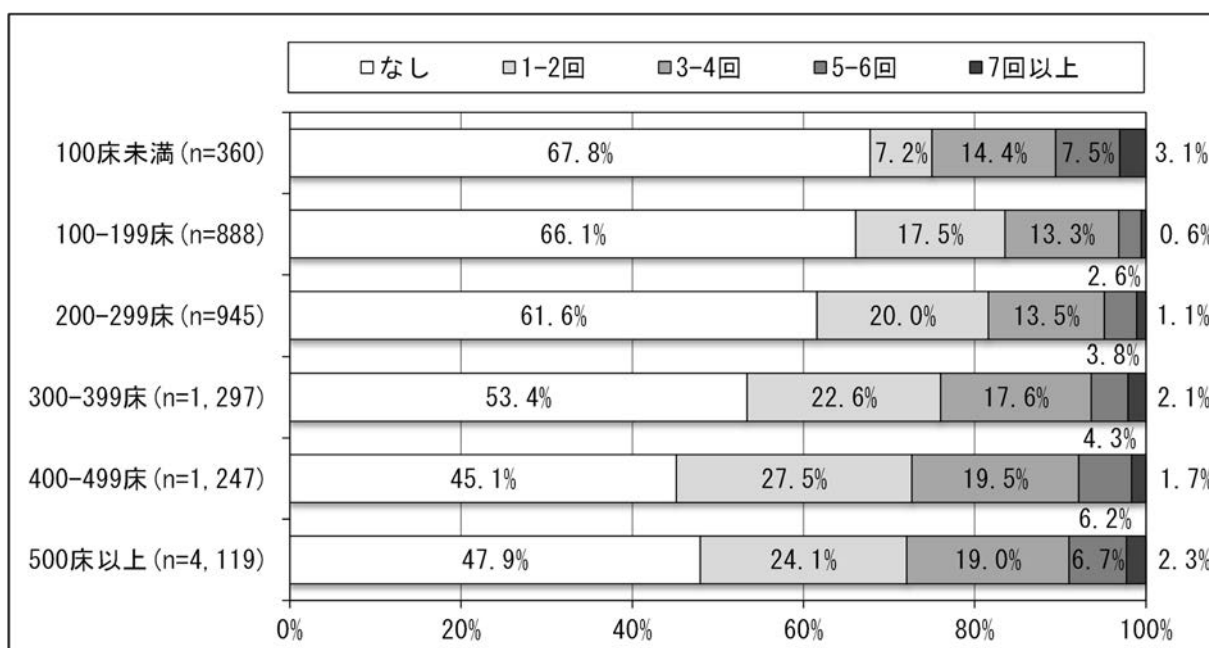
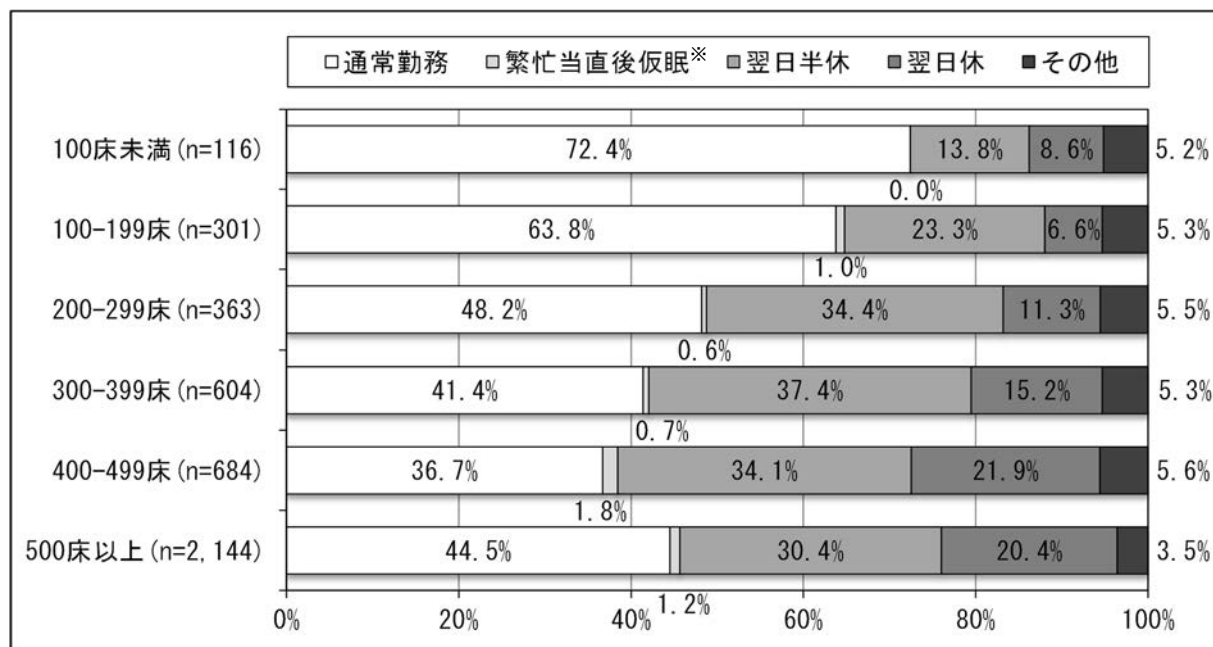


図 3-3-3-3 は、勤務先機関規模別にみた宿直翌日の勤務を示したものである。

宿直翌日の勤務状況をみると、500 床未満では、規模が大きくなると翌日半休や翌日休の取れる割合が高くなる傾向がみられた。

図 3-3-3-3 勤務先機関規模別にみた宿直翌日の勤務



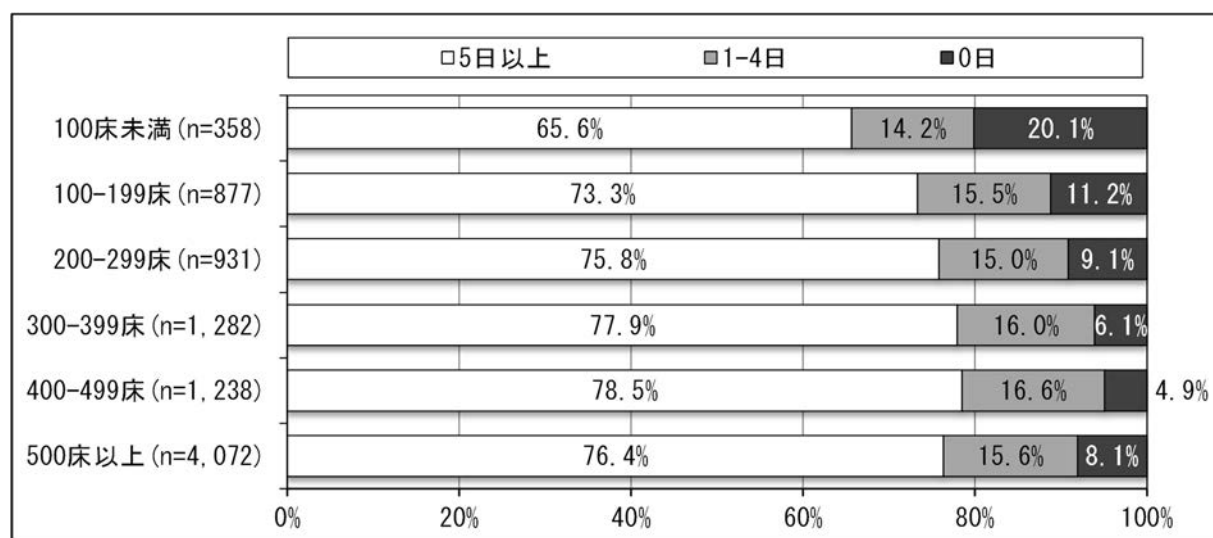
※特に忙しかった当直のみ仮眠できる

3-3-4. 年間有給休暇取得状況

図 3-3-4 は、勤務先機関規模別にみた年間有給休暇取得状況を示したものである。

年間有給休暇が年間 5 日以上取得できていた割合は、100 床未満では 66%と低いが、100 床以上ではいずれの規模でも 70%を超えていた。

図 3-3-4 勤務先機関規模別にみた年間有給休暇取得状況



(4) 子育てとの両立に関する分析

4-1. 回答者の子育ての状況

属性の項で示したように、本調査では同居している子どもの年齢区分について、小学生までの子どもがいる人を「子育て中」とし、末子の年齢区分で「乳児」「幼児」「学童」に分けて分析した。

図 4-1-1 は、回答者の子育ての状況を示したものである。

小学生までの子どもと同居していると回答した人は 37% を占め、同居の末子の年齢区分をみると、乳児育児中が 3%、幼児育児中が 22%、学童育児中が 12% であった。

図 4-1-1 回答者の子育ての状況

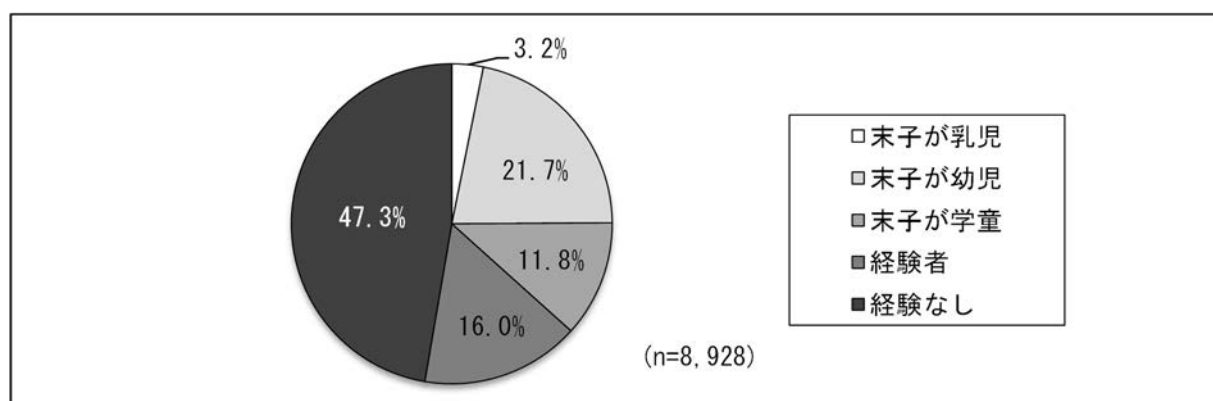
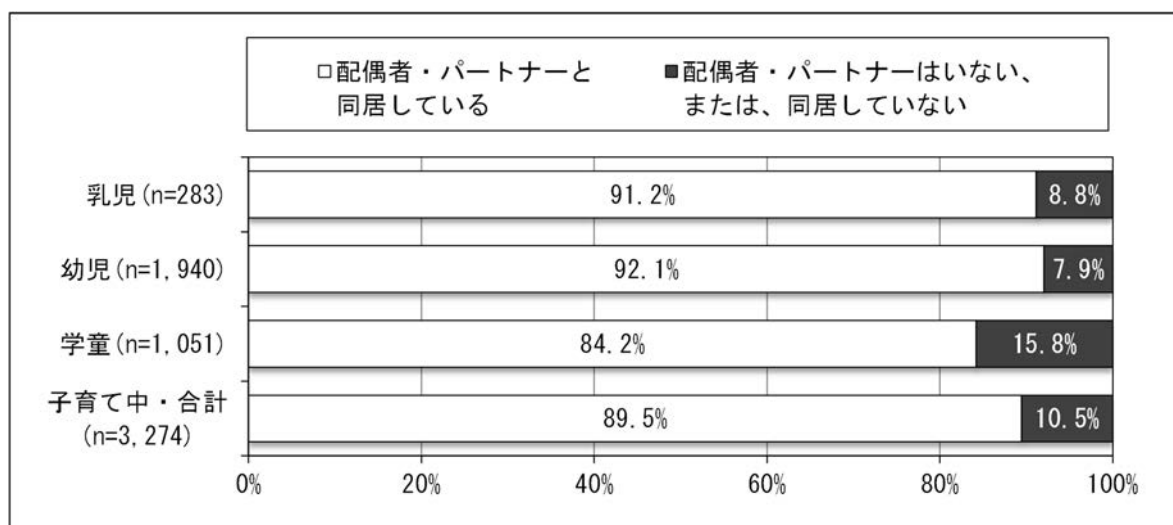


図 4-1-2 は、子育て中の回答者の配偶者・パートナーとの同居の有無を示したものである。子育て中の 3,274 人のうち、配偶者・パートナーと同居していない人は 11% であった。学童の末子がいる回答者のうち、16% が配偶者・パートナーのいない、または、同居していない家庭で子育てをしている。

図 4-1-2 子育て中の配偶者・パートナーとの同居の有無



4-2. 子育ての状況別にみた働き方

4-2-1. 子育ての状況別にみた勤務形態

図 4-2-1-1 は、子育ての状況別にみた勤務形態を示したものである。

勤務形態の概要は 3-1-1 に記載したが、ここでは子育ての状況別に勤務形態をみた。研修医を除いて子育ての状況別に勤務形態をみると、子どもが幼少なほど常勤が少なくなる状況がみられた。特に非常勤は乳児で多く、18%であった。

図 4-2-1-1 子育ての状況別にみた勤務形態

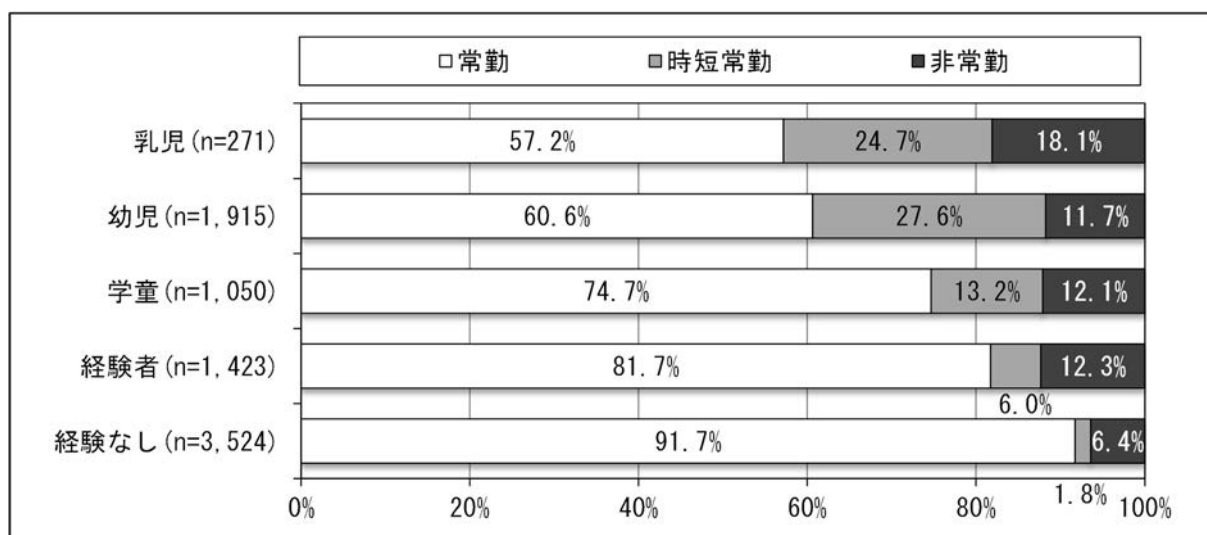
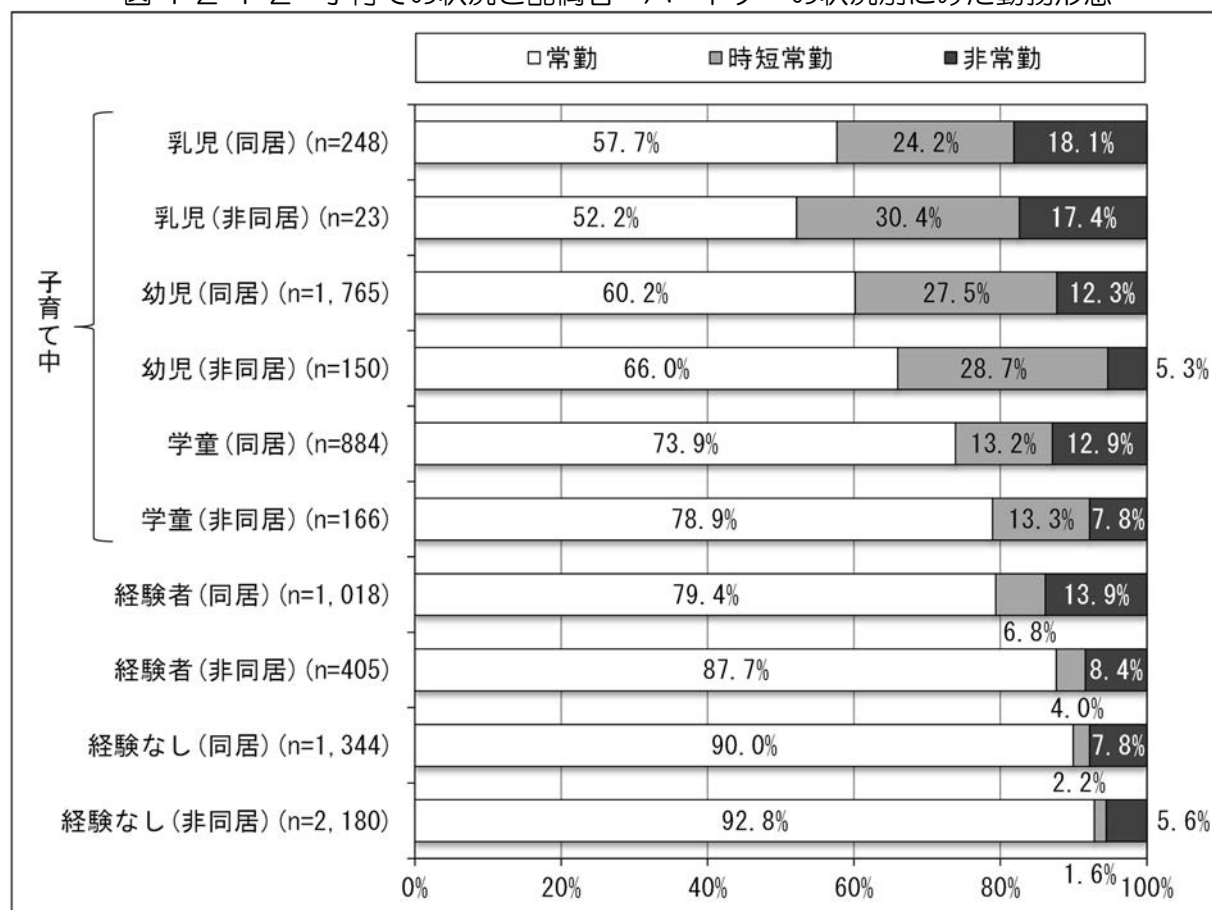


図 4-2-1-2 は、子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた勤務形態を示したものである。

子育ての状況と同居の配偶者・パートナーの状況別に勤務形態をみたところ、時短も含めると、すべての区分で同居の配偶者・パートナーがいるほうが常勤の割合が低くなっていた。

図 4-2-1-2 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた勤務形態



4-2-2. 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた 1 週間の実勤務時間

図 4-2-2 は、子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた 1 週間の実勤務時間を示したものである。

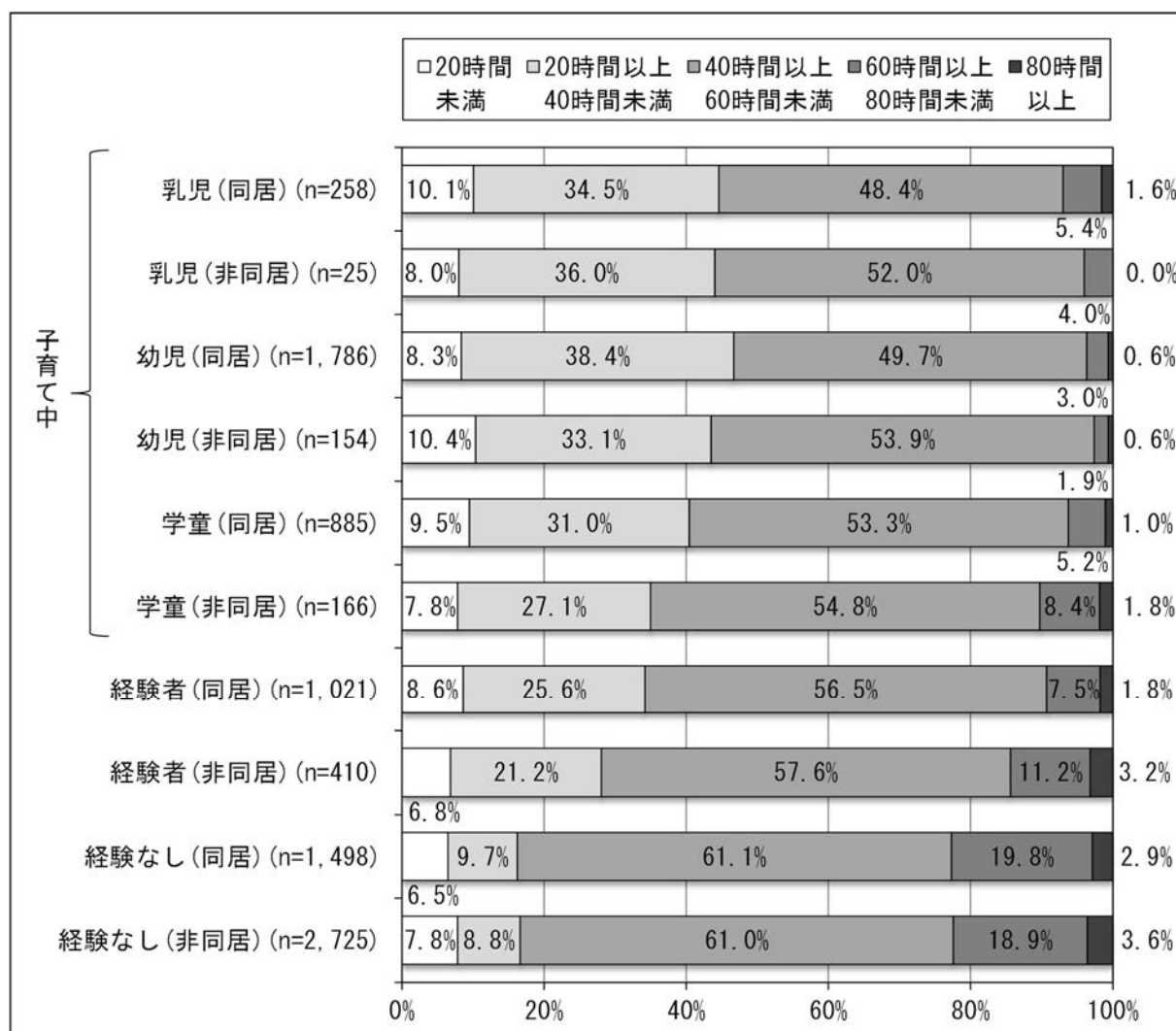
子育て中の 1 週間の実勤務時間をみると、40 時間以上 60 時間未満の人が 5 割前後を占めた。40 時間未満の人は概ね 30-40% 台であった。

子育て経験のない人では 60 時間以上が 20% 以上を占めた。子育て経験のない人に比べ、子育て中の人で明らかに短時間勤務の割合が多い。一方で、一部の人は子育て中にも長時間勤務にあっている。

子どもの年齢区分でみると、乳児と幼児の子育て中の人の実勤務時間の少ない人が多く、学童になると、実勤務時間がやや長くなっていた。

なお、配偶者・パートナーの同居・非同居による差は少なかった。

図 4-2-2 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた 1 週間の実勤務時間



4-2-3. 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた宿日直、オンコールの状況

図 4-2-3-1 は、子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた宿日直、オンコールの状況を示したものである。

子育て中と経験者の人では日勤のみが 5 割以上で、乳児子育て中以外では、配偶者・パートナーの同居の有無では差がみられなかった。経験なしでは日勤のみが 2 割前後にとどまった。

子どもの年齢区分でみると、乳児は幼児や学童に比べて日勤のみの割合が高かった。n 数は少ないが、乳児の子育て中の回答者では、配偶者・パートナーと非同居の場合、日勤のみの割合が同居に比べ高かった。

図 4-2-3-1 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた宿日直、オンコールの状況

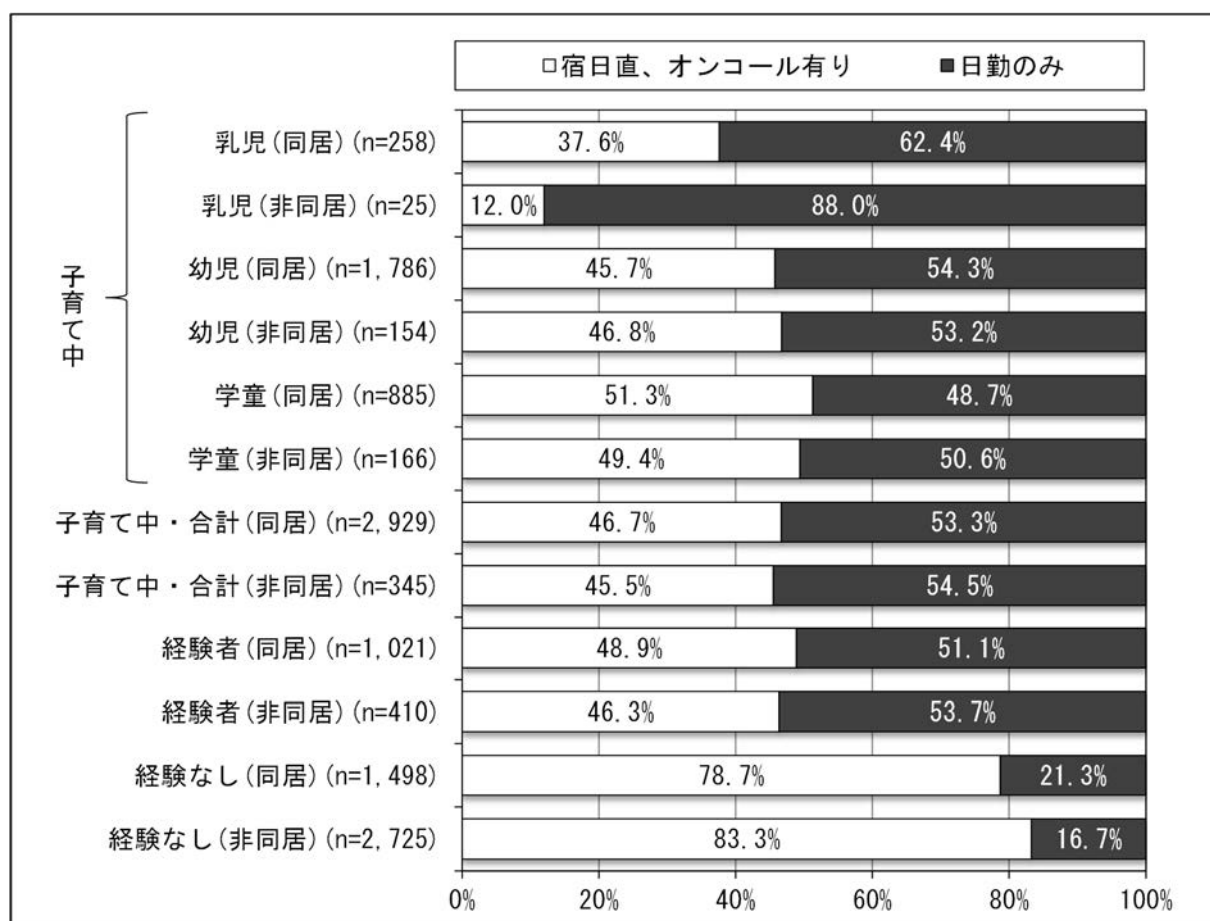


図 4-2-3-2 は、子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた 1 か月の宿直回数を示したものである。

1 か月の宿直回数をみると、乳児子育て中以外では、子どもの年齢区分、同居の配偶者・パートナーの有無で、宿直回数にさほど差がみられなかった。n 数が少なく有意ではないが、乳児の子育て中の回答者では、配偶者・パートナーと非同居の場合、宿直をしない回答者の割合が同居に比べ高い傾向を示した。乳児子育て中以外では、少数ながら、子どもの年齢や配偶者・パートナーの有無にかかわらず、1 か月 7 回以上の宿直を引き受けている人もいる。

図 4-2-3-2 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた 1 か月の宿直回数

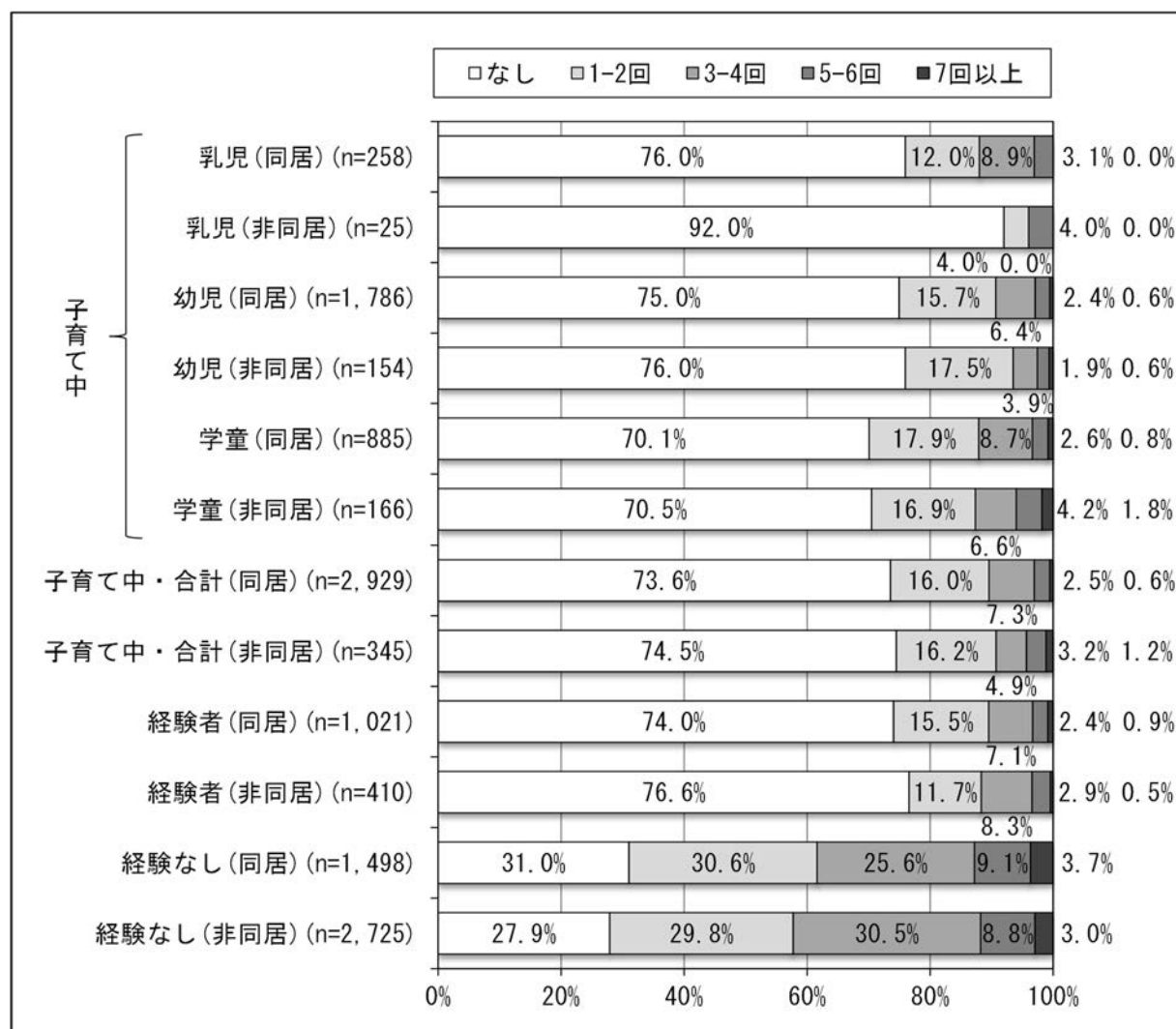
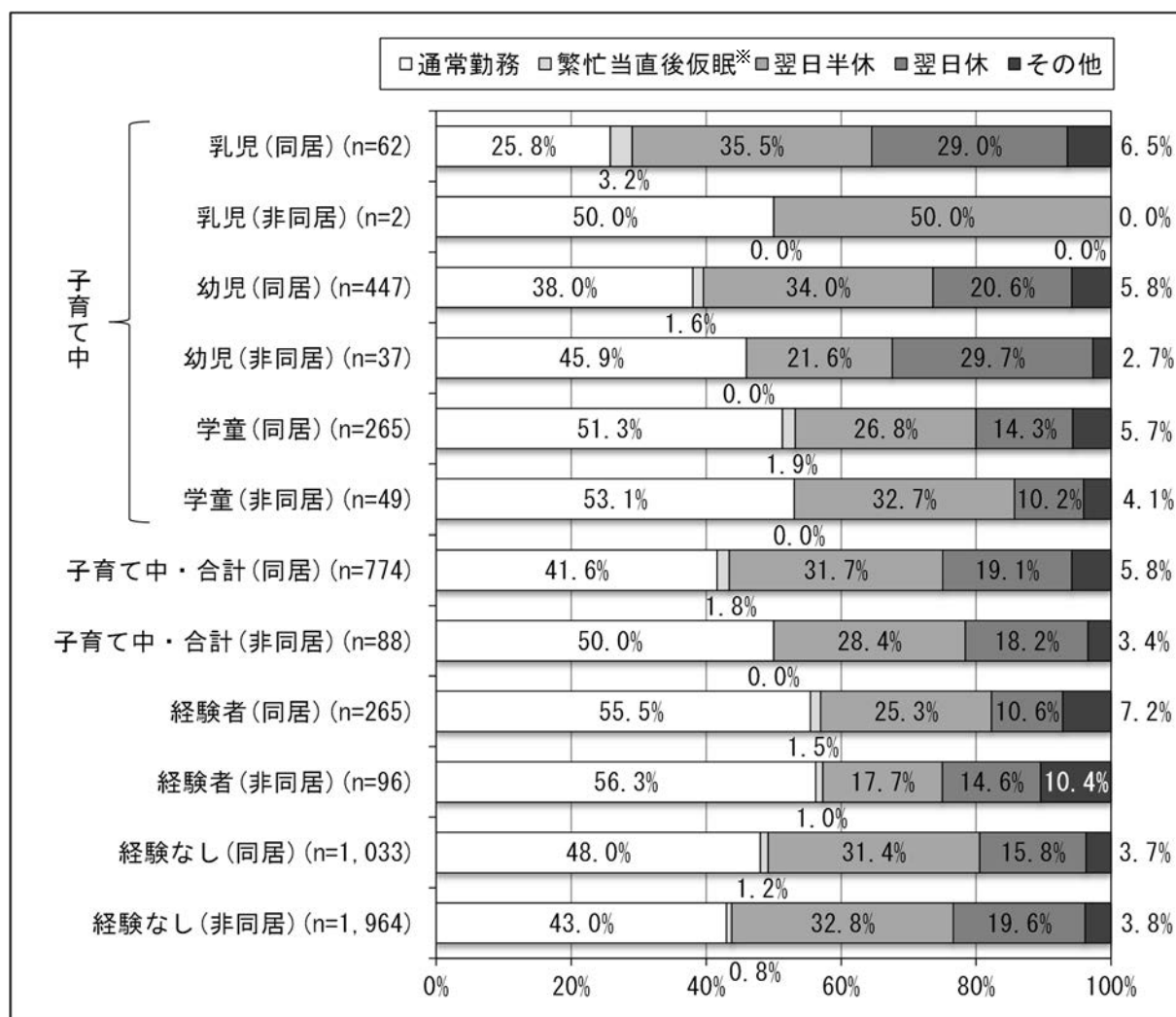


図 4-2-3-3 は、子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた宿直翌日の勤務状況を示したものである。

宿直翌日に通常勤務する割合は、子どもの年齢が大きくなるにつれ多くなる傾向を示した。

図 4-2-3-3 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた宿直翌日の勤務状況



※特に忙しかった当直のみ仮眠できる

4-3. 両立の支援

4-3-1. 育児休業の取得

図 4-3-1-1 は、子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた育児休業取得状況を示したものである。

育児休業の取得状況をみると、乳児と幼児では 8 割以上が取得していた。現在学童期以上の子育て経験者は育児休業取得率が低く、徐々に取得者が増えていると考えられた。

図 4-3-1-1 子育ての状況と配偶者・パートナーの状況別にみた育児休業取得状況

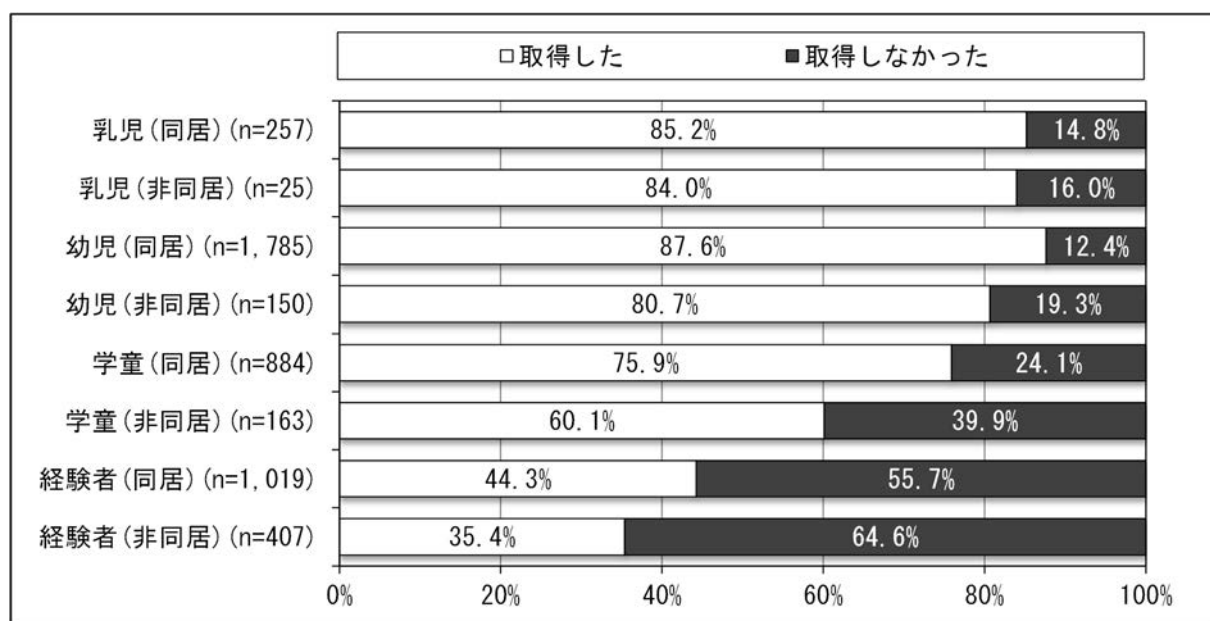
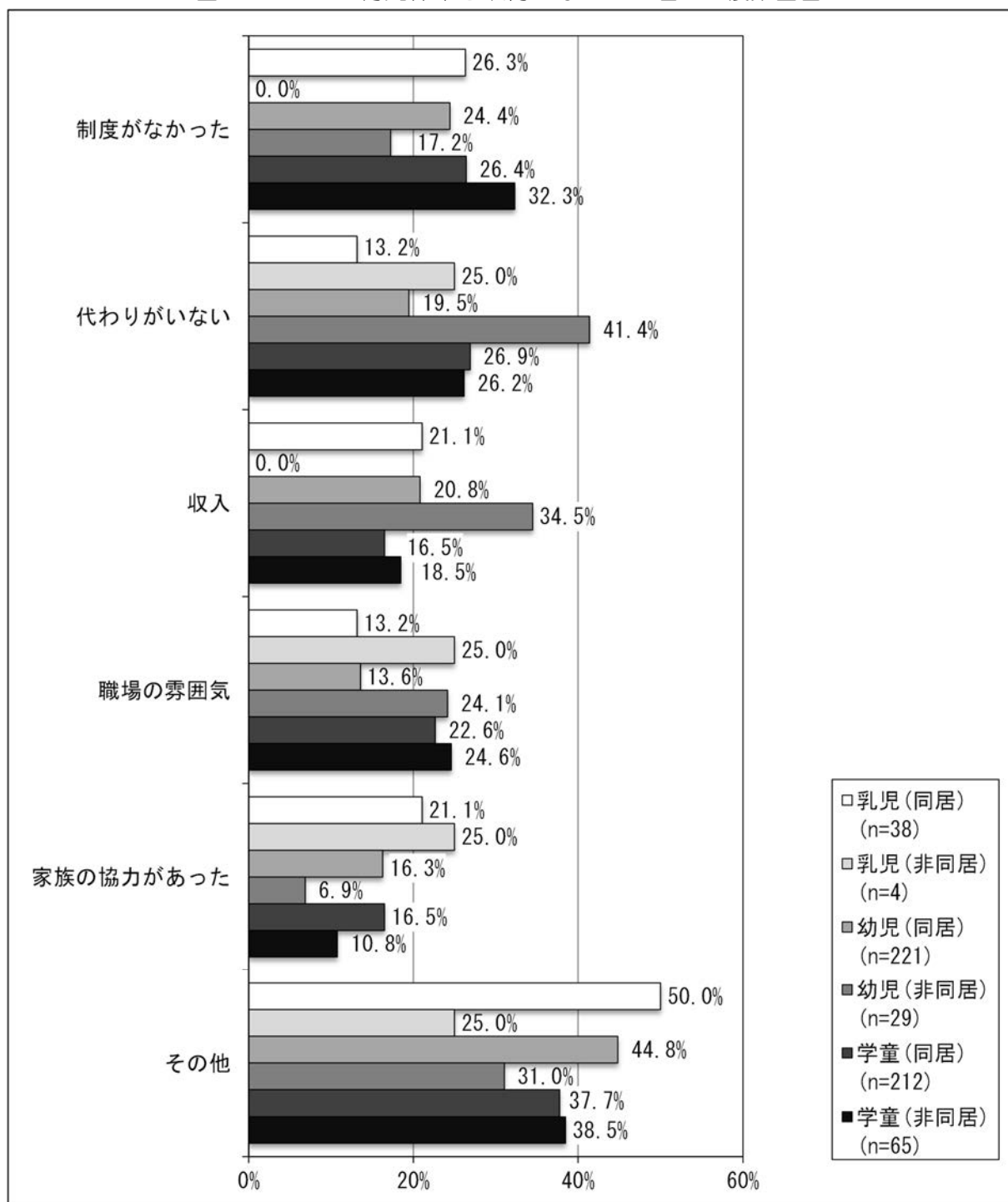


図 4-3-1-2 は、育児休業を取得しなかった理由を示したものである。

育児休業を取得しなかった人にその理由を複数回答で訊ねた結果をみると、「制度がなかった」が最も多く挙げられていた。育児介護休業法は 1991 年に制定され、その後、改正の都度充実してきているが、現在でも「制度がなかった」との回答が 569 人中 146 人から寄せられており、勤務医のみならず、医療施設の管理者に制度の周知・理解が進んでいないのではないかと考えられた。次いで「代わりの医師がいない」、「収入がなくなる（少なくなる）」が挙げられた。

図 4-3-1-2 育児休業を取得しなかった理由※(複数回答)



※現在子育て中の人のみで集計した。

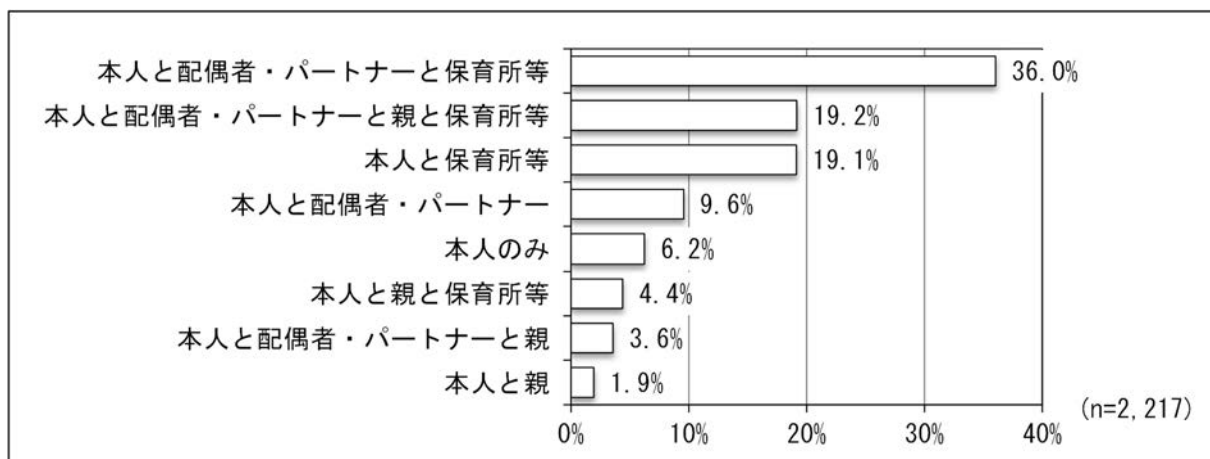
4-3-2. 普段子どもの面倒をみている人

図 4-3-2-1 は、乳幼児子育て中の回答者に焦点を絞り、子育て状況を示したものである。

普段子どもの面倒を見ている人としては、「本人と配偶者・パートナーと保育所等」との回答が最も多くなっている。配偶者・パートナーも普段面倒を見ている※と答えたのは、乳幼児子育て中の回答者 2,217 人のうち、68%であった。

※「本人と配偶者・パートナーと保育所等」＋「本人と配偶者・パートナーと親と保育所等」＋「本人と配偶者・パートナー」＋「本人と配偶者・パートナーと親」の合計。

図 4-3-2-1 普段子どもの面倒をみている人※

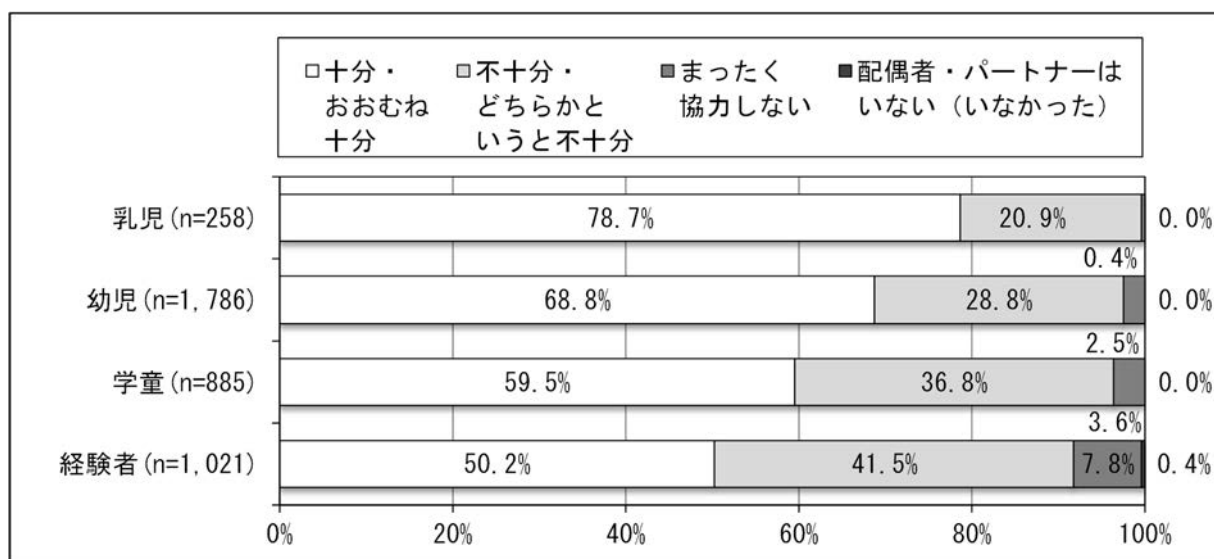


※乳幼児子育て中の人のみで集計した。また、調査では面倒をみている人を複数回答で挙げてもらったが、ここでは上記のように分類した。

図 4-3-2-2 は、配偶者・パートナーと同居している回答者に焦点を絞り、その育児参加状況を示したものである。

乳児保育中の回答者では 8 割弱が育児参加を得られていた。子どもの年齢に応じて、配偶者・パートナーの育児参加の割合が低くなっていた。

図 4-3-2-2 配偶者・パートナーの育児参加

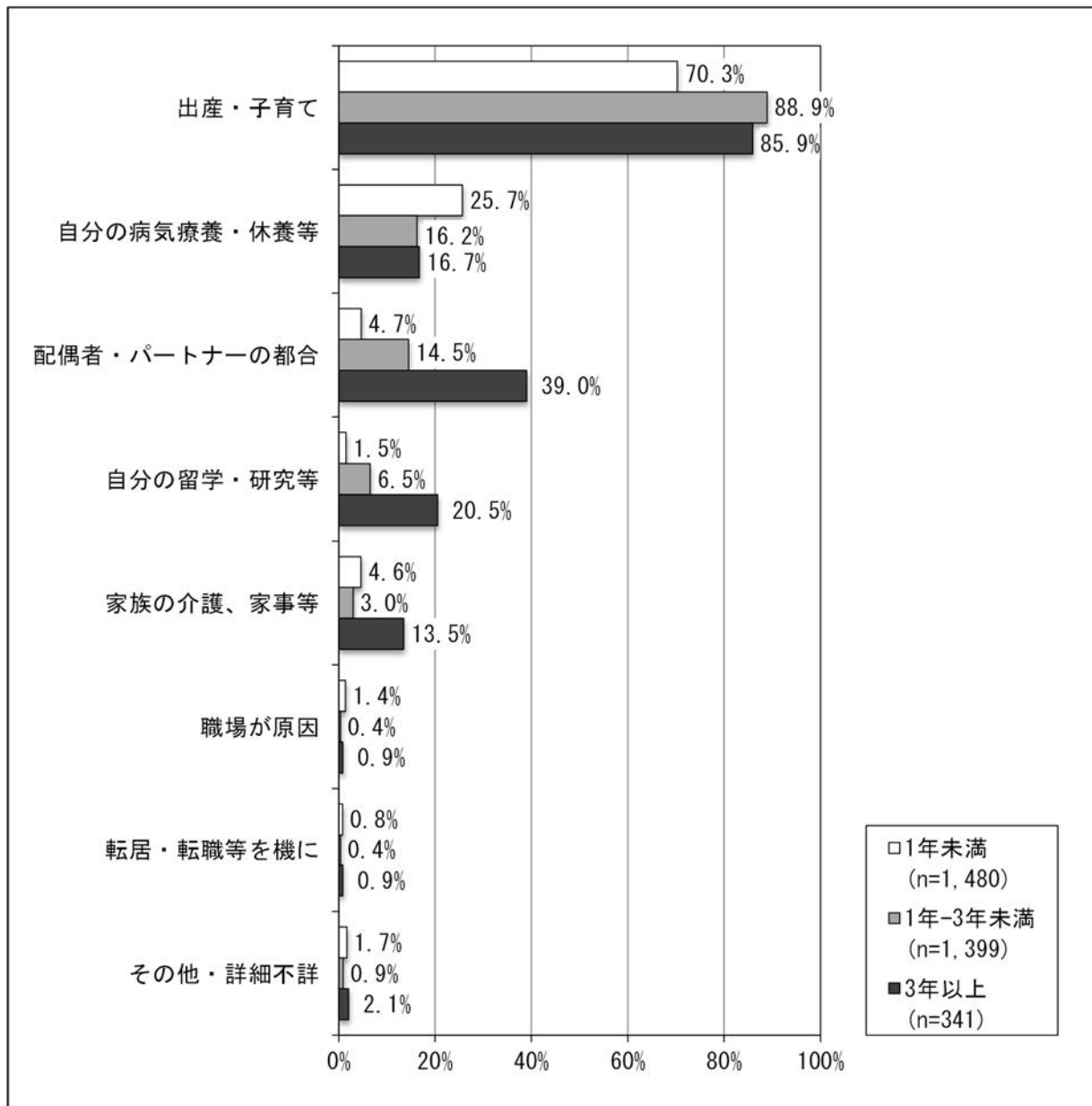


4-3-3. 休職・離職の状況

図 4-3-3 は、休職・離職期間別にみたその理由を示したものである。

休職・離職経験者は 3,220 人（36%）おり、その期間別に理由をみると、最も多い理由は期間にかかわらず「出産・子育て」だが、3 年以上の休職・離職者では、「配偶者・パートナーの都合」（39%）が多かった。そのほか、3 年以上の休職・離職理由として、「自分の留学・研究等」（21%）、「自分の病気療養・休養等」（17%）、「家族の介護・家事等」（14%）の割合が高く、これらの理由が長期の休職・離職につながっていると考えられる。

図 4-3-3 休職期間別にみた休職・離職の理由※（複数回答）



※休職・離職経験がある人に理由と期間をたずね、理由については選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。なお、選択肢回答の分類方法は以下のとおりとなっている。

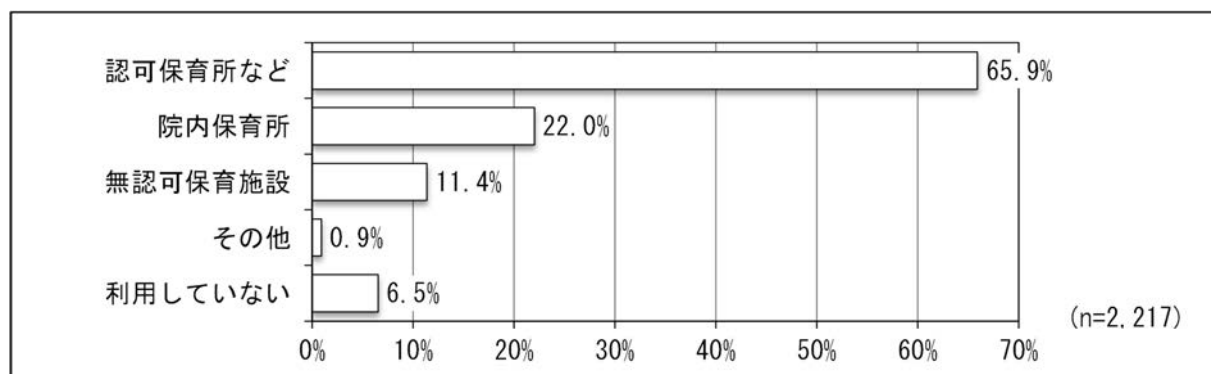
- 自分の病気療養・休養等 : 選択肢「1. 自分の病気療養」
- 自分の留学・研究等 : 選択肢「7. 留学」
- 出産・子育て : 選択肢「4. 出産」「5. 子育て」
- 配偶者・パートナーの都合 : 選択肢「6. 配偶者・パートナーの転勤」
- 家族の介護・家事等 : 選択肢「2. 家族の病気や介護」「3. 家事」

4-3-4. 利用している保育施設の状況

図 4-3-4-1 は、利用している保育施設を示したものである。

現在乳幼児を子育て中の人を利用している保育施設は、66%が認可保育所または自治体認可保育所で、院内保育所の利用は 22%であった。

図 4-3-4-1 利用している保育施設※（複数回答）



※乳幼児子育て中の人のみで集計した。

利用している保育施設については選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。なお、選択肢回答の分類方法は以下のとおりとなっている。

認可保育所など：選択肢「1. 認可保育所」「2. 自治体独自の認可保育所」

無認可保育施設：選択肢「3. 無認可保育施設」

院内保育所：選択肢「4. 院内保育所」

図 4-3-4-2 は、院内保育所の設置・利用状況を示したものである。

現在子育て中の回答者は経験者に比べて院内保育所があると回答した割合が高く、これまでよりも院内保育所の設置が普及したものと推察される。

図 4-3-4-2 院内保育所の設置・利用状況

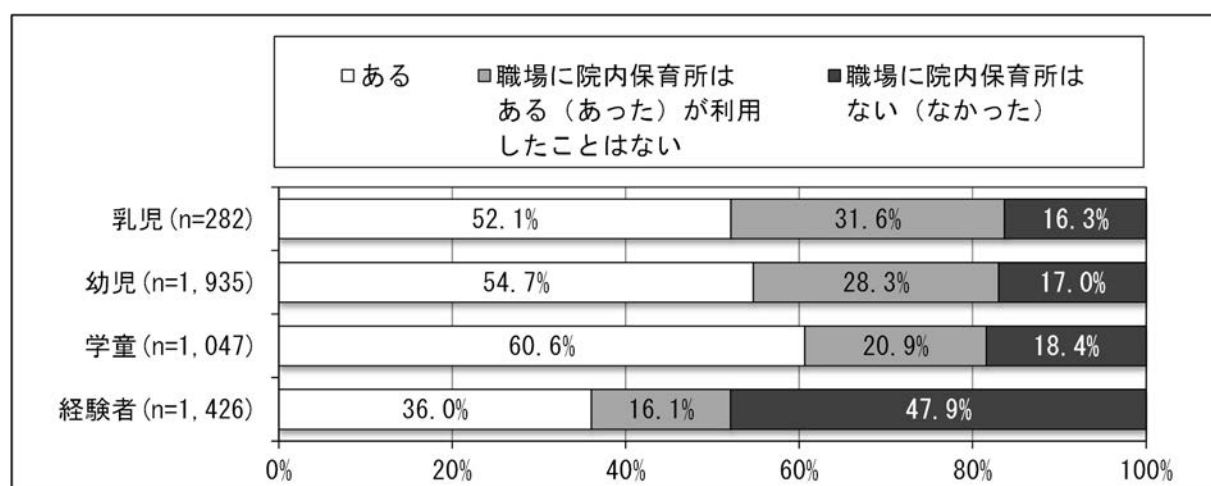
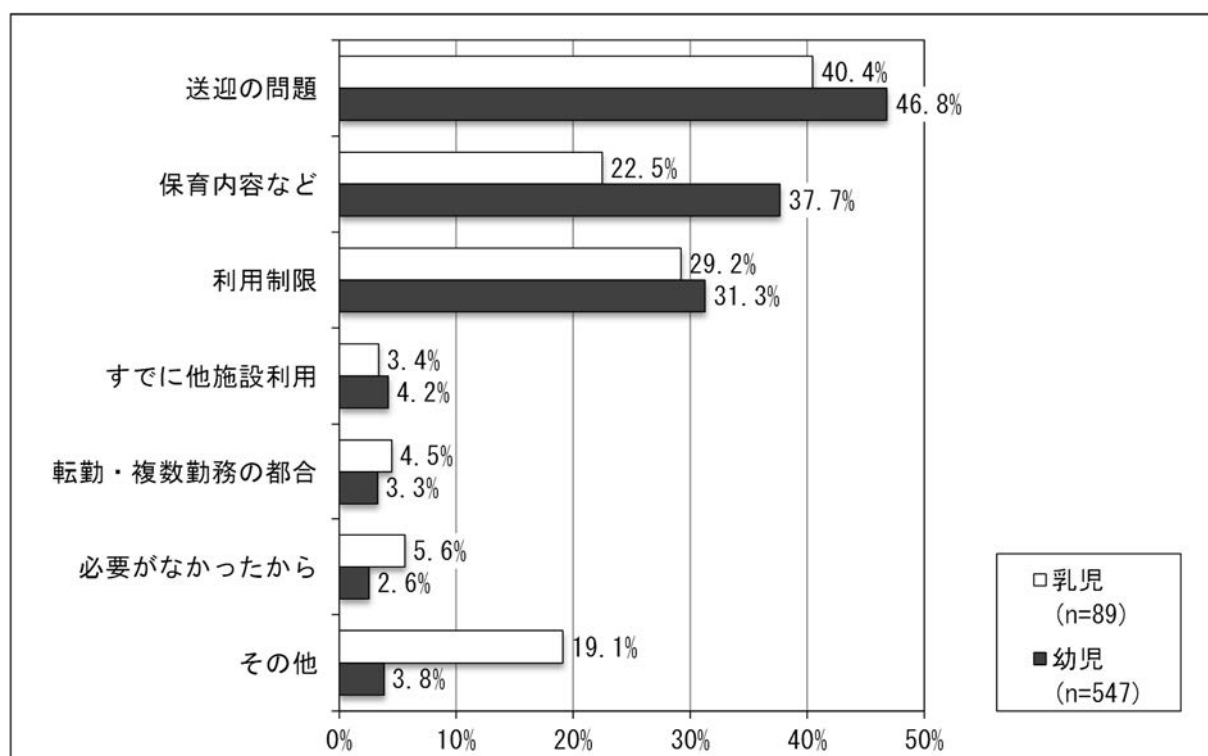


図 4-3-4-3 は、院内保育を利用しなかった理由を示したものである。

現在院内保育所のある病院に勤務しながら利用していない理由は、「送迎の問題」、「保育内容など」、「利用制限」などであった。

図 4-3-4-3 院内保育を利用しなかった理由※(複数回答)

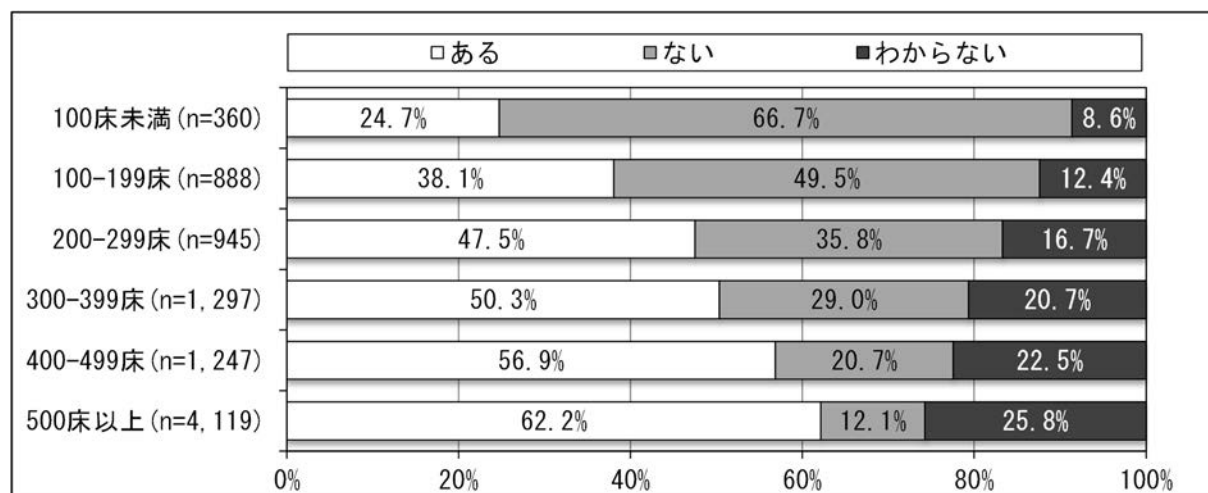


※乳幼児子育て中の人のみで集計した。また、選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。「利用制限」には選択肢「1. 定員枠が少ない」、「2. 保育時間と勤務時間が合わない」、「6. 利用制限がある」、「送迎の問題」には「3. 施設までの送迎の負担が大きい」、「保育内容など」には「4. 施設の設備がニーズに合わない」、「5. 施設の保育プログラムがニーズに合わない」などの理由を含めた。

図 4-3-4-4 は、病床規模別にみた院内保育所の設置状況を示したものである。

病床規模別に院内保育所の設置割合をみると、大規模機関ほど設置割合は高い。

図 4-3-4-4 病床規模別にみた院内保育所の設置状況※

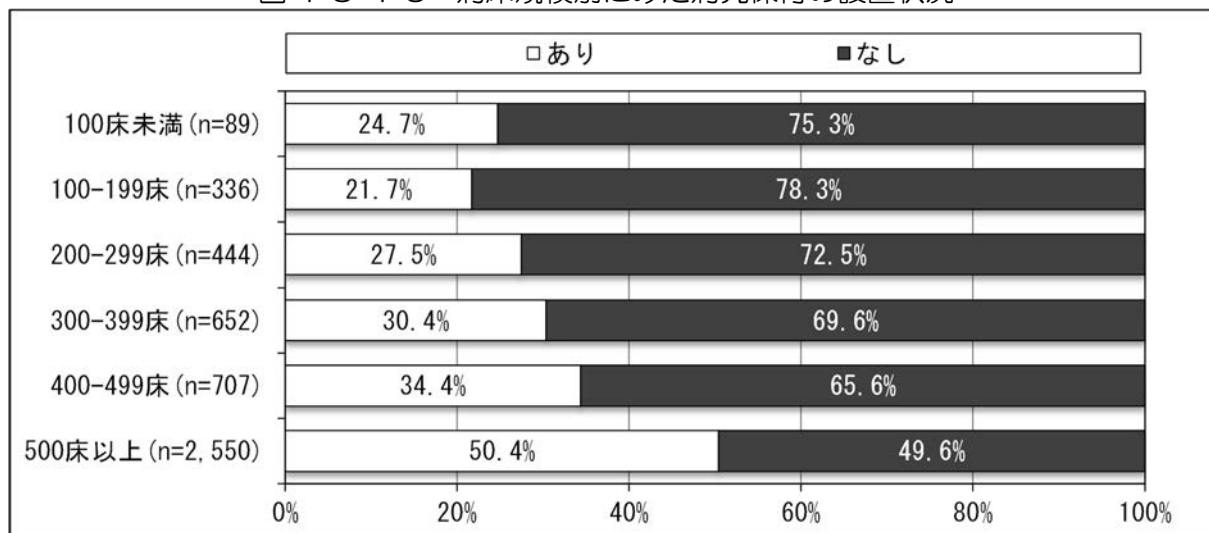


※回答者全員の回答を集計した。

図 4-3-4-5 は、病床規模別にみた病児保育の設置状況を示したものである。

おおむね病床規模に応じて、病児保育の設置が進んでいる。なお、今回の調査では、病児保育については院内保育所ありと回答した人にのみ回答を求めたため、普及状況や体制の詳細は把握できなかったが、一定程度病児保育は設置されている。

図 4-3-4-5 病床規模別にみた病児保育の設置状況※



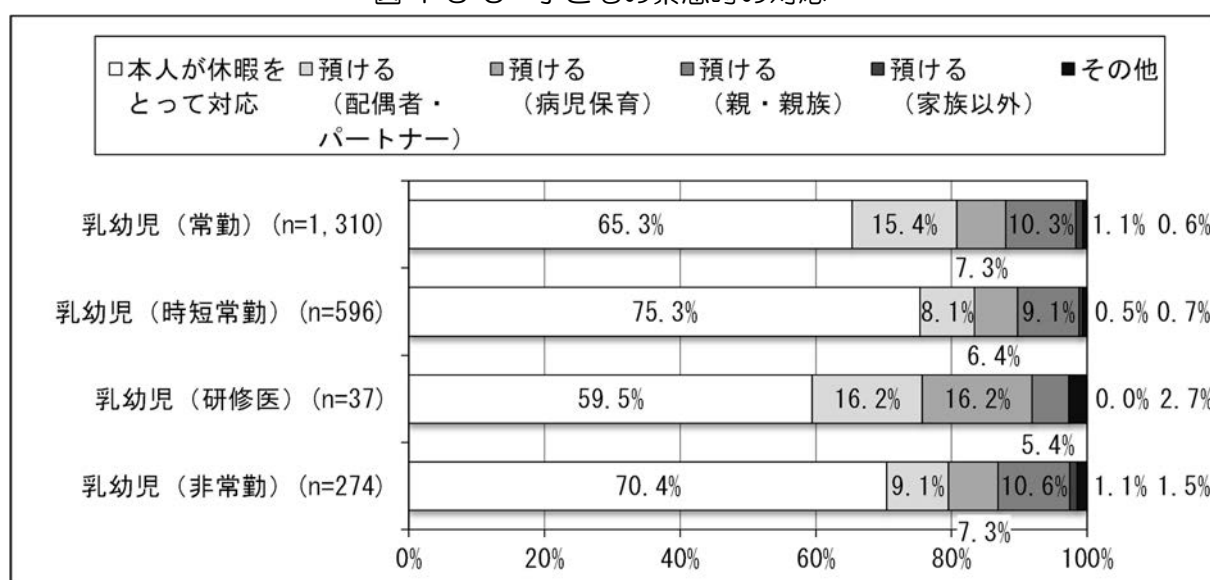
※院内保育所があると答えた 4,808 人にたずねた。

4-3-5. 子どもの緊急時の対応

図 4-3-5 は、乳幼児を持つ回答者の勤務形態別に子どもの緊急時の対応を示したものである。

本人が休暇をとって対応した割合はほぼ 60%以上であったのに対し、配偶者・パートナーが対応したのはいずれの区分も 20%未満であった。

図 4-3-5 子どもの緊急時の対応※



※調査では対応や預け先を複数回答で挙げてもらったが、ここでは下記のように分類した。

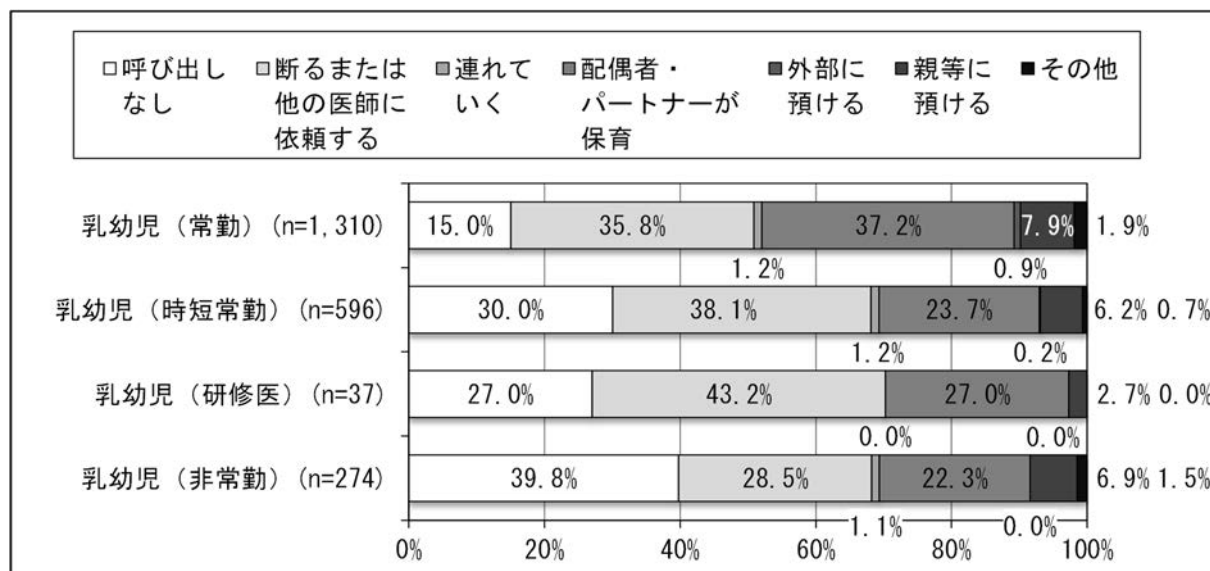
- 本人が休暇をとって対応 : 欠勤、休暇、早退、遅刻などをして対応したと答えた人。
- 預ける (配偶者・パートナー) : 上記に当てはまらず、配偶者・パートナーに預けたと答えた人。
- 預ける (病児保育) : 上記に当てはまらず、病児保育に預けたと答えた人。
- 預ける (親・親族) : 上記に当てはまらず、親・親族に預けたと答えた人。
- 預ける (家族以外) : 上記に当てはまらず、その他の人や施設に預けた人。

4-3-6. 緊急呼び出し時、学会等への出張時の対応

図 4-3-6-1 は、乳幼児を持つ回答者の勤務形態別に、緊急呼び出し時の対応を示したものである。

「呼び出しなし」と「断るまたは他の医師に依頼する」を合わせると、常勤者では51%、時短常勤、非常勤ではそれぞれ68%、研修医では70%であった。

図 4-3-6-1 緊急呼び出し時の対応※



※調査では対応や預け先を複数回答で挙げてもらったが、ここでは下記のように分類した。

呼び出しなし : 下記に当てはまらず、そもそも呼び出しはない（なかった）と答えた人。

断るまたは他の医師に依頼する : 断るまたは他の医師に依頼すると答えた人。

子どもを連れていく : 上項に当てはまらず、子どもを連れて緊急呼び出しに対応したと答えた人。

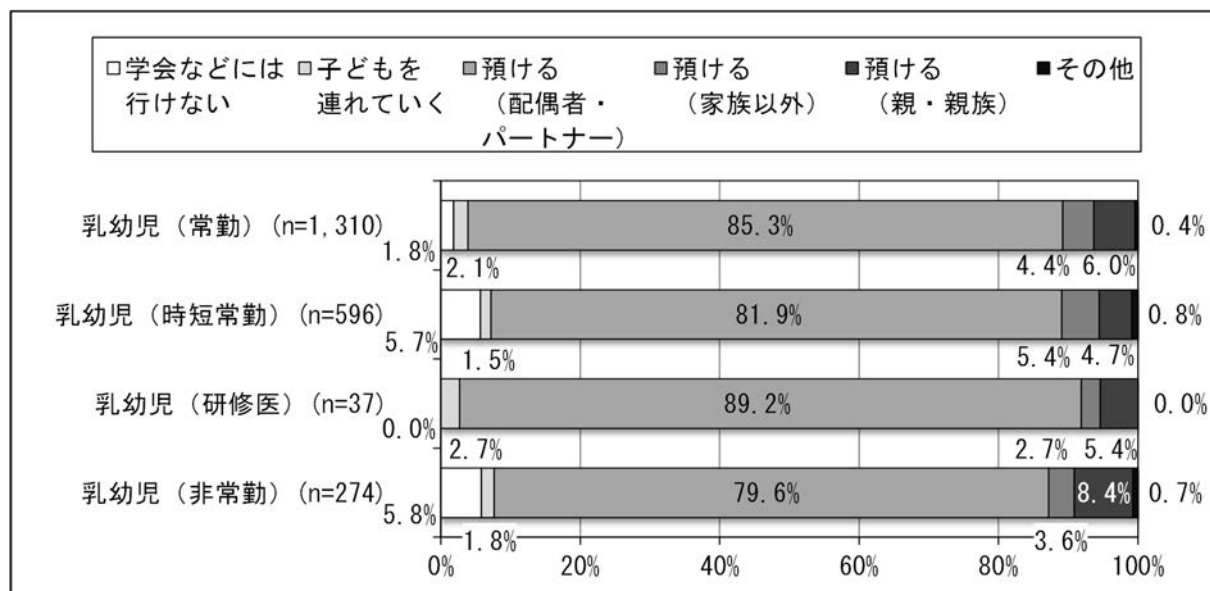
配偶者・パートナーが保育 : 上2項に当てはまらず、配偶者・パートナーに預けたと答えた人。

外部に預ける : 上3項に当てはまらず、家族以外に預けたと答えた人。

親等に預ける : 上4項に当てはまらず、親・親族に預けたと答えた人。

図 4-3-6-2 は、乳幼児を持つ回答者の勤務形態別に、出張時の対応を示したものである。
勤務形態にかかわらず、出張に「連れていく」は2%前後、預ける場合、預け先としては配偶者・パートナーが80-89%を占めていた。

図 4-3-6-2 出張時の対応※



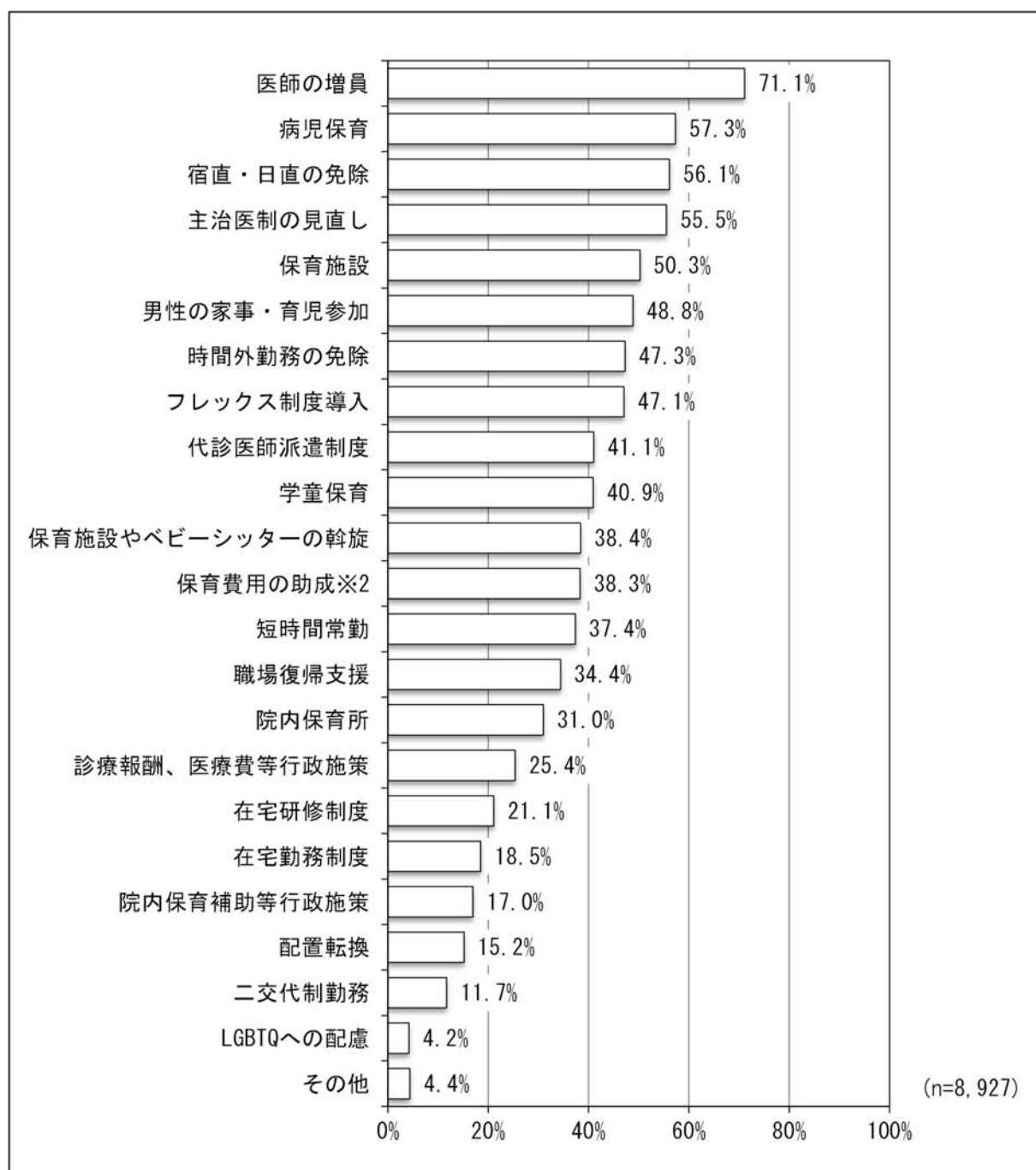
※調査では対応を複数回答で挙げてもらったが、ここでは下記のように分類した。
 学会などには行けない : 学会、出張、日直、当直には行けなかったと答えた人。
 子どもを連れていく : 上記に当てはまらず、学会、出張、日直、当直に子どもを連れていくと答えた人。
 預ける (配偶者・パートナー) : 上記に当てはまらず、配偶者・パートナーに預けたと答えた人。
 預ける (家族以外) : 上記に当てはまらず、家族以外に預けたと答えた人。
 預ける (親・親族) : 上記に当てはまらず、親・親族に預けたと答えた人。

4-3-7. 仕事を続ける上で必要と思う支援

図 4-3-7 は、仕事を続ける上で必要と思う支援を示したものである。

仕事を続ける上で必要と思う制度や仕組み・支援対策等について複数回答で訊ねたところ、医師の増員を回答者の 71%が挙げた。次いで、病児保育を 57%、宿直・日直の免除、主治医制の見直しをそれぞれ 56%が挙げた。

図 4-3-7 仕事を続ける上で必要と思う支援※1（複数回答）



※1 全員にたずね、選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。なお、選択肢回答の分類方法は以下のとおりとなっている。

※2 「保育費用の助成」は選択肢「14. 保育施設利用の際の保育料の助成」「15. ベビーシッター利用の際の費用補助」を含む。

(5) 介護との両立に関する分析

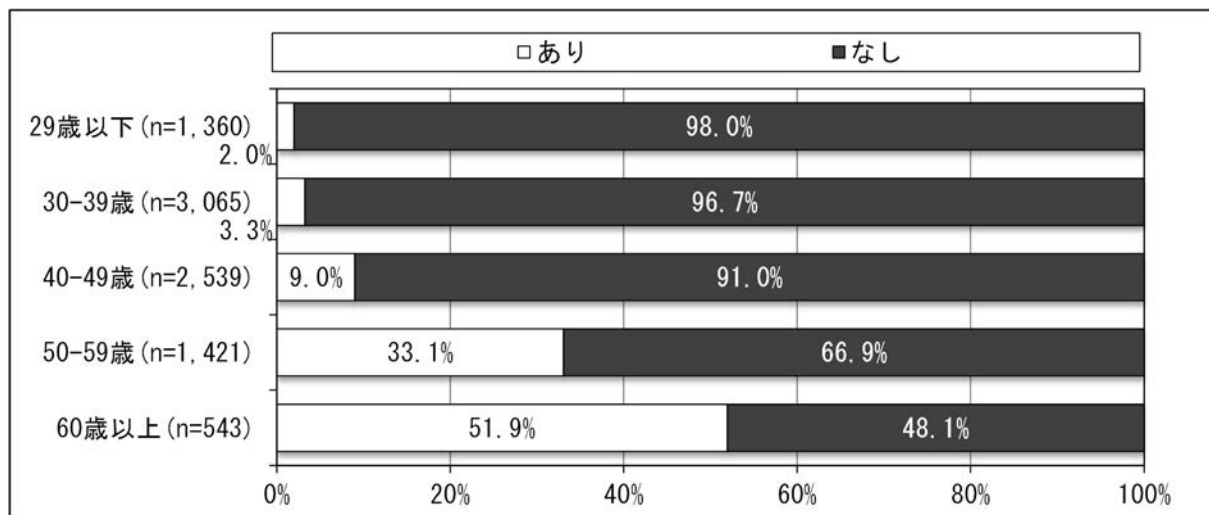
5-1. 介護の状況

5-1-1. 介護経験の有無

図 5-1-1 は、介護経験を示したものである。

介護経験の有無を年齢階級別にみると、年齢が高いほど介護経験の割合が高かった。

図 5-1-1 介護経験

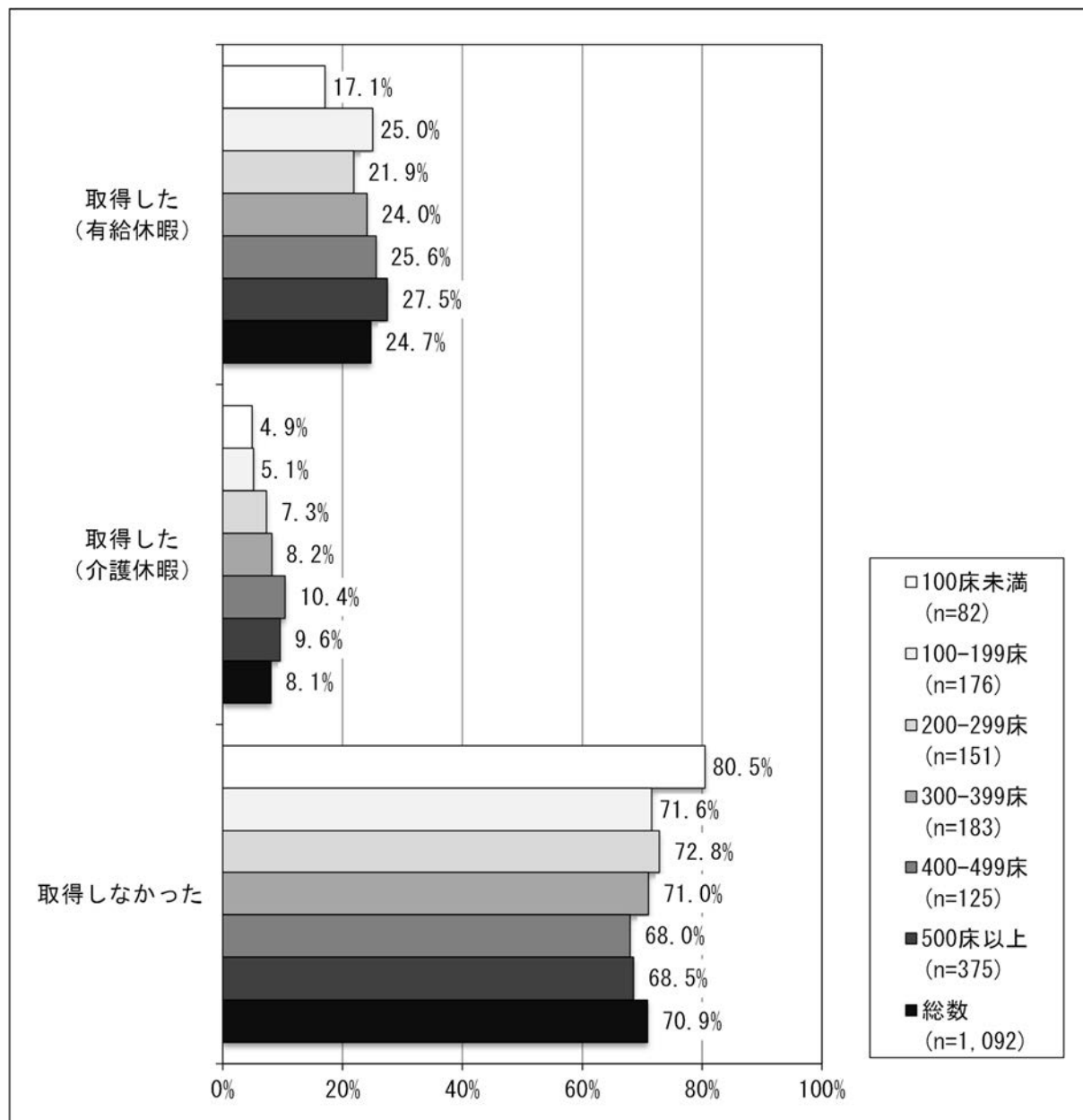


5-1-2. 介護のための休暇の取得状況

図 5-1-2 は、勤務先の病床規模別に介護のための休暇の取得状況を示したものである。

100 床未満に勤務する回答者は 8 割が取得しなかったと回答したが、それ以上の病床規模の病院に勤務する回答者では、取得しなかった割合は 7 割前後だった。

図 5-1-2 介護休業の取得状況※



※介護経験があると答えた 1,108 人にたずねた。

（６）女性医師の悩み

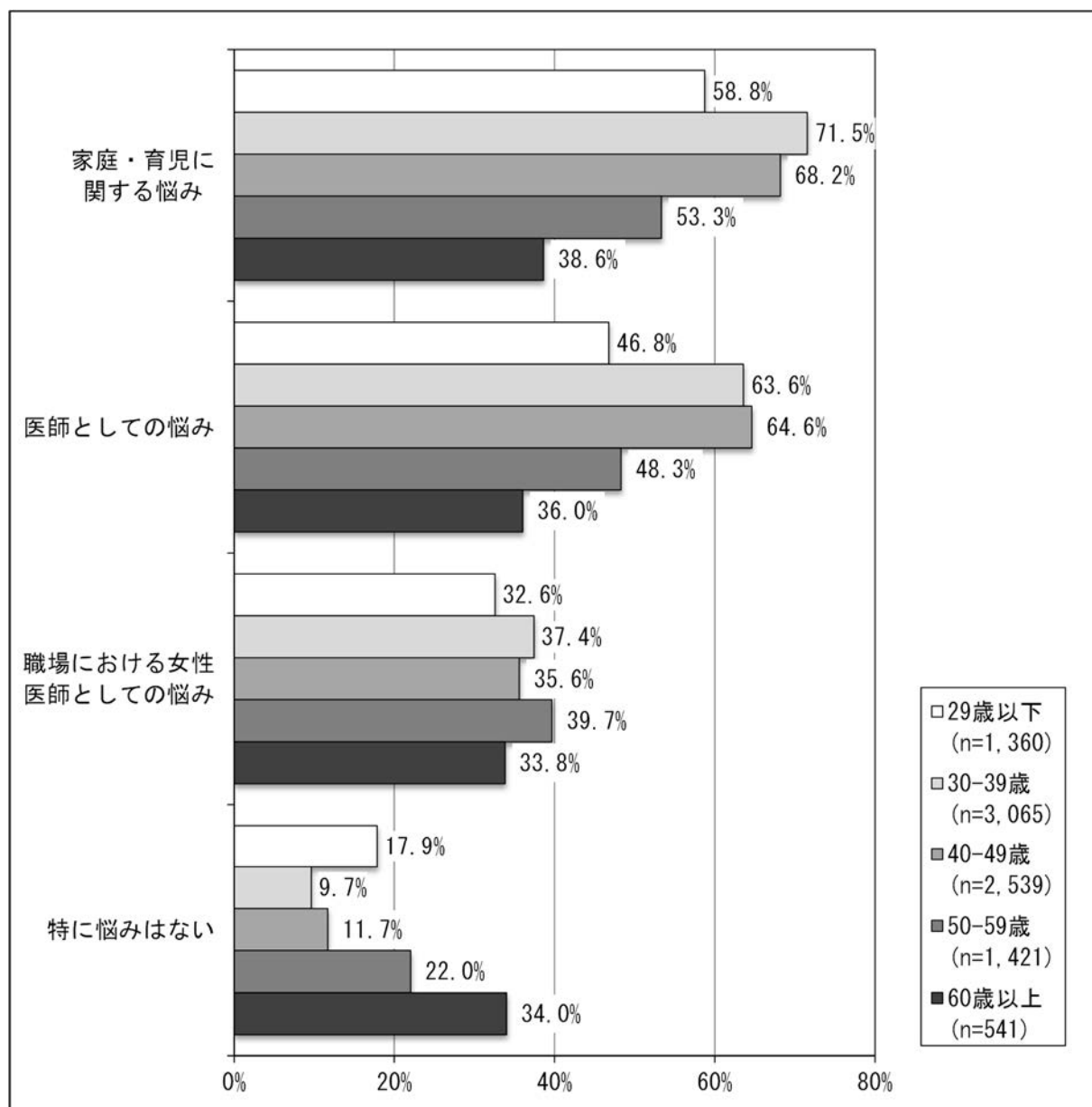
6-1. 女性医師の悩み

6-1-1. 年齢階級別にみた女性医師の悩み

図 6-1-1 は、年齢階級別にみた女性医師の悩みを示したものである。

女性医師としてどのような悩みがあるか複数回答で訊ねた。選択肢を①家庭・育児に関する悩み ②医師としての悩み ③職場における女性医師としての悩みに大きく分類してみると、30 歳代・40 歳代で全体に数値が若干高いが、①家庭・育児と②医師としての悩みが大きい。

図 6-1-1 年齢階級別にみた女性医師の悩み※（複数回答）



※全員にたずね、選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。なお、選択肢回答の分類方法は以下のとおりとなっている。

家庭・育児に関する悩み：「1. 家庭と仕事の両立」「8. 配偶者・パートナーの非協力・無理解」「9. 配偶者・パートナーの家族の無理解」

医師としての悩み：「2. プライベートな時間がない」「3. 勉強する時間が少ない」

職場における女性医師としての悩み：「4. 当直室・更衣室・休憩室などの施設環境の不備」「5. 男性主導社会」「6. パワーハラスメント」「7. セクシャルハラスメント」

6-1-1-1. 年齢階級別にみた家庭・育児に関する悩み

表 6-1-1-1 は、年齢階級別にみた家庭・育児に関する悩みを示したものである。

家庭・育児に関する悩みの詳細をみると、「家庭・育児・介護と仕事の両立」はすべての年齢階級で最も多かったが、30 歳代・40 歳代が特に多い。次いで多かったのは、1 割程度の人が挙げた「配偶者・パートナーの非協力・無理解」で、20 歳代から 40 歳代にかけて年齢階級が上がるごとに増えている。また、配偶者・パートナーに対しての 3 分の 1 程度ではあるが、「配偶者・パートナーの家族の無理解」も 20 歳代から 50 歳代にかけて年齢階級が上がるが増えている。世代によって夫婦・家族の関係が変化していることが伺われる。

表 6-1-1-1 年齢階級別にみた家庭・育児に関する悩み※（複数回答）

	n	家庭・育児・ 介護と仕事の 両立	配偶者・パート ナーの非協力・ 無理解	配偶者・パート ナーの家族の 無理解	結婚・出産・ 不妊治療
総数	8,926	62.0%	10.7%	3.9%	1.3%
29歳以下	1,360	57.4%	3.2%	2.0%	2.0%
30-39歳	3,065	70.0%	9.1%	3.0%	2.3%
40-49歳	2,539	66.5%	14.7%	4.9%	0.6%
50-59歳	1,421	50.5%	14.6%	5.7%	0.3%
60歳以上	541	37.2%	9.6%	4.1%	0.0%

※選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。
「結婚・出産・不妊治療」は「その他」の記入内容から取り上げた。

6-1-1-2. 年齢階級別にみた医師としての悩み

表 6-1-1-2 は、年齢階級別にみた医師としての悩みを示したものである。

医師としての悩みの詳細をみると、最も多かったのは「キャリア形成・スキルアップ」で、とくに 30 歳代・40 歳代で多かった。同様に多かったのは、「プライベートな時間がない」で、これもとくに 30 歳代・40 歳代で多かった。キャリア形成の段階にあって最も多忙な世代にあることの反映と考えられる。

表 6-1-1-2 年齢階級別にみた医師としての悩み※（複数回答）

	n	キャリア形成・ スキルアップ	プライベートな 時間がない	業務量・体力 面・評価等	患者に関して
総数	8,926	43.1%	38.5%	3.0%	0.2%
29歳以下	1,360	34.7%	29.3%	1.3%	0.1%
30-39歳	3,065	47.6%	44.0%	2.8%	0.2%
40-49歳	2,539	50.3%	43.7%	4.0%	0.2%
50-59歳	1,421	35.7%	31.7%	3.4%	0.2%
60歳以上	541	23.8%	23.1%	2.8%	0.0%

※選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。
「キャリア形成・スキルアップ」は、「3. 勉強する時間が少ない」を含む。
「業務量・体力面・評価等」および「患者に関して」は「その他」の記入内容から取り上げた。

6-1-1-3. 年齢階級別にみた職場における女性医師としての悩み

表 6-1-1-3 は、年齢階級別にみた職場における女性医師としての悩みを示したものである。

職場における女性医師としての悩みの詳細をみると、世代によって、内容が異なっている。20 歳代と 30 歳代では施設環境の不備が多かったが年齢階級が上がるにつれて少なくなる傾向がみられた。一方、男性主導社会等を上げたのは 20 歳代から 50 歳代にかけて、年齢階級が上がるほど増えていた。

男女共同参画が社会として進んでいることを現しているのか、同世代における男女共同参画の現状が世代によって異なっていることを現しているのか、いずれにしても世代によって明らかに悩みの構成が変化している。

表 6-1-1-3 年齢階級別にみた職場における女性医師としての悩み※（複数回答）

	n	男性主導社会・ セクハラ等	休憩室など 施設環境不備	職場の無理解・ 人間関係
総数	8,926	26.0%	17.0%	1.4%
29歳以下	1,360	19.0%	20.5%	0.3%
30-39歳	3,065	24.0%	20.8%	1.4%
40-49歳	2,539	27.7%	13.6%	1.7%
50-59歳	1,421	32.7%	13.7%	1.8%
60歳以上	541	28.8%	10.7%	0.9%

※選択肢回答および「その他」を選択した人の具体的な記入内容をもとに、上記のように分類した。

「男性主導社会・セクハラ等」は、「5. 男性主導社会」「6. パワーハラスメント」「7. セクシャルハラスメント」を含む。

「職場の無理解・人間関係」は、「その他」の記入内容から取り上げた。

6-1-2. 子育て状況別にみた女性医師の悩み

表 6-1-2 は、子育て状況別にみた家庭・育児に関する悩みを示したものである。

子育て中の回答者は 9 割近くが家庭・育児・介護と仕事の両立を挙げていた。子育て経験者（60%）、子育て未経験者（42%）でも家庭・育児・介護と仕事の両立を挙げた割合が高かった。

表 6-1-2 子育て状況別にみた家庭・育児に関する悩み（複数回答）

	n	家庭・育児・ 介護と仕事の 両立	配偶者・パート ナーの非協力・ 無理解	配偶者・パート ナーの家族の 無理解	結婚・出産・ 不妊治療
総数	8,926	62.0%	10.7%	3.9%	1.3%
子育て中	3,274	88.3%	16.4%	5.6%	0.4%
子育て経験者	1,429	59.8%	19.5%	6.8%	0.1%
子育て未経験者	4,223	42.3%	3.3%	1.6%	2.4%

6-1-3. 診療科別にみた女性医師の悩み

表 6-1-3 は、診療科別にみた女性医師の悩みを示したものである。

働き方についての分析でも診療科によってさまざまな差異があったが、女性医師としての悩みにも診療科によって、若干異なっているように見受けられる。

表 6-1-3 診療科別にみた女性医師の悩み（複数回答）

	n	家庭・育児に 関する悩み	医師としての 悩み	職場における 女性医師と しての悩み	特に悩みはない
総数	8,926	63.7%	57.2%	36.3%	14.9%
内科	2,587	65.3%	59.1%	39.3%	13.6%
精神科	413	61.5%	50.6%	34.9%	18.6%
小児科	858	69.3%	62.9%	32.5%	11.1%
放射線科	300	68.0%	64.0%	34.3%	13.3%
病理・検査科	217	61.3%	56.7%	34.6%	15.7%
リハビリ科	144	60.4%	52.8%	34.7%	18.1%
外科	506	59.5%	58.3%	49.4%	14.0%
整形・形成外科	393	61.1%	61.3%	42.5%	14.0%
麻酔科	766	63.8%	54.2%	31.9%	16.7%
産科婦人科	693	63.5%	60.9%	30.3%	15.0%
脳神経外科	116	57.8%	62.9%	60.3%	10.3%
泌尿器科	140	60.7%	52.9%	47.1%	14.3%
眼科	296	67.6%	59.8%	28.7%	14.9%
耳鼻咽喉科	263	69.2%	53.2%	30.4%	14.8%
皮膚科	303	64.7%	57.8%	28.4%	15.8%
救急科	131	66.4%	64.9%	37.4%	9.9%
その他	55	56.4%	47.3%	36.4%	12.7%
研修医	745	55.0%	42.4%	33.0%	22.7%

（７）医療現場の男女共同参画に関する分析

ここでは、医療現場の男女共同参画について、年齢階級別、勤務先機関規模別に分析した。

7-1. 医療現場の男女共同参画の状況

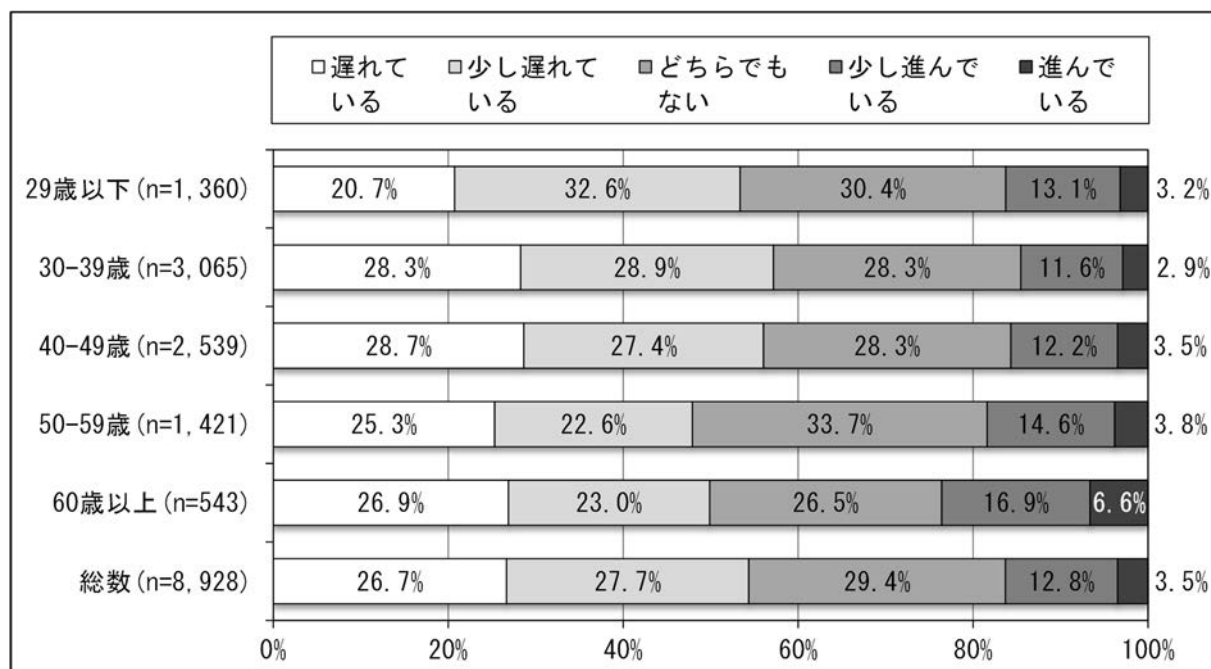
7-1-1. 年齢階級別にみた医療現場の男女共同参画の状況

図 7-1-1 は、年齢階級別にみた医療現場の男女共同参画の状況を示したものである。

総数では医療現場の男女共同参画は「遅れている」が 27%、「少し遅れている」が 28%で、あわせて半数以上が遅れていると感じていた。一方、「進んでいる」は 4%、「少し進んでいる」は 13%で合わせても 2 割に満たなかった。

年齢階級別にみると、「遅れている」「少し遅れている」と回答した人は 30 歳代と 40 歳代でやや多かった。

図 7-1-1 年齢階級別にみた医療現場の男女共同参画の状況

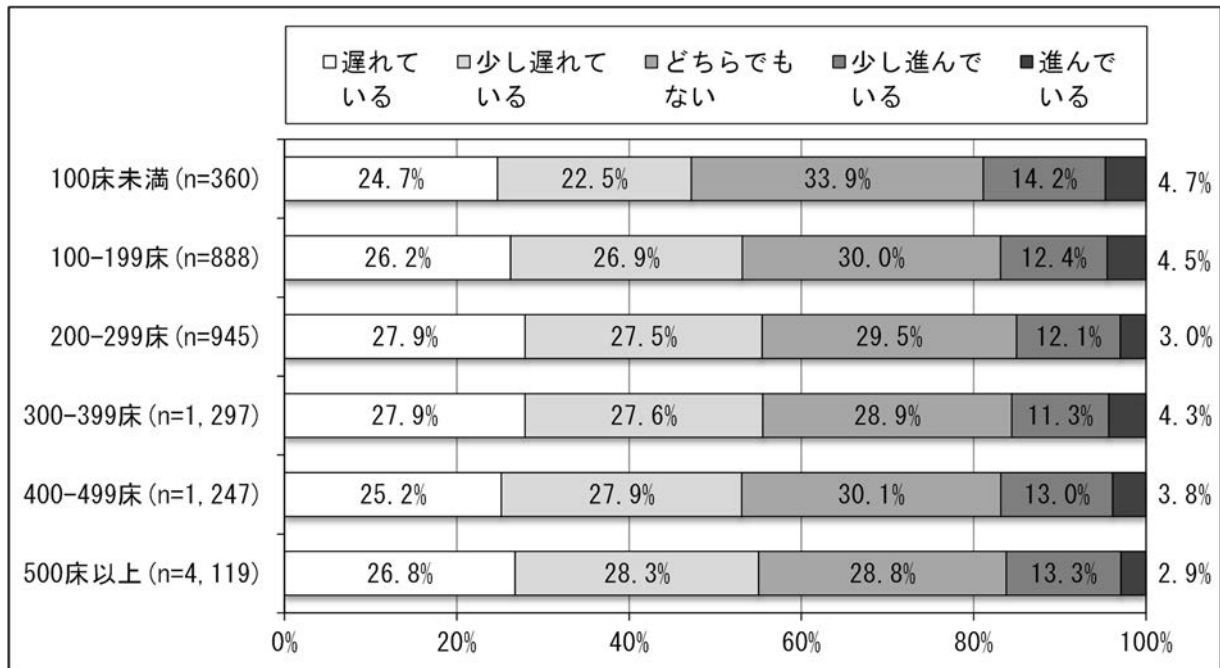


7-1-2. 勤務先機関規模別にみた医療現場の男女共同参画の状況

図 7-1-2 は、勤務先機関規模別にみた医療現場の男女共同参画の状況を示したものである。

医療現場の男女共同参画が「遅れている」「少し遅れている」を合わせた回答が 100 床以上の規模ではいずれも 50% 台となっていた。いずれの規模でも「どちらでもない」が 3 割前後、「進んでいる」「少し進んでいる」を合わせた回答は 15～19%にとどまっていた。

図 7-1-2 勤務先機関規模別にみた医療現場の男女共同参画の状況



（８）まとめ

本調査は、病院に勤務する女性医師の働き方、家庭生活と仕事の両立、女性医師としての悩みなど、勤務環境や意識の現状を把握する目的で、2024 年度に実施したものである。ほぼ同様の調査を、2008 年度、2016 年度に行っており、同じ質問は 3 回分の変化をみることができた。

今回、8,928 名から有効回答を得たが、これは病院勤務女性医師（2022 年の医師・歯科医師・薬剤師統計）の約 17%にあたる（有効回答数：2008 年度 22%、2016 年度 23%）。回答者の属性を過去 2 回と比較すると、既婚・パートナーがいる女性医師の割合が徐々に増加しており、配偶者・パートナーの職業は 6 割と医師が多いが、医師以外の方も徐々に増加している。また、親と同居する方は徐々に減少していた。

女性医師の勤務形態では、常勤医師が 73%であったが、3 回分の結果を見ると短時間正職員が急増し、将来希望する勤務形態でも短時間正職員が増加している。休職・離職の経験のない方が増加しており、短時間正社員制度を活用して仕事を継続できる環境が整ってきたと捉えてよいのではないだろうか。勤務時間、宿直回数、宿直翌日の勤務状況等においては、診療科別に差がみられた。病床数規模別には、規模の小さい医療機関で非常勤の割合が多かった。

女性医師の悩みとしては、施設環境への不満などからくる悩みは徐々に減少し、ここでも仕事と家庭の両立のための就労環境や規則の整備が徐々に進んできていることが伺えた。女性医師であるからこそその悩みは減少しているが、仕事を続ける上で必要なこととしては「人員（医師）の増加」「複数主治医制度など主治医制の見直し」などが挙がっており、これは人材というリソースが増えないまま「働き方改革」が始まり、現場の人手不足に直面している、性別に関わらない社会全体の問題である。

自宅での家事や育児への協力においては、まだ「自分がやっている」という女性医師が大多数だが、配偶者・パートナーの協力が増えており、女性医師の満足度も上昇してきている。

出産や育児中の働き方であるが、休業取得や身分保障、給与支給が行われている割合は、いずれも徐々に増えてきており、勤務を継続できなかった方が減少しているが、今回でも「制度がなかったため」として休業を取得しない方がいることがわかった。育児休業は原則 1 歳未満のこどもを養育するための休業として育児・介護休業法で定められている。制度はあるが、社会としての周知不足や勤務先からの説明不足もあるかもしれないが、いずれにしても、ここにも人手不足の問題が潜んでいると思われる。

育児中に子どもの病気などで予定外に保育が必要な場合、「あずける」割合が徐々に減少して、「その日の勤務を断り、休暇を取る」が増加し、今回の調査では 50%を超えた。緊急呼び出し時の対応では、まだ「あずける」が多いが、「断る」「他の医師に依頼する」が徐々に増加し、3 割弱まで増加した。

施設や学校の行事へ参加する割合も徐々に増加し、今回は 6 割強となった。子育て中の女性医師の希望する働き方と実際の働き方が徐々に近くなっている。

介護経験者の割合は 10%程度であるが、3 回の調査で微増していた。介護中の休業取得、身分保障、給与支給がある割合はまだ少ないが、増加傾向にある。仕事と介護の両立支援についての希望は、子育てにおける支援と同じ内容の希望があった。

女性医師バンクの周知度は、徐々に低下しており、登録状況も多くないことがわかった。医師会活動については、医師会加入率が徐々に低下し、未加入の理由としては、3 回とも「関心がない」が最多であり、その割合は徐々に増加していた。

これらから、女性医師が働く環境としては、この 16 年間で制度や仕組みが整備されてきており、女性医師自身の多くはそのことを理解しているようである。しかし、整備されてきた一方、それらの仕組みを知らなかったり、活用できない女性医師も少なからず存在した。制度を利用できるよう、社会が変わっていかなければならないが、男女ともに休暇の制度を利用して離職しないようにするためには、先にも述べたが「人員（医師）の増加」や「複数主治医制度など主治医制の見直し」などが必要である。人員を増やすためには費用がかかるが、医療機関の経営が厳しさを増す中で、その費用を捻出することも難しくなっている。

医療は、我が国の社会的インフラである。国民皆保険で医療へのフリーアクセスが担保されている我が国では、誰もが重篤な状態になる前に自分の選んだ医療機関を受診することができる。こうしたことが可能になったのは、医師の自己犠牲により支えられていた側面もあり、かつて医師の過重労働が大きな問題となった。しかし、超高齢化社会を迎え若い世代が減少していく中、「働き方改革」の影響もあり、今までの医療を提供することが困難な局面を迎えている。

人の命を守る社会インフラをどうしていくのか、これは国全体として正面から向き合い、考えていく問題である。2025 年度は、日本医師会男女共同参画委員会において、2 回目となる「男女共同参画についての男性医師の意識調査」も行った。その結果も併せて、男女共同参画委員会でも、男女ともに働き続けられる医療界を検討していきたい。

Ⅲ. 資料編

i. 調査依頼

1. 圧着葉書

「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」要綱

日本医師会女性医師支援センター

1. 調査名：女性医師の勤務環境の現況に関する調査
2. 調査方式：無記名WEB回答
3. アクセス方法：ID/ パスワードによりWEB回答サイトにアクセス。
ID/ パスワードは圧着はがき中面に記載。
(1 はがきに 1 ID/ パスワードを記載)
4. 調査対象：国内の全病院に勤務する女性医師
(約8,100施設、約54,000人)
5. 調査回答期間：2024年11月下旬 — 12月20日(金)
6. 調査結果：回答期間終了後、全回答のとりまとめを行い、結果を分析の上、報告書(個人情報・個票なし)の形で、日本医師会女性医師支援センターのホームページ上に公開します(2025年夏以降を予定)。また、報告書は単純集計・過去調査との比較等を予定しています。
7. 調査の担当：一般社団法人 中央調査社
(日本医師会女性医師支援センターが委託)
8. 情報の取扱：当会ならびに当センターは、本調査において個人や所属施設を特定できる情報の取得は行いません。また、収集した回答結果は統計処理し、適切な情報管理のもと厳正に取扱いを行います。

WEB回答の方法は、この圧着はがきを開いて中面をご確認ください。**なお、受け取った時点で圧着はがき**
れていましたら、はがきを破棄し、新しいはがきを再度
もらってください。どうぞよろしくお願いいたします。

*** 回答者以外の方は、このはがきを開かないでください ***

「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」 ご協力をお願い

謹啓

日本医師会では厚生労働省の指定を受け、女性医師の就業支援を通して医師全体の勤務環境の改善を図るため、平成18年度から女性医師支援センター事業を行っております。

さて、本事業では、平成20年度より、女性医師の就業継続および復職支援をより効果的なものにするを目的に、全国の病院に勤務する女性医師の現況について、標記調査を定期的に行ってまいりました。つきましては、ご多忙のところ恐縮ではございますが、三度目となる調査実施にご協力をお願いいたします。

なお、前回までの調査結果は、日本医師会女性医師支援センターホームページに掲載しております。

(<https://www.med.or.jp/joseiishi/article022.html>)

また、本調査は個人を特定する情報の取得は行わず、回答結果は統計処理し、個票ならびに組織の特定はできない形で公表いたしますことを申し添えます。

謹白

日本医師会

会長 松本 吉郎

日本医師会女性医師支援センター
センター長 角田 徹

恐れ入りますが、回答に関しては、WEB回答システム利用の都合上、2024年12月20日(金)までにご回答いただきますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

一般社団法人中央調査社

日本医師会女性医師現況調査担当

電話：0120-48-5351(フリーダイヤル)

03-3549-3125

(平日10:00～18:00)

E-mail:josurvey2024@crs.or.jp

WEB回答のご案内

本調査は、オンライン回答となります（パソコン・タブレット・スマートフォンなど）。

1 アクセスする

お手持ちのパソコン・タブレット・スマートフォンなどから、以下のうちどちらかの方法で、回答画面にアクセスしてください。

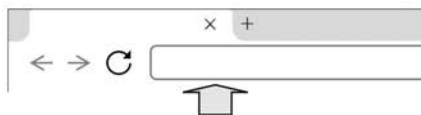
<方法A>

二次元バーコードを読み込むとIDとパスワードの入力画面に移動します。



<方法B>

ウェブブラウザのアドレスバーに、以下のURLを入力するとIDとパスワードの入力画面に移動します。



<https://crs.post-survey.com/1772wda/>

2 ログインする

IDとパスワードを入力する画面が表示されますので、以下の「ID」と「パスワード」を入力して、**次へ**をクリックしてください。

ログイン ID (8桁) :

ログインパスワード(7桁) :

- IDとパスワードは、全て半角で、アルファベットは小文字でご入力ください。

3 回答する

画面の指示に従って、問番号の順番にお答えください。

【ご回答にあたってのお願い】

- 回答所要時間(目安)は15分程度です。
- 2024年11月現在の状況でご回答ください。
- 回答を中断された場合も回答内容は保存されておりますので、途中から再開いただけます。ただし、回答期限を過ぎた場合は、ご回答いただけなくなりますので、ご注意ください。
- ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。前の質問に戻るときは、画面最下部の「戻る」ボタンによりお戻りください。
- 最後の質問に回答した時点で、確認画面が出ます。同画面一番下の「完了」ボタンをクリックしたら回答完了となります。クリックがない場合、ご回答いただいたデータは送信されず、無効となりますので、ご注意ください。
- 回答完了後の回答内容の修正はできません。

回答期限は、**2024年12月20日(金) 23:59:59**までとなります。お忙しいなか恐縮ですが、期限までにご回答をお願いいたします。

なお、調査のお問い合わせは、表面の問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

2. 調査内容

女性医師の勤務環境の現況に関する調査

あなた自身についてお尋ねします。

F 1. 主な勤務先のある都道府県はどこですか？

※回答選択肢は、「1. 北海道 ～ 47. 沖縄県」までを表示

F 2. 主な勤務先の所在地（市町村）の規模は以下のどれにあたりますか？

1. 大都市（人口 100 万人程度～）
2. 中規模都市（人口 50 万～100 万人程度）
3. 小規模都市（人口 10 万～50 万人程度）
4. 人口 10 万人未満の市町村
5. ヘキ地・離島

F 3. 主な居住地のある都道府県はどこですか？

※回答選択肢は、「1. 北海道 ～ 47. 沖縄県」までを表示

F 4. 主な居住地（市町村）の規模は以下のどれにあたりますか？

1. 大都市（人口 100 万人程度～）
2. 中規模都市（人口 50 万～100 万人程度）
3. 小規模都市（人口 10 万～50 万人程度）
4. 人口 10 万人未満の市町村
5. ヘキ地・離島

F 5. 年齢

（ 歳）

F 6. 医学部卒業後年数

（ 年）

F 7. 結婚について

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 未婚 | →F 9へ |
| 2. 既婚・パートナー | →F 8へ |
| 3. 離婚 | →F 8へ |
| 4. 死別 | →F 8へ |

F 8. 配偶者・パートナーは医師ですか（でしたか）？

1. 医師
2. 医師以外

F 9. 同居している家族（複数回答可）

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 配偶者・パートナー | |
| 2. 親（義理を含む） | （ 人） |
| 3. 同居人（兄弟・姉妹を含む） | （ 人） |
| 4. 子ども（0歳児） | （ 人） |
| 5. 子ども（未就学児） | （ 人） |
| 6. 子ども（小学生） | （ 人） |
| 7. 子ども（中学生以上） | （ 人） |
| 8. 子ども（高校生以上） | （ 人） |
| 9. 同居人はいない | |

F 10. 現在の専門科目はどれにあたりますか？

1. 内科
2. 小児科
3. 皮膚科
4. 精神科
5. 外科
6. 整形外科
7. 産婦人科
8. 眼科
9. 耳鼻咽喉科
10. 泌尿器科
11. 脳神経外科
12. 放射線科
13. 麻酔科
14. 病理
15. 臨床検査
16. 救急科
17. 形成外科
18. リハビリテーション科
19. 総合診療
20. 臨床研修医
21. その他（具体的に： ）

F 11. これまでに専門科目を変更したことがありますか？

1. はい →F 12 へ
2. いいえ →問1-1 へ

F 12. 変更前の専門科目、変更後の専門科目、変更の理由を教えてください。

変更前の専門科目（ ）
変更後の専門科目（ ）
変更の理由（ ）

問1 現在の勤務状況についてお尋ねします。

問1－1. 勤務先の開設主体は次のどれにあたりますか？

1. 国（国立大学法人）
2. 国（国立大学以外の法人）
3. 公的医療機関（公立学校）
4. 公的医療機関（都道府県）
5. 公的医療機関（市町村）
6. 公的医療機関（日赤・済生会）
7. 公的医療機関（厚生連）
8. 公的医療機関（3～7以外の法人）
9. 社会保険関係団体
10. 公益法人
11. 医療法人
12. 学校法人
13. 社会福祉法人
14. 医療生協
15. 会社
16. その他の法人
17. 個人

問1－2. 勤務先での役職は次のどれにあたりますか？

1. 院長
2. 副院長
3. 部長
4. 科長
5. 医長
6. 医員
7. 研修医
8. その他（具体的に： ）

問1－3. 勤務先の病院の総病床数はおおよそ何床ですか？

（ 床）

問1－4. 勤務先の病院は救急告示をしていますか（救急指定病院ですか）？

1. はい
 2. いいえ
-

問1－5. 勤務形態は次のどれですか？

- | | |
|--------------------|--------|
| 1. 常勤（フルタイム） | →問1－9へ |
| 2. 常勤（短時間正職員） | →問1－6へ |
| 3. 非常勤（嘱託・パート・その他） | →問1－6へ |
-

問1－6. 問1－5で「1. 常勤（フルタイム）」以外を回答された方にお伺いします。
その理由は何ですか？（複数回答可）

1. 育児
 2. 家庭
 3. 介護
 4. 雇用条件
 5. 自身の病気
 6. その他（具体的に： ）
-

問1－7. 問1－5で「1. 常勤（フルタイム）」以外を回答された方にお伺いします。
将来希望する勤務形態は次のどれになりますか？

1. 常勤（フルタイム）
 2. 常勤（短時間正職員）
 3. 非常勤（嘱託・パート・その他）
 4. 仕事をしない
-

問1－8. 問1－5で「1. 常勤（フルタイム）」以外を回答された方にお伺いします。
将来希望する勤務形態の回答の理由を教えてください。

（自由回答）

問1－9. 勤務先の病院での勤続年数は何年ですか？

(＊6か月以上は切り上げ、5ヶ月以下は切り捨ててください。)

(年)

問1－10. 一週間の契約勤務時間は、何時間ですか？

(＊30分以上は切り上げ、29分以下は切り捨ててください。)

(時間)

問1－11. 一週間の実勤務時間は、平均で何時間ですか？

(＊30分以上は切り上げ、29分以下は切り捨ててください。)

(時間)

問1－12. どのような勤務状況ですか。

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1. 日勤のみ | →問1－16へ |
| 2. 日勤と時間外勤務(宿直、日直、オンコール) | →問1－13へ |
-

問1－13. 宿直について、1ヵ月平均の宿直回数は何回ありますか？

- | | |
|----------|---------|
| 1. 0回 | →問1－15へ |
| 2. 1～2回 | →問1－14へ |
| 3. 3～4回 | →問1－14へ |
| 4. 5～6回 | →問1－14へ |
| 5. 7～9回 | →問1－14へ |
| 6. 10回以上 | →問1－14へ |
-

問1－14. 宿直の翌日は主にどのようになっていますか？

- | |
|-------------------------|
| 1. 翌日は半日休める |
| 2. 翌日は休める |
| 3. 特に忙しかった当直のみ仮眠できる |
| 4. 翌日は通常勤務している |
| 5. その他(具体的に:) |
-

問1－15. 日直について、1ヵ月平均の日直回数は何回ありますか？

1. 0回
 2. 1～2回
 3. 3～4回
 4. 5～6回
 5. 7～9回
 6. 10回以上
-

問1－16. 1ヵ月（4週間）のお休みは実際に何日ありますか？

1. 4週4休
 2. 4週5休
 3. 4週6休
 4. 4週7休
 5. 4週8休（週休2日制）
 6. その他（具体的に： ）
-

問1－17. 契約上、1ヵ月の休日は何日ありますか？

（ 日間）

問1－18. 年次有給休暇は何日で、どのくらい消化していますか？

（ア）. 年次有給休暇日数

（ 日間）

（イ）. 年間消化日数

（ 日間）

問1－19. 仕事を中断（休職）、離職したことがありますか？

1. はい →問1－20へ
 2. いいえ →問2－1へ
-

問1－20. 仕事を中断（休職）、離職したことがある方にお伺いします。その理由を教えてください。
（複数回答可）

1. 自分の病気療養
2. 家族の病気や介護
3. 家事
4. 出産
5. 子育て
6. 配偶者・パートナーの転勤に伴う
7. 留学
8. その他（具体的に： ）

問1－21. 仕事を中断（休職）、離職したことがある方にお伺いします。期間（合算）は
どのくらいですか？

1. 6カ月未満
2. 6カ月～1年未満
3. 1年～2年未満
4. 2年～3年未満
5. 3年以上

問2. 勤務先での悩みと女性医師支援について、現在の状況をお尋ねします。

問2－1. 女性医師として、どのような悩みをお持ちですか？（複数回答可）

1. 家庭と仕事の両立
2. プライベートな時間がない
3. 勉強する時間が少ない
4. 当直室・更衣室・休憩室などの施設環境の不備
5. 男性主導社会
6. パワーハラスメント
7. セクシャルハラスメント
8. 配偶者・パートナーの非協力・無理解
9. 配偶者・パートナーの家族の無理解
10. 特になし
11. その他（具体的に： ）

問2－2. 同性の医師に対して不満を感じることがありますか？

- 1. ある →問2－3へ
 - 2. ない →問2－4へ
-

問2－3. 同性の医師に対して不満を感じることがあると答えた理由を教えてください。

(自由回答)

問2－4. 男性の医師に対して不満を感じることがありますか？

- 1. ある →問2－5へ
 - 2. ない →問2－6へ
-

問2－5. 男性の医師に対して不満を感じることがあると答えた理由を教えてください。

(自由回答)

問2－6. 職場で、女性医師の妊娠・出産・育児・その他に対し、仕事と家庭生活を両立させるための
就労環境や規則などが整備されていますか？

- 1. 整備されている →問2－7へ
 - 2. 整備されていない（検討中・準備中） →問2－8へ
 - 3. 整備されていない →問2－8へ
 - 4. わからない →問2－8へ
-

問2-7. 問2-6で、「1. 整備されている」と回答された方にお伺いします。

それは、どのような整備内容ですか？（複数回答可）

1. 休暇の際には代診医師を確保
2. 事業所内託児施設
3. 給与面で優遇（託児施設など費用手当等の支給）
4. 勤務時間の短縮、残業、当直等の免除
5. X線被曝の回避
6. 法定外の産前・産後の休業……※1
7. 法定外の育児休業……※2
8. さまざまな規則が定められている
9. その他（具体的に： ）

※1 産前休業は、出産予定日の6週間前（多胎妊娠の場合は14週間前）から、請求すれば取得できます。出産当日は産前休業に含まれます。予定日より遅れて出産した場合、予定日から出産当日までの期間は産前休業に含まれます。また、出産の翌日から8週間は就業することができます。ただし、産後6週間を経過後に本人が請求し、医師が認めた場合は就業することができます。

※2 1歳に満たない子を養育する労働者は、男女を問わず、子が1歳になるまでの間で希望する期間に育児休業を取得することができます。

問2-8. 職場に保育所または託児所がありますか？

1. ある →問2-9へ
2. ない →問2-14へ
3. わからない →問2-14へ

問2-9. 職場の保育所または託児所の保育時間帯を教えてください。（24時間制でご記入ください）

＊曜日によって保育時間帯が異なる場合は、最も長い保育実施曜日の時間帯を記入してください。

（ 時 分 ～ 時 分）

問2-10. 保育所または託児所の24時間対応はありますか？

1. あり
 2. なし
-

問2-11. 土日祝祭日の保育の実施状況を教えてください。

1. 土曜日のみ実施
 2. 土日も実施
 3. 土日祝祭日すべての実施
 4. 平日のみ実施（土日祝祭日は実施していない）
 5. その他（具体的に： ）
-

問2-12. 病児保育はありますか？

1. あり（定員 名）
 2. なし
-

問2-13. 一時（緊急時）保育はありますか？

1. あり（定員 名）
 2. なし
-

問2-14. 職場に代替医師（代診）を確保するための体制※はありますか？

1. ある
2. ない
3. わからない

※ ご自身が、妊娠、出産、育児等による休業取得や短時間勤務、その他の事由により職場を不在にする場合のマンパワーを補填する体制。

問2-15. 職場環境は子育てに協力的ですか？

1. はい
 2. いいえ
 3. どちらとも言えない
-

問2-16. 妊娠・育児中に、勤務時間の軽減は必要と思いますか？

1. 思う
2. 思わない
3. どちらとも言えない

問2-17. 仕事を続ける上で、必要と思う制度や仕組み・支援対策はどのようなことですか？
(複数回答可)

1. 人員（医師）の増員
 2. 複数主治医制度の導入など主治医制の見直し
 3. 二交代制の勤務体制
 4. 代替医師の配置（代診医師派遣制度の導入）
 5. 宿直・日直の免除
 6. 時間外勤務の免除
 7. 短時間正職員制度の導入・拡充
 8. フレックス制度導入
 9. 働きやすい部門への配置転換
 10. 託児所・保育園などの整備・拡充
 11. 事業所内託児施設
 12. 病児保育
 13. 保育施設やベビーシッターの斡旋
 14. 保育施設利用の際の保育料の助成
 15. ベビーシッター利用の際の費用補助
 16. 放課後における学童施設充実
 17. 男性の家事・育児などへの参加
 18. 在宅研修制度（eラーニング等）
 19. 出産・育児休業取得者への職場復帰支援
 20. 国の事業所への補助金制度整備・拡充
 21. 診療報酬引き上げ、医療費の増額
 22. 在宅勤務制度
 23. LGBTQへの配慮
 24. その他（具体的に： ）
-

問3. 家事について、直近の状況をお尋ねします。

問3-1. 主に「食事調理」を担当している人はどなたですか？（複数回答可）

1. 自分
 2. 配偶者・パートナー
 3. 親
 4. 兄弟・親戚
 5. 子ども
 6. その他（具体的に： ）
-

問3-2. 主に「食事の後片づけ」を担当している人はどなたですか？（複数回答可）

1. 自分
 2. 配偶者・パートナー
 3. 親
 4. 兄弟・親戚
 5. 子ども
 6. その他（具体的に： ）
-

問3-3. 主に「掃除」を担当している人はどなたですか？（複数回答可）

1. 自分
 2. 配偶者・パートナー
 3. 親
 4. 兄弟・親戚
 5. 子ども
 6. その他（具体的に： ）
-

問3-4. 主に「洗濯」を担当している人はどなたですか？（複数回答可）

1. 自分
 2. 配偶者・パートナー
 3. 親
 4. 兄弟・親戚
 5. 子ども
 6. その他（具体的に： ）
-

問3-5. 配偶者・パートナーの家事・育児への協力は十分ですか（でしたか）？

1. 十分／おおむね十分
2. 不十分／どちらかというの不十分
3. まったく協力しない
4. 配偶者・パートナーはいない（いなかった）

問4. 仕事と子育ての両立について、お尋ねします。

問4-1. 出産経験はありますか？

1. はい →問4-2へ
2. いいえ →問5-1へ

問4-2. 産前・産後休業（産前6週間または双子以上の場合は産前14週間・産後8週間）を取得しましたか？

1. 取得した →問4-3へ
2. 取得しなかった →問4-6へ

問4-3. 取得した方の取得状況についてお伺いします。

1. 完全に取得した
2. 一部取得した

問4-4. 産前・産後休業中の身分保障はありましたか？

1. あった
2. なかった
3. わからない

問4-5. 産前・産後休業中に給与は支給されましたか？

1. はい →問4-8へ
 2. いいえ →問4-8へ
-

問4－6. 取得しなかった方は、その理由をお答えください。(複数回答可)

1. 職場で取得しづらい雰囲気があるため
 2. 代わりの医師がいないため
 3. 家族の協力があつたため
 4. 制度がなかったため
 5. 収入がなくなる(少なくなる)ため
 6. その他(具体的に:)
-

問4－7. 取得しなかった方は、勤務をどのようにされましたか?

1. 現在の職場を継続した
 2. 一時休職した
 3. 退職した
 4. その他 (具体的に:)
-

問4－8. 育児休業を取得しましたか?

1. はい(期間:) →問4－9へ
 2. いいえ →問4－11へ
-

問4－9. 育児休業中の身分保障はありましたか?

1. あつた
 2. なかつた
 3. わからない
-

問4－10. 育児休業中に給与は支給されましたか?

1. はい →問4－13へ
 2. いいえ →問4－13へ
-

問4－11. 育児休業を取得しなかった方にお伺いします。

取得しなかった方は、その理由をお答えください。（複数回答可）

1. 職場で取得しづらい雰囲気があるため
 2. 代わりの医師がないため
 3. 家族の協力があつたため
 4. 制度がなかったため
 5. 収入がなくなる（少なくなる）ため
 6. その他（具体的に： ）
-

問4－12. 育児休業を取得しなかった方にお伺いします。

取得しなかった方は、勤務をどのようにされましたか？

1. 現在の職場を継続した
 2. 一時休職した
 3. 退職した
 4. その他（具体的に： ）
-

問4－13. 普段、お子様はどなたが面倒を見ていますか（見ていましたか）？（複数回答可）

1. 自分
 2. 配偶者・パートナー
 3. 親・親族
 4. 友人・知人
 5. ベビーシッター
 6. ハウスキーパー・家政婦
 7. 保育所または託児所
 8. 幼稚園
 9. 学校
 10. その他（具体的に： ）
-

問4－14. 保育施設を利用していますか？利用している場合、どの施設を利用していますか？
(複数回答可)

1. 認可保育所
2. 自治体独自の認可保育所
3. 無認可保育施設
4. 院内保育所
5. その他（具体的に： ）
6. 利用していない

問4－15. 院内保育所を利用したことがありますか？

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1. ある | →問4－17へ |
| 2. 職場に院内保育所はある（あった）が利用したことはない | →問4－16へ |
| 3. 職場に院内保育所はない（なかった） | →問4－17へ |

問4－16. 院内保育所があるのに院内保育所を利用しない（しなかった）理由について
教えてください。（複数回答可）

1. 定員枠が少ない
 2. 保育時間と勤務時間が合わない
 3. 施設までの送迎の負担が大きい
 4. 施設の設備がニーズに合わない（屋内スペースや園庭が狭いなど）
 5. 施設の保育プログラムがニーズに合わない
 6. 利用制限がある（具体的に： ）
 7. その他（具体的に： ）
-

問4－17. 勤務予定日にお子様の病気等で予定外の保育が必要になった場合、どのように対応していますか（どのように対応していましたか）？（複数回答可）

1. あずける（配偶者・パートナー）
 2. あずける（親・親族）
 3. あずける（友人・知人）
 4. あずける（ベビーシッター）
 5. あずける（その他（具体的に： ））
 6. その日の勤務を断り、休暇を取る
 7. その他（具体的に： ）
-

問4－18. 緊急呼び出しの際にお子様の保育はどのように対応していますか（どのように対応していましたか）？（複数回答可）

1. あずける（配偶者・パートナー）
 2. あずける（親・親族）
 3. あずける（友人・知人）
 4. あずける（ベビーシッター）
 5. あずける（その他（具体的に： ））
 6. 断る、または他の医師に依頼する
 7. その他（具体的に： ）
 8. 緊急呼び出しはない
-

問4－19. 学会、出張、日直、当直の時はどなたがお子様を見てくださいか（見てくれましたか）？（複数回答可）

1. 配偶者・パートナー
 2. 親・親族
 3. 友人・知人
 4. 保育園・託児所
 5. ベビーシッター
 6. その他（具体的に： ）
-

問4－20. 学童保育を利用していますか？

1. 利用している
 2. 利用していない
-

問4－21. 保育施設や学校の行事への参加はしましたか？

- (1) ご自身は参加しましたか？
- (2) 配偶者・パートナーの方は参加しましたか？
- (3) 親（児の祖父母）は参加しましたか？

1. いつも・ほとんど参加
 2. ときどき参加
 3. 不参加
 4. 該当の方はいなかった
-

問4－22. 子育て中の働き方はどうされましたか（していますか）？（複数回答可）

1. 変化なし（通常勤務）
 2. 休職・辞職
 3. 研究生・見学生・大学院
 4. 短時間勤務（1日 時間勤務）
 5. 日数減（週 日勤務）
 6. 業務内容軽減（例：当直免除）（具体的に： ）
 7. その他（具体的に： ）
-

問4－23. 子育て中にあなたが希望した（する）働き方はどのようなものでしたか（ですか）？
（複数回答可）

1. 変化なし（通常勤務）
2. 休職・辞職
3. 研究生・見学生・大学院
4. 短時間勤務（1日 時間勤務）
5. 日数減（週 日勤務）
6. 業務内容軽減（例：当直免除）（具体的に： ）
7. その他（具体的に： ）

問5. 仕事と介護との両立について、直近の状況をお尋ねします。

問5－1. 介護経験はありますか？

1. はい →問5－2へ
2. いいえ →問5－6へ

問5－2. 身の回りの世話（介護）は主にどなたがされています（されていました）か？

1. 自分
2. 自分以外の身内
3. 自分・身内以外（訪問介護、施設介護など）

問5－3. 介護の際、休暇を取得したことがありますか？（複数回答可）

1. 取得した（有給休暇）
2. 取得した（介護休暇）
3. 取得しなかった

問5－4. 介護休業中の身分保障はあります（ありました）か？

1. ある
 2. ない
 3. わからない
-

問5－5. 介護休業中に給与は支給されます（されました）か？

1. はい
2. いいえ
3. わからない

問5－6. 仕事と介護の両立を図る支援対策は何が必要と思いますか？（複数回答可）

1. 老人保健施設・特別養護老人ホームなど介護施設の増設・増床
2. 人員（医師）の増員
3. 複数主治医制度の導入など主治医制の見直し
4. 二交代制の勤務体制
5. 代替医師の配置（代診医師派遣制度の導入）
6. 宿直・日直の免除
7. 時間外勤務の免除
8. 短時間正職員制度の導入・拡充
9. フレックス制度導入
10. 働きやすい部門への配置転換
11. 介護休暇取得者の職場復帰支援
12. 家事代行サービス利用者に対する費用の助成
13. 在宅研修制度（通信教育、eラーニング）
14. 介護報酬の引き上げ、社会保障費の増額
15. その他（具体的に： ）

問6. 医療現場の男女共同参画についてお尋ねします。

問6－1. 現在、医療現場の男女共同参画は進んでいると思いますか？

5段階の中から最も近いものを1つ選択してください。

1. 遅れている
2. 少し遅れている
3. どちらでもない
4. 少し進んでいる
5. 進んでいる

問6－2. 男女共同参画を進めるためにはどのようなことが必要だと思われますか？

（自由回答）

問7. 日本医師会女性医師バンクについてお尋ねします。

問7-1. 日本医師会女性医師バンクを知っていますか？

- 1. 知っている →問7-2へ
- 2. 知らない →問8-1へ

問7-2. 日本医師会女性医師バンクは求職、求人とも「手数料無料」であることを知っていますか？

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問7-3. 日本医師会女性医師バンクに登録していますか？

- 1. している →問8-1へ
- 2. していない →問7-4へ

問7-4. 問7-3で「2. していない」と回答した方は、状況に応じて日本医師会女性医師バンクに登録することをお考えになりますか？

- 1. はい →問8-1へ
- 2. いいえ →問7-5へ

問7-5. 問7-4で「2. いいえ」と回答した方は、その理由をお答えください。

(自由回答)

問8. 医師会との関わりについてお尋ねします。

問8-1. 医師会の会員ですか？

- 1. はい →問8-2へ
 - 2. いいえ →問8-3へ
-

問8-2. 問8-1で、「1. はい」と回答した方は、医師会の加入状況をお答えください。

- | | |
|--------------|--------|
| 1. 郡市区医師会まで | →問8-5へ |
| 2. 都道府県医師会まで | →問8-5へ |
| 3. 日本医師会まで | →問8-5へ |

問8-3. 問8-1で、「2. いいえ」と回答した方は、その理由を教えてください。（複数回答可）

1. 関心がない
2. 会費が高い
3. 開業医の団体であると思うから
4. メリットがない
5. 政治的圧力団体であると思うから
6. その他（具体的に： ）

問8-4. 問8-1で、「2. いいえ」と回答した方は、どんなことに取り組む医師会なら、入会しようと思いますか？

（自由回答）

問8-5. 医師会の行う催しや活動に参加していますか？

- | | |
|--------|--------|
| 1. はい | →問8-6へ |
| 2. いいえ | →問8-7へ |

問8-6. 問8-5で、「1. はい」と回答した方は、どのような催しや活動に参加されていますか？（複数回答可）

- | | |
|---------------------------|------|
| 1. 講演会 | →問9へ |
| 2. 生涯教育 | →問9へ |
| 3. 校医・園医 | →問9へ |
| 4. 産業医 | →問9へ |
| 5. 医師会役員 | →問9へ |
| 6. 委員会など | →問9へ |
| 7. 健診業務 | →問9へ |
| 8. 文化活動 | →問9へ |
| 9. その他（具体的に： ） | →問9へ |

問8－7. 問8－5で、「2. いいえ」と回答した方は、その理由を教えてください。（複数回答可）

1. 時間がない
2. 関心がない
3. なんとなく嫌だ
4. メリットがない
5. その他（具体的に： ）

問8－8. 問8－5で、「2. いいえ」と回答した方は、今後、医師会の催しや活動に参加いただけますか？

1. はい
2. いいえ

問9. 最後に、どんなことでも結構ですので、ご提案・ご意見があれば、ご記入ください。

（自由回答）

ii. 各項目集計結果および過去調査との比較

1. 各項目集計結果

各調査項目について、以下の通り集計した。なお、表中の「総数」「該当者」は各設問の回答者数を示しており、特に断りのない限り、無回答を除いた数値となっている。

1-1. 回答者の属性

【居住地の地域】

	回答件数	%
北海道	329	3.7
東北	533	6.0
関東（東京以外）	1,431	16.0
甲信越	356	4.0
東京	1,234	13.8
北陸	330	3.7
東海	993	11.1
近畿	1,597	17.9
中国	635	7.1
四国	380	4.3
九州	1,110	12.4
総数	8,928	100.0

【居住地（市町村）の規模】

	回答件数	%
大都市（人口100万人程度～）	3,108	34.8
中規模都市（人口50万～100万人程度）	1,750	19.6
小規模都市（人口10万～50万人程度）	3,091	34.6
人口10万人未満の市町村	925	10.4
へき地・離島	54	0.6
総数	8,928	100.0

【年齢】

	回答件数	%
29歳以下	1,360	15.2
30～39歳	3,065	34.3
40～49歳	2,539	28.4
50～59歳	1,421	15.9
60～69歳	466	5.2
70歳以上	77	0.9
総数	8,928	100.0

【医学部卒業後年数】

	回答件数	%
5年未満	1,302	14.7
5～10年未満	1,937	21.8
10～15年未満	1,407	15.9
15～20年未満	1,274	14.4
20～25年未満	1,163	13.1
25年以上	1,788	20.2
総数	8,871	100.0

【結婚】

	回答件数	%
未婚	2,567	28.8
既婚・パートナー	5,858	65.6
離婚	453	5.1
死別	50	0.6
総数	8,928	100.0

【配偶者の職業】

	回答件数	%
医師	3,924	61.7
医師以外	2,437	38.3
該当者	6,361	100.0

【同居している家族（同居家族構成）】

（複数回答）

	回答件数	%
配偶者・パートナー	5,448	61.0
親（義理を含む）	816	9.1
同居人（兄弟・姉妹を含む）	196	2.2
子ども	4,188	46.9
同居人はいない	2,399	26.9
総数	8,928	100.0

【同居している子どもの年齢区分】

（複数回答）

	回答件数	%
0歳児	283	6.8
未就学児	2,057	49.1
小学生	1,726	41.2
中学生以上	785	18.7
高校生以上	984	23.5
該当者	4,188	100.0

【同居している子どもの人数】

	回答件数	%
1人	1,699	41.3
2人	1,739	42.3
3人以上	675	16.4
該当者	4,113	100.0

【現在の専門科目】

	回答件数	%
内科	2,359	26.4
小児科	876	9.8
麻酔科	773	8.7
産婦人科	708	7.9
臨床研修医	586	6.6
外科	455	5.1
精神科	424	4.7
皮膚科	311	3.5
放射線科	307	3.4
眼科	304	3.4
耳鼻咽喉科	249	2.8
整形外科	206	2.3
形成外科	193	2.2
病理	165	1.8
リハビリテーション科	146	1.6
泌尿器科	143	1.6
総合診療	135	1.5
救急科	124	1.4
脳神経外科	117	1.3
臨床検査	19	0.2
その他	328	3.7
総数	8,928	100.0

【専門科目の変更経験の有無】

	回答件数	%
はい	729	8.2
いいえ	8,199	91.8
総数	8,928	100.0

→

【専門科目を変更した理由】

(自由回答)

内容	回答件数
自身の希望・関心・興味	250
働きやすさを考えて、多忙だから、継続困難だから、本人の治療のため	159
医局や勤務先の事情で、ニーズに合わせて	136
妊娠、出産、育児	105
家庭	42
適性を考えて	32
ハラスメントやいじめ	21
結婚	14
介護	7
その他	37

【専門科目の変更経験があると答えた 729 人に】

【変更前の専門科目】

(自由回答)

内容	回答件数
内科	100
麻酔科	70
小児科	51
救急科	37
神経内科	34
外科	33
産婦人科	28
消化器内科（胃腸内科）	27
血液内科	26
形成外科	24
脳神経外科	23
循環器内科	21
消化器外科（胃腸外科）	21
整形外科	20
総合診療科	20
呼吸器内科	19
皮膚科	17
放射線科	15
糖尿病内科（代謝内科）	14
呼吸器外科	10
泌尿器科	10
心臓血管外科	8
腎臓内科・透析科	7
精神科	7

内容	回答件数
眼科	7
耳鼻咽喉科	7
病理診断科	7
リウマチ科・膠原病科	6
乳腺外科	6
小児外科	6
腫瘍内科	4
公衆衛生	4
法医学	4
心療内科	3
集中治療・ICU	3
家庭医療	3
リハビリテーション科	2
緩和ケア	2
新生児科	2
アレルギー科	1
感染症内科	1
臨床検査科	1
健診科、人間ドック	1
ペインクリニック	1
産業医	1
医学教育	1
在宅医療	1
その他	18

【変更後の専門科目】

(自由回答)

内容	回答件数
内科	80
精神科	78
リハビリテーション科	69
麻酔科	49
緩和ケア	47
病理診断科	46
総合診療科	31
放射線科	30
健診科、人間ドック	24
皮膚科	23
救急科	23
乳腺外科	18
糖尿病内科（代謝内科）	16
小児科	16
臨床検査科	14
消化器内科（胃腸内科）	13
外科	11
眼科	11
腎臓内科・透析科	10
産婦人科	8
腫瘍内科	8
神経内科	7
脳神経外科	7
呼吸器内科	6
血液内科	5
感染症内科	5
形成外科	5

内容	回答件数
公衆衛生	5
在宅医療	5
循環器内科	4
消化器外科（胃腸外科）	4
耳鼻咽喉科	4
遺伝子	4
リウマチ科・膠原病科	3
心療内科	3
小児外科	3
集中治療・ICU	3
老年科	3
呼吸器外科	2
整形外科	2
ペインクリニック	2
産業医	2
なし・未定	2
泌尿器科	1
婦人科	1
家庭医療	1
予防医学	1
解剖学	1
産業保健	1
法医学	1
超音波診断	1
漢方・和漢診療科	1
その他	15

1-2. 女性医師の勤務実態

【勤務先の所在地域】

	回答件数	%
北海道	329	3.7
東北	534	6.0
関東（東京以外）	1,542	17.3
甲信越	357	4.0
東京	1,118	12.5
北陸	327	3.7
東海	999	11.2
近畿	1,599	17.9
中国	636	7.1
四国	382	4.3
九州	1,105	12.4
総数	8,928	100.0

【勤務先の所在地（市町村）の規模】

	回答件数	%
大都市（人口100万人程度～）	2,835	31.8
中規模都市（人口50万～100万人程度）	1,747	19.6
小規模都市（人口10万～50万人程度）	3,035	34.0
人口10万人未満の市町村	1,241	13.9
へき地・離島	70	0.8
総数	8,928	100.0

問1-1. 勤務先の開設主体

	回答件数	%
国	1,786	20.0
公的医療機関	3,412	38.2
社会保険関係団体	65	0.7
公益法人	260	2.9
医療法人	1,735	19.4
学校法人	1,077	12.1
社会福祉法人	243	2.7
医療生協	56	0.6
会社	68	0.8
その他の法人	200	2.2
個人	26	0.3
総数	8,928	100.0

→ 問1-1. 勤務先の開設主体（「国」の内訳）

	回答件数	%
国立大学法人	1,252	70.1
国立大学以外の法人	534	29.9
該当者	1,786	100.0

→ 問1-1. 勤務先の開設主体（「公的医療機関」の内訳）

	回答件数	%
公立学校	249	7.3
都道府県	811	23.8
市町村	1,131	33.1
日赤・済生会	624	18.3
厚生連	254	7.4
その他の法人	343	10.1
該当者	3,412	100.0

問1-2. 勤務先での役職

	回答件数	%
院長	51	0.6
副院長	133	1.5
部長	978	11.0
科長	337	3.8
医長	1,397	15.6
医員	4,317	48.4
研修医	745	8.3
その他	970	10.9
総数	8,928	100.0

問1-2. 勤務先での役職
「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
助教	200
副部長	154
非常勤	138
講師	89
レジデント、シニアレジデント、後期研修医（専修医、修練医等含む）	66
准教授	43
大学院生、大学生	39
役員、理事、名誉院長、顧問	29
教授	23
施設長、センター長、室長	19
パート、アルバイト	16
嘱託医	16
教員	16
副医長	11
研究員、フェロー	9
助手	6
医局長	6
副科長	5
スタッフ、アシスタント	3
副センター長	2
主任医長、上席医長、特任医長、病棟医長、外科医長	2
その他	52

問1-3. 勤務先の病床規模（総病床数）

	回答件数	%
100床未満	360	4.1
100～199床	888	10.0
200～299床	945	10.7
300～399床	1,297	14.6
400～499床	1,247	14.1
500床以上	4,119	46.5
総数	8,856	100.0

問1-4. 勤務先での救急告示の有無

	回答件数	%
はい	7,739	86.7
いいえ	1,189	13.3
総数	8,928	100.0

問1-5. 勤務形態

	回答件数	%
常勤（フルタイム）	7,128	79.8
常勤（短時間正職員）	899	10.1
非常勤（嘱託・パート・その他）	901	10.1
総数	8,928	100.0

問1-6. 勤務形態が常勤以外の理由

（複数回答）

	回答件数	%
育児	1,115	61.9
家庭	516	28.7
雇用条件	421	23.4
自身の病気	95	5.3
介護	82	4.6
その他	241	13.4
該当者	1,800	100.0

問1-6. 勤務形態が常勤以外の理由

「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
大学院生だから、研究を主としているから	77
研修医・後期研修医だから	30
他院・他職種でも勤務しているため	29
ワークライフバランス、働きやすさを考えて、多忙だから、継続困難だから、本人の治療のため	25
年齢のため、定年後再雇用のため	21
医局・勤務先の都合（枠がないなど）	16
家庭の事情で	5
不妊治療のため	4
ない、わからない	2
その他	28

問1-7. 将来希望する勤務形態

	回答件数	%
常勤（フルタイム）	635	35.3
常勤（短時間正職員）	691	38.4
非常勤（嘱託・パート・その他）	443	24.6
仕事をしない	31	1.7
該当者	1,800	100.0

問1-8. 将来その勤務形態を希望する理由

常勤（フルタイム）希望者の希望理由

（自由回答）

内容	回答件数
もっと働きたいから、子育てが落ち着けば時間ができるから	112
給与・ボーナスの面でよいから	69
やりがいのある仕事ができるから、スキルアップやキャリアアップのため	60
福利厚生・退職金・有給休暇・産休・育休の面でよいから	23
職場に貢献したい、時短だと肩身が狭い	19
現在も常勤並みに働いているから	17
雇用・仕事内容・生活が安定するから	14
院卒・研修終了後に常勤希望・予定	13
特になし	6
その他	36

常勤（短時間正職員）希望者の希望理由

（自由回答）

内容	回答件数
妊娠・出産・育児のため	334
家庭のため	121
働きやすさを考えて、本人の治療のため、時間の融通がきくから	115
介護のため	32
当直・夜勤が難しいため	21
現状に満足しているから	19
福利厚生の中でよいから	17
給与・ボーナスの面でよいから	10
雇用・仕事内容・生活が安定するから	5
その他	60

非常勤希望者の希望理由

（自由回答）

内容	回答件数
妊娠・出産・育児のため	121
働きやすさを考えて、本人の治療のため、時間の融通がきくから	105
家庭のため	66
年齢のため	27
当直・夜勤が難しいため	21
現状に満足しているから	18
他院でも勤務しているため	17
介護のため	14
その他	63

問1-9. 勤続年数

	回答件数	%
5年未満	4,981	55.8
5～9年	1,746	19.6
10～14年	1,070	12.0
15～19年	542	6.1
20～24年	341	3.8
25年以上	248	2.8
総数	8,928	100.0

問1-10. 一週間の契約勤務時間

	回答件数	%
20時間未満	810	9.1
20時間以上40時間未満	2,795	31.3
40時間以上	5,323	59.6
総数	8,928	100.0

問1-11. 一週間の実勤務時間

	回答件数	%
10時間未満	412	4.6
10時間以上20時間未満	304	3.4
20時間以上30時間未満	489	5.5
30時間以上40時間未満	1,398	15.7
40時間以上50時間未満	3,093	34.6
50時間以上60時間未満	1,967	22.0
60時間以上70時間未満	857	9.6
70時間以上80時間未満	209	2.3
80時間以上	199	2.2
総数	8,928	100.0

問1-12. 勤務状況

	回答件数	%
日勤のみ	3,266	36.6
日勤と時間外勤務（宿直、日直、オンコール）	5,662	63.4
総数	8,928	100.0

問1-13. 1ヵ月の宿直回数

	回答件数	%
0回	1,442	25.5
1～2回	2,001	35.3
3～4回	1,553	27.4
5～6回	498	8.8
7～9回	147	2.6
10回以上	21	0.4
該当者	5,662	100.0

問1-14. 宿直翌日の勤務状況

	回答件数	%
翌日は半日休める	1,323	31.4
翌日は休める	753	17.8
特に忙しかった当直のみ仮眠できる	46	1.1
翌日は通常勤務している	1,908	45.2
その他	190	4.5
該当者	4,220	100.0

問1-15. 1ヵ月の日直回数

	回答件数	%
0回	1,570	27.7
1～2回	3,672	64.9
3～4回	306	5.4
5～6回	59	1.0
7～9回	21	0.4
10回以上	34	0.6
該当者	5,662	100.0

問1－16. 1ヵ月の休日数

	回答件数	%
4週4休	1,258	14.1
4週5休	669	7.5
4週6休	1,693	19.0
4週7休	732	8.2
4週8休（週休2日制）	3,546	39.7
その他	1,028	11.5
総数	8,926	100.0

問1－16. 1ヵ月の休日数
「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
休日はない・ほとんどない	62
休日はあるが当直・オンコール・回診などでつぶれることがある	37
4週1～3休	230
4週4～8休（小数点の回答や複数箇所勤務の合計などで）	34
4週9～12休	404
4週13～16休	141
4週17～20休	29
4週21～24休	8
不定期・決まっていない	56
非常勤・パートのため休日はない	7
その他	20

問1－17. 契約上の1ヵ月の休日数

	回答件数	%
4日以下	527	5.9
5日	212	2.4
6日	649	7.3
7日	240	2.7
8日	5,851	65.5
9日	237	2.7
10日	400	4.5
11日以上	812	9.1
総数	8,928	100.0

問1-18（ア）．年次有給休暇付与日数

	回答件数	%
0日	419	4.7
1～4日	171	1.9
5～9日	876	9.8
10～14日	2,202	24.7
15～19日	577	6.5
20日以上	4,683	52.5
総数	8,928	100.0

問1-18（イ）．年次有給休暇年間消化日数

	回答件数	%
0日	756	8.6
1～4日	1,381	15.6
5～9日	3,806	43.1
10～14日	1,980	22.4
15～19日	505	5.7
20～24日	354	4.0
25～29日	22	0.2
30～34日	14	0.2
35～39日	2	0.0
40日以上	10	0.1
総数	8,830	100.0

問1-19．休職離職経験の有無

	回答件数	%
はい	3,220	36.1
いいえ	5,708	63.9
総数	8,928	100.0

問1-20．休職・離職の理由

（複数回答）

	回答件数	%
出産	2,497	77.5
子育て	1,873	58.2
自分の病気療養	624	19.4
配偶者・パートナーの転勤に伴う	387	12.0
留学	160	5.0
家族の病気や介護	120	3.7
家事	41	1.3
その他	171	5.3
該当者	3,220	100.0

問1-21．休職・離職の期間

	回答件数	%
6カ月未満	633	19.7
6カ月～1年未満	847	26.3
1年～2年未満	903	28.0
2年～3年未満	496	15.4
3年以上	341	10.6
該当者	3,220	100.0

1-3. 女性医師の職場環境

問2-1. 女性医師としての悩み

(複数回答)

	回答件数	%
家庭と仕事の両立	5,494	61.6
勉強する時間が少ない	3,801	42.6
プライベートな時間がない	3,433	38.5
男性主導社会	1,747	19.6
当直室・更衣室・休憩室などの施設環境の不備	1,513	17.0
パワーハラスメント	1,002	11.2
配偶者・パートナーの非協力・無理解	953	10.7
セクシャルハラスメント	548	6.1
配偶者・パートナーの家族の無理解	346	3.9
特になし	1,322	14.8
その他	852	9.5
総数	8,926	100.0

問2-2. 同性医師に対しての不満

	回答件数	%
ある	2,242	25.1
ない	6,686	74.9
総数	8,928	100.0

→ 問2-3. 同性の医師に対して不満を感じることがあると答えた理由 (自由回答)

内容	回答件数
業務の分担・時間・待遇などが不公平	811
助け合わない、勤務態度が不適切	372
権利や主張ばかり、周囲への感謝や気遣いがない	201
短時間勤務や育児・介護との両立への非協力・無理解	145
ハラスメント、いやがらせ、高圧的	83
常勤やフルタイムに復帰しない、辞める	79
個人の問題で性別とは関係がない	58
価値観や意見が合わない	46
産休や育休の長さや取り方	10
その他	224

問2-4. 男性医師に対しての不満

	回答件数	%
ある	2,784	31.2
ない	6,144	68.8
総数	8,928	100.0

→ 問2-5. 男性の医師に対して不満を感じることがあると答えた理由 (自由回答)

内容	回答件数
女性全般への無理解、短時間勤務などへ非協力・無理解	847
ハラスメント、女性蔑視、男性中心的、高圧的	619
業務の分担・待遇・評価などが不公平	322
やる気がない、勤務態度が不適切	291
家事・育児をせずに仕事中心、家事・育児などを女性の役割と思っている	122
長時間労働・時間外勤務・休日出勤が習慣化している	75
個人の問題で性別とは関係がない	75
その他	182

問2-6. 女性医師の仕事と家庭生活を両立させるための就労環境や規則の整備状況

	回答件数	%
整備されている	4,928	55.2
整備されていない（検討中・準備中）	1,137	12.7
整備されていない	981	11.0
わからない	1,882	21.1
総数	8,928	100.0

問2-7. 女性医師の仕事と家庭生活を両立させるための
就労環境や規則として整備されている内容

(複数回答)

	回答件数	%
勤務時間の短縮、残業、当直等の免除	4,209	85.4
事業所内託児施設	2,412	48.9
X線被曝の回避	1,457	29.6
休暇の際には代診医師を確保	1,351	27.4
法定外の産前・産後の休業	675	13.7
法定外の育児休業	558	11.3
さまざまな規則が定められている	450	9.1
給与面で優遇（託児施設など費用手当等の支給）	255	5.2
その他	224	4.5
該当者	4,928	100.0

問2-8. 職場における保育所・託児所の有無

	回答件数	%
ある	4,808	53.9
ない	2,206	24.7
わからない	1,914	21.4
総数	8,928	100.0

問2-9. 保育時間帯（開始時間）

	回答件数	%
午前7時より前	61	1.3
午前7時00分～午前7時59分	1,937	42.3
午前8時00分～午前8時59分	1,772	38.7
午前9時以降	251	5.5
24時間保育	558	12.2
該当者	4,579	100.0

問2-9. 保育時間帯（終了時間）

	回答件数	%
午後5時より前	156	3.4
午後5時00分～午後5時59分	763	16.7
午後6時00分～午後6時59分	1,478	32.3
午後7時00分～午後7時59分	926	20.2
午後8時以降	698	15.2
24時間保育	558	12.2
該当者	4,579	100.0

問2-10. 職場の保育所・託児所の24時間対応の有無

	回答件数	%
あり	1,318	27.6
なし	3,465	72.4
該当者	4,783	100.0

【問 2-8 で職場に保育所または託児所があると答えた 4,808 人に】

問2-11. 土日祝祭日の保育実施状況

	回答件数	%
土曜日のみ実施	1,599	33.5
土日とも実施	349	7.3
土日祝祭日すべての実施	578	12.1
平日のみ実施（土日祝祭日は実施していない）	1,431	29.9
その他	822	17.2
該当者	4,779	100.0

→ 問2-11. 土日祝祭日の保育実施状況
「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
毎週ではないが土日祝祭日にも実施	81
申込・必要に応じて土日祝祭日にも実施	48
土・祝祭日のみ実施（日曜のみ休み）	17
病院開院日に合わせて土日祝祭日にも実施	15
年末年始以外すべて実施	7
日曜のみ実施	1
わからない・知らない	553
その他	36

問2-12. 病児保育の有無

	回答件数	%
あり	1,948	40.7
なし	2,840	59.3
該当者	4,788	100.0

→ 問2-12. 病児保育の定員

	回答件数	%
5名未満	836	64.8
5～9名	330	25.6
10～14名	58	4.5
15～19名	9	0.7
20名以上	58	4.5
該当者	1,291	100.0

問2-13. 一時〔緊急時〕保育の有無

	回答件数	%
あり	1,135	23.7
なし	3,653	76.3
該当者	4,788	100.0

→ 問2-13. 一時〔緊急時〕保育の定員

	回答件数	%
5名未満	157	52.9
5～9名	78	26.3
10～14名	28	9.4
15～19名	6	2.0
20名以上	28	9.4
該当者	297	100.0

問2-14. 代替医師制度の有無

	回答件数	%
ある	2,143	24.0
ない	4,227	47.3
わからない	2,558	28.7
総数	8,928	100.0

問2-15. 職場環境は子育てに協力的か

	回答件数	%
はい	5,053	56.6
いいえ	528	5.9
どちらとも言えない	3,347	37.5
総数	8,928	100.0

問2-16. 妊娠・育児中における勤務時間軽減の必要性

	回答件数	%
思う	7,371	82.6
思わない	125	1.4
どちらとも言えない	1,432	16.0
総数	8,928	100.0

問2-17. 仕事を続ける上で必要な制度や仕組み・支援対策

(複数回答)

	回答件数	%
人員（医師）の増員	6,348	71.1
病児保育	5,117	57.3
宿直・日直の免除	5,008	56.1
複数主治医制度の導入など主治医制の見直し	4,958	55.5
託児所・保育園などの整備・拡充	4,487	50.3
男性の家事・育児などへの参加	4,360	48.8
時間外勤務の免除	4,222	47.3
フレックス制度導入	4,203	47.1
代替医師の配置（代診医師派遣制度の導入）	3,666	41.1
放課後における学童施設充実	3,653	40.9
保育施設やベビーシッターの斡旋	3,431	38.4
短時間正職員制度の導入・拡充	3,336	37.4
出産・育児休業取得者への職場復帰支援	3,073	34.4
ベビーシッター利用の際の費用補助	2,803	31.4
事業所内託児施設	2,766	31.0
保育施設利用の際の保育料の助成	2,599	29.1
診療報酬引き上げ、医療費の増額	2,266	25.4
在宅研修制度（eラーニング等）	1,884	21.1
在宅勤務制度	1,652	18.5
国の事業所への補助金制度整備・拡充	1,514	17.0
働きやすい部門への配置転換	1,355	15.2
二交代制の勤務体制	1,046	11.7
LGBTQへの配慮	376	4.2
その他	391	4.4
総数	8,927	100.0

1-4. 自宅での家事担当者

問3-1. 自宅での「食事調理」担当

(複数回答)

	回答件数	%
自分	7,769	87.0
配偶者・パートナー	2,188	24.5
親	857	9.6
兄弟・親戚	35	0.4
子ども	60	0.7
その他	169	1.9
総数	8,928	100.0

問3-2. 自宅での「食事の後片づけ」担当

(複数回答)

	回答件数	%
自分	7,475	83.7
配偶者・パートナー	3,439	38.5
親	588	6.6
兄弟・親戚	44	0.5
子ども	156	1.7
その他	75	0.8
総数	8,928	100.0

問3-3. 自宅での「掃除」担当

(複数回答)

	回答件数	%
自分	7,800	87.4
配偶者・パートナー	2,664	29.8
親	574	6.4
兄弟・親戚	38	0.4
子ども	95	1.1
その他	352	3.9
総数	8,928	100.0

問3-4. 自宅での「洗濯」担当

(複数回答)

	回答件数	%
自分	7,709	86.3
配偶者・パートナー	3,120	34.9
親	588	6.6
兄弟・親戚	43	0.5
子ども	132	1.5
その他	90	1.0
総数	8,928	100.0

問3-5. 配偶者・パートナーの家事・育児への協力度

	回答件数	%
十分／おおむね十分	4,150	46.5
不十分／どちらかという和不十分	1,940	21.7
まったく協力しない	376	4.2
配偶者・パートナーはいない（いなかった）	2,462	27.6
該当者	8,928	100.0

1-5. 出産・育児中の働き方

問4-1. 出産経験の有無

	回答件数	%
はい	4,690	52.5
いいえ	4,238	47.5
総数	8,928	100.0

問4-2. 産前・産後休業取得の有無

	回答件数	%
取得した	4,148	88.4
取得しなかった	542	11.6
該当者	4,690	100.0

問4-3. 産前・産後休業取得状況

	回答件数	%
完全に取得した	3,138	75.7
一部取得した	1,010	24.3
該当者	4,148	100.0

問4-4. 産前・産後休業中の身分保障

	回答件数	%
あった	3,004	72.4
なかった	668	16.1
わからない	476	11.5
該当者	4,148	100.0

問4-5. 産前・産後休業中の給与支給

	回答件数	%
はい	2,900	69.9
いいえ	1,248	30.1
該当者	4,148	100.0

問4-6. 産前・産後休業を取得しなかった理由 (複数回答)

	回答件数	%
制度がなかったため	166	30.6
代わりの医師がいないため	94	17.3
職場で取得しづらい雰囲気があるため	89	16.4
家族の協力があつたため	33	6.1
収入がなくなる(少なくなる)ため	31	5.7
その他	277	51.1
該当者	542	100.0

問4-6. 産前・産後休業を取得しなかった理由
「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
学生・大学院生・研修医・留学中だったから	71
退職したから(退職理由の記載がないもの)	69
そのとき仕事をしていなかったから	44
勤務先や制度の都合で(勤務期間の条件に適合しないなど)	19
非常勤・パートだったから	12
キャリアのため、勤務を希望したから	12
転居したから、家族の都合に合わせて退職したから	7
体調不良などで現職復帰が難しく退職したから	6
その他	29

【問 4-1 で出産経験があると答えた 4,690 人に】

問4-7. 産前・産後休業を取得しなかった医師の勤務状況

	回答件数	%
現在の職場を継続した	158	29.2
一時休職した	82	15.1
退職した	209	38.6
その他	93	17.2
該当者	542	100.0

→ 問4-7. 産前・産後休業を取得しなかった医師の勤務状況
「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
そのとき仕事をしていなかった、就職を延期した	22
学生・大学院生・留学中だった	14
非常勤で勤務した、勤務軽減をした	9
休学・欠席した	9
勤務を継続した	8
学業や研究を継続した	6
短い期間の休暇を取った、制度外で欠勤した	5
転職・異動した	3
その他	7

問 4-8. 育児休業取得の有無

	回答件数	%
はい	3,289	70.1
いいえ	1,401	29.9
該当者	4,690	100.0

問4-8. 育児休業の取得期間 (自由回答)

内容	回答件数
1ヵ月未満	35
1～2ヵ月	276
3～4ヶ月	426
5～6ヶ月	694
7～12ヶ月	1,362
13ヶ月～1年6ヵ月	85
1年7ヵ月～2年	38
2年を超える期間	28
わからない・いろいろ	2
その他	75

問4-9. 育児休業中の身分保障

	回答件数	%
あった	2,422	73.6
なかった	474	14.4
わからない	393	11.9
該当者	3,289	100.0

問4-10. 育児休業中の給与支給

	回答件数	%
はい	1,888	57.4
いいえ	1,401	42.6
該当者	3,289	100.0

【問4-8で育児休業を取得しなかったと答えた1,401人に】

問4-11. 育児休業を取得しなかった理由

(複数回答)

	回答件数	%
制度がなかったため	483	34.5
代わりの医師がいないため	357	25.5
職場で取得しづらい雰囲気があるため	282	20.2
家族の協力があつたため	219	15.7
収入がなくなる(少なくなる)ため	178	12.7
その他	489	35.0
該当者	1,399	100.0

→

問4-11. 育児休業を取得しなかった理由

「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
勤務を希望したから(キャリアのため・患者のためなど)	94
退職したから(退職理由の記載がないもの)	93
学生・大学院生・研修医・留学中だったから	75
勤務先や制度の都合で(勤務期間の条件に適合しないなど)	67
そのとき仕事をしていなかったから	60
転居したから、家族の都合に合わせて退職したから	16
非常勤・パートだったから	14
勤務継続できる職場環境・育児環境だったから	13
保育園に入れなくなるから	8
体調不良などで現職復帰が難しく退職したから	1
その他	25

問4-12. 育児休業を取得しなかった医師の勤務状況

	回答件数	%
現在の職場を継続した	736	52.6
一時休職した	144	10.3
退職した	355	25.4
その他	164	11.7
該当者	1,399	100.0

→

問4-12. 育児休業を取得しなかった医師の勤務状況

「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
非常勤で勤務した、勤務軽減をした	28
勤務を継続した	26
学生・大学院生・留学中だった	24
そのとき仕事をしていなかった、就職を延期した	20
転職・異動した	18
学業や研究を継続した	7
休学・欠席した	5
その他	18

【問4-1で出産経験があると答えた4,690人に】

問4-13. 普段子どもの面倒を見ている人

(複数回答)

	回答件数	%
自分	4,052	86.9
配偶者・パートナー	2,692	57.7
保育所または託児所	2,579	55.3
親・親族	1,645	35.3
学校	1,612	34.6
幼稚園	584	12.5
ベビーシッター	313	6.7
ハウスキーパー・家政婦	75	1.6
友人・知人	34	0.7
その他	240	5.1
該当者	4,662	100.0

問4-14. 利用している保育施設

(複数回答)

	回答件数	%
認可保育所	2,240	47.8
院内保育所	789	16.8
無認可保育施設	467	10.0
自治体独自の認可保育所	175	3.7
その他	180	3.8
利用していない	1,384	29.5
該当者	4,690	100.0

問4-15. 院内保育所利用経験の有無

	回答件数	%
ある	2,355	50.2
職場に院内保育所はある(あった)が利用したことはない	1,084	23.1
職場に院内保育所はない(なかった)	1,251	26.7
該当者	4,690	100.0

問4-16. 院内保育所を利用しない理由

(複数回答)

	回答件数	%
施設までの送迎の負担が大きい	397	36.6
施設の設備がニーズに合わない(屋内スペースや園庭が狭いなど)	290	26.8
定員枠が少ない	158	14.6
施設の保育プログラムがニーズに合わない	145	13.4
保育時間と勤務時間が合わない	113	10.4
利用制限がある	107	9.9
その他	340	31.4
該当者	1,084	100.0

問4-16. 院内保育所を利用しない理由

「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
勤務先が家から遠いから、家の近くに預けたほうが便利だから	62
他の施設に入所できたから、すでに預けていたから	58
家族が子どもを見ていたから	32
転勤・転職のときに退園しなければならないから	29
院内保育所がよくなかった(給食がない・料金が高等いなど)	29
年齢制限があるから、きょうだいで入所できないから	24
必要がなかったから	22
入所できなかったから(定員・親の職種など)	14
その他	59

【問 4-1 で出産経験があると答えた 4,690 人に】

問4-17. 病気や予定外の保育が必要な時の対応

(複数回答)

	回答件数	%
あずける	4,162	88.8
その日の勤務を断り、休暇を取る	2,562	54.7
その他	188	4.0
該当者	4,687	100.0

問4-17. 病気や予定外の保育が必要な時のあずけ先

(複数回答)

	回答件数	%
親・親族	2,805	67.4
配偶者・パートナー	1,853	44.5
ベビーシッター	531	12.8
友人・知人	59	1.4
その他	1,105	26.5
該当者	4,162	100.0

問4-17. 病気や予定外の保育が必要な時のあずけ先
「その他」の具体的な回答内容

内容	回答件数
病児保育、病後児保育	1,042
ファミリーサポート、地域の子育て支援	26
院内保育所	14
保育所、託児所	9
家政婦、お手伝いさん、シッター	9
一時保育	2
職場につれていく	2
その他	3

問4-18. 緊急呼び出しの時の対応

(複数回答)

	回答件数	%
あずける	3,264	69.6
断る、または他の医師に依頼する	1,256	26.8
その他	388	8.3
緊急呼び出しはない	850	18.1
該当者	4,687	100.0

問4-18. 緊急呼び出しの時のあずけ先

(複数回答)

	回答件数	%
配偶者・パートナー	2,410	73.8
親・親族	1,936	59.3
ベビーシッター	224	6.9
友人・知人	66	2.0
その他	74	2.3
該当者	3,264	100.0

問4-19. 学会、出張、日直、当直の時に子どもを見てくれる人

(複数回答)

	回答件数	%
配偶者・パートナー	3,670	78.3
親・親族	2,758	58.8
保育園・託児所	1,037	22.1
ベビーシッター	300	6.4
友人・知人	45	1.0
その他	386	8.2
該当者	4,689	100.0

【問 4-1 で出産経験があると答えた 4,690 人に】

問4-20. 学童保育の利用状況

	回答件数	%
利用している	1,964	41.9
利用していない	2,726	58.1
該当者	4,690	100.0

問4-21. 保育施設や学校の行事への参加状況 (1) 自分

	回答件数	%
いつも・ほとんど参加	2,988	63.7
ときどき参加	1,539	32.8
不参加	163	3.5
該当者	4,690	100.0

問4-21. 保育施設や学校の行事への参加状況 (2) 配偶者・パートナー

	回答件数	%
いつも・ほとんど参加	1,043	22.2
ときどき参加	2,612	55.7
不参加	824	17.6
該当の方はいなかった	211	4.5
該当者	4,690	100.0

問4-21. 保育施設や学校の行事への参加状況 (3) 親 (児の祖父母)

	回答件数	%
いつも・ほとんど参加	248	5.3
ときどき参加	2,248	47.9
不参加	2,009	42.8
該当の方はいなかった	185	3.9
該当者	4,690	100.0

【問 4-1 で出産経験があると答えた 4,690 人に】

問4-22. 子育て中の実際の働き方

(複数回答)

	回答件数	%
業務内容軽減	1,885	40.2
短時間勤務	1,451	31.0
変化なし(通常勤務)	1,341	28.6
日数減	859	18.3
研究生・見学生・大学院	485	10.3
休職・辞職	412	8.8
その他	192	4.1
該当者	4,687	100.0

問4-22. 子育て中の実際の働き方

「業務内容軽減」の具体的な回答内容

内容	回答件数
当直の免除・軽減	1,505
オンコール・呼び出しの免除・軽減	268
時間外勤務や早出・居残りの免除・軽減	196
休日出勤の免除・軽減	42
主治医業務や病棟業務の免除・軽減	36
日勤のみの勤務、夜勤の免除・軽減	32
当番の免除・軽減	26
柔軟な勤務体系、休みの取りやすさ	22
部署・病院の変更	19
外来のみないし中心の勤務	12
非常勤・パートでの勤務	7
その他	44

→ 問4-22. 子育て中の実際の働き方(短時間勤務時の勤務時間数)

	回答件数	%
1日3時間以下	23	1.8
1日4時間	98	7.7
1日5時間	135	10.6
1日6時間	433	34.1
1日7時間	430	33.9
1日8時間以上	149	11.8
該当者	1,268	100.0

→ 問4-22. 子育て中の実際の働き方(日数減時の勤務日数)

	回答件数	%
週1日	12	1.5
週2日	56	7.1
週3日	290	36.8
週4日	388	49.2
週5日	40	5.1
週6日	2	0.3
該当者	788	100.0

【問 4-1 で出産経験があると答えた 4,690 人に】

問4-23. 子育て中の希望の働き方

(複数回答)

	回答件数	%
業務内容軽減	2,201	46.9
短時間勤務	1,924	41.0
日数減	1,209	25.8
変化なし(通常勤務)	1,043	22.2
研究生・見学生・大学院	250	5.3
休職・辞職	200	4.3
その他	215	4.6
該当者	4,689	100.0

問4-23. 子育て中の希望の働き方

「業務内容軽減」の具体的な回答内容

内容	回答件数
当直の免除・軽減	1,484
オンコール・呼び出しの免除・軽減	305
時間外や早出・居残りの免除・軽減	235
休日出勤の免除・軽減	55
主治医業務や病棟業務の免除・軽減	37
日勤のみの勤務、夜勤の免除・軽減	27
柔軟な勤務体系、休みの取りやすさ	24
当番の免除・軽減	21
外来のみないし中心の勤務	7
部署・病院の変更	3
その他	41

→ 問4-23. 子育て中の希望の働き方(短時間勤務時の勤務時間数)

	回答件数	%
1日3時間以下	33	2.2
1日4時間	147	9.9
1日5時間	183	12.3
1日6時間	684	46.1
1日7時間	328	22.1
1日8時間以上	108	7.3
該当者	1,483	100.0

→ 問4-23. 子育て中の希望の働き方(日数減時の勤務日数)

	回答件数	%
週1日	7	0.7
週2日	39	4.0
週3日	396	40.7
週4日	494	50.7
週5日	36	3.7
週6日	2	0.2
該当者	974	100.0

1-6. 介護中の勤務環境

問5-1. 介護経験の有無

	回答件数	%
はい	1,108	12.4
いいえ	7,820	87.6
総数	8,928	100.0

問5-2. 介護の際に身の回りの世話を主にしている人

	回答件数	%
自分	374	33.8
自分以外の身内	415	37.5
自分・身内以外（訪問介護、施設介護など）	319	28.8
該当者	1,108	100.0

問5-3. 介護の際の休暇取得経験

（複数回答）

	回答件数	%
取得した（有給休暇）	274	24.7
取得した（介護休暇）	89	8.0
取得しなかった	786	70.9
該当者	1,108	100.0

問5-4. 介護休業中の身分保障

	回答件数	%
ある	327	29.5
ない	157	14.2
わからない	624	56.3
該当者	1,108	100.0

問5-5. 介護休業中の給与支給

	回答件数	%
はい	256	23.1
いいえ	157	14.2
わからない	695	62.7
該当者	1,108	100.0

問5-6. 仕事と介護の両立を図る支援対策

（複数回答）

	回答件数	%
人員（医師）の増員	5,587	62.6
老人保健施設・特別養護老人ホームなど介護施設の増設・増床	5,549	62.2
宿直・日直の免除	4,413	49.4
複数主治医制度の導入など主治医制の見直し	4,369	48.9
時間外勤務の免除	4,128	46.2
フレックス制度導入	4,008	44.9
代替医師の配置（代診医師派遣制度の導入）	3,066	34.3
短時間正職員制度の導入・拡充	2,821	31.6
家事代行サービス利用者に対する費用の助成	2,713	30.4
介護休暇取得者の職場復帰支援	2,510	28.1
働きやすい部門への配置転換	2,032	22.8
介護報酬の引き上げ、社会保障費の増額	1,831	20.5
在宅研修制度（通信教育、eラーニング）	1,330	14.9
二交代制の勤務体制	1,053	11.8
その他	195	2.2
総数	8,928	100.0

1-7. 男女共同参画

問6-1. 医療現場の男女共同参画の進捗度

	回答件数	%
遅れている	2,383	26.7
少し遅れている	2,471	27.7
どちらでもない	2,621	29.4
少し進んでいる	1,144	12.8
進んでいる	309	3.5
総数	8,928	100.0

問6-2. 男女共同参画を進めるために必要なこと

(自由回答)

内容	回答件数
医師の人員増、性別・子供の有無に関わらず待遇改善（労働時間や給与、休暇など）、サポート側への補償	1,414
男女の相互理解や上司の意識改革	1,323
男性の家事・育児参加の推進（育児休暇取得・残業調整など）	811
出産・育児と仕事の両立をサポートする仕組み（保育サービス・キャリア支援など）	558
多様な働き方や柔軟な働き方を可能にする制度（フレックス・シフト制・複数主治医制など）	513
女性や育児経験者の管理職を増やす	262
女性側の意識改革、仕事への意欲	87
男女で区別しない、機会を平等にする	78
学校教育	60
すでに共同参画は進んでいるのでこれ以上必要ない	54
男女共同参画の実現は無理、あきらめている	45
女性医師を増やす	26
その他	365
特になし・わからない	220

1-8. 女性医師バンクについて

問7-1. 女性医師バンクの認知度

	回答件数	%
知っている	2,592	29.1
知らない	6,304	70.9
総数	8,896	100.0

問7-2. 女性医師バンクは求職・求人ともに手数料無料であることの認知度

	回答件数	%
知っている	1,081	41.7
知らない	1,511	58.3
該当者	2,592	100.0

問7-3. 女性医師バンクへの登録の有無

	回答件数	%
している	228	8.8
していない	2,364	91.2
該当者	2,592	100.0

問7-4. 今後女性医師バンクへの登録を検討するか

	回答件数	%
はい	1,139	48.2
いいえ	1,224	51.8
該当者	2,363	100.0

問7-5. 女性医師バンクへの登録を考えた理由

(自由回答)

内容	回答件数
必要ないから、困っていないから	324
現在に満足しているから、転職するつもりがないから	173
よくわからないから、周りに利用している人がいないから	71
医局に所属しているため	61
女性限定がよくないから、育児や介護をしていないから（済んでいるから）	60
年齢のため、引退を考えているため	54
自分で探すから、つてがあるから、他社でいいから	50
希望に合わないから（専門・キャリア・条件など）、就職後が心配だから	39
これ以上仕事を増やせないから（協力できないから）	25
地方では有効でないと思うから	14
開業予定だから、家を手伝っているから	12
今後考える	12
面倒だから、時間がないから	11
医師会員ではないから・医師会費が高いから	10
役職についているから	6
特にない、わからない	13
その他	30

1-9. 医師会の活動について

問8-1. 医師会加入の有無

	回答件数	%
はい	3,550	39.9
いいえ	5,338	60.1
該当者	8,888	100.0

問8-2. 医師会加入状況

	回答件数	%
郡市区医師会まで	878	24.8
都道府県医師会まで	1,208	34.1
日本医師会まで	1,461	41.2
該当者	3,547	100.0

問8-3. 医師会未加入の理由

(複数回答)

	回答件数	%
関心がない	2,494	46.7
開業医の団体であると思うから	2,211	41.4
会費が高い	1,881	35.2
メリットがない	1,821	34.1
政治的圧力団体であると思うから	257	4.8
その他	282	5.3
該当者	5,337	100.0

問8-4. どんなことに取り組む医師会なら入会しようと思うか

(自由回答)

内容	回答件数
勤務医ないし医師全体のためになる取り組み	388
勤務環境改善や待遇改善の取り組み、ハラスメントへの対応	376
メリットがあれば、必要になれば、なんらかのサポートが得られるなら	292
会費が安ければ	228
育児支援、介護支援、女性支援	204
入ろうと思わない、関心がない	145
勉強・研修の機会づくり、復職・キャリア支援（専門医取得支援を含む）	130
制度の適正化や改革（診療報酬・専門医制度など）	118
転職支援、就業支援	87
そもそもどういう団体かがわからない	80
情報提供、情報交換や交流の機会	71
地域連携、地域での交流、地域格差の解消	55
会員の福利厚生（保険・年金・身分保障など）	45
勤務状況が変わったら入る、いつか入る	24
医療の質の向上・患者の立場に立った取り組み	21
訴訟のときに医師を守る活動	17
社会への啓発	17
若手が参加しやすい環境	17
特にない・わからない	362
その他	199

問8-5. 医師会の行う催しや活動への参加の有無

	回答件数	%
はい	1,218	13.7
いいえ	7,656	86.3
総数	8,874	100.0

問8-6. 参加している催しや活動

(複数回答)

	回答件数	%
講演会	929	76.5
生涯教育	416	34.2
産業医	340	28.0
委員会など	159	13.1
健診業務	135	11.1
校医・園医	110	9.1
文化活動	74	6.1
医師会役員	72	5.9
その他	68	5.6
該当者	1,215	100.0

問8-7. 医師会の催しや活動に参加していない理由

(複数回答)

	回答件数	%
関心がない	4,385	57.3
時間がない	4,280	56.0
メリットがない	1,553	20.3
なんとなく嫌だ	555	7.3
その他	439	5.7
該当者	7,649	100.0

問8-8. 医師会の催しや活動への参加意向

	回答件数	%
はい	1,442	18.9
いいえ	6,203	81.1
該当者	7,645	100.0

1-10. 提案・意見

【提案・意見】

(自由回答)

勤務環境に関する提案・意見

内容	回答件数
すべての医師が働きやすい環境づくりを望む (休業者や時短勤務者のカバーに回る医師の負担増への対応を望む、などを含む)	322
妊娠・出産・育児などとの両立支援や女性医師支援を望む	185
人事評価・給与体系・転勤・配置・昇進などに公平さを望む (産休や育休が実質取れない、大学病院の給与の改善、女性管理職が少ない、などを含む)	185
職場や医局・上司・同僚などの理解、およびそのための働きかけが重要 (現在理解がない、ハラスメントがある、などを含む)	177
キャリア形成機会・研修機会・復職支援の充実を望む (専門医制度の改善、e-learningや学会託児の推進、研修医・若手支援、などを含む)	138
業務量過多・長時間労働・人員不足の解消を望む	114
男性が積極的に家事・育児などに参加すること、そのための環境整備が重要	102
医療界または社会全体の意識や働き方の改善が重要	82
以前に比べて勤務環境はよくなっている	45
休みの取りつらさの解消を望む (複数主治医制・シフト制・フレックス・代診の整備、などを含む)	40
保険診療や医療費の制度改革を望む	40
介護(家族の病気や障がいを含む)との両立支援、介護施設の充実を望む	32
保育所・院内保育の充実を望む(増設・サービス向上・入所しやすくしてほしい、などを含む)	29
時短勤務者などとそうでない人の相互の理解や負担のわけあいが重要	24
妊活や不妊治療への理解および支援の充実を望む	22
病児保育の充実を望む、子どもが病気のときに困っている	22
地域格差の解消を望む	21
当直・オンコール・救急外来のあり方が問題になっている (当直明け勤務の問題、担当できる人が少ない、などを含む)	20
学童保育の充実を望む、小学校入学後の両立しづらさへの理解を望む	12
相談窓口や意見交換の場が欲しい	8
家事代行・家政婦・シッターの紹介や利用補助を望む	6
その他	273

アンケートに関する提案・意見

内容	回答件数
簡単なアンケートにしてほしい・答えづらい箇所がある	240
男性にもアンケートを取るべき、女性のみにアンケートを取ることに疑問	94
アンケートの実効性や意義に疑問	89
調査結果の公表や送付を望む、有効活用を望む	39
その他のアンケートに関する提案・意見	45

医師会に関する提案・意見

内容	回答件数
講習会・催し・情報提供について	34
女性医師バンクについて	11
その他の医師会に関する提案・意見	184

2. 過去調査との比較

過去調査と比較できる調査項目について、以下の通り比較した。なお、表中の「n」は各設問の回答者数を示しており、特に断りのない限り、無回答を除いた数値となっている。

2016 年度調査、2008 年度調査の設計

	2016 年度調査	2008 年度調査
調査方法	病院から医師に調査票を配布し、医師から直接返送してもらった。	2016 年度調査と同様
調査期間	2017 年 2 月～3 月	2008 年 12 月～2009 年 1 月
病院数	8,475 施設	8,880 施設
回収数	10,612 件（回収率※ 35.0%）	7,497 件（回収率※ 49.9%）
有効回答数	10,373 件（有効回答率※ 34.2%）	7,467 件（有効回答率※ 49.7%）
※回収率・有効回答率	病院より連絡のあった配布数の合計 30,323 から算出した。	病院より連絡のあった配布数の合計 15,010 から算出した。

2-1. 回答者の属性

図 1 年齢（時系列比較）

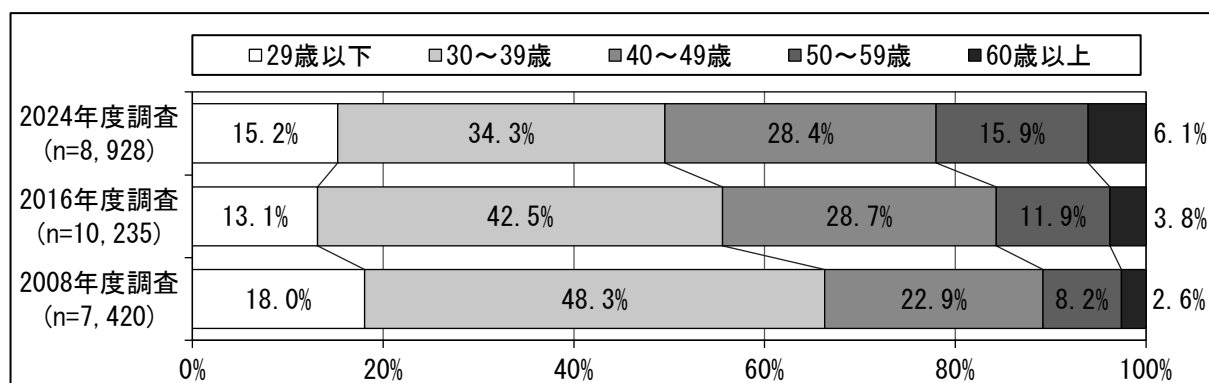
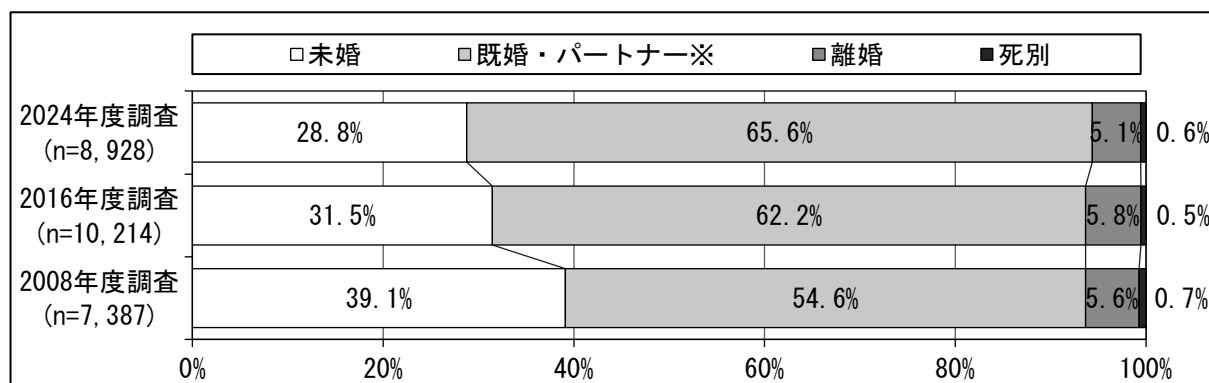


図 2 結婚（時系列比較）



※ 2016 年度、2008 年度調査は「既婚」だった。

図 3 配偶者・パートナーの職業（時系列比較）【結婚について既婚・離婚・死別と答えた方に】

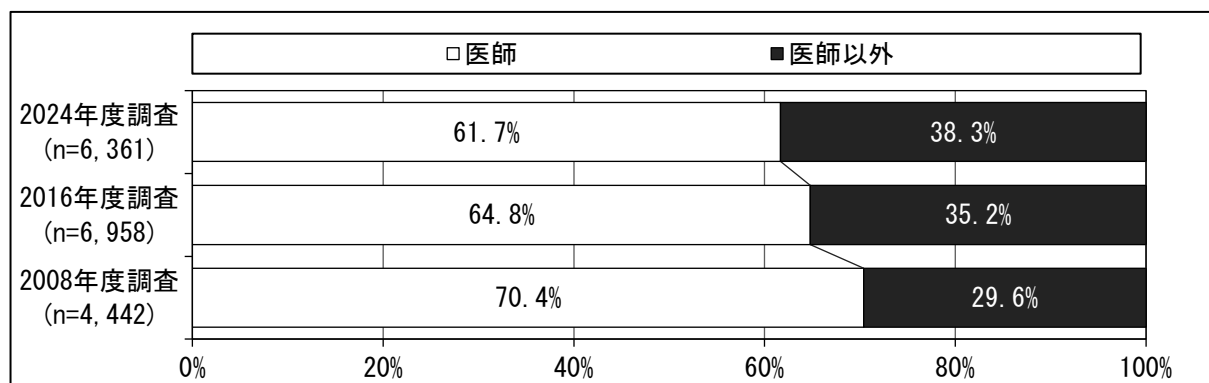
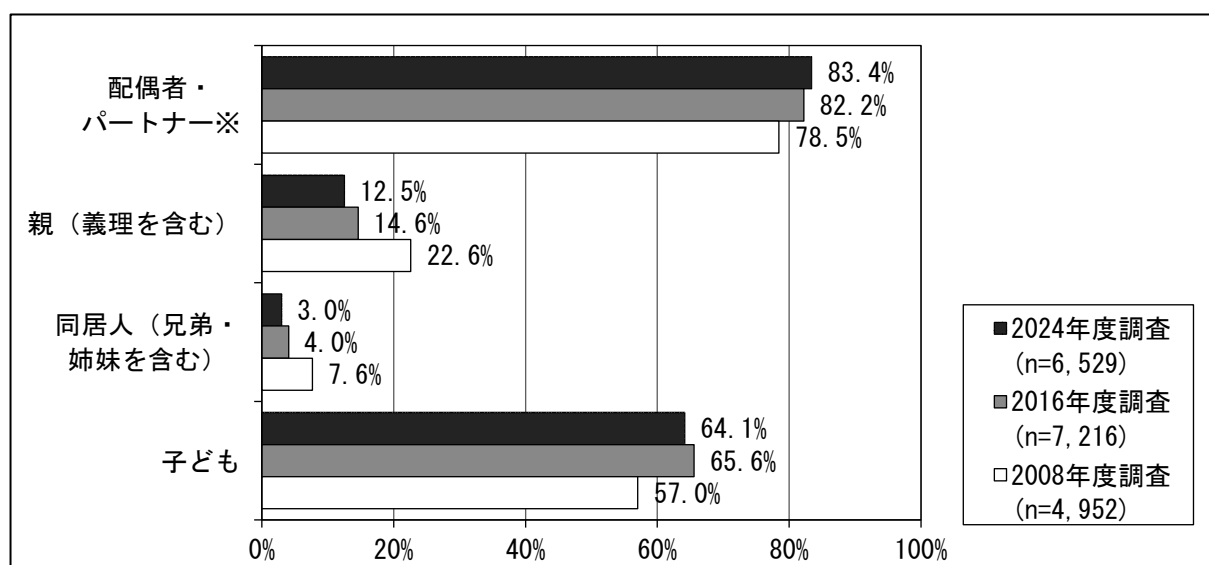
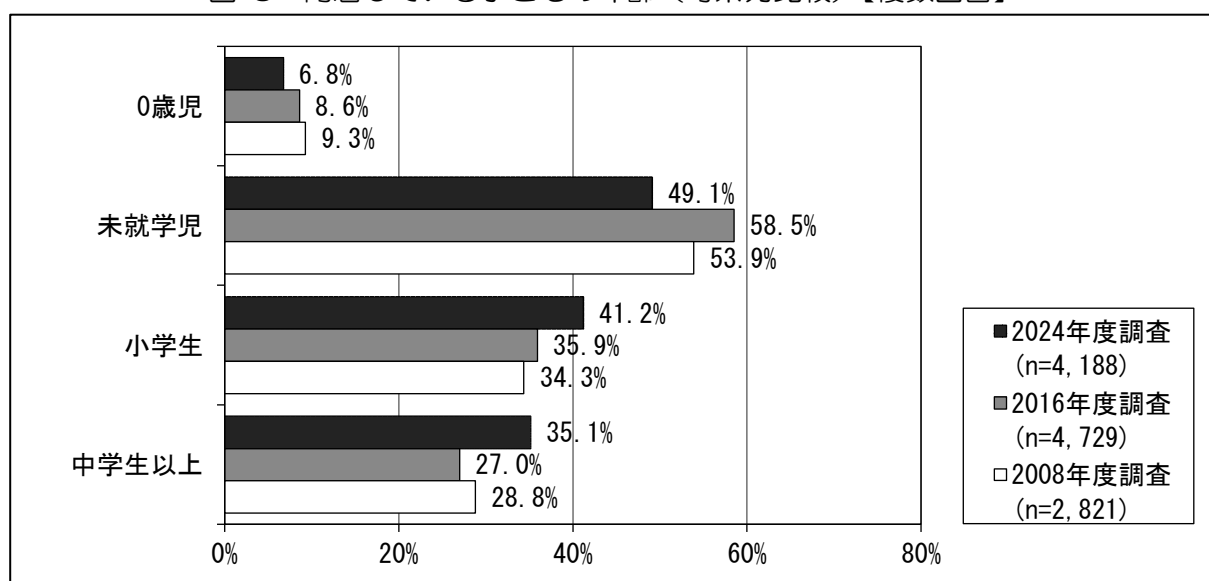


図 4 同居家族構成（時系列比較）【複数回答】



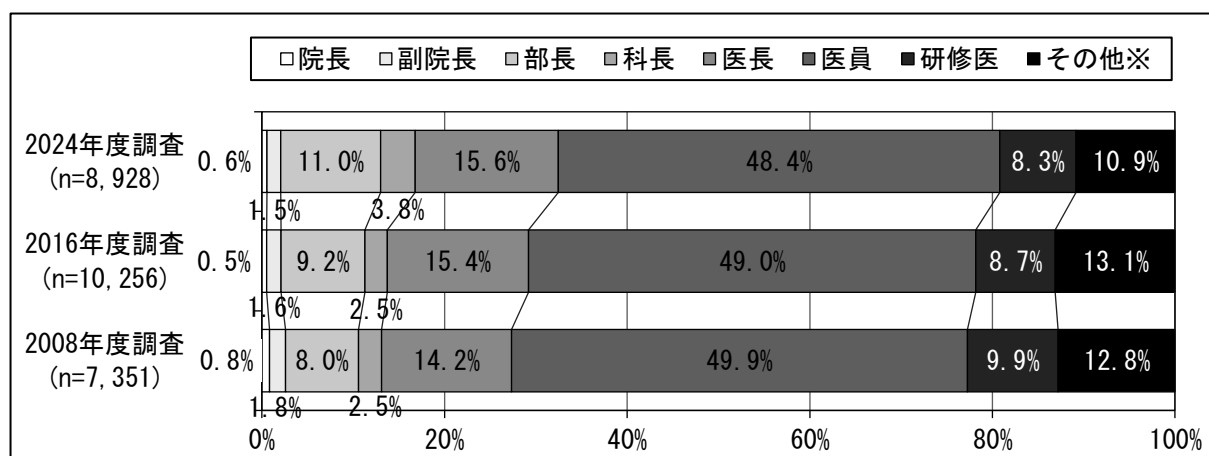
※ 2008 年度調査は「配偶者」だった。

図 5 同居している子どもの年齢（時系列比較）【複数回答】



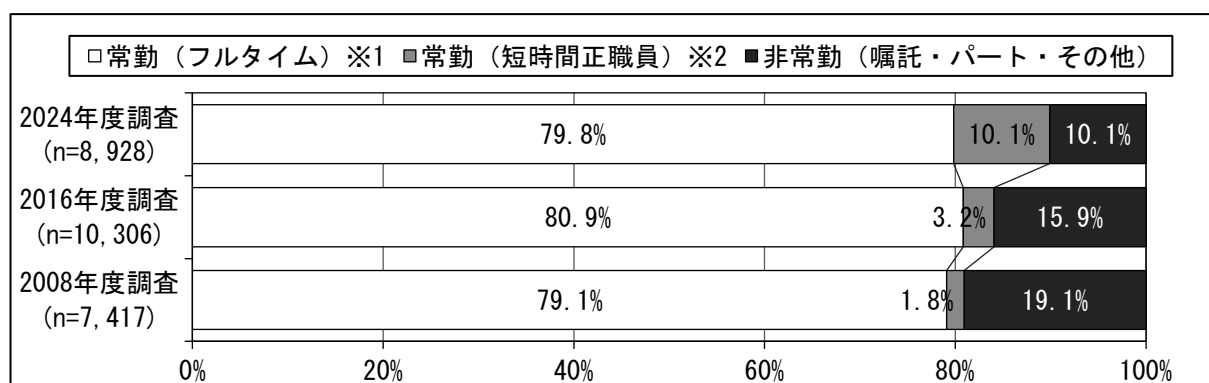
2-2. 女性医師の勤務実態

図 6 勤務先での役職（時系列比較）



※ その他の具体的な回答としては、「助教」（200件）、「副部長」（154件）、「非常勤」（138件）、「講師」（89件）などがあった。

図 7 勤務形態（時系列比較）

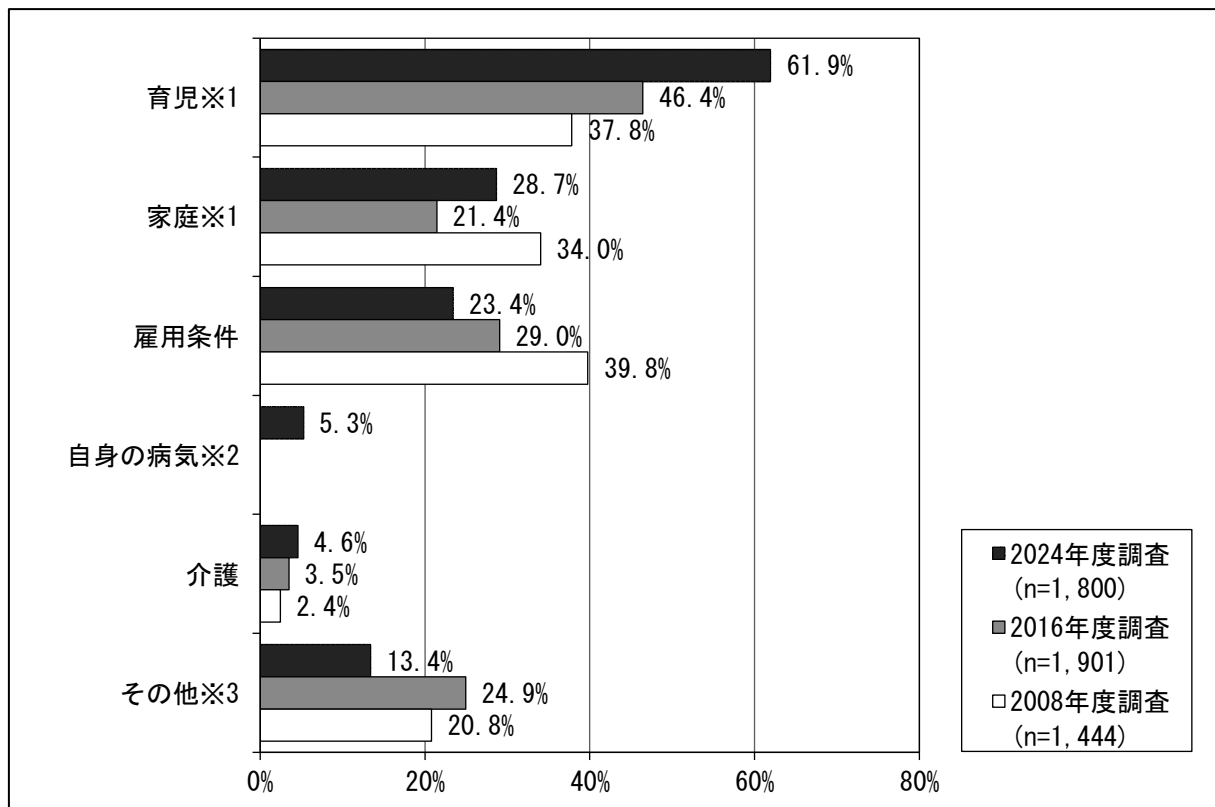


※1 2016年度、2008年度調査は「常勤」だった。

※2 2016年度、2008年度調査は「短時間正職員」だった。

図 8 勤務形態が常勤以外の理由（時系列比較）

【複数回答／勤務形態について非常勤または短時間正職員と答えた方に】



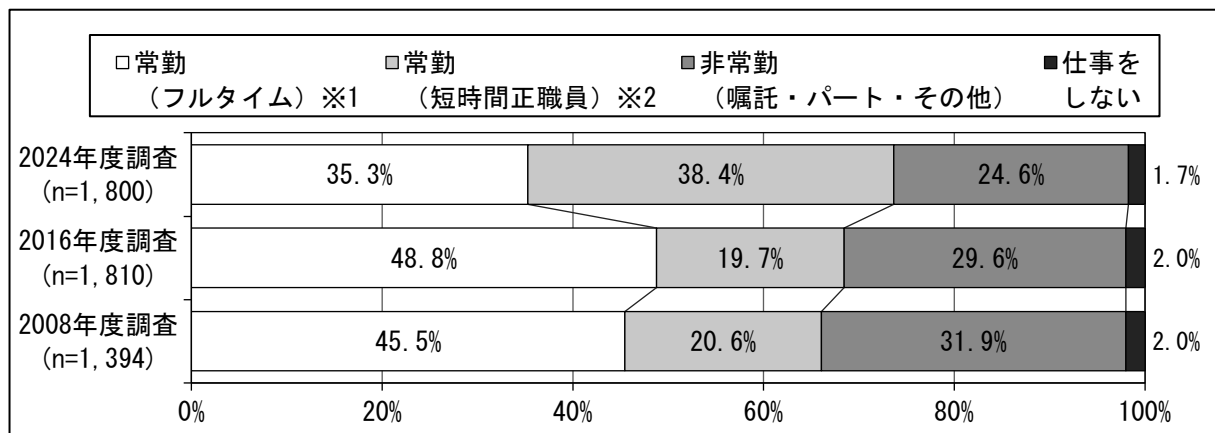
※1 2008 年度調査では選択肢に「家庭と育児」が設けられていたが、2024 年度、2016 年度調査と比較するため、その回答者を「育児」と「家庭」の複数を回答したとみなして算出した。

※2 2024 年度調査で新しく選択肢を追加した。

※3 その他の具体的な回答としては、「大学院生だから・研究を主としているから」（77 件）、「研修医・後期研修医だから」（30 件）などがあった。

図 9 将来希望する勤務形態（時系列比較）

【勤務形態について非常勤または短時間正職員と答えた方に】



※1 2016 年度、2008 年度調査は「常勤」だった。

※2 2016 年度、2008 年度調査は「短時間正職員」だった。

図 10 現在勤務している病院での勤務年数（時系列比較）

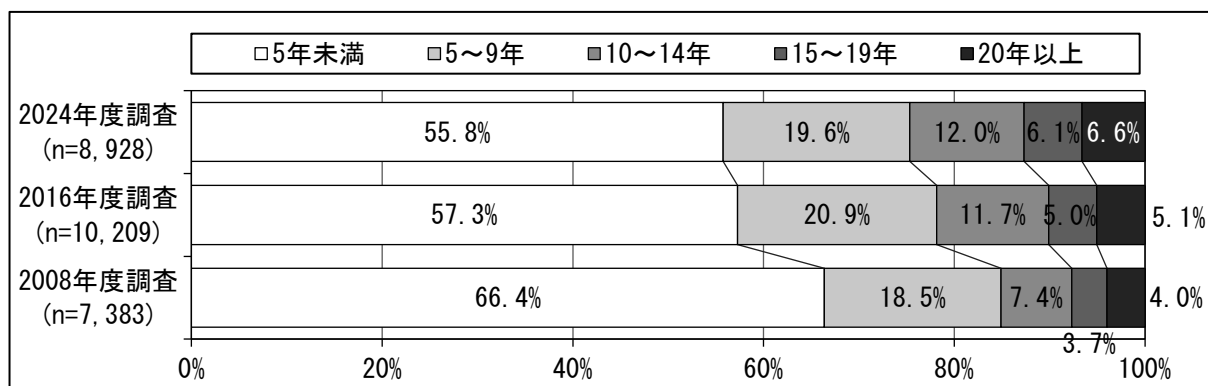


図 11 一週間の契約勤務時間と実勤務時間（時系列比較）

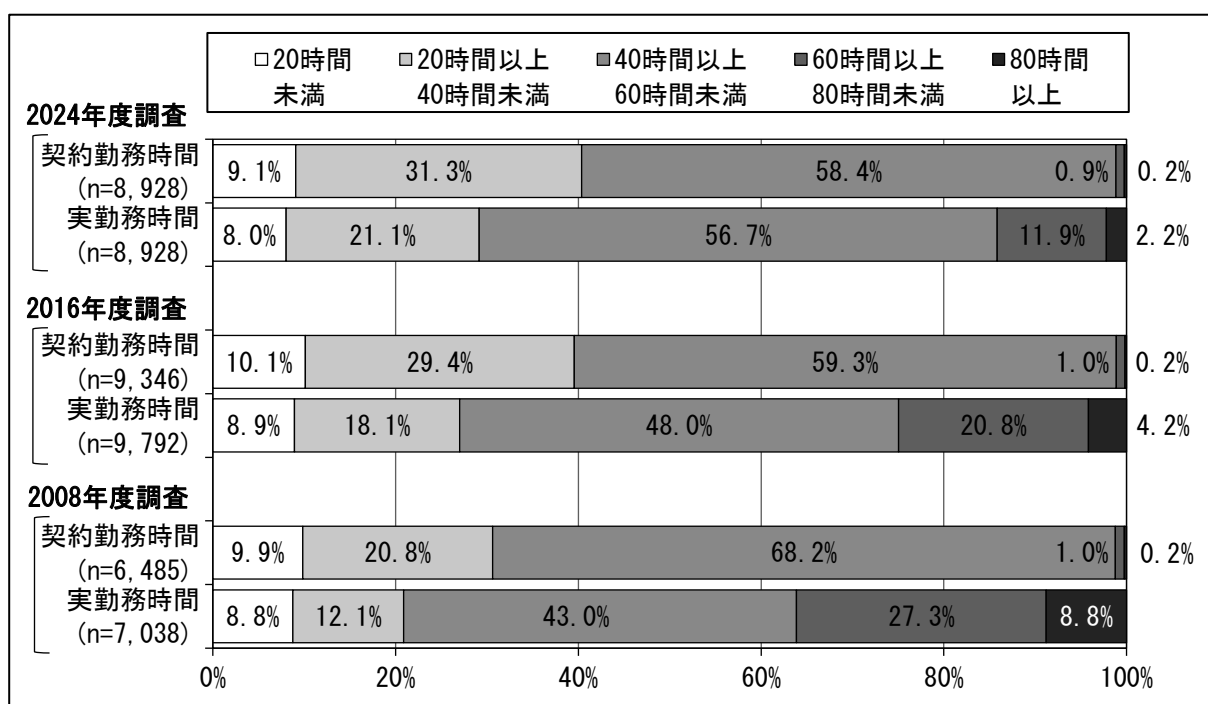


図 12 勤務状況（時系列比較）

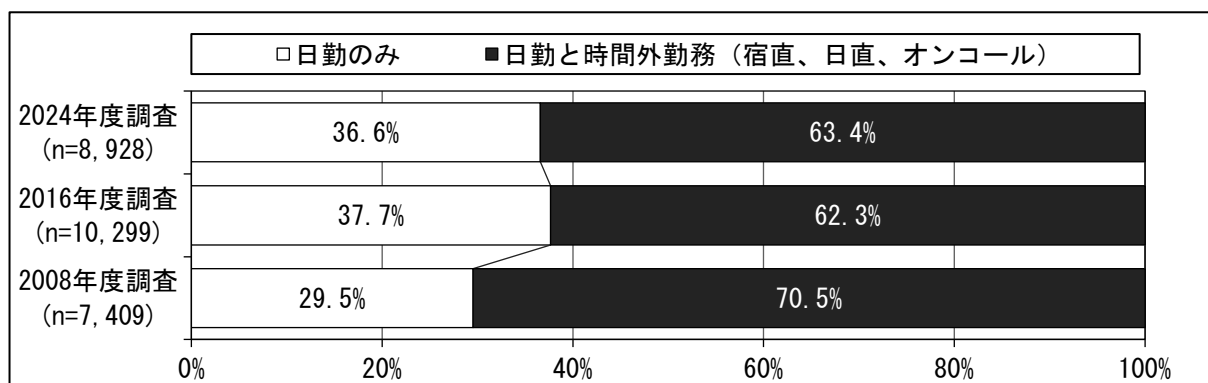
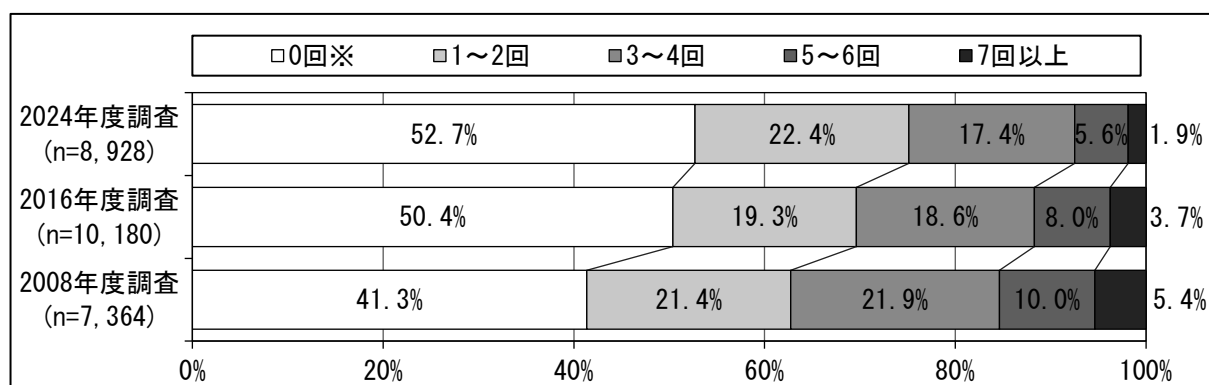


図 13 1カ月の宿直回数（時系列比較）



※ 2016 年度、2008 年度調査は「なし」だった。

2008 年度調査と比較するため、2024 年度、2016 年度調査の「0回」には、前問で勤務状況が「日勤のみ」と回答したためにこの質問の該当者にはいなかった人（2024 年度 3,266 人、2016 年度 3,879 人）も含めて集計した。

図 14 宿直翌日の勤務状況（時系列比較）【1カ月の宿直回数が1回以上と答えた方に】

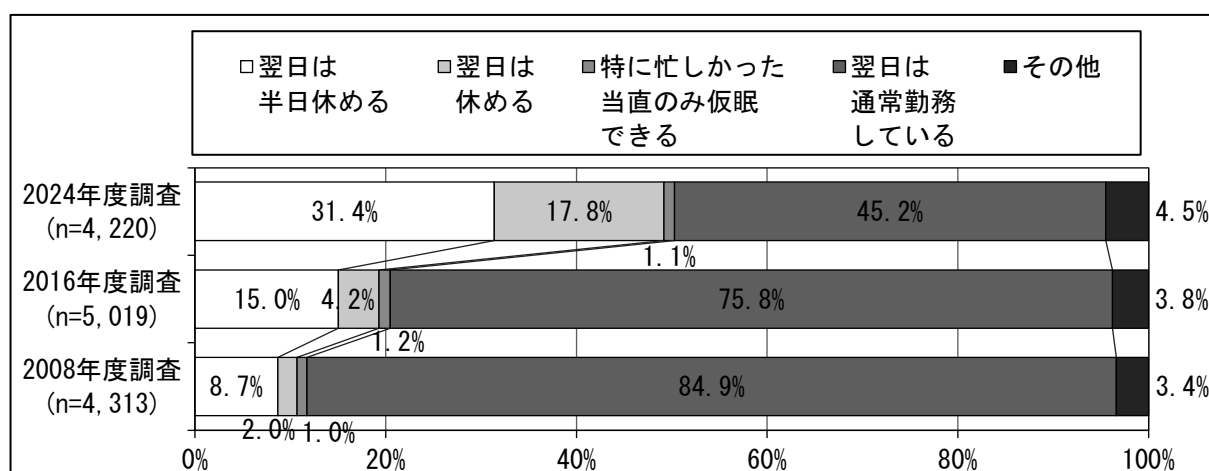
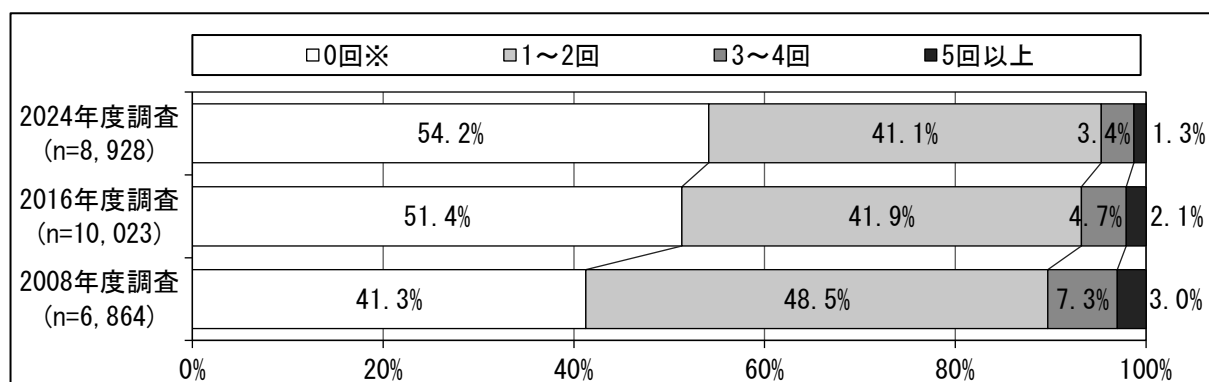


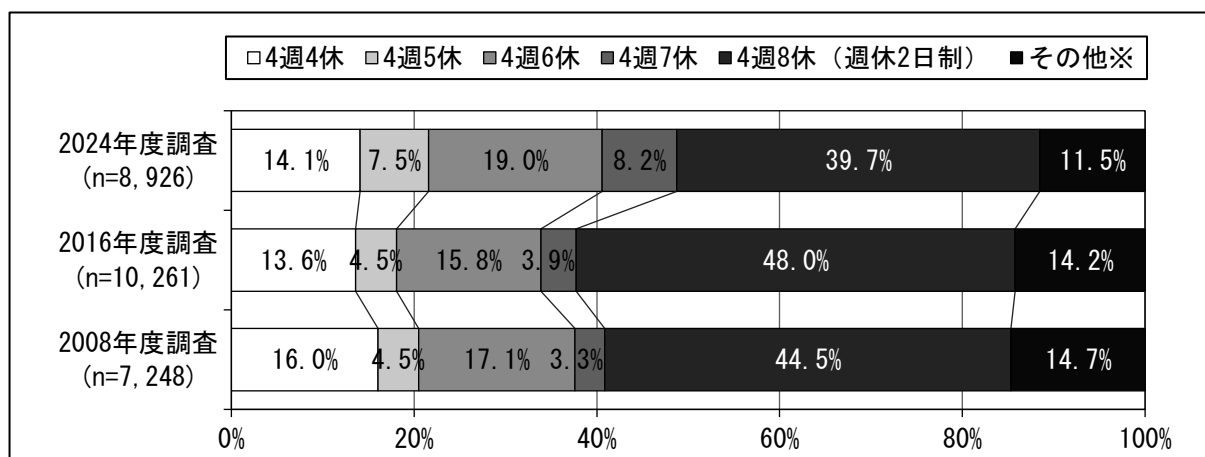
図 15 1カ月の日直回数（時系列比較）



※ 2016 年度、2008 年度調査は「なし」だった。

2008 年度調査と比較するため、2024 年度、2016 年度調査の「0回」には、前問で勤務状況が「日勤のみ」と回答したためにこの質問の該当者にはいなかった人（2024 年度 3,266 人、2016 年度 3,879 人）も含めて集計した。

図 16 1カ月の休日数（時系列比較）



※ その他の具体的な回答としては、「4週 1～3 休」（230 件）、「4 週 9～12 休」（404 件）、「4 週 13 休以上」（178 件）などがあった。

図 17 年次有給休暇の付与日数・年間消化日数（時系列比較）

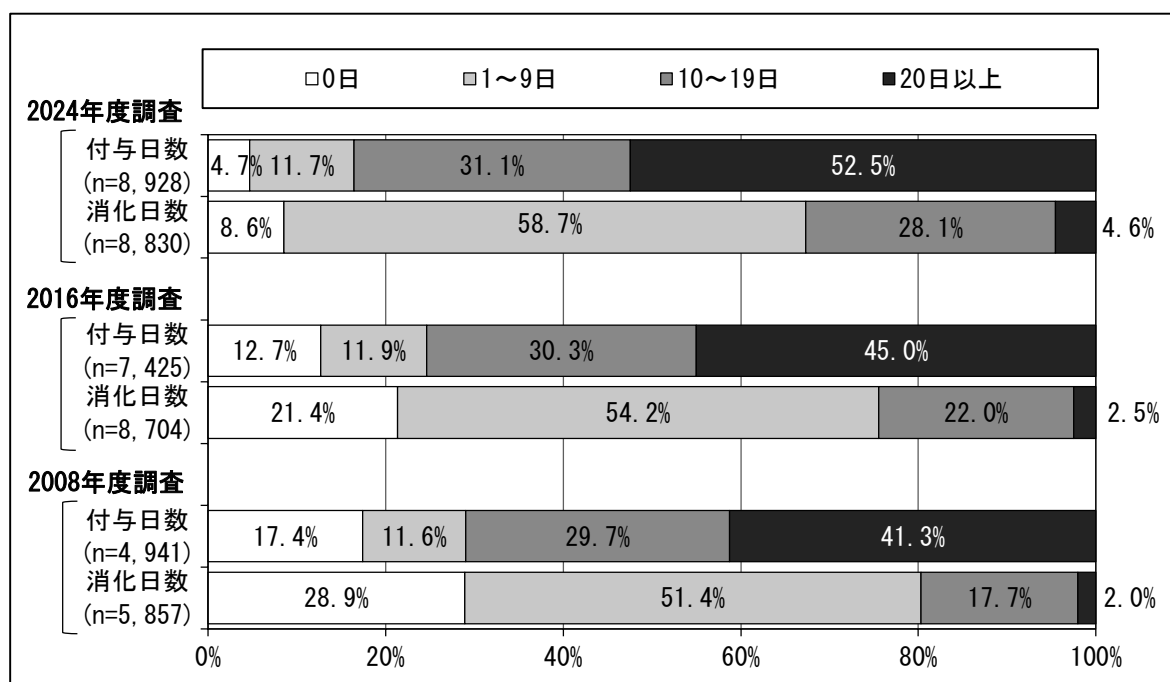


図 18 休職離職経験の有無（時系列比較）

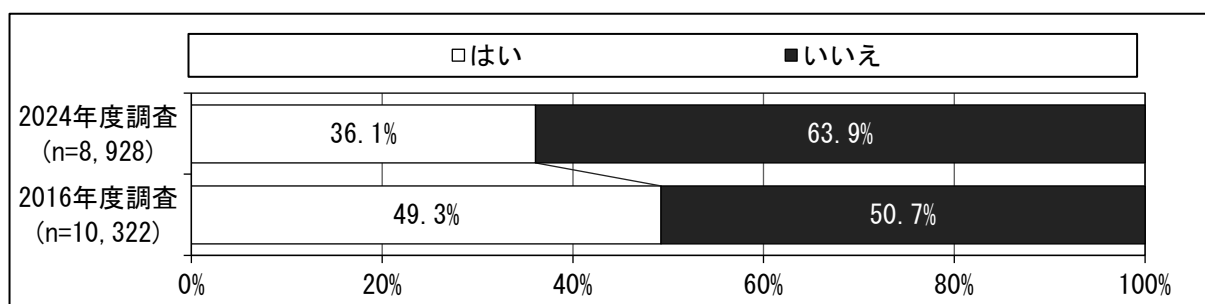
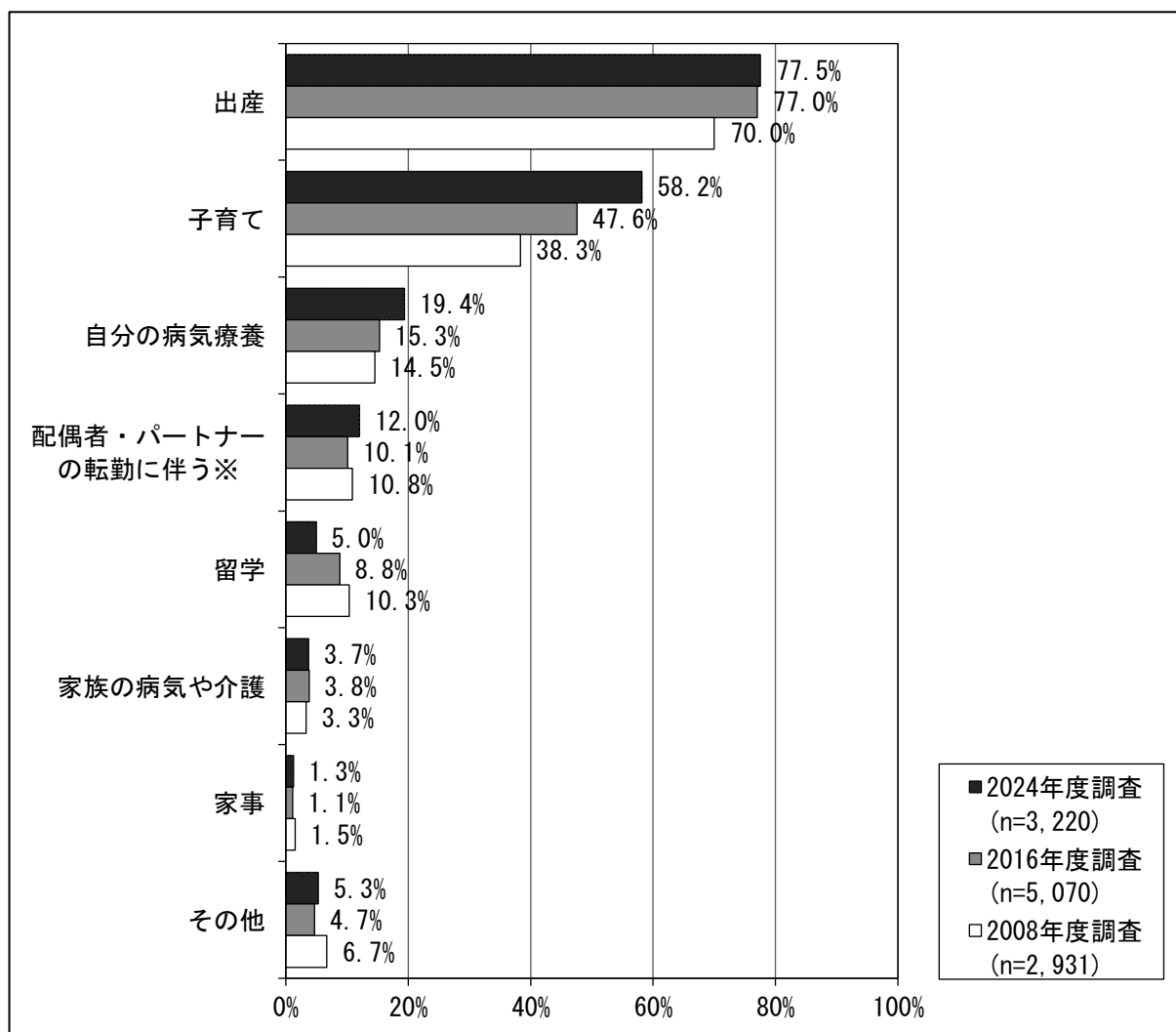
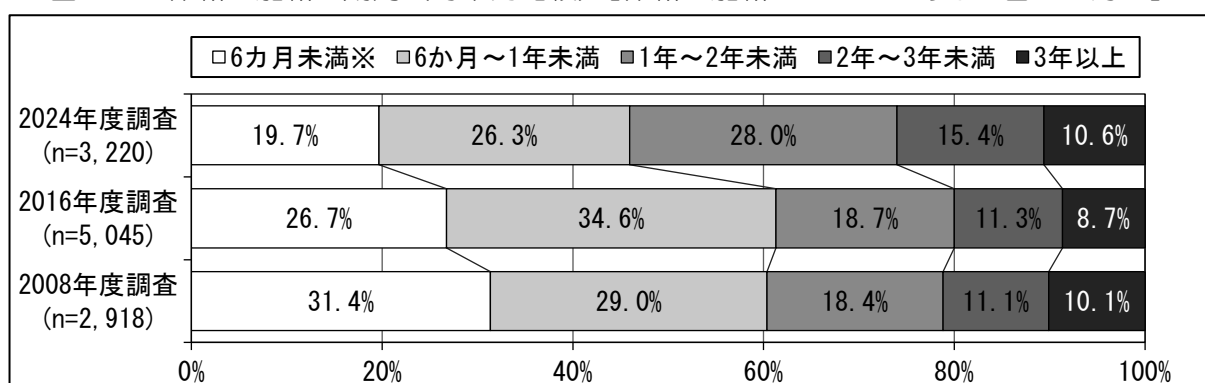


図 19 休職・離職の理由（時系列比較）【複数回答／休職・離職したことがあると答えた方に】



※ 2016 年度、2008 年度調査は「夫の転勤に伴う」だった。

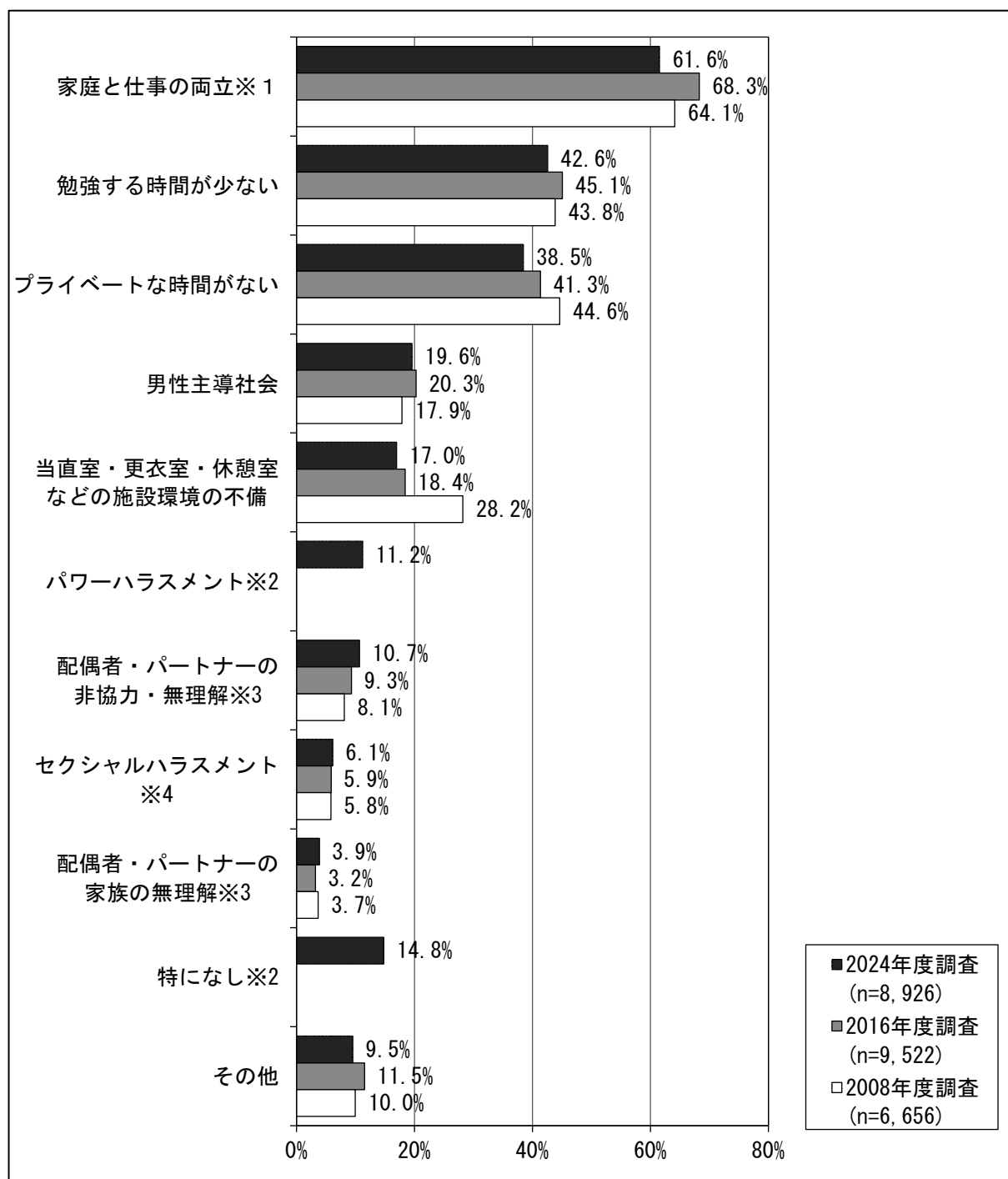
図 20 休職・離職の期間（時系列比較）【休職・離職したことがあると答えた方に】



※ 2016 年度、2008 年度調査は「1 カ月未満」「1～6 カ月未満」だった。

2-3. 女性医師の職場環境

図 21 女性医師としての悩み（時系列比較）【複数回答】



※1 2016年度、2008年度調査は「家事と仕事の両立」だった。

※2 2024年度調査で新しく選択肢を追加した。

※3 2016年度、2008年度調査は「配偶者・パートナーの～」を「配偶者の～」と尋ねた。

※4 2016年度、2008年度調査は「セクハラ」だった。

図 22 同性の医師に対して不満を感じること（時系列比較）

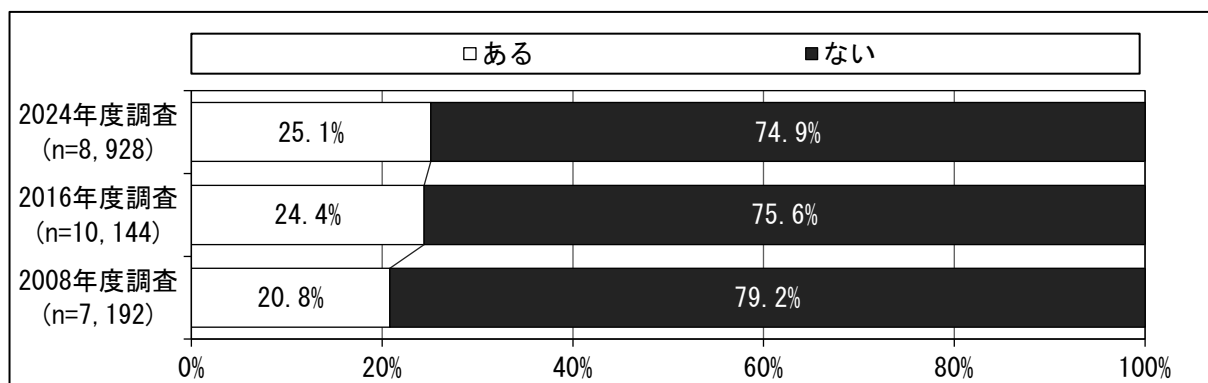


図 23 男性の医師に対して不満を感じること（時系列比較）

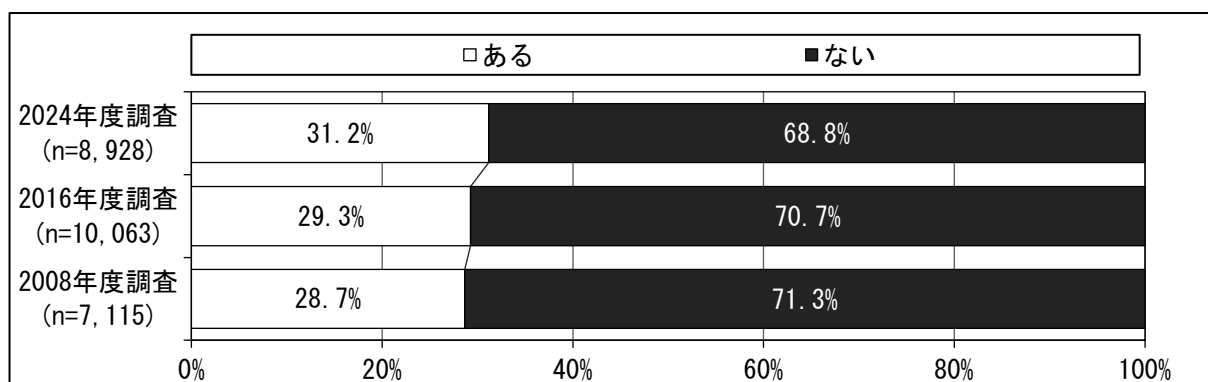
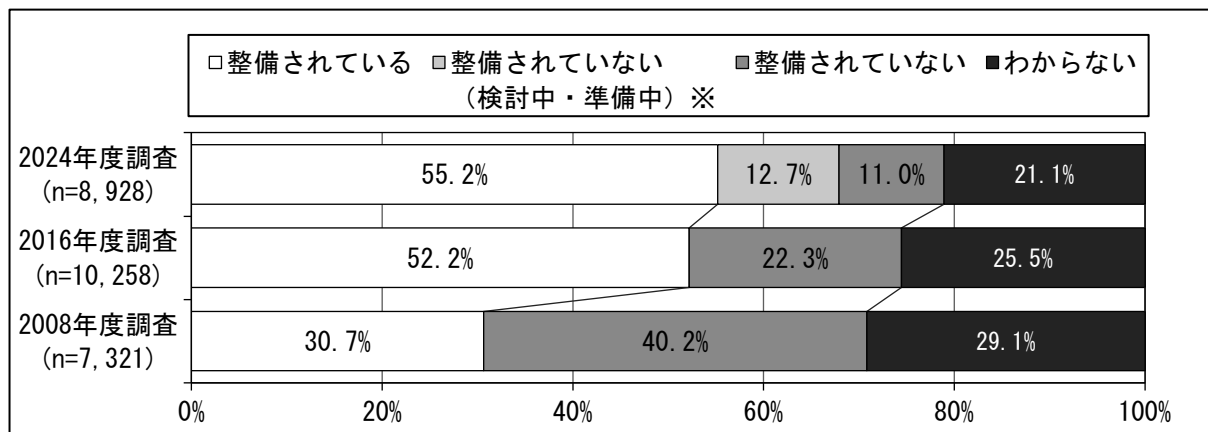
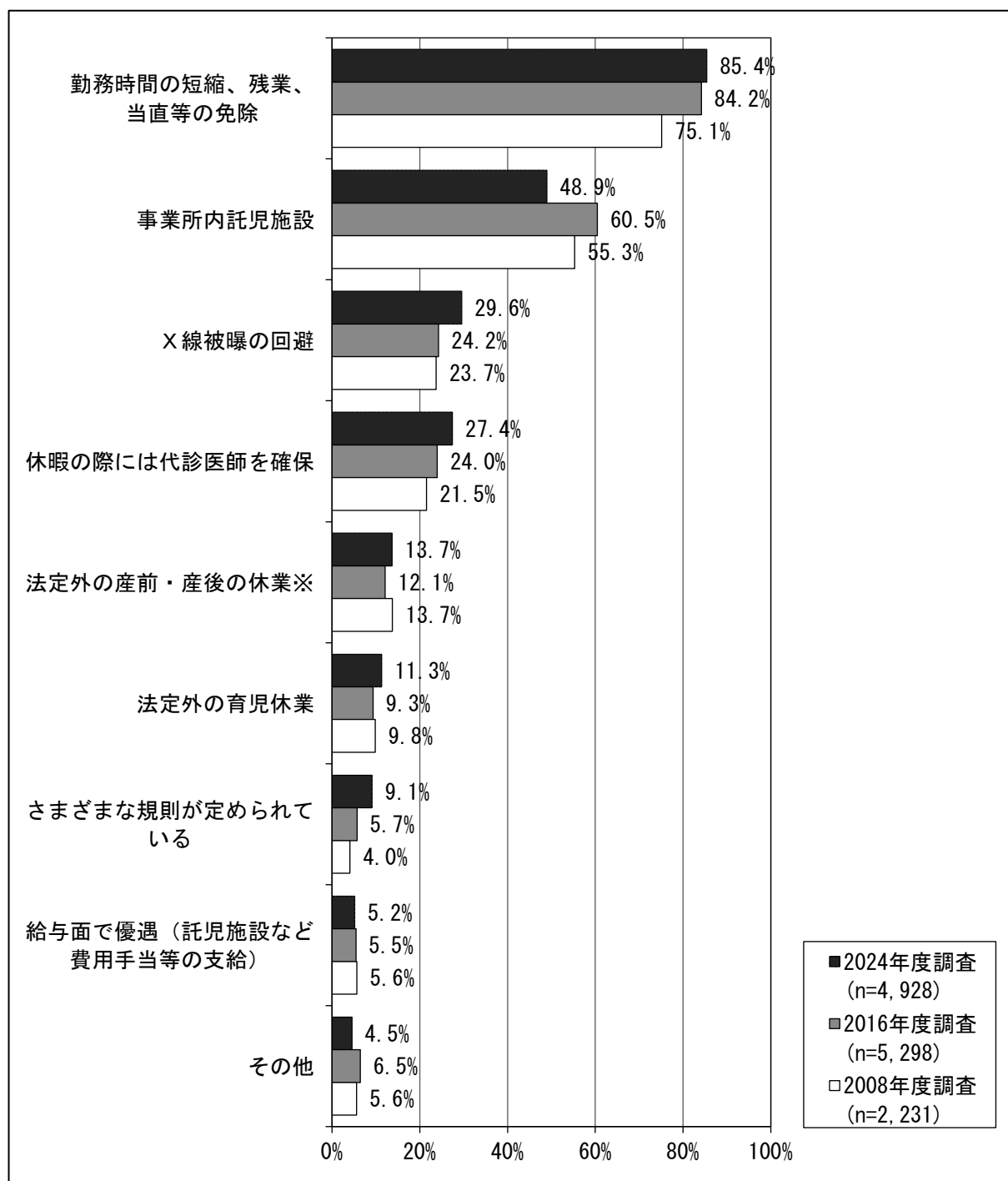


図 24 仕事と家庭生活を両立させるための就労環境や規則の整備状況（時系列比較）



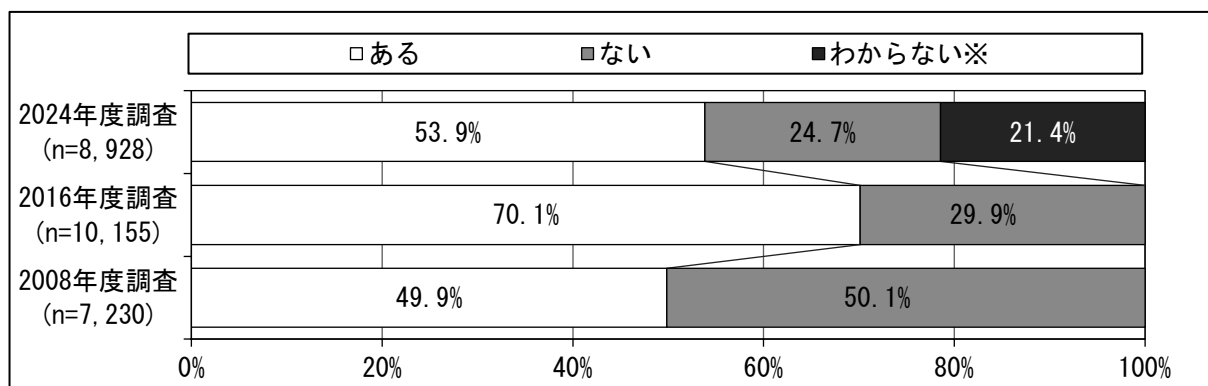
※ 2024 年度調査で新しく選択肢を追加した。

図 25 仕事と家庭生活を両立させるための就労環境や規則として整備されている内容（時系列比較）
 【複数回答／仕事と家庭生活を両立させるための就労環境や規則が整備されていると答えた方に】



※ 2016年度、2008年度調査は「法定外の産前・産後の休業」だった。

図 26 職場における保育所・託児所の有無（時系列比較）



※ 2024 年度調査で新しく選択肢を追加した。

図 27 職場の保育所・託児所の 24 時間対応の有無（時系列比較）

【職場に保育所・託児所があると答えた方に】

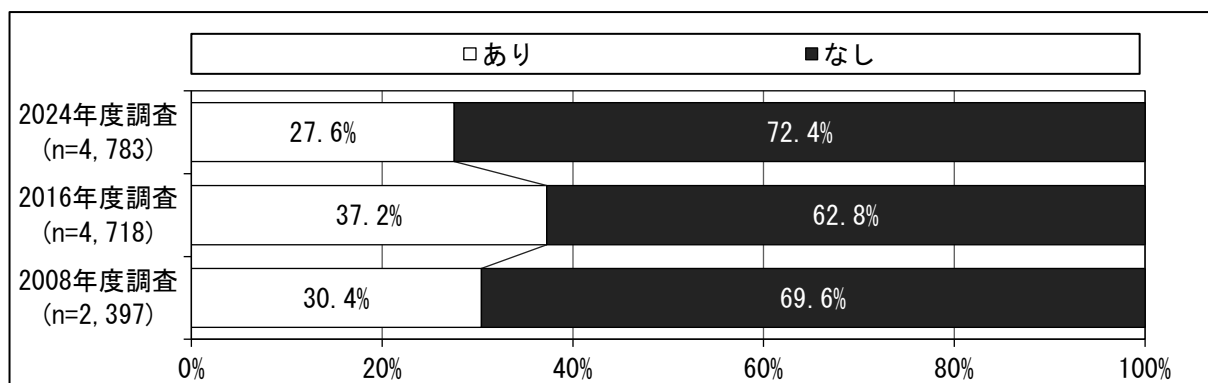
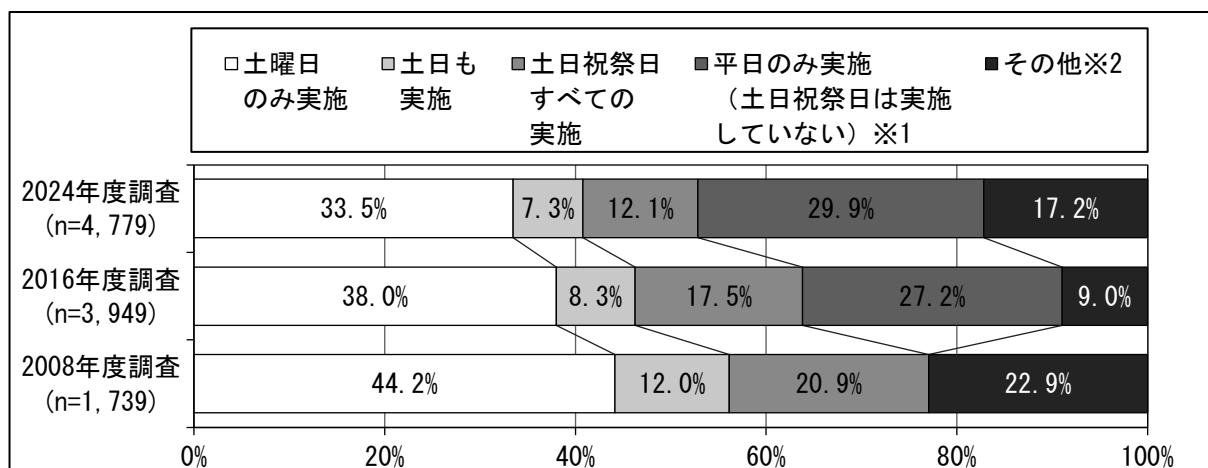


図 28 土日祝祭日の保育実施状況（時系列比較）【職場に保育所・託児所があると答えた方に】



※1 2016 年度調査で新しく選択肢を追加した。

※2 その他の具体的な回答としては、「実施状況を知らない」（553 件）、「毎週ではないが土日祝祭日にも実施」（81 件）、「申込・必要に応じて土日祝祭日にも実施」（48 件）などがあった。

図 29 病児保育の有無（時系列比較）【職場に保育所・託児所があると答えた方に】

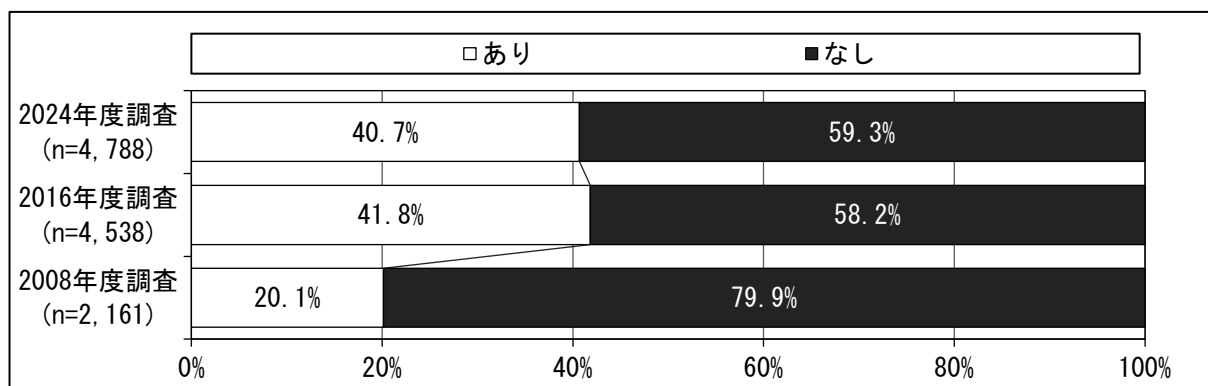


図 30 病児保育の定員（時系列比較）【職場に病児保育があると答えた方に】

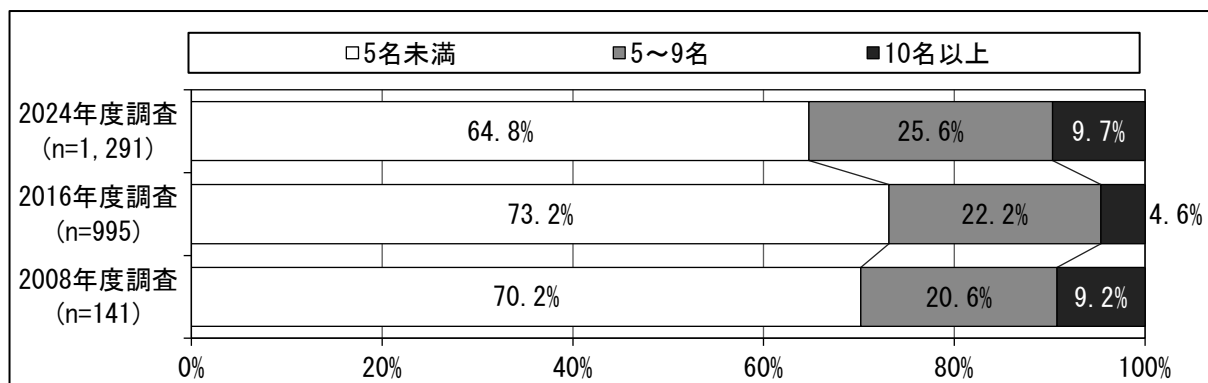


図 31 一時〔緊急時〕保育の有無（時系列比較）【職場に保育所・託児所があると答えた方に】

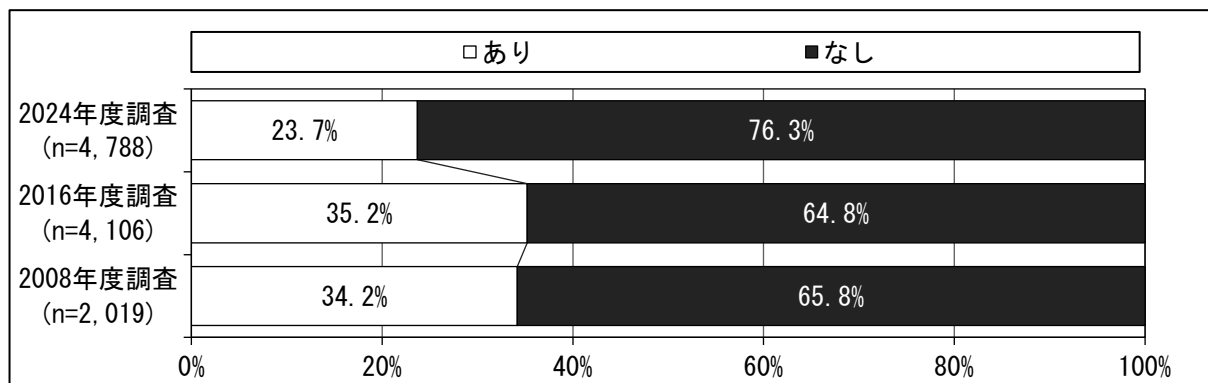


図 32 一時〔緊急時〕保育の定員（時系列比較）

【職場に一時〔緊急時〕保育があると答えた方に】

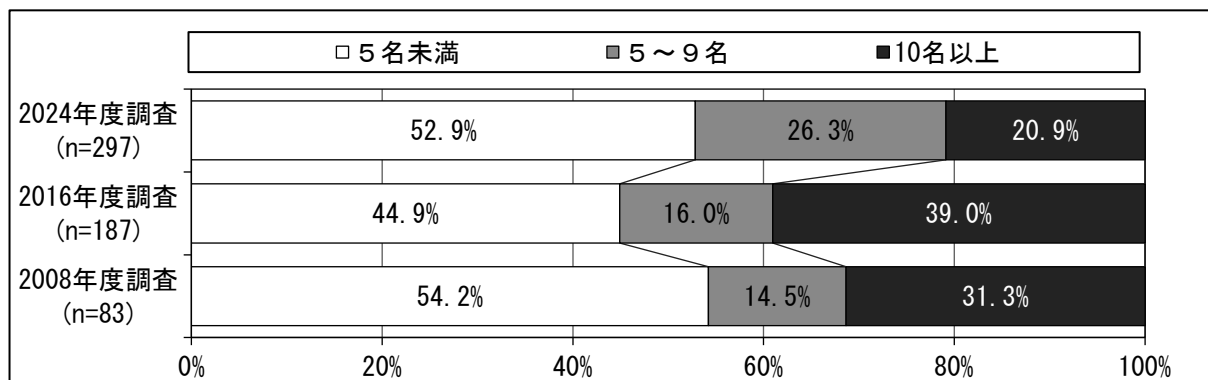


図 33 代替医師制度の有無（時系列比較）

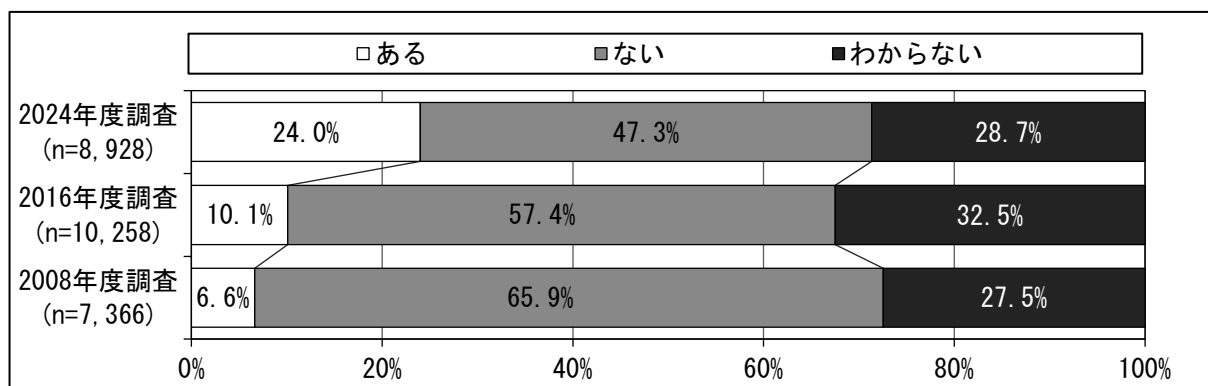


図 34 職場環境は子育てに協力的か（時系列比較）

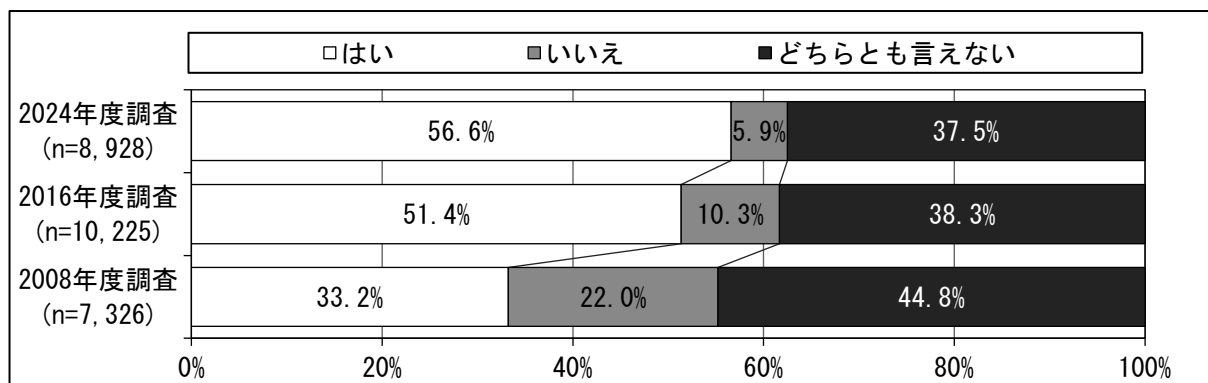


図 35 妊娠・育児中の勤務時間軽減の必要性（時系列比較）

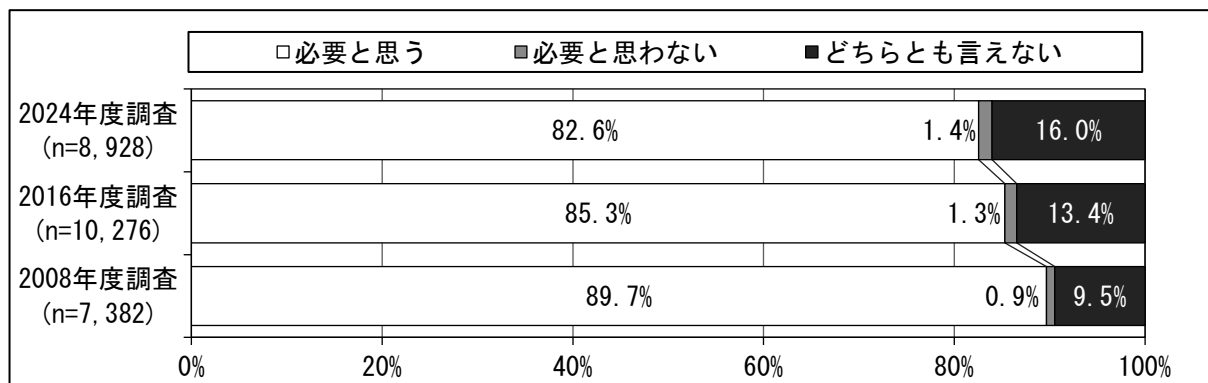
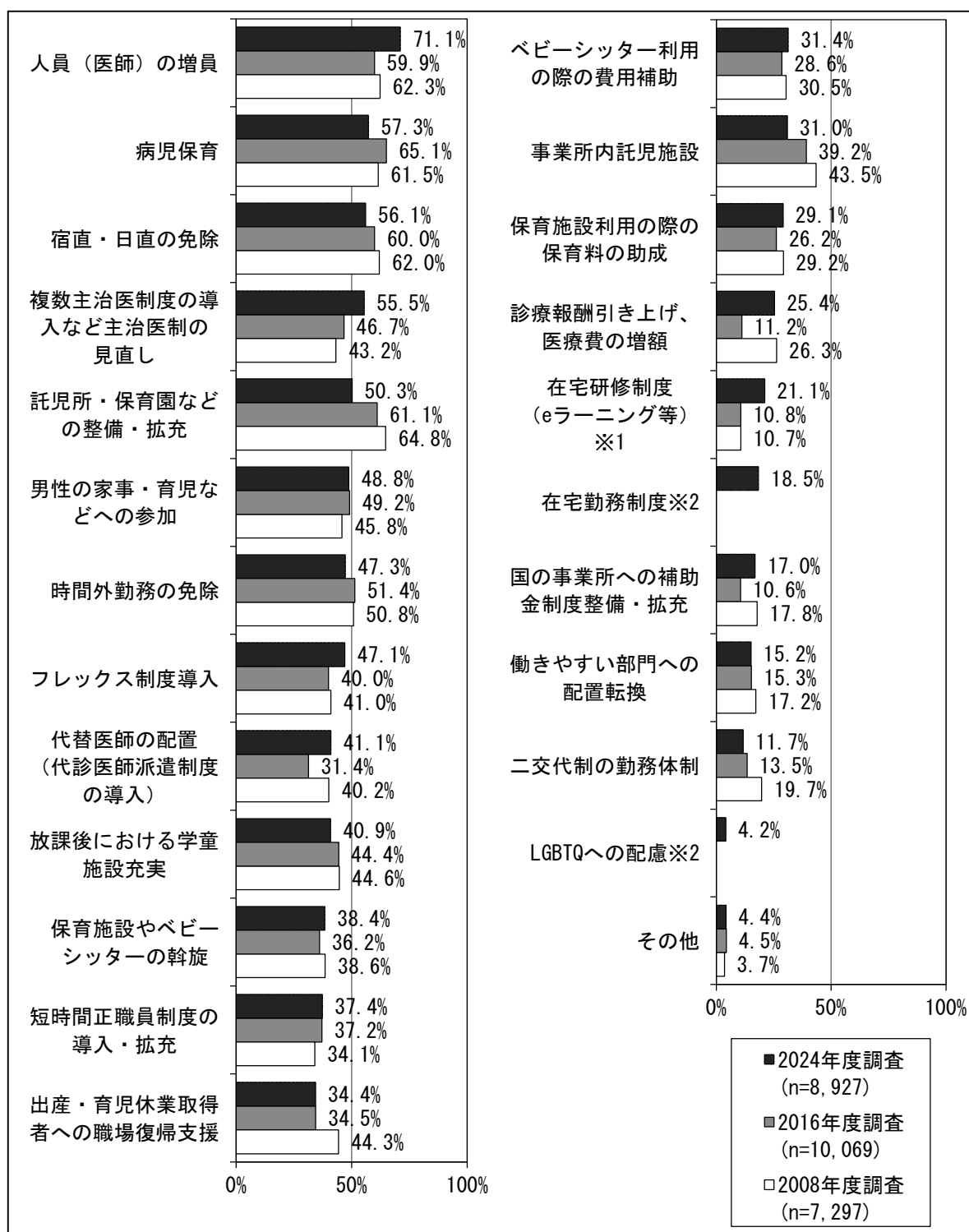


図 36 仕事を続ける上で必要な制度や仕組み・支援対策（時系列比較）【複数回答】

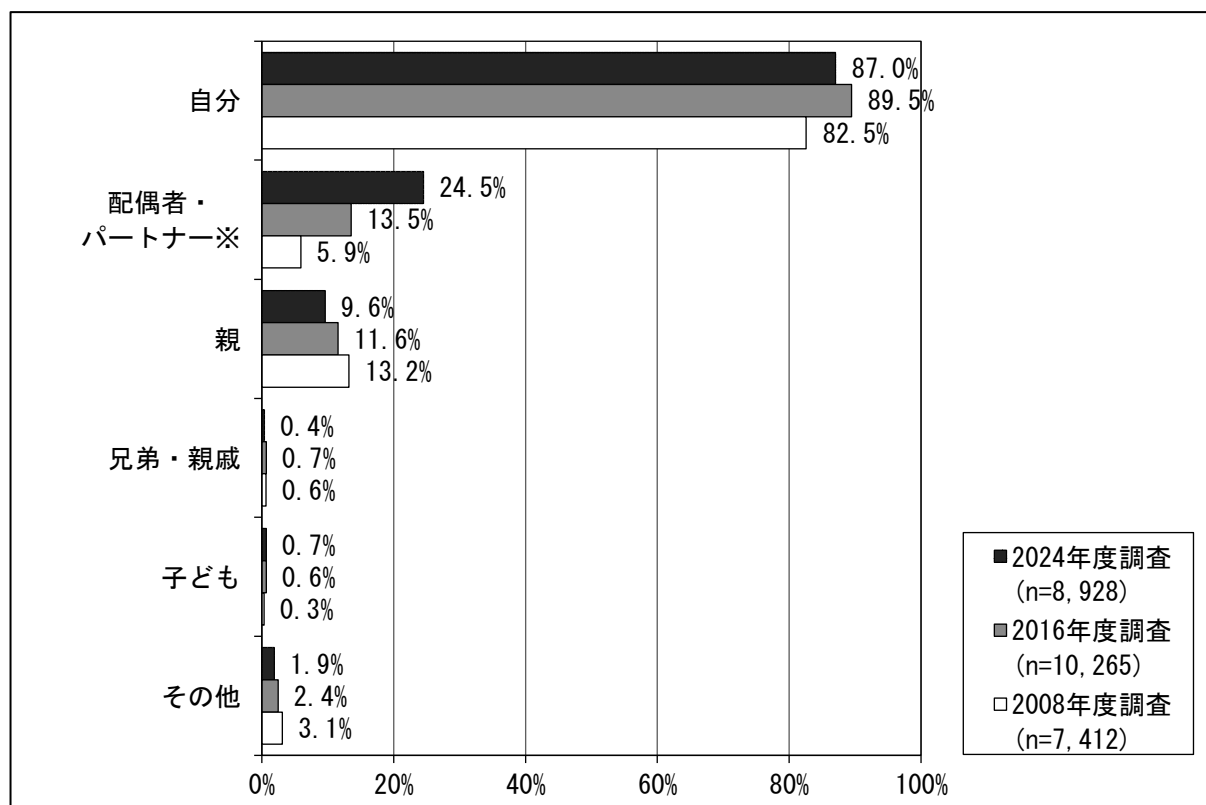


※1 2016年度、2008年度調査は「在宅研修制度」だった。

※2 2024年度調査で新しく選択肢を追加した。

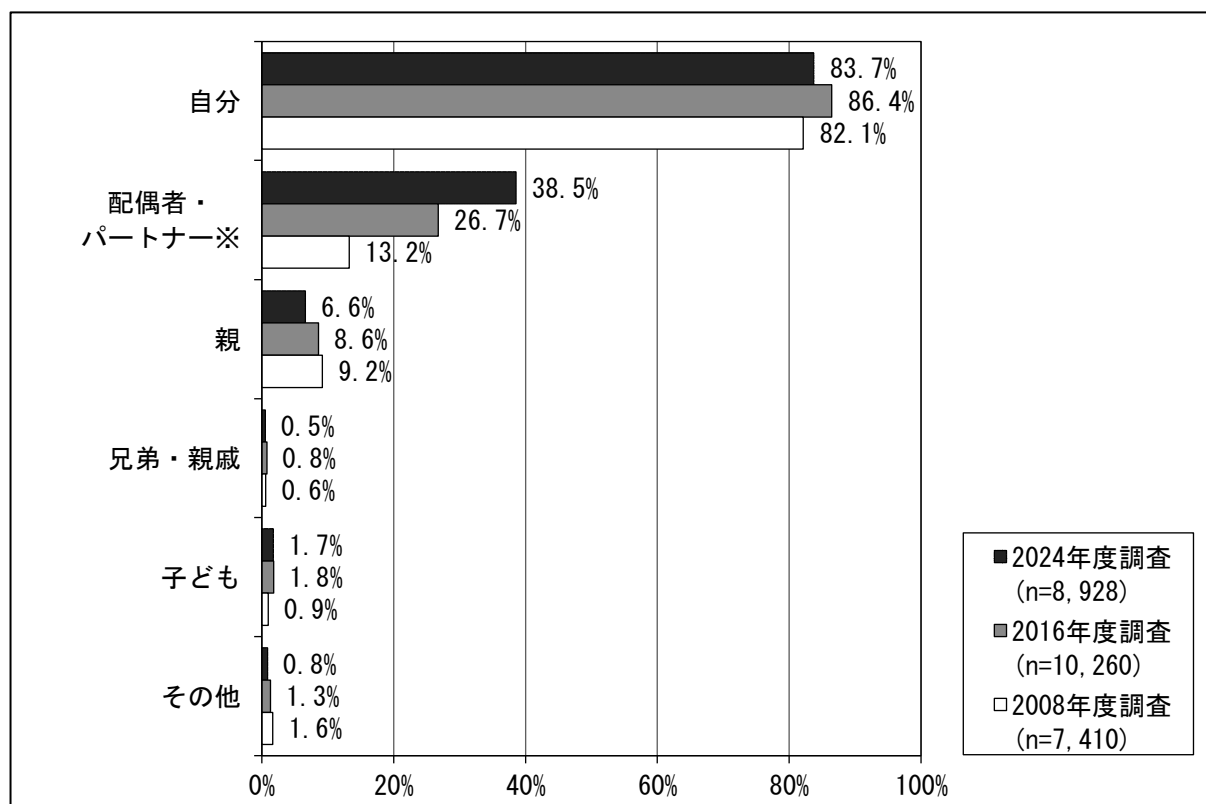
2-4. 自宅での家事担当者

図 37 自宅での「食事調理」担当（時系列比較）【複数回答】



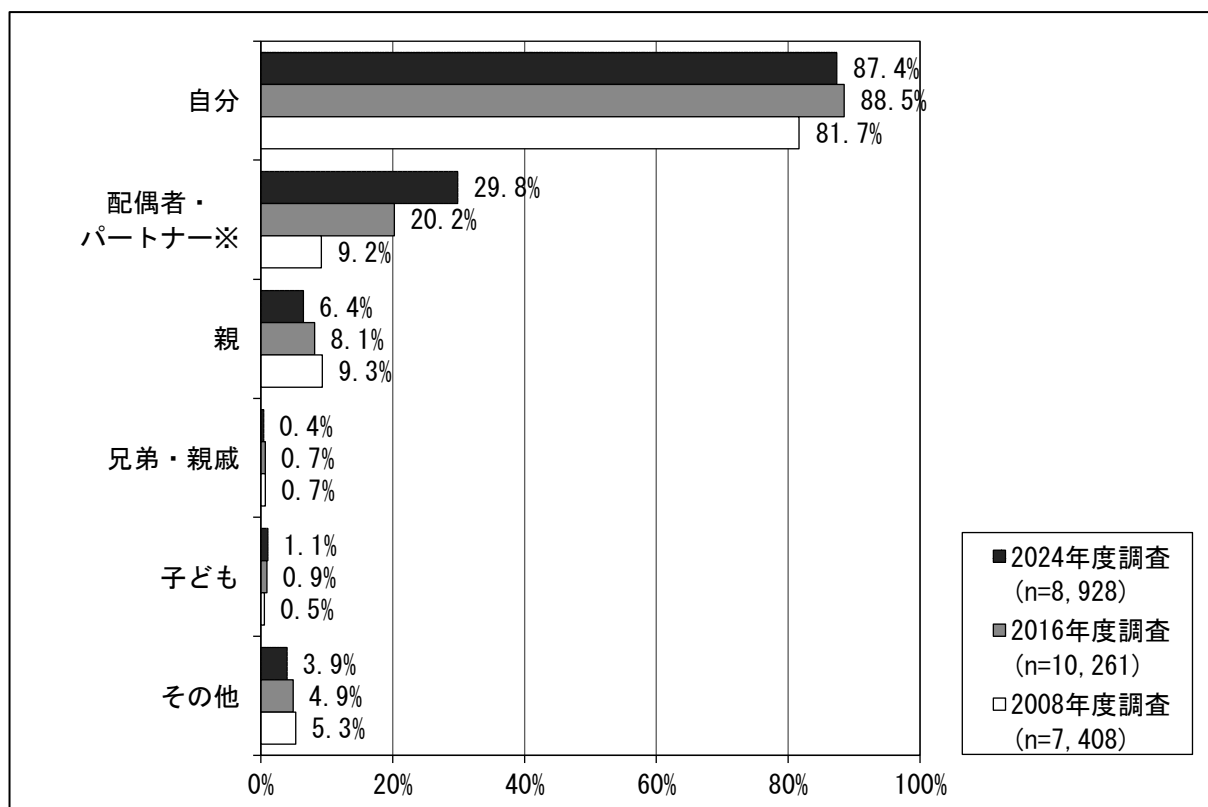
※ 2016年度、2008年度調査は「配偶者」だった。

図 38 自宅での「食事の後片づけ」担当（時系列比較）【複数回答】



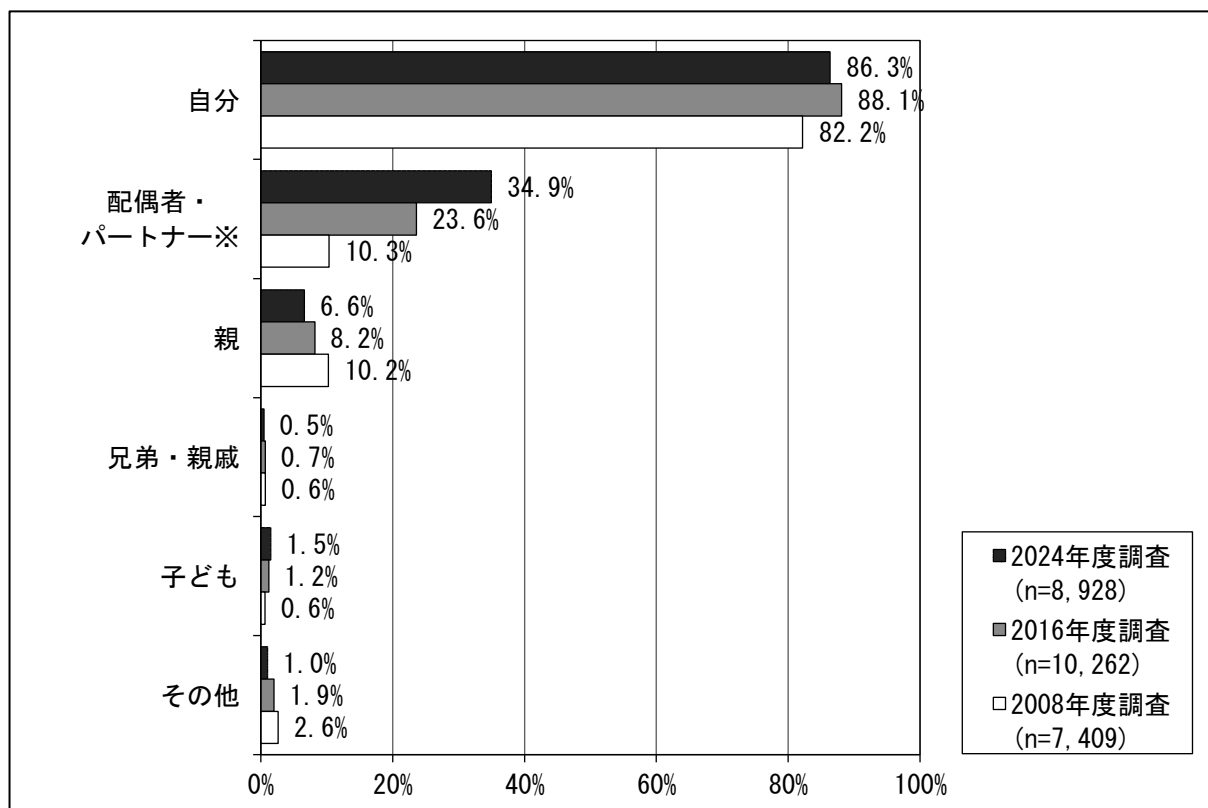
※ 2016年度、2008年度調査は「配偶者」だった。

図 39 自宅での「掃除」担当（時系列比較）【複数回答】



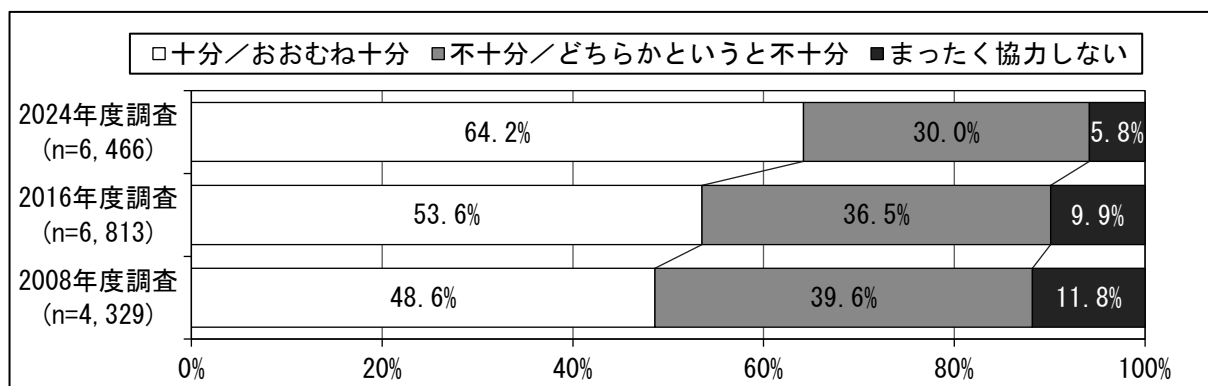
※ 2016 年度、2008 年度調査は「配偶者」だった。

図 40 自宅での「洗濯」担当（時系列比較）【複数回答】



※ 2016 年度、2008 年度調査は「配偶者」だった。

図 41 配偶者・パートナーの家事・育児への協力度（時系列比較）



2-5. 出産・育児中の働き方

図 42 出産経験の有無（時系列比較）

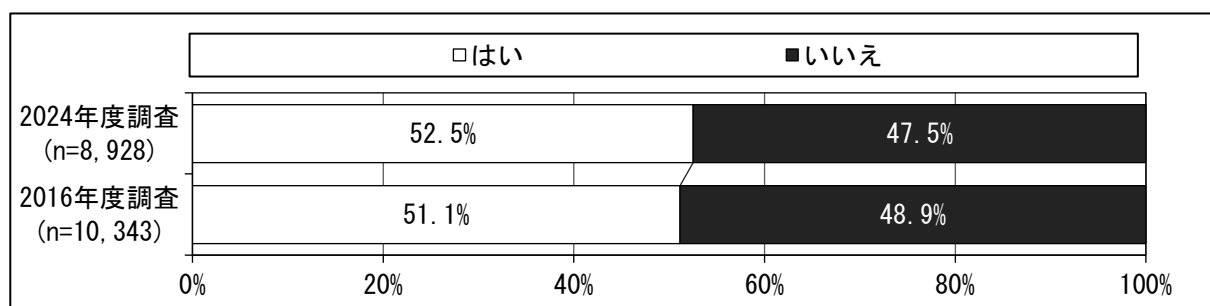


図 43 産前・産後休業の取得の有無（時系列比較）【出産経験があると答えた方に】

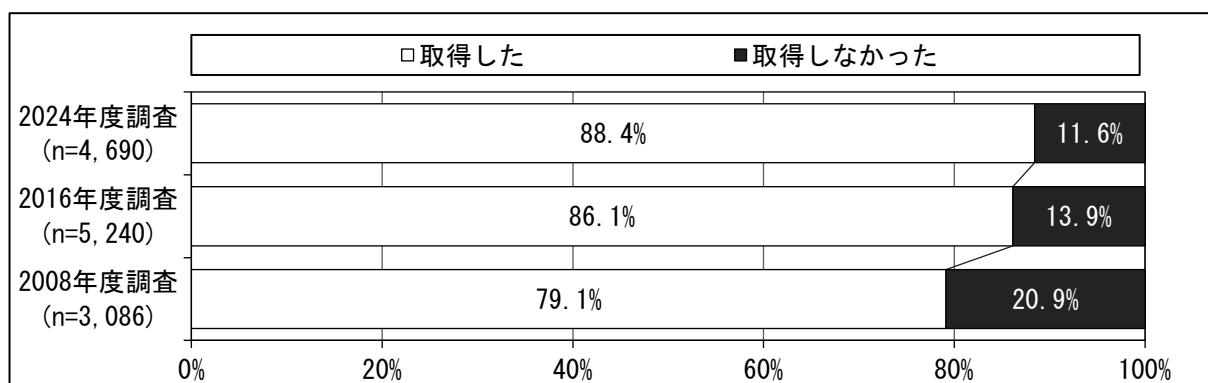


図 44 産前・産後休業の取得状況（時系列比較）【産前・産後休暇を取得したと答えた方に】

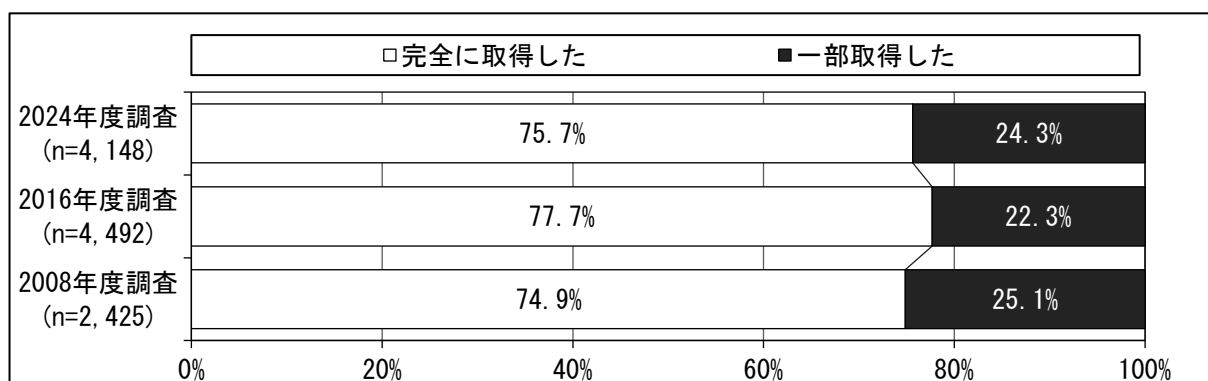
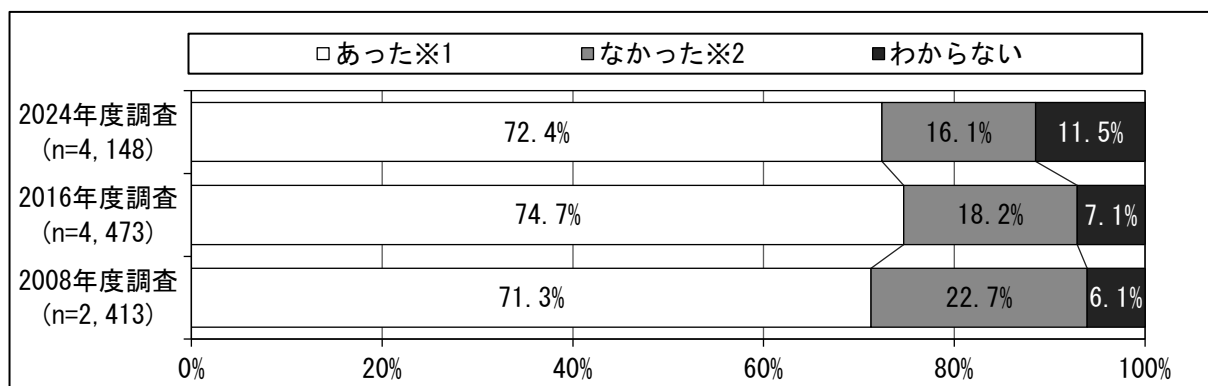


図 45 産前・産後休業中の身分保障（時系列比較）【産前・産後休暇を取得したと答えた方に】



※1 2016 年度、2008 年度調査は「ある」だった。

※2 2016 年度、2008 年度調査は「ない」だった。

図 46 産前・産後休業中の給与支給（時系列比較）【産前・産後休暇を取得したと答えた方に】

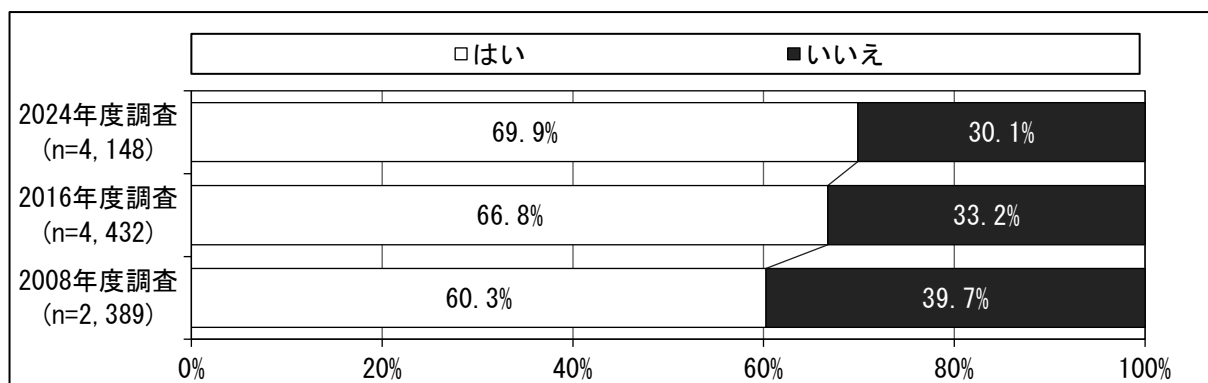
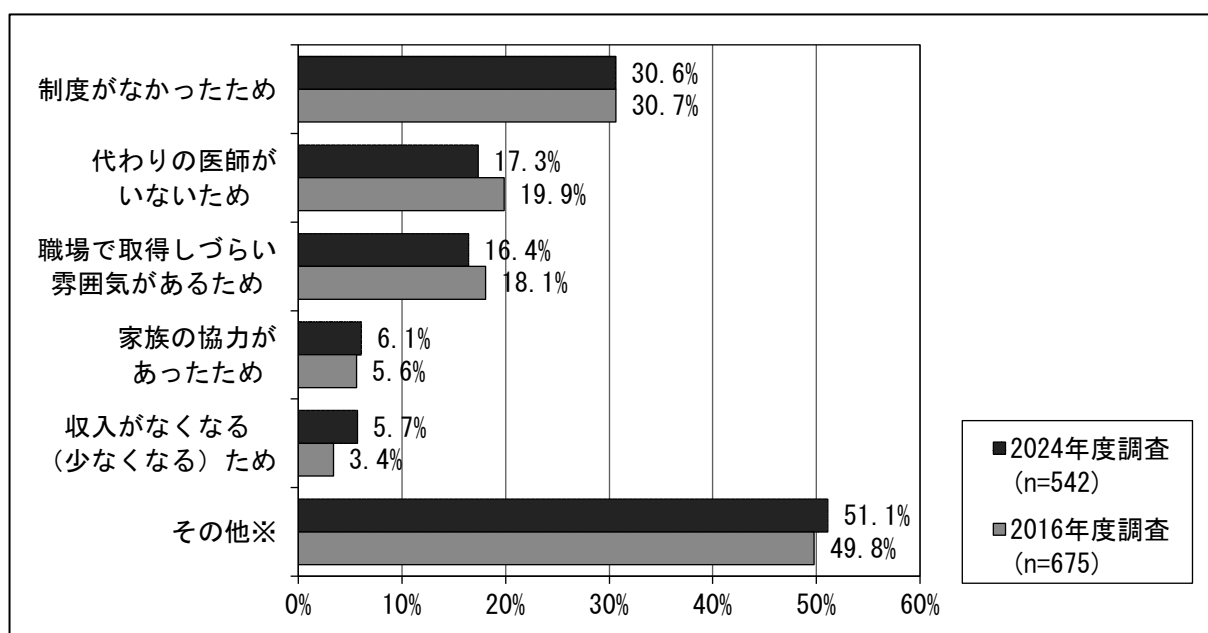


図 47 産前・産後休業を取得しなかった理由（時系列比較）

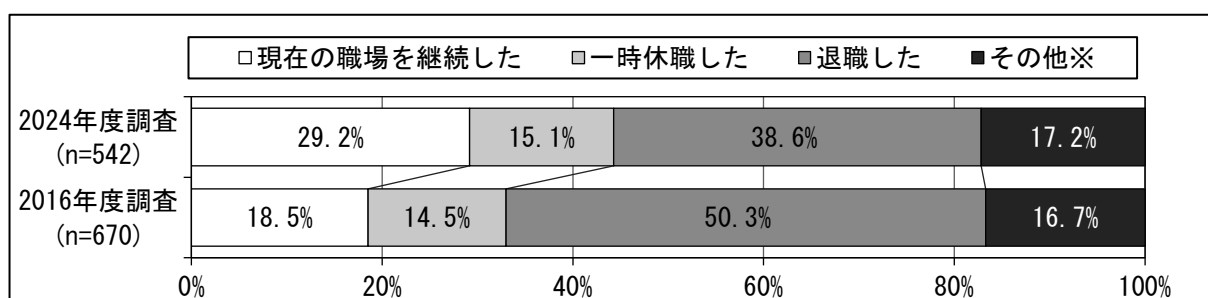
【産前・産後休暇を取得しなかったと答えた方に】



※ その他の具体的な回答としては、「退職したから」（82 件）、「学生・大学院生・研修医・留学中だったから」（71 件）、「そのとき仕事をしていなかったから」（44 件）などがあった。

図 48 産前・産後休業を取得しなかった医師の勤務状況（時系列比較）

【産前・産後休暇を取得しなかったと答えた方に】



※ その他の具体的な回答としては、「そのとき仕事をしていなかった」（22 件）、「学生・大学院生・留学生だった」（14 件）などがあった。

図 49 育児休業の取得の有無（時系列比較）【出産経験があると答えた方に】

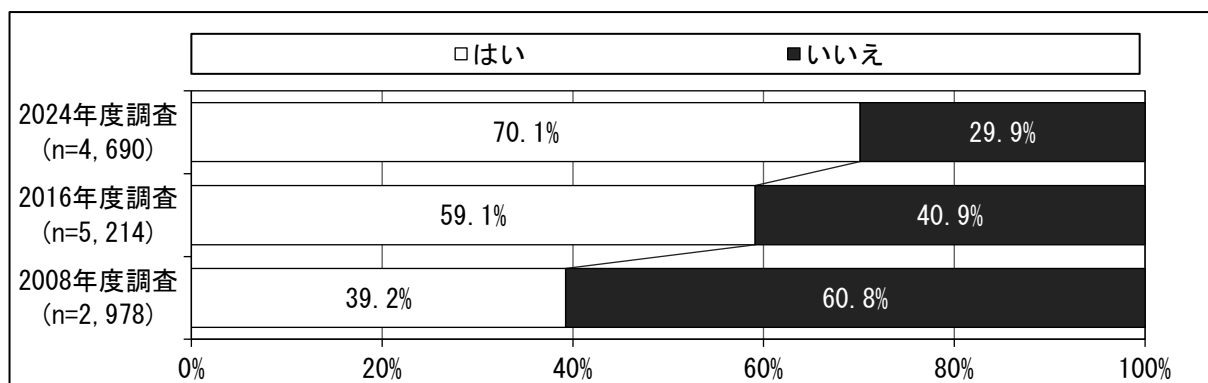
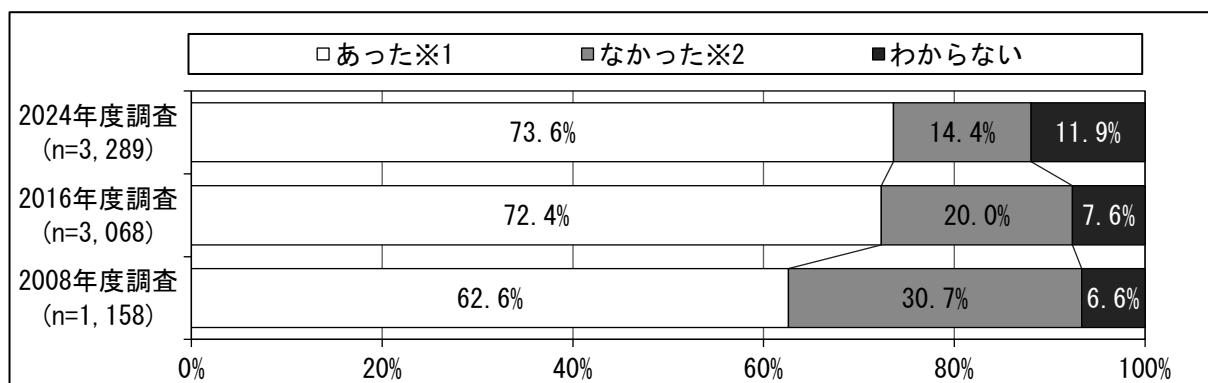


図 50 育児休業中の身分保障（時系列比較）【育児休業を取得したと答えた方に】



※1 2016 年度、2008 年度調査は「ある」だった。

※2 2016 年度、2008 年度調査は「ない」だった。

図 51 育児休業中の給与支給（時系列比較）【育児休業を取得したと答えた方に】

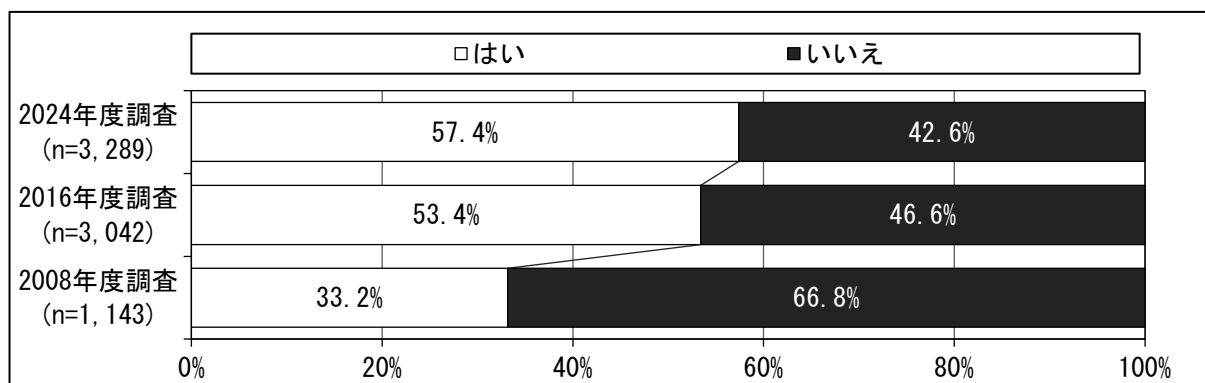
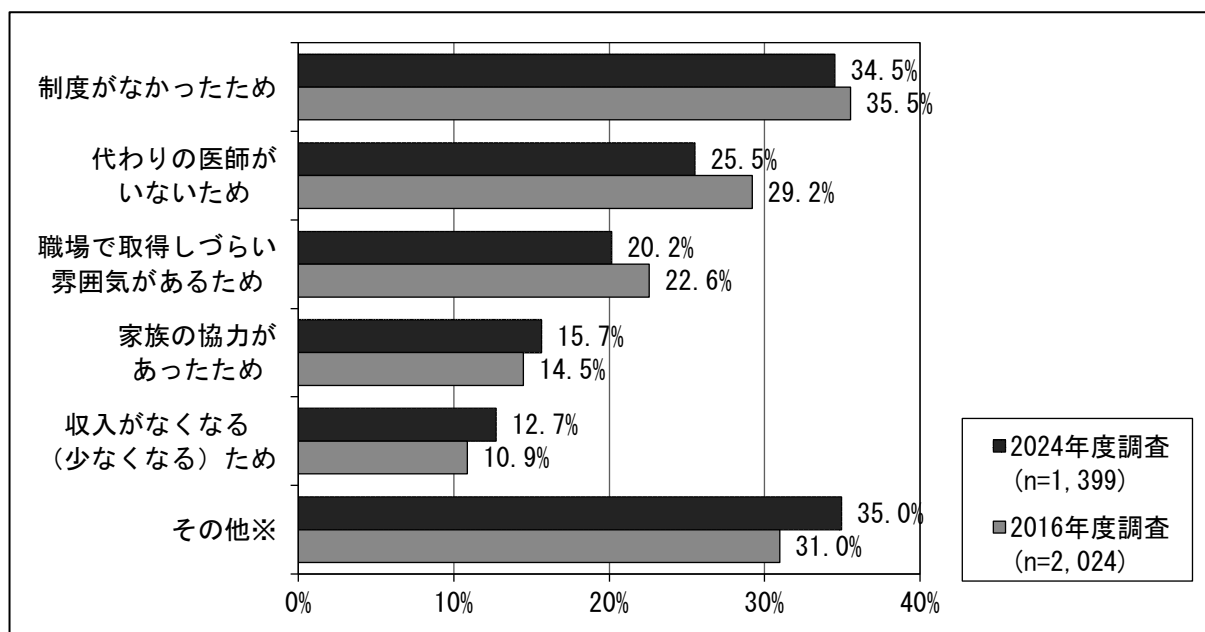


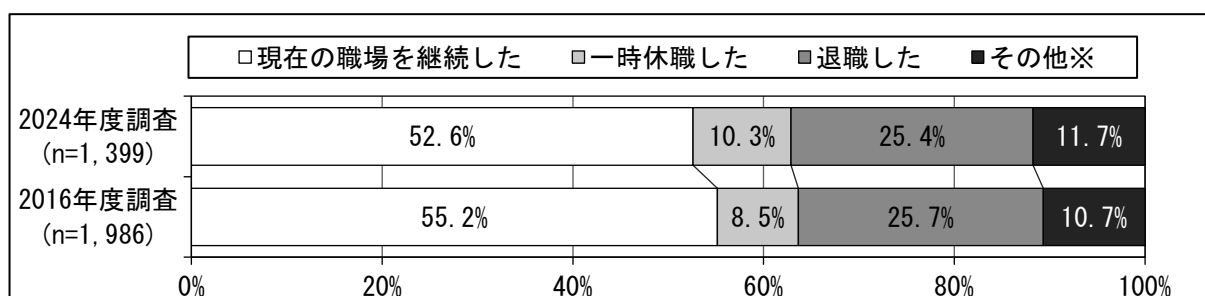
図 52 育児休業を取得しなかった理由（時系列比較）【育児休業を取得しなかったと答えた方に】



※ その他の具体的な回答としては、「退職したから」（110件）、「勤務を希望したから」（94件）、「学生・大学院生・研修医・留学中だったから」（75件）などがあった。

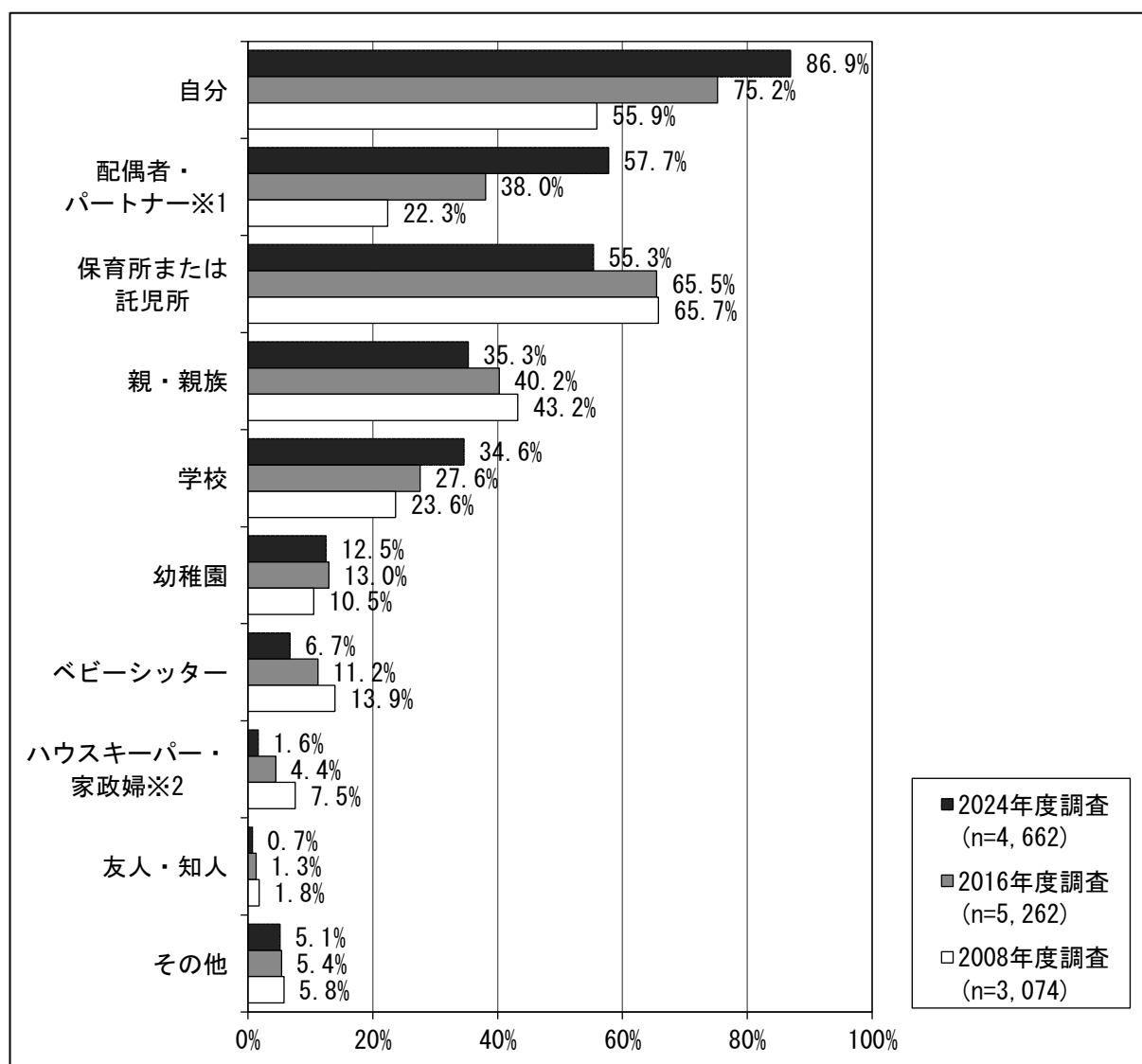
図 53 育児休業を取得しなかった医師の勤務状況（時系列比較）

【育児休業を取得しなかったと答えた方に】



※ その他の具体的な回答としては、「非常勤で勤務した、勤務軽減をした」（28件）、「当時の勤務を継続した」（26件）、「学生・大学院生・留学生だった」（24件）、「そのとき仕事をしていなかった、就職を延期した」（20件）などがあった。

図 54 普段子どもの面倒を見ている人（時系列比較）【複数回答／出産経験があると答えた方に】



※1 2016 年度、2008 年度調査は「配偶者」だった。

※2 2016 年度、2008 年度調査は「お手伝いさん」だった。

図 55 利用している保育施設（時系列比較）【複数回答／保育施設を利用していると答えた方に】

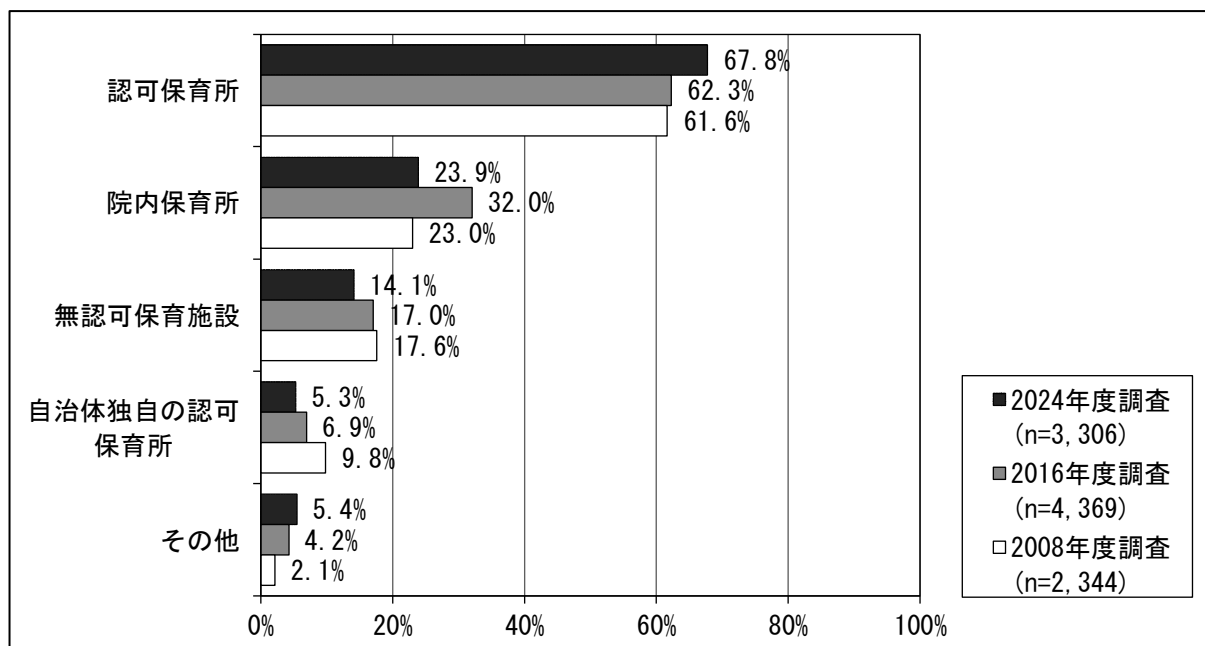
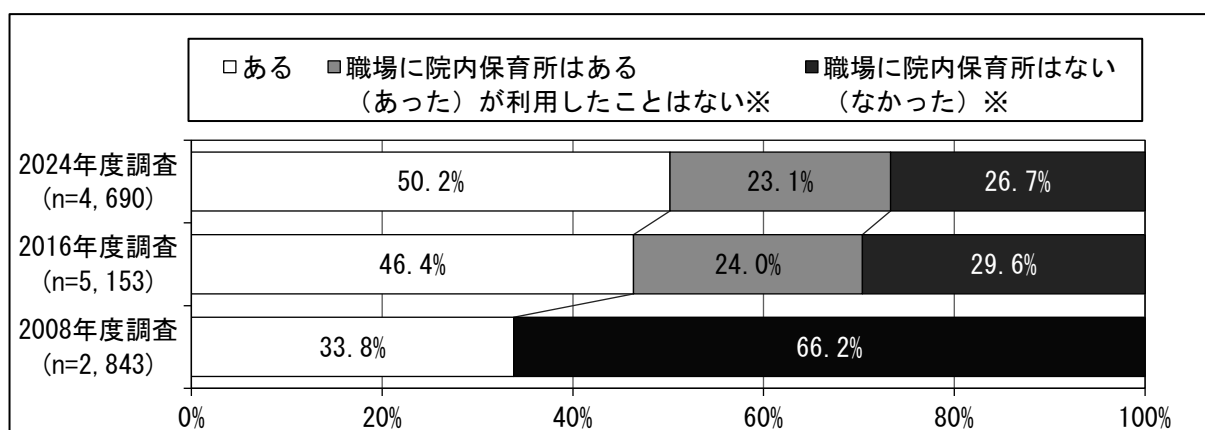


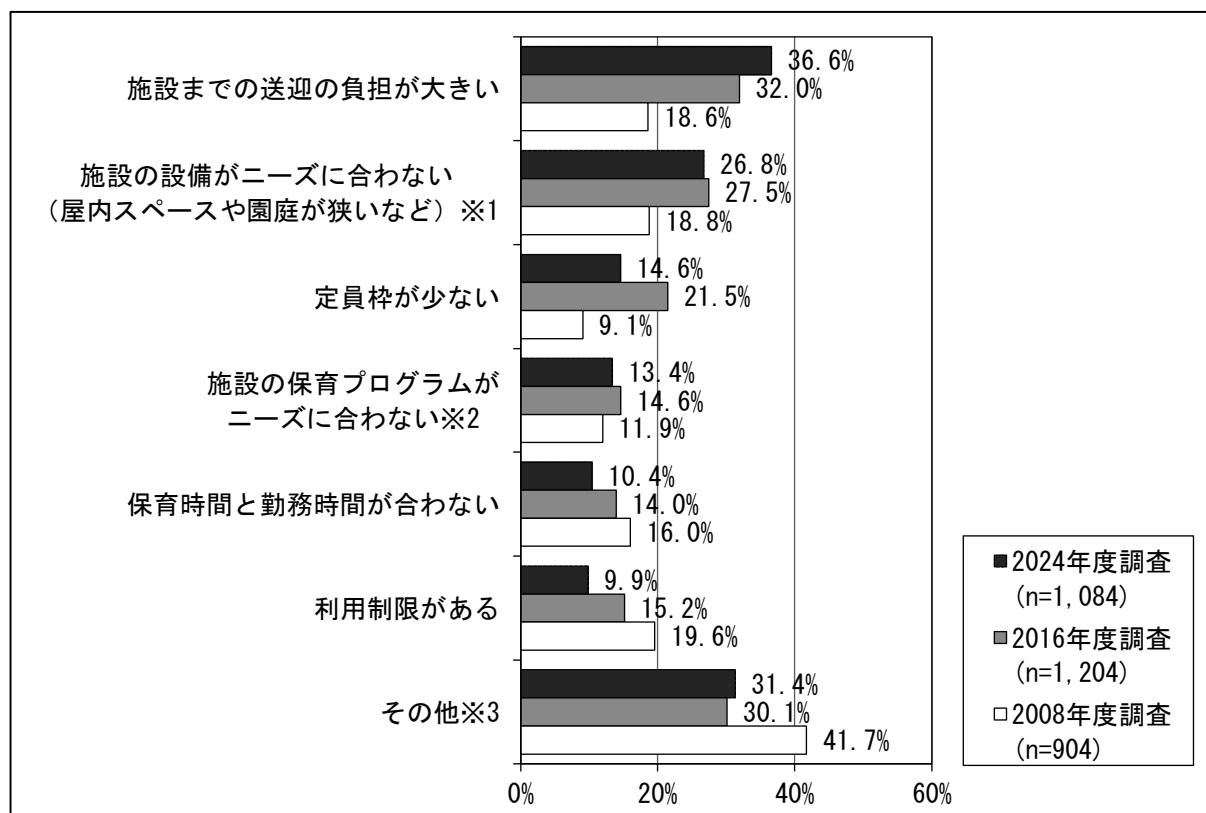
図 56 院内保育所の利用経験（時系列比較）【出産経験があると答えた方に】



※ 2016年度、2024年度調査の選択肢は、「1. ある」「2. 職場に院内保育所はある（あった）が利用したことはない」「3. 職場に院内保育所はない（なかった）」の3つだったが、2008年度調査では、「1. ある」「2. ない」の2つだった。

図 57 院内保育所を利用しない理由（時系列比較）

【複数回答／職場に院内保育所はある（あった）が利用したことはないと答えた方に】



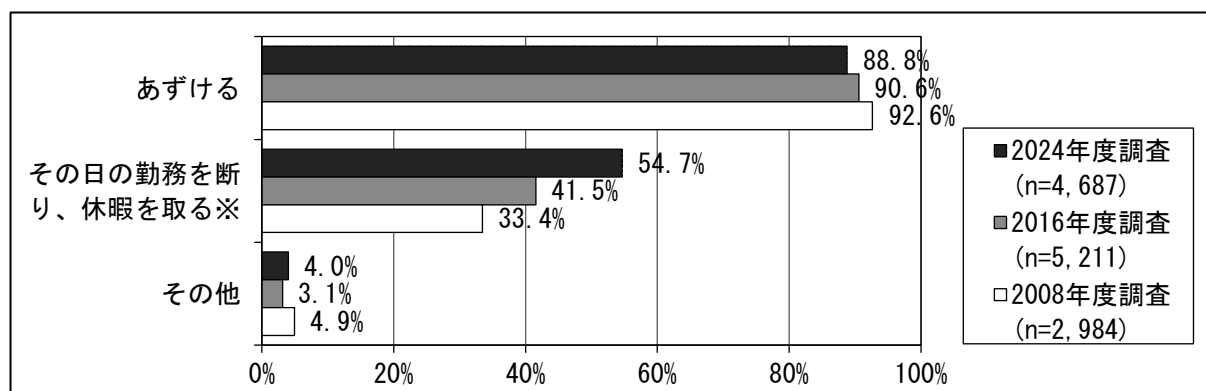
※1 2016 年度、2008 年度調査は「施設の環境などのニーズに合わない（屋内スペースや園庭が狭いなど）」だった。

※2 2016 年度、2008 年度調査は「保育プログラムがニーズに合わない」だった。

※3 その他の具体的な回答としては、「勤務先が家から遠いから、家の近くで預けたほうが便利だから」（62 件）、「他の施設に入所できたから、すでに預けていたから」（58 件）、「家族が子どもを見ていたから」（32 件）、「院内保育所がよくなかったから（給食がない・料金が高いなど）」（29 件）、「転勤・転職のときに退園しなければならないから」（29 件）などがあった。

図 58 病気や予定外の保育が必要な時の対応（時系列比較）

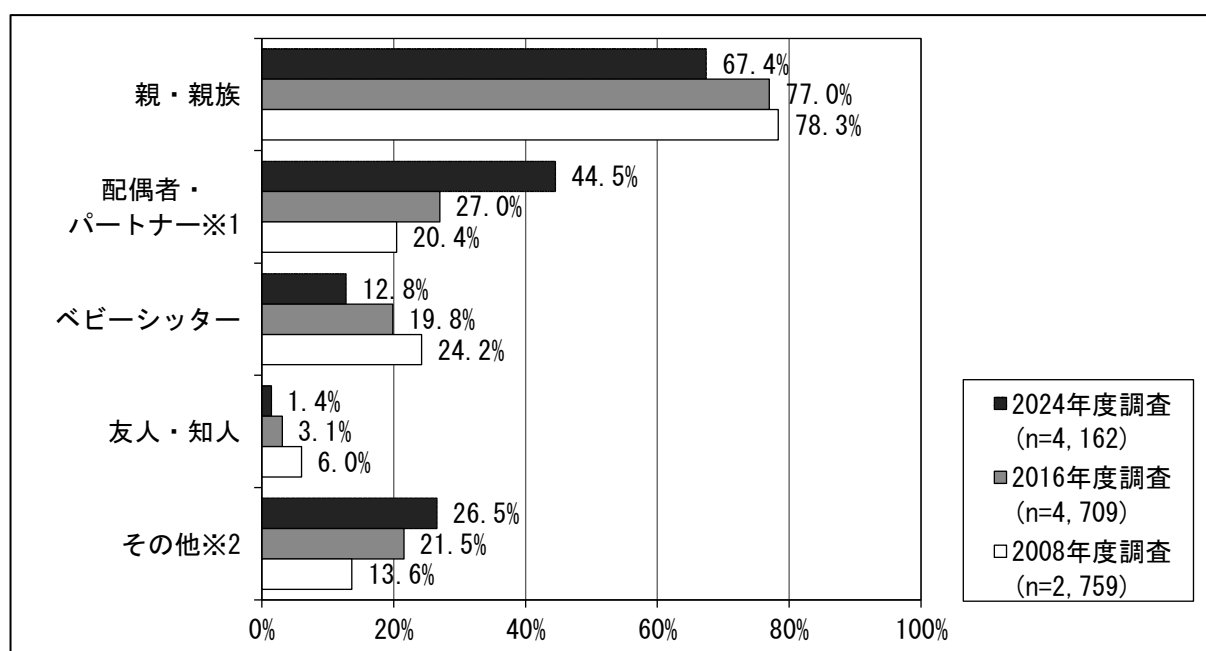
【複数回答／出産経験があると答えた方に】



※ 2016 年度、2008 年度調査は「欠勤」だった。

図 59 病気や予定外の保育が必要な時のあずけ先（時系列比較）

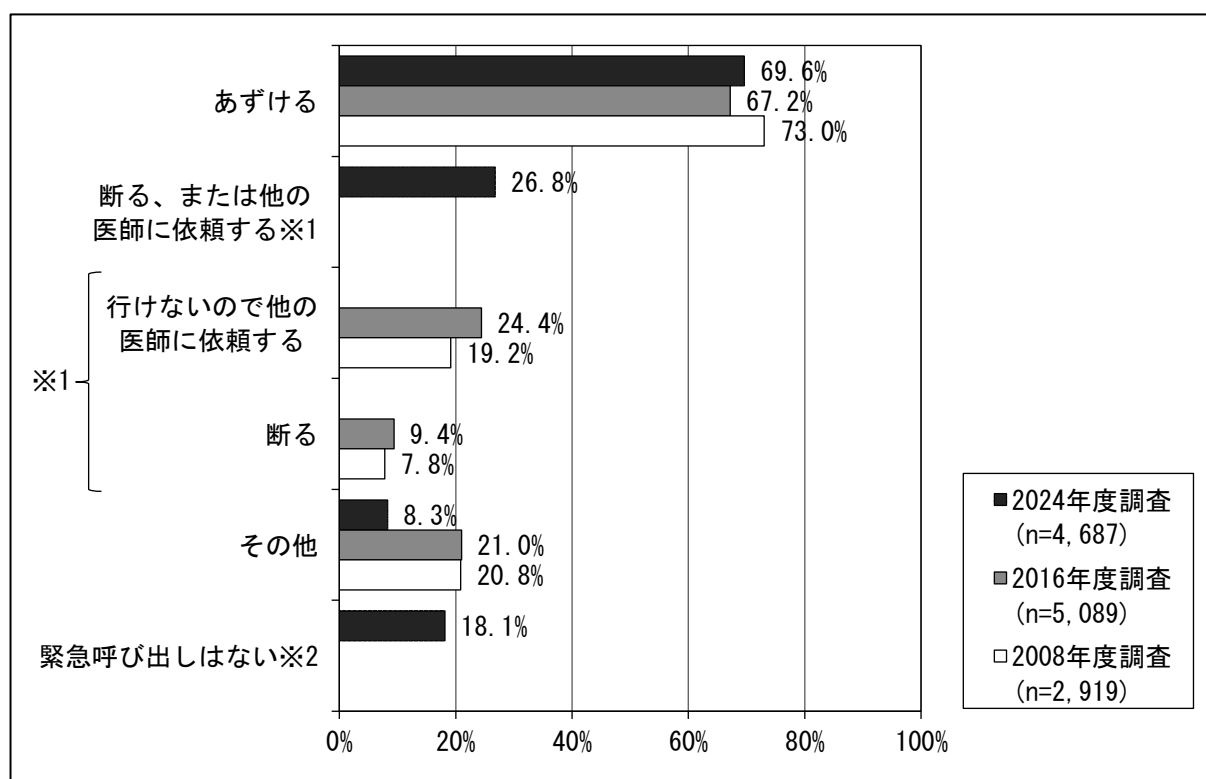
【複数回答／あずけると答えた方に】



※1 2016 年度、2008 年度調査は「配偶者」だった。

※2 その他の具体的な回答としては、「病児保育、病後児保育」（1,042 件）などがあった。

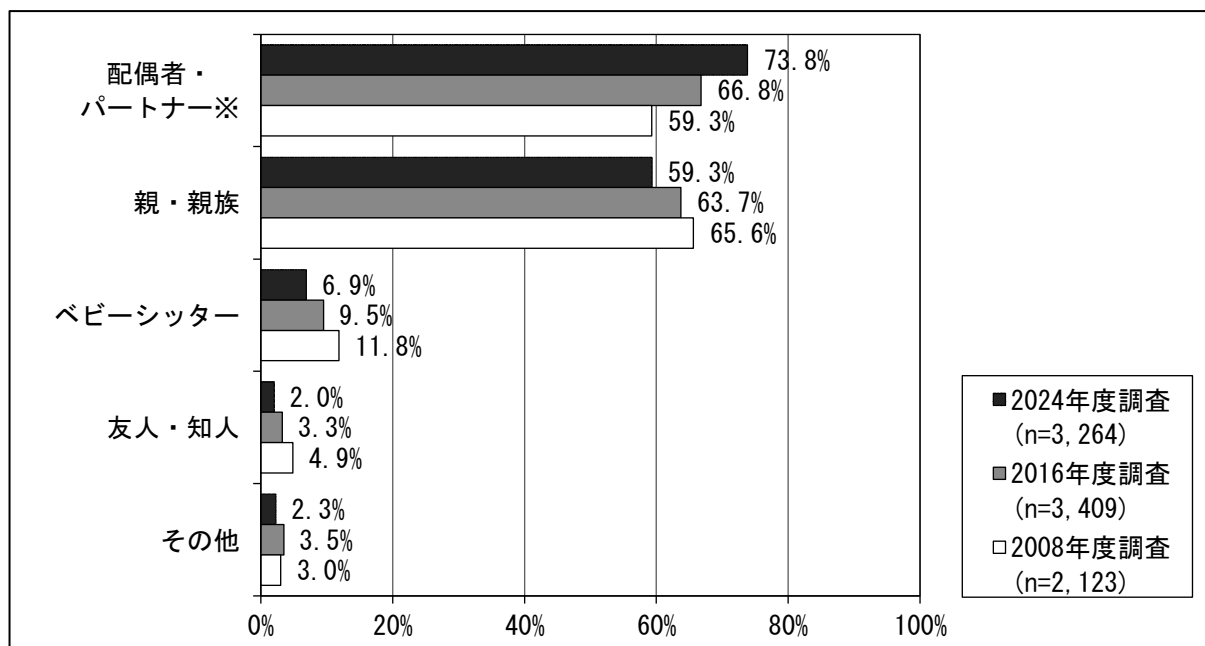
図 60 緊急呼び出しの時の対応（時系列比較）【複数回答／出産経験があると答えた方に】



※1 2024 年度調査は「断る、または他の医師に依頼する」の選択枝だが、2016 年度、2008 年度調査は「行けないので他の医師に依頼する」「断る」の 2 つの選択枝だった。

※2 2024 年度調査で新しく選択枝を追加した。なお、2016 年度、2008 年度調査は「その他」に「緊急呼び出しはない」の回答が含まれている。

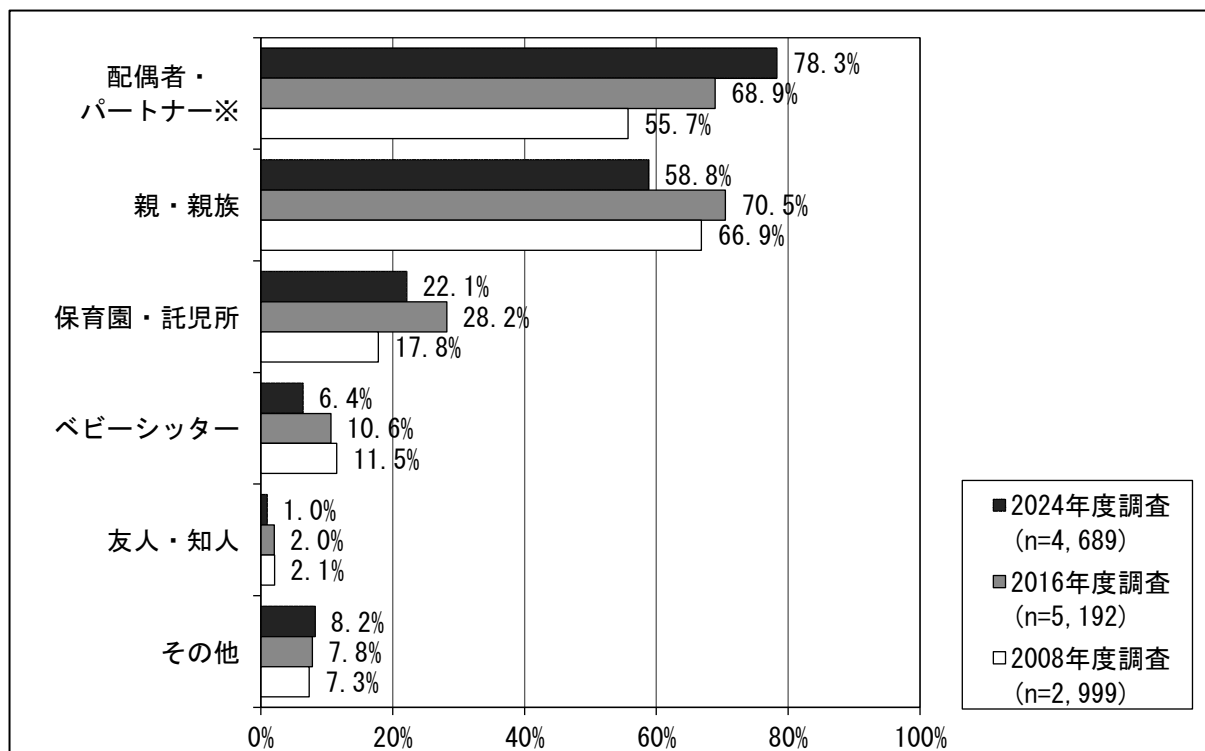
図 61 緊急呼び出しの時のあずけ先（時系列比較）【複数回答／あずけると答えた方に】



※ 2016 年度、2008 年度調査は「配偶者」だった。

図 62 学会、出張、日直、当直の時に子どもをみてくれる人（時系列比較）

【複数回答／出産経験があると答えた方に】



※ 2016 年度、2008 年度調査は「配偶者」だった。

図 63 学童保育の利用状況（時系列比較）【出産経験があると答えた方に】

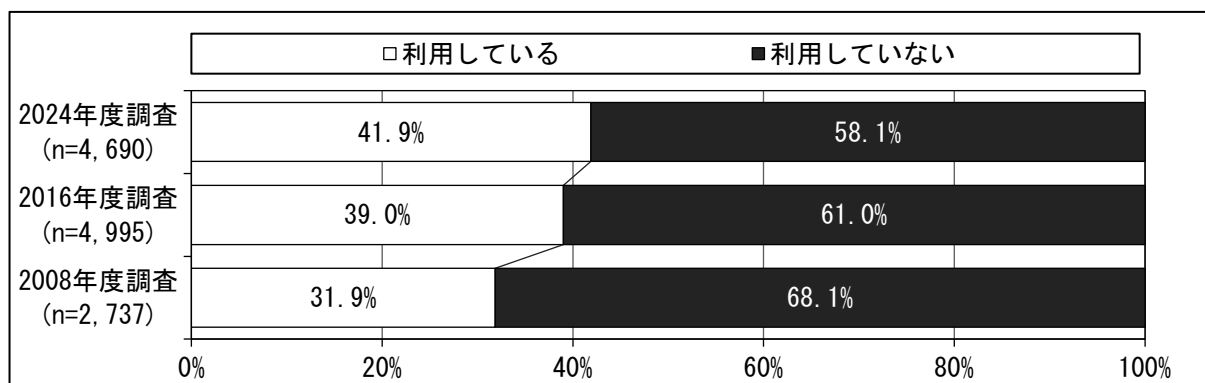
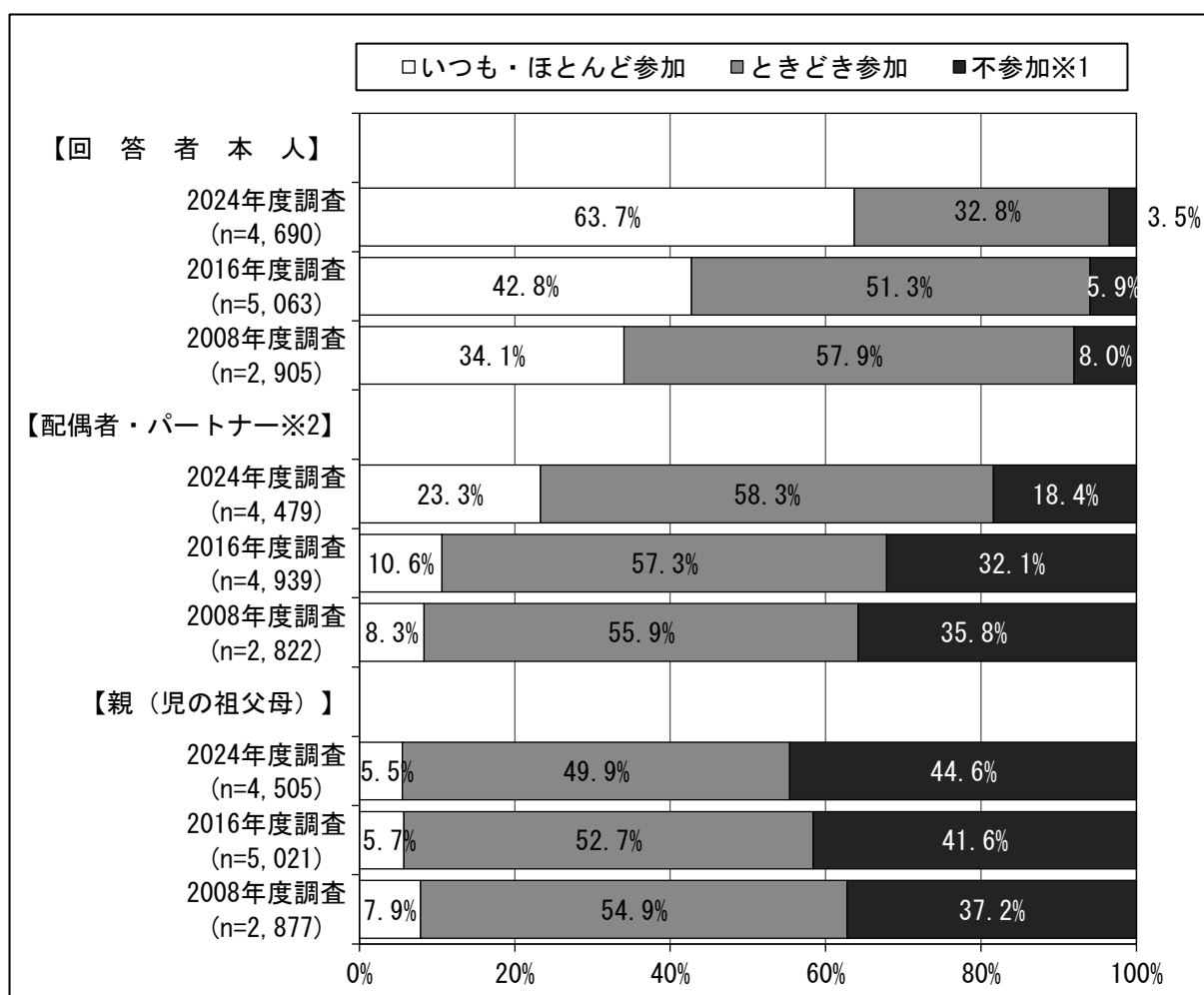


図 64 施設や学校の行事への参加状況（時系列比較）【出産経験があると答えた方に】

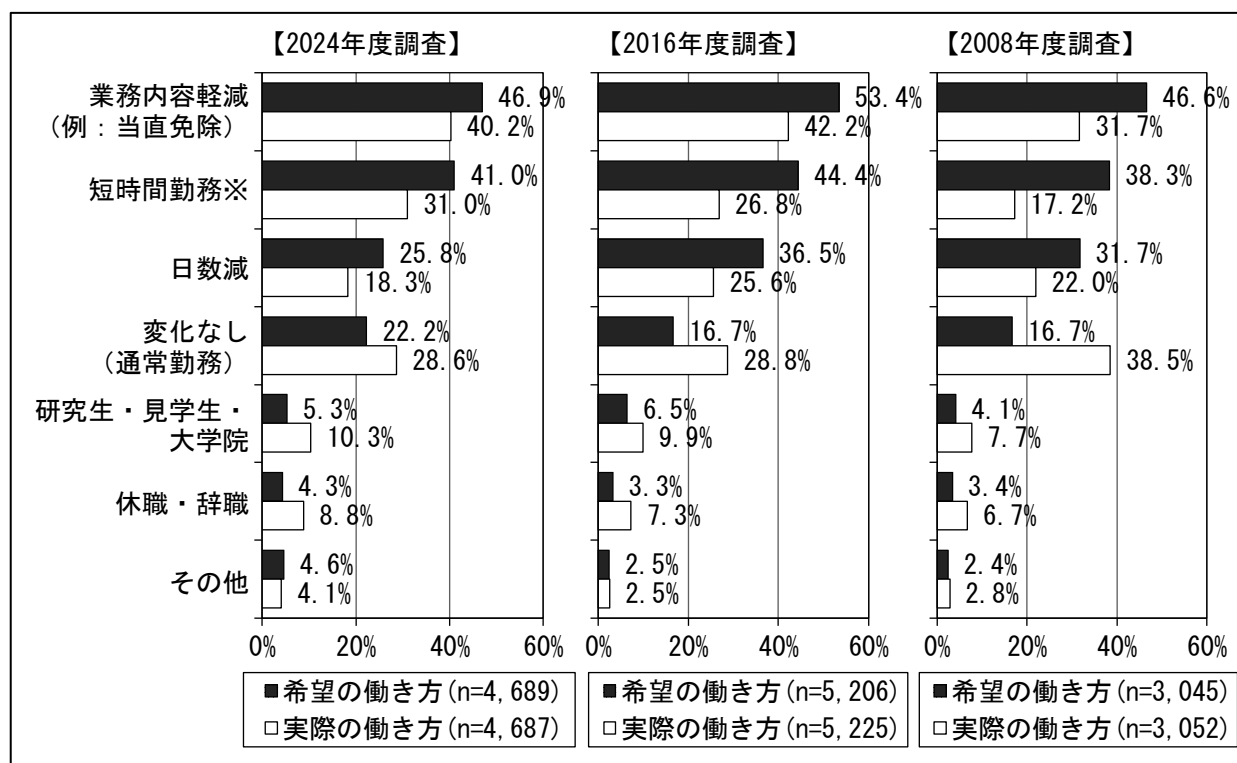


※1 2016年度、2008年度調査は「不参加・欠席」だった。

※2 2016年度、2008年度調査は「配偶者」だった。

図 65 子育て中における希望の働き方と実際の働き方（時系列比較）

【複数回答／出産経験があると答えた方に】



※ 2016 年度、2008 年度調査は「時間短縮勤務」だった。

2-6. 介護中の勤務環境

図 66 介護経験の有無（時系列比較）

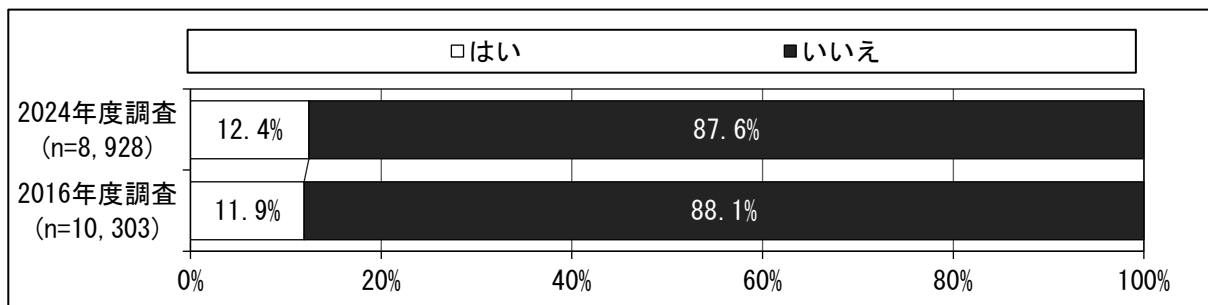
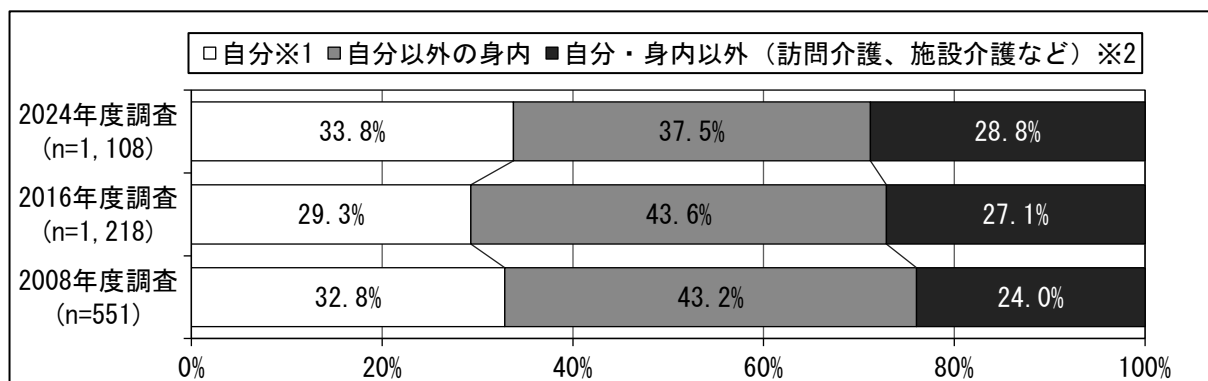


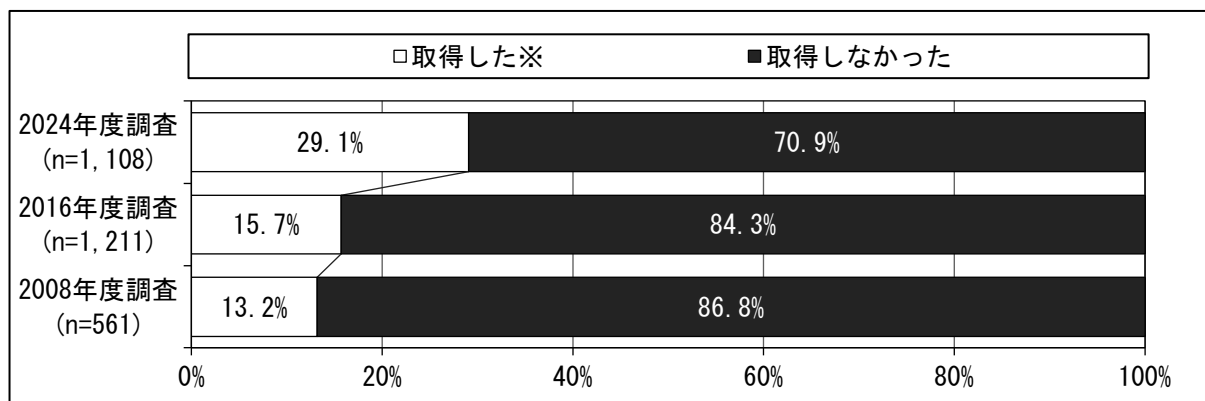
図 67 介護の際に身の回りの世話を主にしている人（時系列比較）【介護経験があると答えた方に】



※1 2016 年度、2008 年度調査は「主に自分」だった。

※2 2016 年度、2008 年度調査は「それ以外（他人、施設など）」だった。

図 68 介護の際の休暇取得（時系列比較）【介護経験があると答えた方に】



※ 2016 年度調査、2008 年度調査と比較するため、2024 年度調査の選択肢で「1. 取得した（有給休暇）」「2. 取得した（介護休暇）」のどちらか、または両方を選択した人の割合を算出した。

図 69 介護休業中の身分保障（時系列比較）【介護経験があると答えた方に】

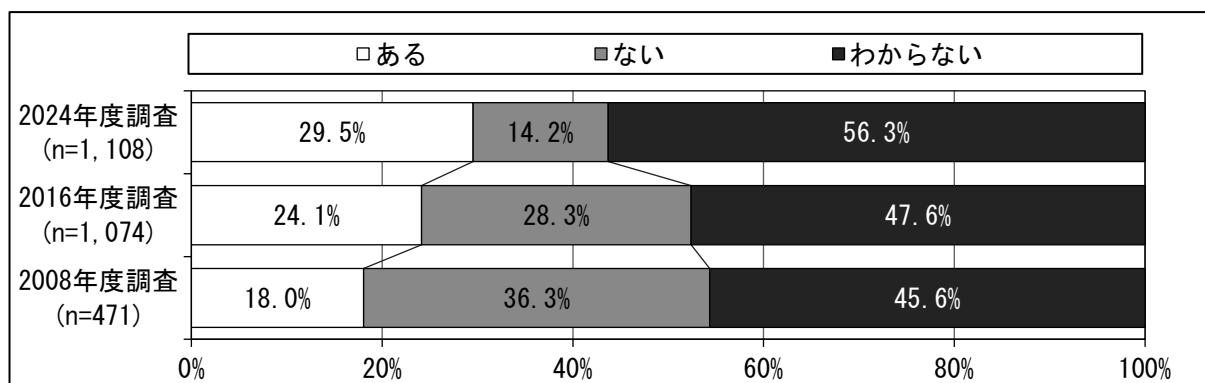


図 70 介護休業中の給与支給（時系列比較）【介護経験があると答えた方に】

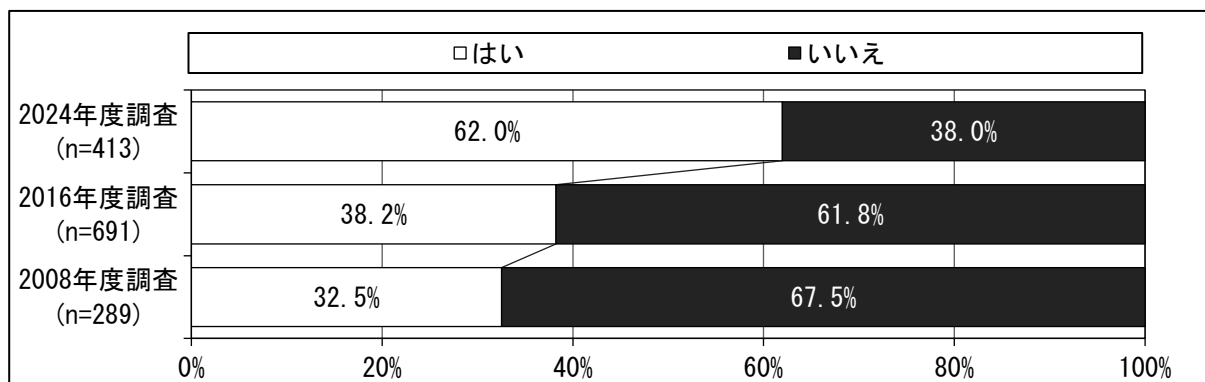
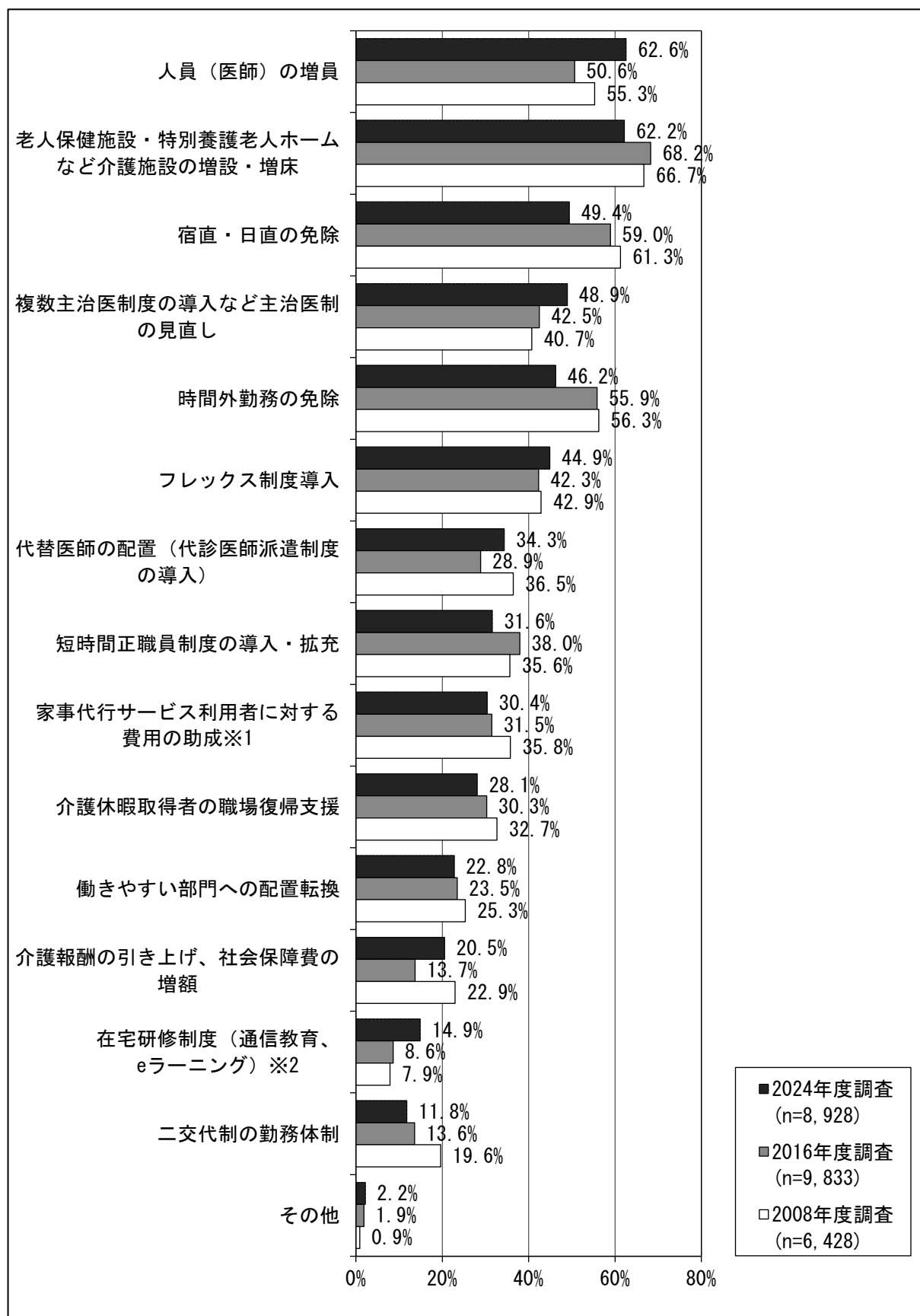


図 71 仕事と介護の両立を図る支援対策（時系列比較）【複数回答】



※1 2016 年度、2008 年度調査は「家政婦など利用者に対する費用の助成」だった。

※2 2016 年度、2008 年度調査は「在宅研修制度」だった。

2-7. 女性医師バンクについて

図 72 女性医師バンクの認知度（時系列比較）

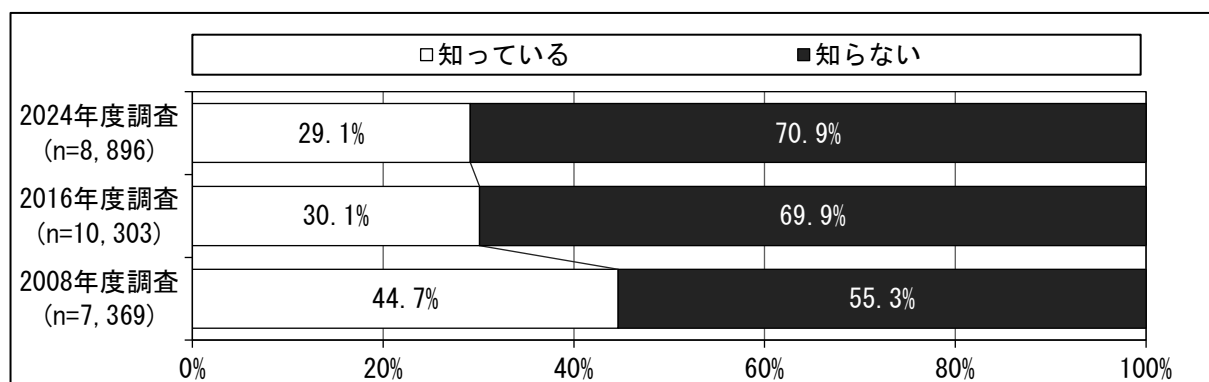


図 73 女性医師バンクは求職・求人ともに手数料無料であることの認知（時系列比較）

【女性医師バンクを知っていると答えた方に】

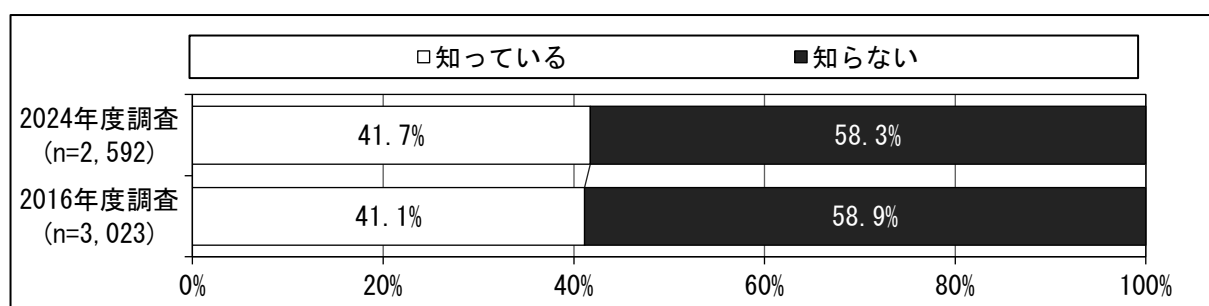


図 74 女性医師バンクへの登録状況（時系列比較）【女性医師バンクを知っていると答えた方に】

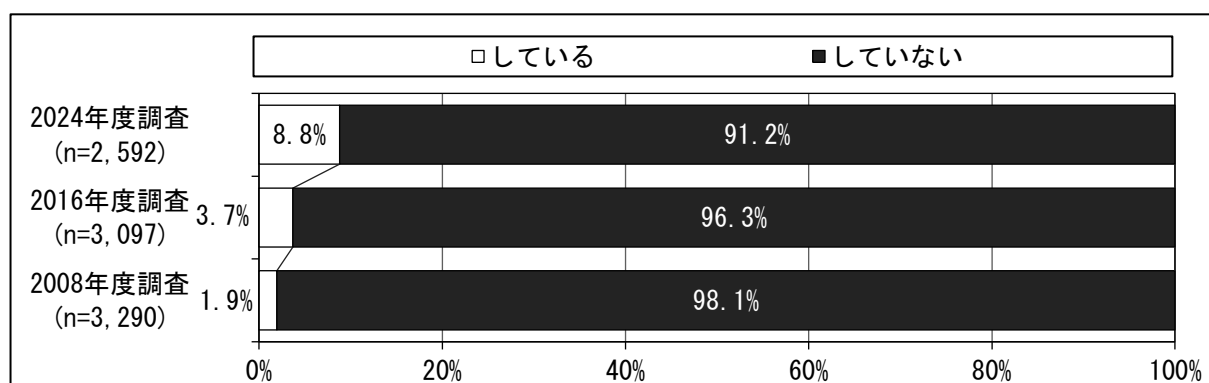
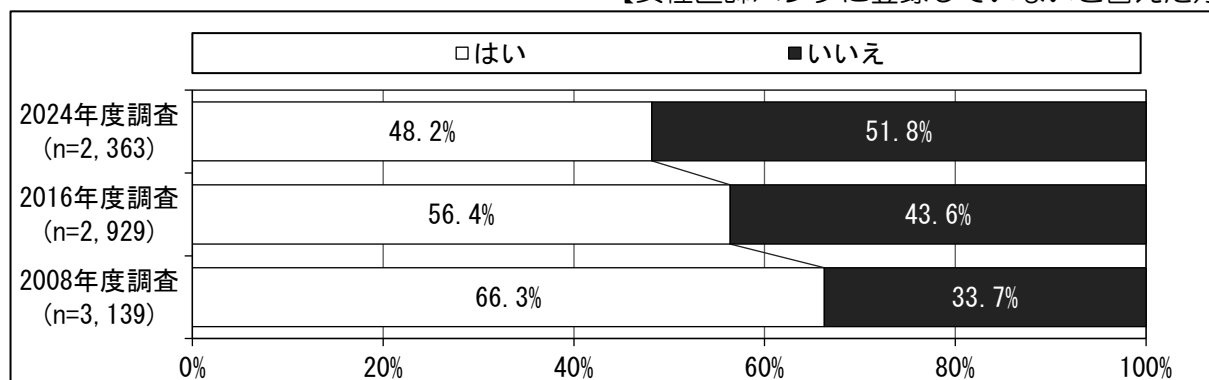


図 75 状況に応じて女性医師バンクへの登録を考えるか（時系列比較）

【女性医師バンクに登録していないと答えた方に】



2-8. 医師会の活動について

図 76 医師会への加入の有無（時系列比較）

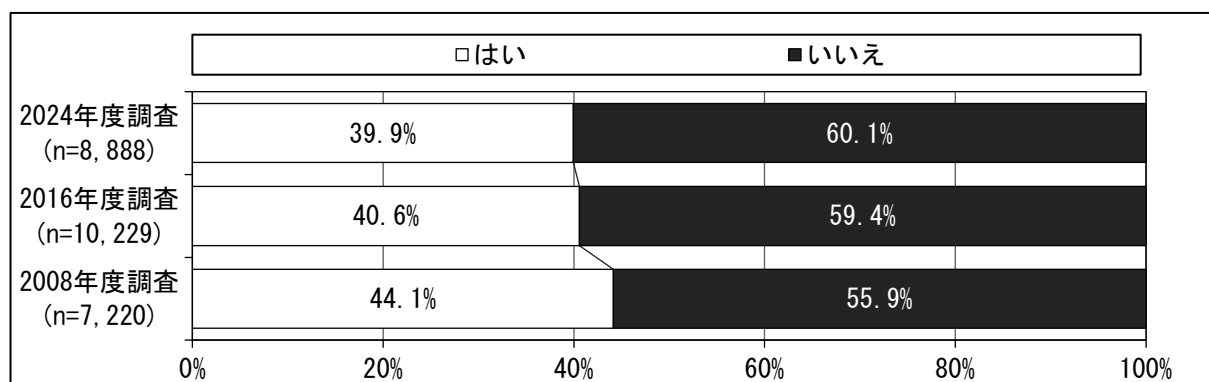


図 77 医師会への加入状況（時系列比較）【医師会に加入していると答えた方に】

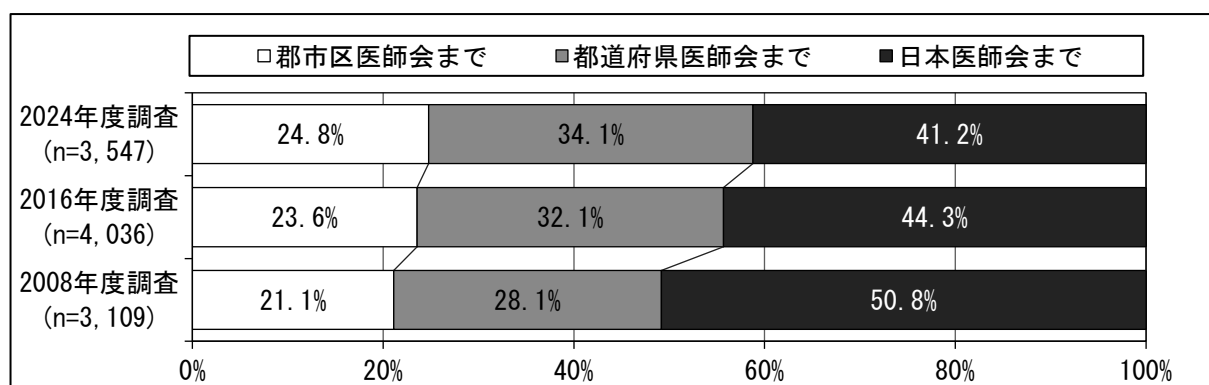
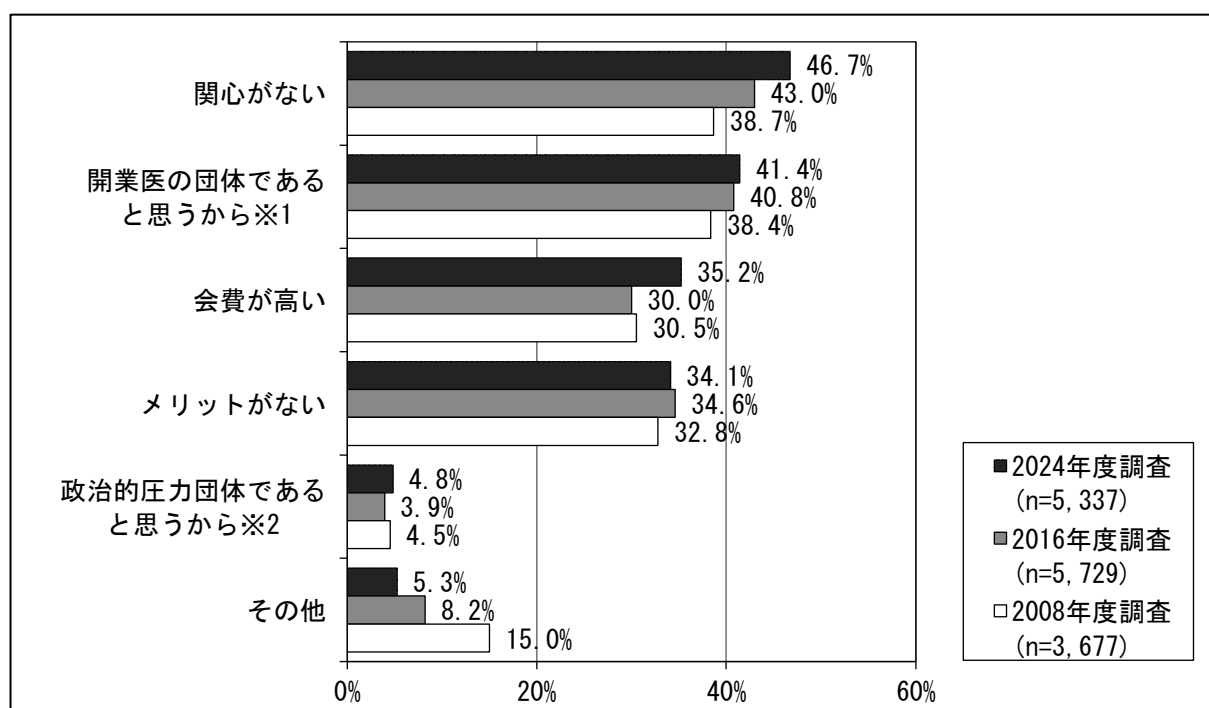


図 78 医師会未加入の理由（時系列比較）【医師会に加入していないと答えた方に】



※1 2016年度、2008年度調査は「開業医の団体と思うから」だった。

※2 2016年度、2008年度調査は「政治的圧力団体と思うから」だった。

図 79 医師会の行う催しや活動への参加状況（時系列比較）

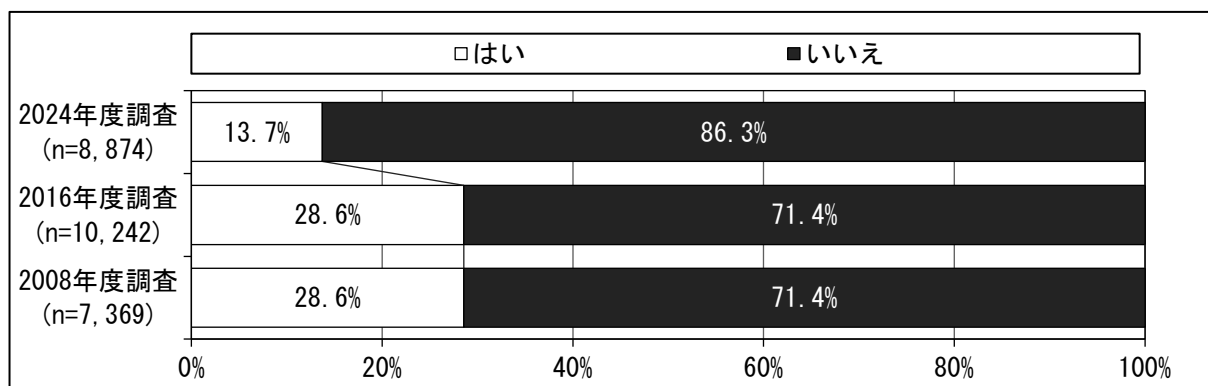


図 80 参加している催しや活動（時系列比較）【催しや活動に参加していると答えた方に】

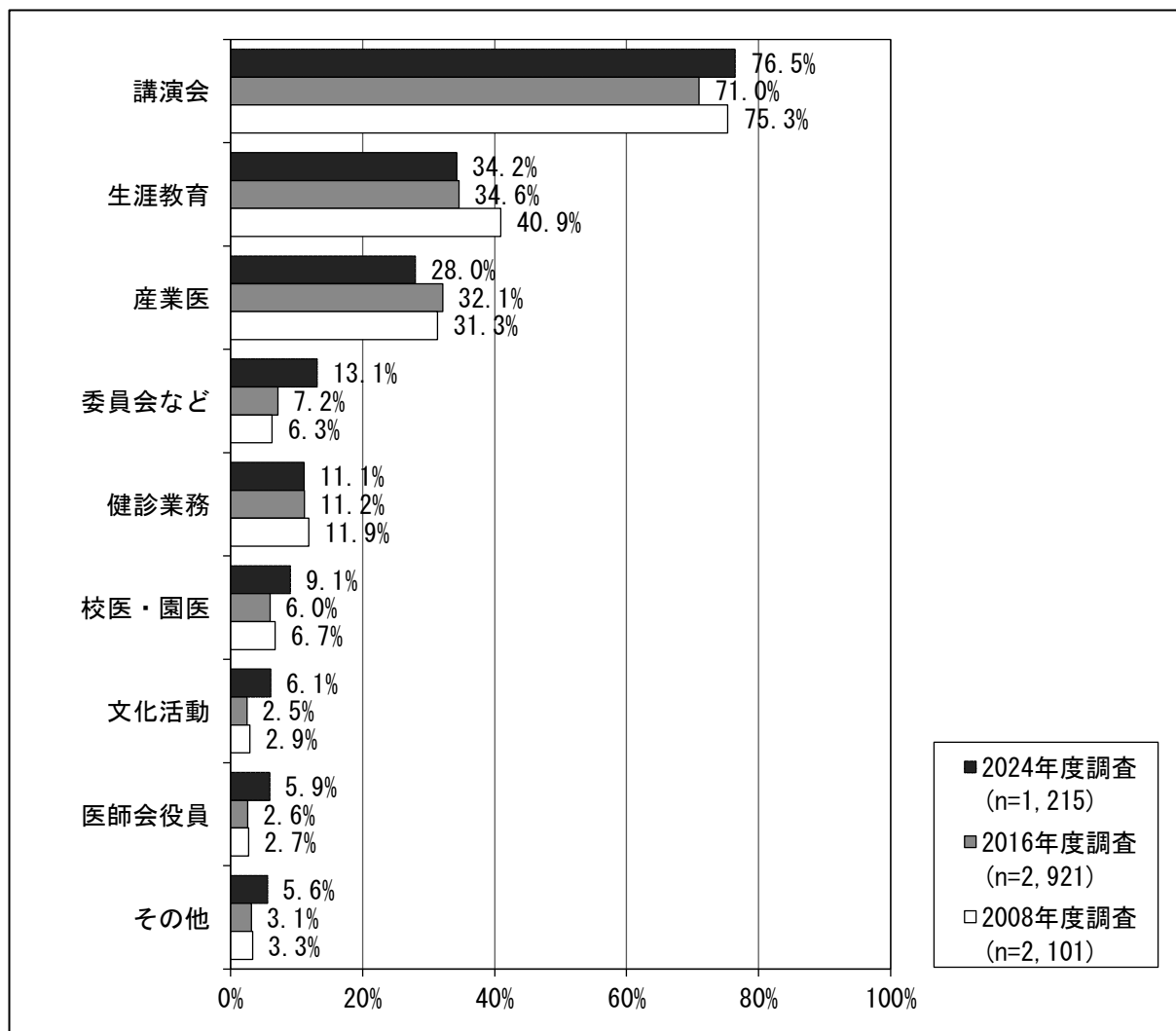


図 81 催しや活動に参加していない理由（時系列比較）

【催しや活動に参加していないと答えた方に】

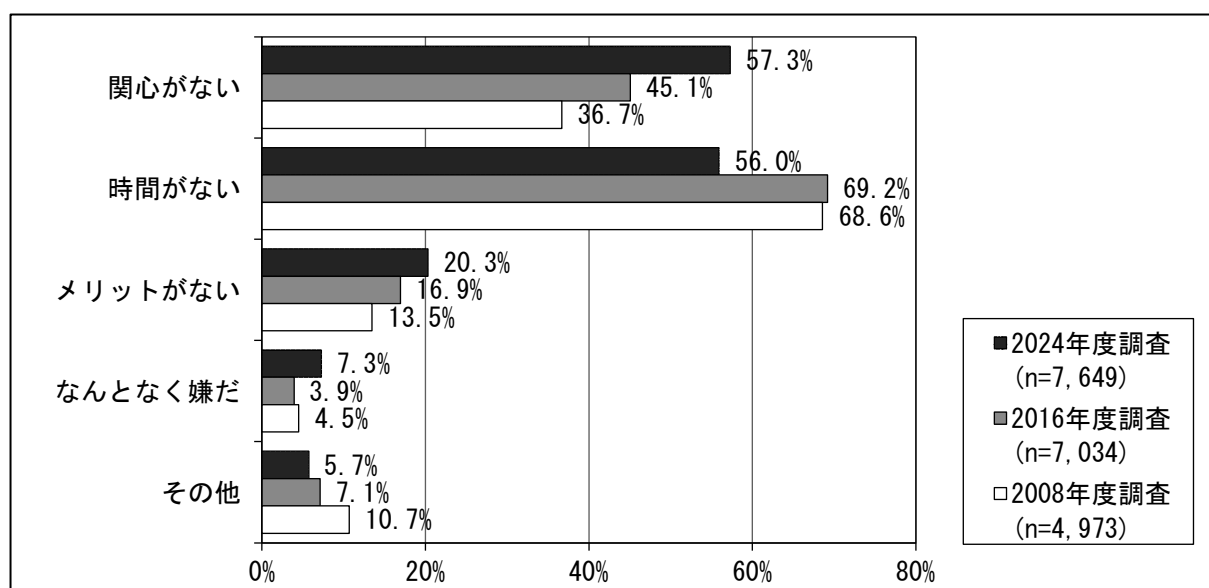
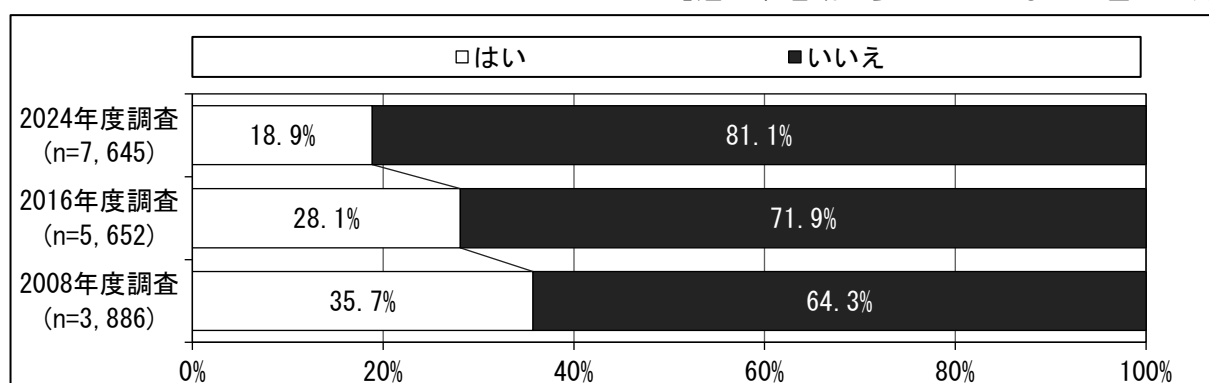


図 82 催しや活動への今後の参加意向（時系列比較）

【催しや活動に参加していないと答えた方に】



iii 関連資料

医師数の年次推移（各年 12 月 31 日現在の人数）

	三師統計 医師総数	三師統計 女性医師総数	三師統計 病院勤務者総数	三師統計 病院勤務女性	
平成 20(2008)年	286,699	51,997	174,266	33,369	※平成 20(2008)年 12 月 ～平成 21(2009)年 1 月 実施の勤務環境現況調査の 有効回答数 7,467
平成 22(2010)年	295,049	55,897	180,966	36,367	
平成 24(2012)年	303,268	59,641	188,306	39,107	
平成 26(2014)年	311,205	63,504	194,961	41,919	
平成 28(2016)年	319,480	67,493	202,302	44,917	※平成 29(2017)年 2～3 月 実施の勤務環境現況調査の 有効回答数 10,373
平成 30(2018)年	327,210	71,758	208,127	47,923	
令和 2(2020)年	339,623	77,546	216,474	51,547	
令和 4(2022)年	343,275	81,139	220,096	53,896	※令和 6(2024)年 11 月 ～令和 7(2025)年 1 月 実施の勤務環境現況調査の 有効回答数 8,928

※医師・歯科医師・薬剤師統計（三師統計）より引用

平成 28（2016）年度以前は、「医師・歯科医師・薬剤師調査」だった。

女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告書

令和 7 年 12 月

日本医師会男女共同参画委員会
日本医師会ドクターサポートセンター
(旧：日本医師会女性医師支援センター)

この報告書についてのお問い合わせは、下記あてにご連絡ください。

日本医師会ドクターサポートセンター

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-8

文京グリーンコートセンターオフィス 17F

TEL 03-3942-6470

FAX 03-3942-7397

E-mail jmadsc@jmadsc.med.or.jp

(jmawdbk@jmawdbk.med.or.jp)

